

昭和 57 年度

# 京都市埋蔵文化財調査概要

1982 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



## カラー図版解説

### 1. 緑釉陶器

左から台付瓶、鉄鉢形の鉢、台付壺。いずれも軟質で、淡黄緑色の薄い釉が全面にかかっている。緑釉陶器としては珍しい器形で、特に鉢や瓶などはもともと仏器として製作されたものであろう。3点とも9世紀後半に属する。(北野廃寺 SK18 土壇内出土)

### 2～4. 板絵断片

板に描かれた笛、笙(しょう)を奏でる楽人。3は取り上げる際、泥に残った反転像であり、袍衣と口元に朱がよく残っている。板戸を飾った楽人奏楽の一部と思われ、墨の輪隔線と引目鉤鼻の描き方は絵巻の画法に通じるものがある。華やかな貴族生活を彷彿させると共に、大和絵の流れを知る貴重な資料である。平安時代後期。

(鳥羽離宮跡第77次調査SD1溝内出土)

# 序

当研究所の設立は昭和51年11月に遡る。当時、京都市内における埋蔵文化財の調査は、文化観光局所属の文化財保護課が行政指導して、調査を必要としている地区の所有者なり、行為原因者が有識学者に依頼し行っていたもので、調査の方法・調査の成果に一貫性がなかった。それは、同じ性質のものを調査して相互に連絡することがなかったからによる。その欠点を除去することをねらって、少なくとも、市が各部局で行う調査を統括し、調査機関を持たない個人・法人が行う市内の調査について依頼を受ける組織を編成することを考え、市は財団法人による、京都市埋蔵文化財研究所の設立を考え、目的に地域文化財の発掘調査及び保存、その調査研究の報告書の出版刊行、保護思想の普及啓発等を取り上げた。

創立以来、今、昭和59年に至るまで、その目的を促進するために発掘調査し、報告し、依頼者の要望にこたえてきた。更に、調査物件の内容について精細な報告書を作成する必要があるものについては特に詳しい報告書を作成し、合わせて7冊に達し、当初の目的に副う努力を重ね多大の成果を得た。

しかし、調査の対象物が平安京とその周辺と他の地域にみない先史時代から近代に至るまでの長い年月にわたるものであることはいうまでもないことから、それをすべて調査ということ望んでも及ばないので、当然調査にはまず試掘調査を先行させ、調査を必要とするものについてのみ十分に発掘調査研究しているが、試掘と調査の件数は年を追って増加するので、全体を把握することがいよいよ困難になって来た。またその成果を必要とする識者への要望ともほど遠いものであることを考え合わせて、微細な点はともかく概観を得るにふさわしいものを年次ごとに刊行することにした。それはまた年次ごとということから、研究所の他の事業も併せて、研究所の年報の形として整えたのである。これが、平安京・京都というこの地域における文化・歴史に関心を持たれる方々にいくらかに利するところがあれば幸いである。しかし、研究所というからには、所員各個が、調査発掘を通して得た資料による見解も斯界に裨益するところ、少なくないと思うのであるが、それは別にまとめ紀要の刊行も考えている。この度この『概要』で満たされないものは、それによって充実させたい希望のあることを附言する。

昭和59年3月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 杉 山 信 三

# 凡 例

1. 本書は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が昭和57年度に実施した。発掘調査（第1章）、試掘・立会調査（第2章）、保存科学（第3章）、事務報告（第4章）の概要報告である。
2. 発掘調査のうち、平安京右京七条一坊（京都市中央卸売市場第一市場施設整備工事に伴う発掘調査）については、昭和56年契約のものである。また、平安京左京二条二坊（4）（仮称二条城マンション新築工事に伴う発掘調査）は、平安京調査会に委託したものである。
3. 方位及び座標は、国土地理院「平面直角座標系VI」によった。ただし、本文では単位（m）を省略している。
4. 標高は、京都市遺跡測量基準点と京都市水準点を使用した。
5. 使用した地図は、京都市長の承認を得て同市発行の2500分の1都市計画基本図を調整したものである。
6. 長岡京跡の条坊呼称は、向日市教育委員会並びに長岡京市教育委員会の成果によった。
7. 遺構の表示は遺跡ごとに付した。遺構表示記号は奈良国立文化財研究所の用例に従った。  
例) SA(柵), SB(建物), SD(溝), SE(井戸), SF(道路), SG(池), SK(土壙), SX(不明遺構)
8. 発掘、試掘、立会調査一覧表で※記号を付したものは、京都市文化観光局と財団法人京都市埋蔵文化財研究所より、昭和57年度文化庁国庫補助事業に伴う発掘、試掘立会調査概報が出版されている。例) 『平安京跡発掘調査概報』、『鳥羽離宮跡発掘調査概報』、『中臣遺跡発掘調査概報』、『長岡京跡発掘調査概報』、『植物園北遺跡発掘調査概報』、『北野廃寺発掘調査概報』、『御堂ヶ池1号墳発掘調査概報』、『京都市内遺跡試掘立会調査概報』
9. 個々の報告は、調査を担当した各調査員が執筆した。写真は一部を除き牛嶋 茂が撮影した。本書の編集・実務は、家崎孝治・加納敬二・菅田 薫・丸川義広が担当した。

# 目 次

第1章 発掘調査	1	21 右京七条一坊	41
I 昭和57年度の発掘調査概要	1	22 右京八条三坊	44
II 平安宮・京跡	7	III 白河街区	46
1 内裏外郭跡	8	23 尊勝寺跡	47
2 中務省跡	9	24 法勝寺跡(1)	50
3 左京二条二坊(1)	10	25 法勝寺跡(2)	52
4 左京二条二坊(2)	11	26 成勝寺跡	53
5 左京二条二坊(3) 史跡二条城	14	IV 烏羽離宮跡	54
6 左京二条二坊(4)	15	27 第74Ⅱ次調査	55
7 左京二条四坊	17	28 第75・76・79次調査	57
8 左京三条三坊	18	29 第77次調査	64
9 左京四条三坊	20	30 第78次調査	66
10 左京六条一坊	23	31 第80次調査	67
11 左京六条二坊	25	32 第81次調査	69
12 左京六条三坊	26	33 第82次調査	70
13 左京七条二坊	27	34 第83次調査	71
14 左京八条一坊	29	35 第84次調査	72
15 左京八条二坊	30	36 第85次調査	73
16 左京八条三坊	32	V 中臣遺跡	75
17 右京一条三坊	33	37 第51次調査	76
18 右京二条三坊	35	38 第52次調査	78
19 右京二条四坊	37	39 第53次調査	80
20 右京三条二坊	39	40 第54次調査	81
		VI 長岡京跡	82
		41 左京三条四坊・四条四坊	83

42 左京四条三坊	84	48 北野麩寺	94
43 左京四条三坊・四坊	87	49 御堂ヶ池1号墳	96
44 左京四条四坊・羽束師遺跡	89	50 法住寺跡	98
45 左京四条四坊 他	90	51 伏見城跡(1)	100
VII その他の遺跡	92	52 伏見城跡(2)	101
46 植物園北遺跡(1)	92	53 上久世遺跡	104
47 植物園北遺跡(2)	93		
第2章 試掘・立会調査		11 右京五条二坊・六条二坊	149
I 昭和57年度の試掘・		12 右京八条二坊(1)	151
立会調査概要	106	13 右京八条二坊(2)	152
II 平安宮・京跡	132	14 右京九条一坊(1)	155
1 朝堂院・豊楽院跡	132	15 右京九条一・二坊	159
2 内裏内郭回廊跡	133	III 京域外の遺跡	161
3 左京三条三坊	135	16 大深町古窯跡群	161
4 左京四条一坊	136	17 白河街区・京大構内遺跡	163
5 左京五条一坊	137	18 六波羅政庁跡	165
6 左京五条二坊	138	19 中久世遺跡	166
7 左京六条二坊・七条二坊	139	20 東土川遺跡	167
8 右京二条二坊	143	21 長岡京跡・東土川遺跡	168
9 右京四条二坊	144	22 小塩窯跡群・南春日町遺跡	171
10 右京五条二・三坊	147		
第3章 保存科学	173		
第4章 事務報告	177		
1 普及啓発及び技術者養成事業概要	177	4 人事異動	182
2 普及啓発及び技術者養成事業報告	178	5 組織及び役職員	182
3 京都市考古資料館運営概要	181		

## 図版目次

- 図版 1 調査地位置図 1(1 : 50,000)
- 図版 2 調査地位置図 2(1 : 50,000)
- 図版 3 調査地位置図 3(1 : 50,000)
- 図版 4 調査地位置図 4(1 : 50,000)
- 図版 5 遺跡(平安京跡) 1 左京二条二坊(2)調査地全景(北から)  
2 SD 1(右)とSD 2(左)(東から)  
3 SD 2遺物出土状態(西から)
- 図版 6 遺跡(平安京跡) 1 左京二条二坊(4)調査地全景(西から)  
2 左京三条三坊調査地全景(北から)
- 図版 7 遺跡(平安京跡) 1 左京六条二坊調査地全景(西から)  
2 左京八条二坊調査地全景(東から)
- 図版 8 遺跡(平安京跡) 1 右京二条三坊調査地全景(春日小路, 南から)  
2 右京三条二坊調査地全景(西堀川, 北から)
- 図版 9 遺跡(平安京跡) 1 右京七条一坊調査地全景(南から)  
2 SD 830 遺物出土状態(北から)  
3 SD 135 遺物出土状態(北から)
- 図版 10 遺跡(白河街区) 1 尊勝寺調査地全景(西から)  
2 周溝墓 4 全景(西から)  
3 SE 15 断ち割り状態(北から)
- 図版 11 遺跡(白河街区) 1 法勝寺跡(1)調査地全景(南から)  
2 全景(北東から)  
3 池の汀(I期, 東から)
- 図版 12 遺跡(鳥羽離宮跡) 1 第75次調査地SB 4 全景(北から)  
2 第75次調査地南半分全景(東から)
- 図版 13 遺跡(鳥羽離宮跡) 1 第79次調査地全景(建物群(右), 園池(左), 北から)  
2 第79次調査地全景(南東から)
- 図版 14 遺跡(鳥羽離宮跡) 1 第79次調査地SB 2 全景(北から)  
2 第79次調査地SB 2 掘込地業(東から)
- 図版 15 遺跡(鳥羽離宮跡) 第79次調査地園池全景(北から)
- 図版 16 遺跡(鳥羽離宮跡) 1 第80次調査地東区全景(東から)  
2 築地跡全景(北から)  
3 灰釉壺の出土状態(北西から)



- 図版 17 遺跡（鳥羽離宮跡） 1 第 77 次調査地全景（南から）  
2 第 81 次調査地全景（園池，西から）
- 図版 18 遺跡（中臣遺跡） 1 第 51 次調査地の埋甕群（北西から）  
2 埋甕 S K 1（北西から）  
3 埋甕 S K 4（北西から）
- 図版 19 遺跡（中臣遺跡） 1 第 52 次調査地全景（東から）  
2 埋甕（東から）  
3 5号住居の遺物出土状態（北から）
- 図版 20 遺跡（長岡京跡） 1 左京四条三坊調査地 P 区全景（東から）  
2 左京四条三坊調査地 S 区全景（東から）
- 図版 21 遺跡（長岡京跡） 1 左京四条四坊調査地 10 トレンチ全景（北から）  
2 4 トレンチ全景（西から）  
3 木棺墓（北から）
- 図版 22 遺跡（その他の遺跡） 1 北野廃寺調査地全景（東から）  
2 S K 18 遺物出土状態（南西から）
- 図版 23 遺跡（その他の遺跡） 1 御堂ヶ池 1 号墳全景（南東から）  
2 石室奥壁（南東から）  
3 東袖石付近の遺物（西から）
- 図版 24 遺跡（その他の遺跡） 1 伏見城跡（2）調査地全景（東から）  
2 上久世遺跡調査地全景（北から）
- 図版 25 遺物 中臣遺跡第 51 次調査出土縄文土器
- 図版 26 遺物 尊勝寺跡出土弥生土器（1・2：周溝墓 2，3・4：周溝墓 4）
- 図版 27 遺物 中臣遺跡第 52 次調査出土弥生土器
- 図版 28 遺物 平安京左京六条三坊出土土器
- 図版 29 遺物 鳥羽離宮跡第 85 次調査出土土器
- 図版 30 遺物 鳥羽離宮跡第 83 次調査出土土器
- 図版 31 遺物 御堂ヶ池 1 号墳出土土器（上）・馬具（下）
- 図版 32 遺物 内裏外郭跡出土土器
- 図版 33 遺物 平安京左京二条二坊（2）出土土器 1
- 図版 34 遺物 平安京左京二条二坊（2）出土土器・軒瓦 2
- 図版 35 遺物 北野廃寺出土土器 1
- 図版 36 遺物 北野廃寺出土土器 2
- 図版 37 遺物 平安京左京四条三坊出土土器 1
- 図版 38 遺物 平安京左京四条三坊出土土器 2
- 図版 39 遺物 鳥羽離宮跡第 79 次調査出土軒瓦

- 図版 40 遺物 伏見城跡(2)出土陶磁器(上), 金箔瓦(1~4)
- 図版 41 遺物 鳥羽離宮跡第77次調査出土木製品
- 図版 42 遺物 長岡京左京四條三坊(1~6)・鳥羽離宮跡第77次調査(7・8)出土木簡・  
墨書土器
- 図版 43 遺跡(平安京跡) 1 内裏内郭回廊跡全景(北から)  
2 SD 16(北西から)
- 図版 44 遺跡(平安京跡) 1 左京六條二坊 柱穴(東から)  
2 右京五條二坊 弥生時代遺物包含層(西から)
- 図版 45 遺跡(平安京跡) 1 右京八條二坊(2)木棺出土状態(北から)  
2 木棺の墨書1  
3 木棺の墨書2
- 図版 46 遺跡(平安京跡) 1 右京九條一坊(1)3区瓦出土状態(南から)  
2 右京九條一坊(1)3区竪穴住居址(南から)
- 図版 47 遺物 平安京右京五條二坊(1), 中久世遺跡(2), 東土川遺跡  
(3), 出土弥生土器
- 図版 48 遺物 北白川上池田町古墳群K S 15(1~3), 平安京右京七條四坊H R 145  
(4・5), 平安京右京二條二坊(6)出土土器
- 図版 49 遺物 小塩窯跡群出土土器
- 図版 50 遺物 平安京左京三條三坊H L 44(1~9), 平安京左京四條二坊H L 83(10),  
平安京左京八條二坊H L 219(11)出土土器
- 図版 51 遺物 内裏内郭回廊跡出土軒瓦
- 図版 52 遺物 平安京右京七條四坊H R 145(1~3)出土墨書土器,  
仁和寺南院跡U Z 5(4)出土木簡・木製品
- 図版 53 遺物 鳥羽離宮跡第77次調査出土種実

# 第1章 発掘調査

## I 昭和 57年度の発掘調査概要

**平安京・京跡** 今年度の当研究所が実施した平安宮・京跡関係の発掘調査は、合計 21箇所を数える。内訳は、宮内2件・左京 14件・右京 5件であるが、主として小面積の現場が試掘調査に回されたために、調査件数そのものは大幅に昨年度を下回っている。

今年度の調査で得られた成果を簡単にまとめておくと、まず、平安宮内の調査は2件あるものの、いずれも明確な遺構は検出できなかった。ただし、内裏外郭跡の調査（1＝報告番号）では平安時代初期の良好な土器群を検出し、今後の編年研究に貴重な資料となった。

平安京跡の左京域は各時代にわたる遺構の重複が著しいが、今年度の調査においても二条二坊（5・6）、三条三坊（8）、四条三坊（9）、六条二坊（11）、八条二坊（15）等の調査でこのような状態を確認している。また、同じ左京域であっても二条以北と三条から五条及び七条以南では遺跡の状態が異なる点も明らかとなっており、これらは平安京の時代に続く中・近世の京都の展開を示す具体的な資料として興味深い。

一方、右京域は平安京関係の遺構がよく遺存しており、今年度は二条三坊（18）、二条四坊（19）等の調査で平安時代の建物や溝を検出している。

今年度も平安京の条坊関連遺構を検出している。確実なものを挙げれば、左京では二条二坊（4）の大炊御門大路路面と南側溝、八条二坊（15）の油小路路面と西側溝、右京では二条三坊（18）の春日小路路面と南側溝、三条二坊（20）の西堀川小路の路面と堀川及び西側溝、七条一坊（21）の朱雀大路西側溝等があり、側溝を一部検出した例には、左京三条三坊（8）の東洞院大路西側溝、八条一坊（14）の壬生大路東側溝、右京二条四坊（19）の春日小路北側溝等を挙げることができる。この中で注目されるのは、大炊御門大路南側溝の南 3.7mの位置に沿う様に冷然院の北限築地内側溝を検出した点で、従来ともすれば大路・小路の側溝と報告されがちであったこの種の遺構を再吟味する好例となった。

最後に、今年度も平安京跡の下層で、弥生・古墳といった時代の遺跡を調査している。その主なものには、左京四条三坊（9）の弥生時代遺物包含層、六条二坊（11）の古墳時代 後期遺物包含層、六条三坊（12）の古墳時代前期土壇、七条二坊（13）の弥生時代溝、八条一坊（14）の古墳時代遺物包含層、右京三条二坊（20）の古墳時代遺物包含層がある。これらの資料は山城地方の原始・古代史の研究に欠かせない資料である。

（丸川義広・菅田 薫）

**白河街区** 本年度の白河街区における発掘調査箇所は、尊勝寺跡・法勝寺跡2箇所・成勝寺の計4箇所であった。いずれの調査箇所も伽藍等の明確な遺構を検出するには至らなかったが、法勝寺跡(24)及び成勝寺跡(26)では池を検出し、尊勝寺跡(23)では掘立柱建物・井戸・竈・溝・土壇などを検出した。上記各遺構は平安時代後期から室町時代に至る遺構であるが、更に時期の遡る遺構も検出している。尊勝寺跡では弥生時代中期の方形周溝墓及び平安時代前期の土壇、法勝寺跡では古墳時代後期の掘立柱建物及び平安時代前期と中期の溝などである。これらの遺構は六勝寺造営前の当該地周辺の様相を知り手懸かりとなり、本年度の調査の大きな成果であったといえる。なお、各調査箇所とも各時期にわたる多量の遺物が出土しているが、特に瓦は各調査箇所ともに多種多量に出土しており、各寺の使用瓦を研究する上で欠かせない資料となった。(辻 裕司)

**鳥羽離宮跡** 今年度、鳥羽離宮跡内で実施した発掘調査は12箇所に及ぶ。特に田中殿地区で実施した第75・76・79・80次調査では、建物基壇・掘込地業建物・礎石建物・築地・溝・庭園遺構などが隣接して検出された。昭和53年度以降この付近では鳥羽離宮関係の遺構が検出されているが、庭園遺構は、田中殿地区では初例である。しかも水際に使用されていた庭石の配置や作庭技法などは、従来鳥羽離宮跡内で検出されているものとはかなり異なったものである。

北殿推定地付近の調査は、昭和35年度に実施した第1次調査以後、ほとんど行われなかったが、今年度は第81・84次調査の2箇所について調査を実施した。その結果、庭園遺構の一部と考えられる遺構を検出することができ、今後の調査が期待される。また東殿地区の調査では、東殿関係の遺構が中世から近世にかけての遺構と共に検出された。この調査では、平安時代後期の溝内より板材に人物を描いたものが出土している。

昭和53年度以降、鳥羽離宮造営以前の遺跡(鳥羽遺跡)の遺構が徐々に明らかになってきたが、今年度の調査でもほとんどの調査地で検出されている。主な遺構は、平安時代中期の土壇や古墳時代から奈良時代にかけての掘立柱建物、古墳時代の堅穴住居などである。田中殿から北殿地域では、古墳時代の堅穴住居が海拔13m前後で検出されている。今年度、新たに中島町西側で古墳時代の堅穴住居を検出した。この付近でこのような遺構が検出されたのは今回が初例で、従来発見されている集落とは別のものであると考えられる。これらの遺構が検出されたのは海拔12m以下の所で田中殿地区より1m程度低いところである。(鈴木久男)

**中臣遺跡** 今年度中臣遺跡を対象にして実施した発掘調査は第 51 次・第 52 次・第 53 次・第 54 次の 4 箇所である。各調査箇所は、栗栖野丘陵と旧安祥寺川の間に形成された西側低位段丘部（第 52・53 次）、山科川と接する東側低位段丘部（第 51・54 次）に位置する。4 箇所から得た主要な成果は、遺構には縄文時代後・晩期の埋甕 5 基（第 51・52 次）、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居 5 戸（第 52 次）、古墳時代後期以降の竪穴住居 2 戸・掘立柱建物 1 棟・溝 1 条（第 52・53 次）などがある。その他に縄文時代晩期の良好な遺物包含層（第 51 次）などを検出した。これらの遺構及び遺物包含層からは、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器（石鎌・石剣等）、土製品（土錘）などが整理箱で 133 箱出土した。中臣遺跡は縄文時代以来の複合遺跡であり、包蔵する内容も多岐にわたる。今年度得られた成果も中臣遺跡のこの様なあり方を反映している。（平方幸雄）

**長岡京跡** 今年度京域内で実施した調査は 5 箇所、このうち街路建設に伴う調査（42）、西羽東師川改修に伴う調査（41）は昭和 55 年度からの継続調査である。各調査地は、左京四条三坊・四坊に位置し近接している。遺構・遺物もほぼ同様に発見されており、弥生から古墳時代に始まり、奈良・長岡京期・平安・鎌倉時代へと続いている。今年度も条坊遺構として、東三坊大路・東三坊第一小路・三条大路・三条第二小路が発見された。また、新しく発見された遺跡としては、街路調査地の平安・鎌倉時代の遺構群と奈良時代の条里坪境、公社調査地（45）の鎌倉・室町時代の遺構群が挙げられる。出土遺物は既往の調査と変化はないが、特筆すべき例として、縄文時代の石匙、弥生時代第Ⅳ様式の土器、長岡京期の木簡 4 点、平安・鎌倉・室町時代の遺構から出土した緑釉・瓦器・陶磁器類の新たな発見を挙げることができる。（長宗繁一）

**その他の遺跡** 上記以外の市内遺跡については、今年度 8 箇所が発掘調査を実施した。

植物園北遺跡は昭和 54 年以來の公共下水工事に伴う立会調査で明らかになった 4・6 世紀の大規模な集落跡で、初の発掘調査（46・47）による成果が期待されたが、いずれも良好な遺構・遺物は検出できなかった。北野廃寺の調査（48）は今回が第 9 次にあたり、飛鳥時代の溝や平安時代前期の一括土器を検出した。御堂ヶ池 1 号墳の調査（49）は造成工事の強行に伴う緊急調査であった。石室内より土器・馬具類と石棺・陶棺の破片が出土し、嵯峨野の古墳研究に良好な資料を提供したが、一方で周知の遺跡が公然と破壊された点は今後の文化財行政に重大な警鐘となった。その他、法住寺跡（50）では最勝光院に関する建物基壇を、伏見城跡の調査（52）ではこの時期の建物・濠や豊富な遺物群を、また上久世遺跡（53）では中世集落の好例を検出している。（丸川義広）

昭和 57年度 発掘調査一覧表

※は概報出版済

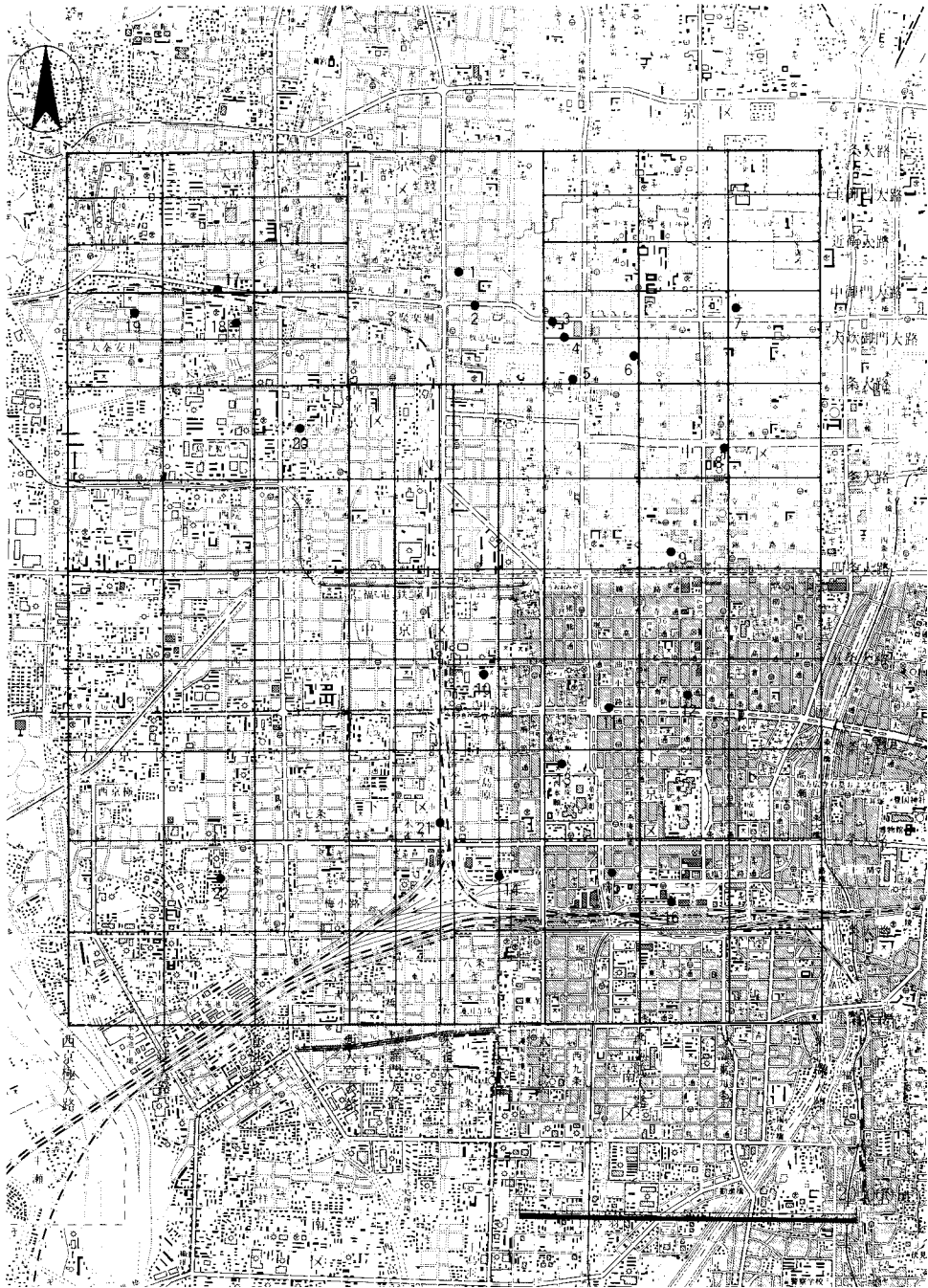
	番号	遺跡名	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査地点表示	調査契機	担当者	
平安宮・京跡	1	内裏外郭跡 (82HK-DA3)	上京区千本通下立売下る 小山町 908-11	82.8.4 ~8.12	39	ND64-1J14	橋本邸新築工事	大矢	※
	2	中務省跡 (82HK-CM5)	上京区丸太町通浄福寺西入 中務町 491-81	82.9.20 ~9.27	20	ND64-1J35	仮称久保ビル新築 工事	吉川	※
	3	左京二条二坊 (1) (82HK-MF)	上京区丸太町通黒門東入 薬屋町 536-1	82.5.24 ~6.8	84	ND64-1K44	市立待賢小学校 給食室建設工事	辻裕 丸川	
	4	左京二条二坊 (2) (82HK-MG)	上京区丸太町通黒門東入 薬屋町 536-65	82.6.12 ~7.20	458	ND64-1K55	仮称駿台京都教育 研修館新築工事	上村 吉崎	
	5	左京二条二坊(3) 史跡二条城 (82HK-JJ8)	中京区堀川通二条上る 二条城町 541	83.2.1 ~2.16	49	ND64-3D31	元離宮二条城内公 設防火水槽建設	久世	
	6	左京二条二坊(4) (82HK-MH)	中京区西洞院通夷川上る 毘沙門町 397-12	82.8.23 ~11.25	423	ND64-3D14	仮称二条城マン ション新築工事		
	7	左京二条四坊 (82HK-GE)	上京区丸太町通烏丸東入 京都御苑内	83.1.19 ~1.20	48	ND64-2I35	京都御苑内公設防 火水槽新設工事	久世	
	8	左京三条三坊 (82HK-FD)	中京区東洞院通御池下る 笹屋町 435	82.7.12 ~11.5	600	ND64-4 E15・25	仮称第一生命京都 御池ビル建設工事	平尾 辻純	
	9	左京四条三坊 (82HK-FE)	中京区錦小路通室町西入 天神山町 287	82.10.16 ~11.13	110	ND64-4I32	大林組京都ビル 新築工事	吉川 平田	
	10	左京六条一坊 (82HK-HK2)	下京区中堂寺命婦町 1	83.4.1 ~6.15	1600	ND74-1B55 C51	日本専売公社 施設新築工事	梅川 平尾 辻純	
	11	左京六条二坊 (82HK-GK4)	下京区小泉町、上金佛町 金東横町、泉水町、中金佛町	82.8.2 ~9.16	405	ND74-1H23	国道一号線都市 共同溝建設	吉川 上村	
	12	左京六条三坊 (82HK-PE)	下京区室町通五条上る 阪東屋町	82.12.9 ~83.1.8	130	ND74-2E12 13	(財)住宅改良開発 公社マンション建設	平田 菅田	※
	13	左京七条二坊 (82HK-WB)	下京区大宮通花屋町上る 柿本町 609-1	82.5.17 ~6.19	150	ND74-1G55	市立淳風小学校 給食室建設	平尾 辻純	
	14	左京八条一坊 (82HK-ZC)	下京区親喜寺町 国鉄用地内	82.5.15 ~5.25	250	ND74-3 C21・2	国鉄梅小路構内宿 舎新築	大矢	
	15	左京八条二坊 (82HK-BB)	下京区油小路木津屋橋下る 北不動堂町 521-1	82.9.20 ~10.9	65	ND74-3 D23	ハ木食品包装株式 会社店舗建替工事	堀内	※
	16	左京八条三坊 (82HK-BA)	下京区三哲下る無番地	82.6.26	37	ND74-4 A42	大阪鉄道郵便局京都 分局庁舎新築工事	大矢	
	17	右京一条三坊 (82HK-IH)	中京区西ノ京伯楽町 24	82.4.21 ~5.10	160	ND63-2 K24	華陽ビル新築工事	平尾 辻純	
	18	右京二条三坊 (82HK-SE5)	中京区西ノ京中御門 西町 25	82.11.15 ~12.4	120	ND63-2 K45, L41	市立朱雀第八小学校 給食室増改築工事	菅田 辻純	
	19	右京二条四坊 (82HK-IG)	右京区太秦安井車道町	82.4.9 ~5.18	154	ND63-2J44	花園マンション建設	梅川 堀内	
	20	右京三条二坊 (82HK-RD)	中京区西ノ京原町 64	82.6.17 ~7.10	300	ND63-4 D54, H14	ルミエール御池 建設工事	平尾 辻純	
	21	右京七条一坊 (81HK-SM4)	下京区朱雀堂ノ口町 10-1 -1他	82.1.27 ~10.15	7500	ND74-1J32 33・42・43・52	京都市中央卸売市 場第一市場施設整 備工事	吉川 平田 菅田	
	22	右京八条三坊 (82HK-HNII)	下京区七条御所ノ内西町 71-1	82.6.13 ~7.21	110	ND73-4C25	市立西大路小学校 給食室新築工事	梅川 堀内	
白河街区	23	尊勝寺跡 (82KS-BD)	左京区聖護院円頓美町	82.6.11 ~10.5	1385	ND65-1I43	京都国際武道セン ター建設	辻裕 丸川	
	24	法勝寺跡(1) (82KS-OF)	左京区岡崎法勝寺町 16	82.9.16 ~11.15	400	ND65-3B34	私立学校教職員組 合京都宿泊所建替 工事	平方 辻裕	

	番号	遺跡名	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査地点表示	調査契機	担当者	
白河街区	25	法勝寺跡(2) (82KS-Z05)	左京区岡崎法勝寺町 京都市動物園	83.1.10 ~2.1	213	N D65-3 B42	京都市動物園大水域舎 の建設	菅田	
	26	成勝寺跡	左京区岡崎円勝寺町 145外	83.2.12 ~3.11	200	N D65-3 A44	京国立近代美術館新 営工事	吉川 菅田	
烏羽 離宮跡	27	第74II次調査 (82TB-TB74 II)	伏見区竹田小屋/内町	82.6.1 ~6.26	330	N D84-3 K13	ホテル建設	木下 鈴木久 中村	※
	28	第75次調査 (82TB-TB75)	伏見区竹田小屋/内町 42-1. 66A. 63-1. 64-1	82.4.1 ~6.17	1764	N D84-3 K13	ホテル建設	鈴木久 上村	※
	28	第76次調査 (82TB-TB76)	伏見区竹田小屋/内町	82.6.28 ~9.3	712	N D84-3 G53	アンダルシア新築工事	木下 鈴木久	※
	29	第77次調査 (82TB-TB77)	伏見区竹田内畑町	82.8.3 ~11.20	617	N D84-3 H42	京都市計画(京都国 際文化観光都市建設計 画)伏見西部第一地区 土地区画整理事業	鈴木廣 吉崎	
	30	第78次調査 (82TB-TB78)	伏見区中島宮/後町	82.10.12 ~10.23	256	N D84-3 K12・22	京都市計画(京都国 際文化観光都市建設計 画)伏見西部第一地区 土地区画整理事業	鈴木久	
	28	第79次調査 (82TB-TB79)	伏見区竹田小屋/内町 66-2. 67	82.9.17 ~83.3.9	1800	N D84-3 K13・14	旅館建設	木下 鈴木久	※
	31	第80次調査 (82TB-TB80)	伏見区竹田小屋/内町 55	82.9.20 ~83.1. 22	930	N D84-3 K12	ホテル建設	前田 丸川	
	32	第81次調査 (82TB-TB81)	伏見区中島秋の山町 32	82.12.15 ~83.1.31	470	N D84-3 J15・25	竹中ホテル新築工事	鈴木廣 吉崎	
	33	第82次調査 (82TB-TB82)	伏見区中島秋の山町	83.1.31 ~2.14	420	N D84-3 J25	京都市計画(京都国 際文化観光都市建設計 画)伏見西部第一地区 土地区画整理事業	鈴木廣 吉崎	
	34	第83次調査 (82TB-TB83)	伏見区中島中道町 28 29 30-3	83.1.12 ~2.14	204	N D94-1 C12	京都柏木運送株式会 社本社々屋新築工事	梅川 木下	※
	35	第84次調査 (82TB-TB84)	伏見区竹田内畑町	83.2.12 ~3.22	124	N D84-3 H42	京都市計画(京都国 際文化観光都市建設計 画)伏見西部第一地区 土地区画整理事業	鈴木廣 吉崎	
		36	第85次調査 (82TB-TB85)	伏見区竹田小屋/内町 79-2	83.3.11 ~5.10	480	N D84-3 G53・54	ホテル高倉新築工事	前田 吉崎
	中臣遺跡	37	第51次調査 (82RT-NK51)	山科区柳辻封じ川町 山科川河川敷	82.4.24 ~9.7	1300	N D85-2 B14・ 24・34	山科川中小河川改修工事	平方 前田
38		第52次調査 (82RT-NK52)	山科区勤修寺西金ヶ崎 9B、西野山中臣町 6B	82.12.6 ~83.1. 14	487	N D85-2 E25	露天駐車場建設	平方 辻裕	※
39		第53次調査 (82RT-NK53)	山科区勤修寺東金ヶ崎 22-2	83.2.1 ~2.15	190	N D85-2 F42	露天駐車場建設	平方 辻裕	※
40		第54次調査 (82RT-NK54)	山科区柳辻封じ川町 山科川河川敷	83.2.14 ~3.16	650	N D84-2 B24	山科川中小河川改修工 事	平方 辻裕	
長岡京跡	41	左京三条四坊・ 四条四坊 (82NG-SD3)	伏見区羽東師菱川町 羽東師川河川敷	82.9.20 ~83.1.5	1008	N D93-2 J 44・45・55・93- 4B15・25・35	西羽東師川改修工事	吉川 上村	
	42	左京四条三坊・ (82NG-PV3)	伏見区羽東師菱川町	82.10.1 ~83.4.25	2384	N D93-4 A44・45・54・55	都市計画街路、1、3、 4 6 外環状線道路改良 工事	本 長宗	

	番号	遺跡名	所在地	調査期間	面積 (㎡)	調査地点表示	調査契機	担当者	
長岡京跡	43	左京四条三坊・四坊 (82NG-BA)	伏見区羽東師菱川町 49	83.1.20 ~2.23	450	N D93-4 B43・44	宅地開発	本 平田	
	44	左京四条四坊 羽東師遺跡 (82NG-SW)	伏見区羽東師志水町	83.3.7 ~3.25	56	N D93-4 C41・51	桂川右岸流域関連 羽東師1号幹線(そ の4-2)公共下 水道工事	久世	
	45	左京四条四坊他 (82NG-KJ)	伏見区久我東町4-10外	82.4.15 ~9.30	4474	N D93-2 K55、L42・ 51・52、93- 4 C14・15・ 24・25、D11・ 12・21・31	久我南団地造成工 事	本 長宗 鈴木廣	
その他の遺跡	46	植物園北遺跡 (1) (82RH-SN1)	北区上賀茂榎田町 15	82.7.31 ~8.4	100	N D54-2 B33	近藤アパート新築 工事	家崎	※
	47	植物園北遺跡 (2) (82RH-SN2)	北区上賀茂桜井町 糠田児童公園内	83.1.24 ~1.27	50	N D54-2 B51	糠田児童公園内公 設防火水槽新設工 事	久世	
	48	北野廢寺 (82RH-KG9)	北区北野上白梅町 35-9	83.1.25 ~3.8	158	N D63-2 D23	仮称大山ビル新築 工事	堀内 前田	※
	49	御堂ヶ池1号墳 (82UZ-OD)	右京区梅ヶ畑向/地町	83.2.4 ~2.22	300	N D53-3 J11	造成工事	丸川 北田	※
	50	法住寺跡 (82RT-IR)	東山区本町通 10丁目東入 下池田町 527	82.10.16 ~11.15	88	N D74-4 G14	市立一橋小学校屋 内体育館・給食室 増改築工事	吉川 久世	
	51	伏見城跡(1)	伏見区桃山毛利長門東町 8	82.9.8	36	N D94-2 K43	府立桃山高校内公 設防火水槽建設	磯部	
	52	伏見城跡(2) (82FD-MR2)	伏見区桃山町伊賀 40他	82.10. 15~'83. 1.8	1400	N D94-4 D35 N D95-3 A31	仮称橘女子学園新 築工事	梅川 堀内	
53	上久世遺跡 (82MK-KK)	南区久世上久世町	82.7.20 ~10.3	830	N D83-2 I 31・41	2・2・22ヶ瀬勝 竜寺線街路築造工 事	梅川 堀内		



## Ⅱ 平安宮・京跡



調査地位位置図 (1:40,000)

## 1 内裏外郭跡 図版 32

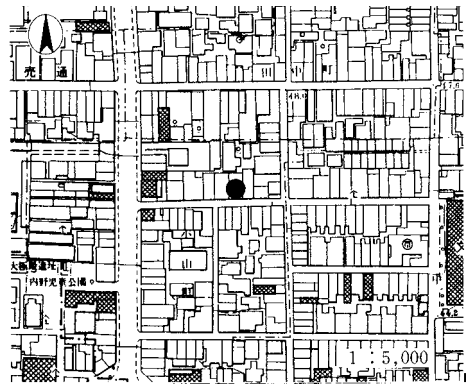
**経過** 昭和 57年8月3日、上京区千本通下立売  
下る小山町 908-11で試掘調査を実施した。この  
場所は平安宮内裏外郭跡の推定地内である。調査の  
結果、平安時代の遺物を多量に包含する土壌を検出  
し、更に詳細な調査が必要になった。このため、昭  
和 57年8月4日から 8月12日にかけて発掘調査を  
実施した。調査面積は約 39㎡である。

**遺構・遺物** 調査地の基本層序は、現代の盛土層が 10～40cmの厚さで堆積し、この層の下に平  
安時代の遺物を含む茶褐色を呈する泥砂層が厚さ約 20cmで堆積していた。中・近世の遺物包含層は  
認められなかった。地山は黄褐色泥砂層であった。

今回の調査で検出した遺構は、近世の土壇3基、平安時代後期の土壇3基、平安時代前期の土壇4  
基である。出土遺物は整理箱に 60箱余りで、大半は土器類であるが軒瓦、緑釉瓦も少量出土している。  
時期別では平安時代前期に属するものが最も多く、平安時代後期、近世の遺物が少ない。遺物の種類は、  
土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉陶器・土馬・軒丸瓦・緑釉瓦などがある。

**小結** 今回の調査地は、大内裏図考証や近年の発掘調査にもとづく成果から、内裏西南部に位置し、  
西は中和院、南は内裏外郭に付随する修明門の北側の部分と推定される。しかし、検出した遺構が土  
壇だけなので、内裏内の建物間に相当するものと思われる。平安時代の土壇からは多量の土器が出土し、  
平安時代初期の基準となるべき好資料を得た。これにつ  
いては昭和 57年度の『平安京  
跡発掘調査概報』に報告して  
あるのでそれを参照されたい。

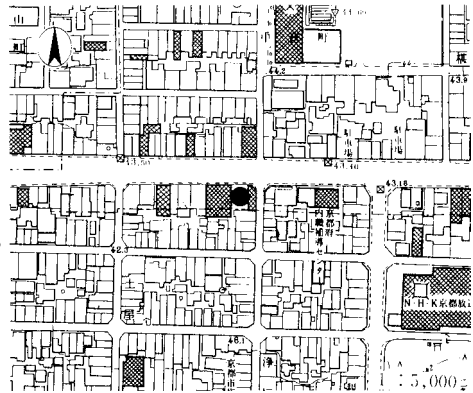
(吉川義彦)



全 景 (北から)

## 2 中務省跡

**経過** 上京区丸太町通浄福寺西入中務町 491-81に木造家屋を解体して鉄骨建物が新築されることになった。この地は平安宮中務省の推定地であるため、昭和 57年9月 18日に試掘調査を実施した。この調査によって、調査地の南半に平安時代の瓦を敷き詰めた状態の遺構を発見したため、詳しい遺構確認が必要となり発掘調査を実施することになった。



**遺構・遺物** 調査区は試掘調査の際に設定したものを拡大し、東西 4.3m、南北 5.3mの大きさとした。地表から約 80cmで地山を検出し、この間に 20cm余の現代層と約 60cmの厚さで近世層が堆積していた。これらの層を排除すると近世の土壌・柱穴などが検出できた。

土壌・柱穴などの新しい時期の遺構を調査したのち、SD1（溝）の調査に取り掛かった。

この遺構は東西に延びる溝で、幅 3.5m、深さは検出面から 35cmであった。溝の中には茶灰色砂泥層が堆積しており、試掘調査で発見した瓦はこの上面に敷き詰めた様な状態でみられた。また、この溝は素掘で、肩口には地覆の施設は全く検出できなかった。遺物は瓦以外に土師器の小片が検出されただけであるが遺物の年代からこの遺構は平安時代に属するものと推定される。

**小結** 平安宮の中は大小の溝や柵で区画されていたとみられる。また、平安宮の省院の配置復原には諸説があつて確定したものはない。しかし、平安京で確認された条坊の資料を元に平安宮内を復元すると、今回発見した東西溝は中務省と内舎人所の境界に相当する場所で検出されている。(吉川義彦)



全 景（北から）

### 3 左京二条二坊（1）

**経過** 市立待賢小学校の給食室新築に伴い発掘調査を実施した。調査地点は平安京左京二条二坊二町に該当し、「神祇官町」に比定されている。また江戸時代には所司代屋敷が置かれたところでもある。なお、丸太町通を挟んで北接する中沢紙店の発掘調査では弥生時代中期の遺物包含層も検出されている。

**遺構・遺物** 現地地表下約 1.2m で江戸時代の整地層を検出した。この整地層の上面を第 1 面、整地層下の黒褐色砂泥層上面を第 2 面として調査を進めた。

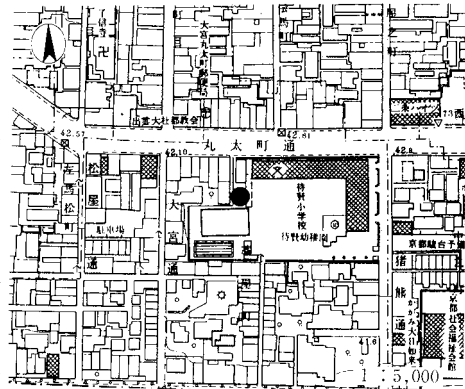
第 1 面では、溝 1 条・土壇 15 基・柱穴約 45 個を検出した。溝は幅約 1.3m、深さ約 1.3m、2 段に掘られ底部は漆喰で固めている。柱穴はほとんどが径 30cm 前後であったが、建物として復原することはできなかった。

第 2 面では、井戸 1 基・土壇 5 基・柱穴 4 個を検出した。井戸は花崗岩の切り石を使用した石組みで、掘形径約 2m、底は未確認である。土壇には幅 3.5m、長さ 4m 以上に達するものや、埋土中に焼土を含むものもみられた。調査区西端では鎌倉時代の土壇を 1 基検出した。なお黒褐色砂泥層を掘り下げたが弥生土器等は出土しなかった。

遺物は整理箱で 21 箱出土した。江戸時代のものが大半を占める。江戸時代の遺物には、土師器・国産陶磁器・瓦等があり、瓦が最も多い。鎌倉時代の遺物には、土師器・陶器がある。

**小結** 今回の調査では鎌倉時代の土壇 1 基以外はすべて江戸時代の遺構を検出し、平安時代の遺構・遺物や弥生時代の遺物包含層などは全く検出できなかった。

(丸川義広・辻 裕司)

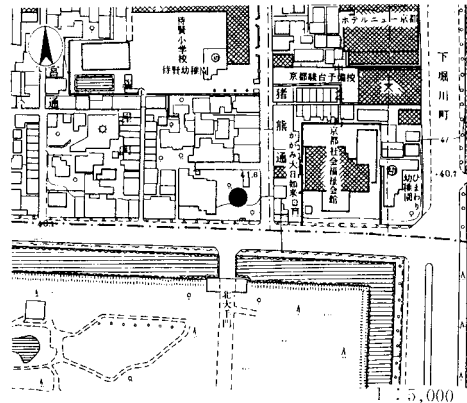


全 景（北から）

#### 4 左京二条二坊(2) 図版5・33・34

**経過** 調査地は左京二条二坊で、調査地南部に大炊御門大路南側築地が通る位置にある。築地を境に北側は大路、南側は冷然院に属する。調査区は東西22m、南北20mである。

**遺構** 調査区では近・現代層が約80cmと厚く堆積し、その下は暗褐色砂礫層(無遺物層)であった。暗褐色砂礫層上で平安時代と中・近世の遺構を同時に検出した。暗褐色砂礫層は調査区北端で南側に比べ約30cm高く残り、路面が一部残存していた。検出遺構には平安時代の溝・土壇・路面、室町～江戸時代の井戸・溝・土壇・建物などがある。今回は検出遺構中で最も注目される平安時代の溝と路面について記す。



SD1 調査区南部で検出した東西溝で、推定大炊御門大路南側溝である。幅1.4m、深さ80cmでU字形を呈する。埋土は3層に分かれ、中・下層から多量の土器が出土した。

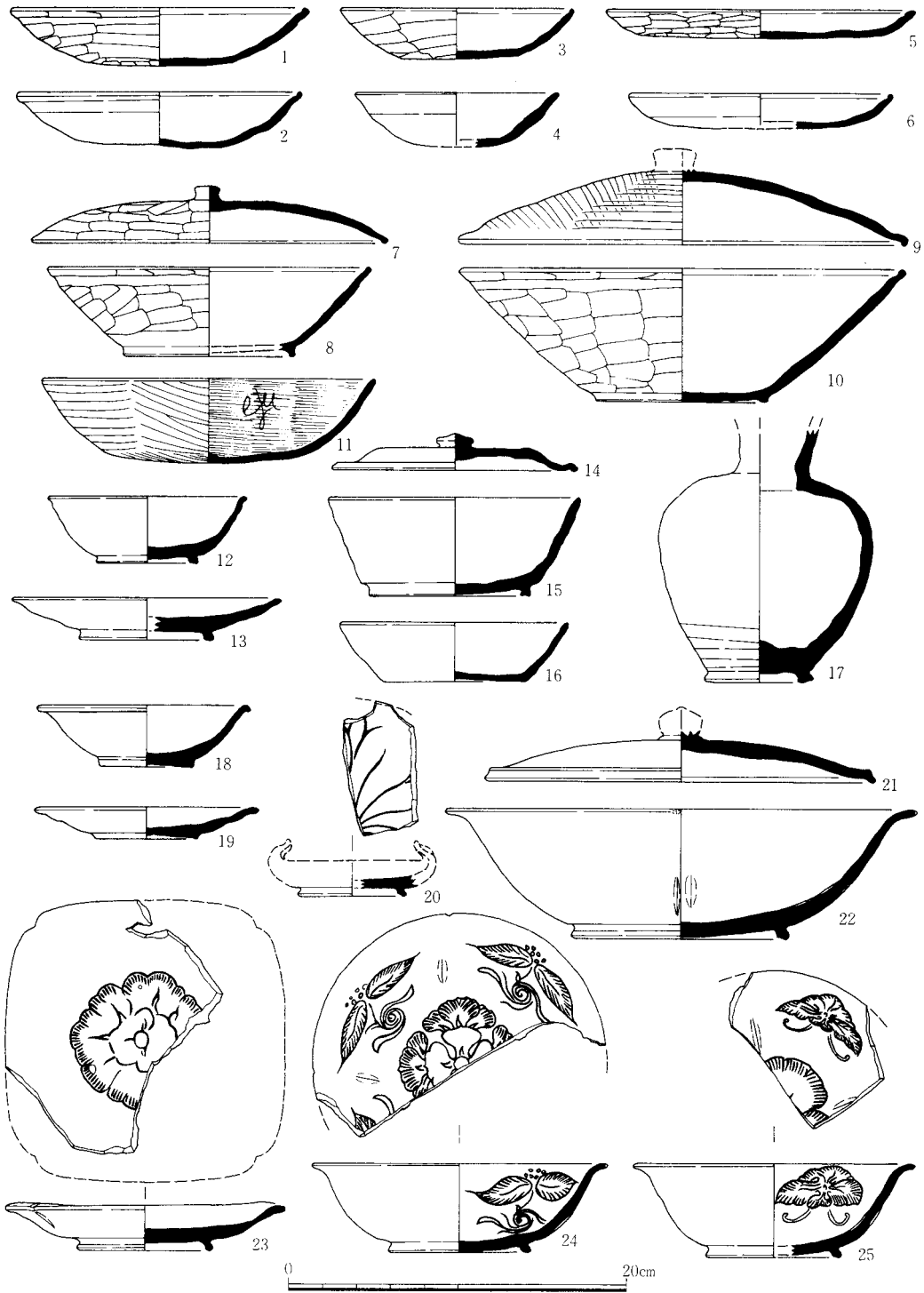
SD2 SD1の南で検出した東西溝で、推定冷然院北限築地内側溝である。幅1m、深さ0.9mで逆台形を呈する。埋土は3層に分かれ、中層から多量の土器が出土した。土器は完形品が多く、また土層観察の結果、遺物は南側から一括して投棄されている。SD1とSD2の心々距離は5.5m、両肩の間隔は3.7mを測る。遺構上面が近世に削平され、両溝間には築地等の痕跡は全く認められなかった。

SF3 調査区北端部で検出した東西方向の路面で、推定大炊御門大路にあたる。暗褐色砂礫層上に黒色土層が堆積し、上面に細砂礫を敷き固める。上面の標高は40.3mである。

**遺物** 調査では72箱の遺物が出土した。その内の50箱を占めるSD1・2出土遺物を報告する。なお、SD1・2出土遺物はほぼ同一時期の一括遺物と考えられる。

SD1・2出土遺物には、土器類・瓦類・石製品等がある。土器類には土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器があるが大半は土師器である。土器類には椀・皿・杯・蓋・高杯・甕があり、小形の椀・皿が多い。椀・皿・杯の外表面調整手法は全面へら削り(c手法)と体部上半横ナデ・下半指押え(e手法)があり、ほぼ同比率である。c手法では口縁部外表面に強い横ナデが残るものが多い。杯・高杯・蓋の内外面をへら磨きするものは少ない。黒色土器には内面のみ黒色化のA類と、全面黒色化のB類があり、A類が多い。

A類の黒色土器には椀・蓋・鉢・甕、B類には椀・甕・硯がある。須恵器には杯・蓋・壺・鉢・甕があり、杯類は少量である。灰釉陶器には椀・皿・壺・水注があるが、数点しか出土していない。椀・

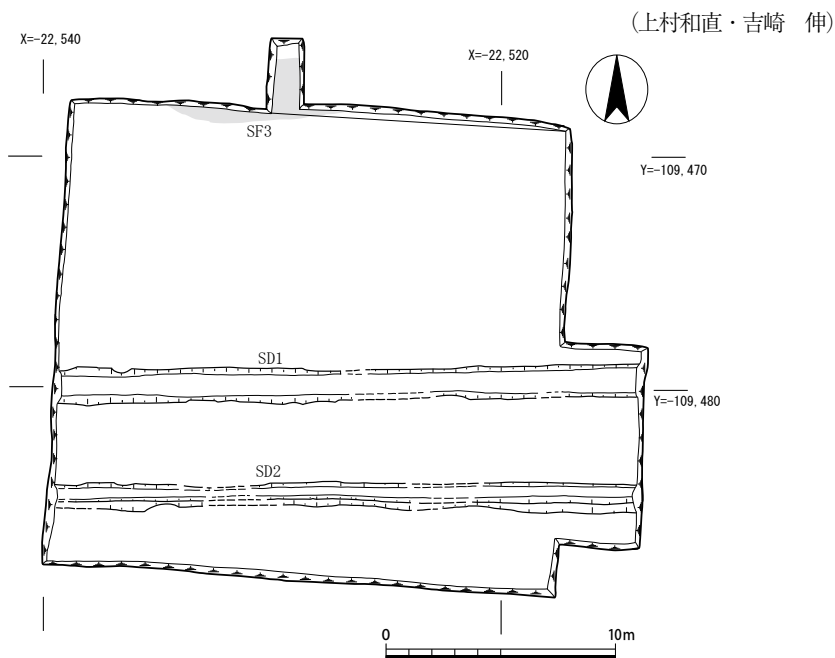


出土土器実測図 18・19はSD2出土、他はSD2出土、土師器1～10、  
 黒色土器 11、須恵器 14～17、灰釉陶器 12・13、緑釉陶器 18～25 (1:4)

皿は共に丁寧な調整で、内面のみ施釉している。高台は低い台形で、貼り付けている。緑釉陶器は軟質で、貼付高台を持ち、内外面入念なヘラミガキを施し厚い淡黄緑色の釉薬を施すⅠ類と、ヘラ調整の切り高台で、ヘラミガキが粗く、緑灰色の釉薬のⅡ類がある。Ⅰ類には椀・皿・耳皿・角皿・唾壺・壺など種類が多く、ヘラ描陰刻花文や輪花文を施すものがある。Ⅱ類は小型の椀・皿・耳皿のみで、稀に口縁部3箇所濃緑色釉を付けた輪花文のものもある。瓦類には軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦があるが、少量である。石製品では石帯鉈尾が1点出土している。

**小結** 調査の結果、大路の路面及び南側溝と築地内側溝を推定位置で検出した。特に築地内側溝の存在を明らかにした点は、従来側溝と称されてきた遺構群について再検討を迫るものといえよう。SD 1・2は出土遺物から平安時代前期後半に廃絶しているが、文献によると冷然院は平安時代前期にはすでに衰退し始めており、このことと合致する。

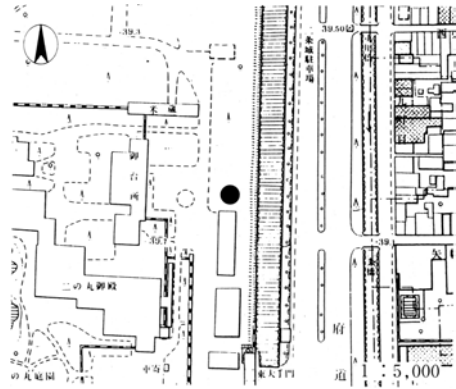
SD 1・2出土土器類は平城宮Ⅶ期SE 311-B出土土器と比較すると、土師器椀・皿類が小型化し、e手法の比率が高いことや、黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器の増加などの新しい要素を持つことからSE 311-B様式に後続する9世紀中葉前後を中心とする時期が考えられる。またこの土器群は、平安京右京一条三坊SD 45・平安宮中務省跡SK 201出土土器群と、西寺跡第12次調査の井戸出土土器群との間に位置付けられる。この土器群は供膳形態が多く、また緑釉陶器の比率が他の遺跡に比べて高いことは、この遺跡の性格を考える上で重要である。



遺構配置図 (1:300)

## 5 左京二条二坊（3）史跡二条城

**経過** 本調査は京都市消防局による防火用水槽設置に伴う発掘調査である。調査地は嵯峨天皇創建の冷然院に推定されている。調査区の規模は7m×7mで、調査期間は15日間であった。また、昨年度には約20m西の地点で収蔵庫建設に伴う発掘調査が実施されており<sup>注</sup>二条城2番～6番倉に該当する建物や、各時代の遺構・遺物を多数検出している。



**遺構・遺物** 桃山～江戸時代の遺構面では、土塋・石組井戸・瓦組暗渠・柱穴などを検出した。各々の切り合いが激しく、全体としてまとまったものではない。遺構内からは土師器・陶磁器・棧瓦などが多量に出土している。

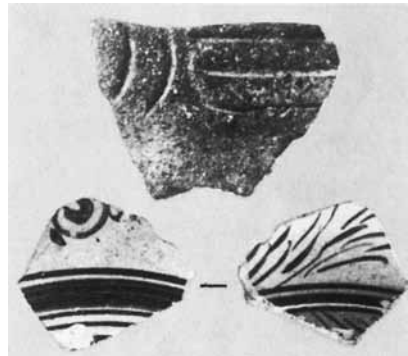
鎌倉～室町時代の遺構面では南北方向の溝を検出した。規模は幅2～25m、深さ70cmである。また、南北に約2mごとに並ぶ柱穴を3基検出したが建物が柵列かは不明である。

平安時代では明確な遺構は存在せず、東側がわずかに高く、北西に向って傾斜した落込がある。これは大きく3層に分層でき、第1層は平安時代末～鎌倉時代、第2・3層は平安後期と考えられる。堆積土層から、池または沢地と考えられ、冷然院に関する遺構はこれによって消失したものとみられる。

遺物は各遺構から出土しており、中でも平安時代後期の池状遺構からは多量の土師器皿が出土している。この中に混じって縄文土器が出土しており、昨年度調査の出土と合わせて注目される。なお、池状遺構の直上層からは輸入陶磁器（吉州窯・盤）も出土している。

**小結** 今回の調査は対象面積が狭小なことや複雑な土層堆積と切合関係もあって不明な点も多々あった。全体としては昨年度の調査とほぼ同じ状況であったが、平安時代後期に関しては調査地を中心に池状遺構が広がり、平安京造営当初のものは消滅したことが推定される。  
(久世康博)

注 「左京二条二坊（3）史跡二条城」『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要』



縄文土器（上）、吉州窯盤（下）



## 6 左京二条二坊(4) 図版6-1

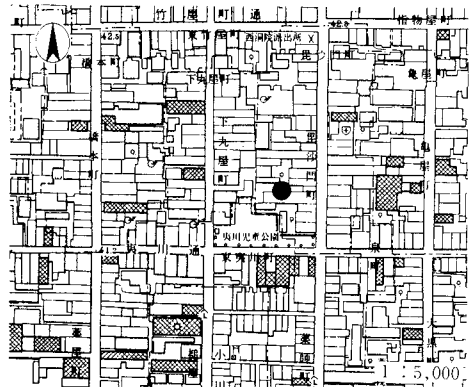
**経過** 調査地点は、西洞院通夷川の北約25m西側に位置し、推定左京二条二坊十四町の南東部にあたる。左京二条二坊十四町は、平安時代前期末から中期前半の間、陽成天皇が譲位して以降の後院である陽成院の跡に推定されている。また、調査対象地の東端には西洞院大路西側溝の推定ラインが走る。今回の発掘調査では、調査対象地に東西26.5m、南北15.1mのトレンチを設定し、一部東側を拡張して調査を実施した。

**遺構・遺物** 無遺物の自然堆積層(地山)上面から現地表までの比高差は、1.4m前後であり、地山上面は比較的平坦である。地山最上層は一部に色調の異なる薄い堆積層はみられるが、チョコレート色を呈する土が主で、約20~30cm程度の厚さで堆積している。この土層は濃茶褐色泥砂層として扱った。この土層の直下に黄色系の色調を呈するいわゆる聚楽土が堆積している。この土層はトレンチ西側で薄く、東側で1mを越える厚い堆積状況を呈している。主に近世以降の遺構に

多数みられた土取穴と思われる遺構は、この土の採取を目的としている。このため、これらの遺構は東部のものほど深い傾向を示している。この土層は主に黄褐色泥砂層として扱っている。

遺物包含層の大半は、近世以降の土層である。中世以前の土層は、地山直上の窪みに堆積していた平安時代の整地層の一部と考えられる部分的な土層及び室町時代後半代の遺物を包含する薄い土層を確認したにとどまる。

遺構は、中世以前のものが後世の遺構の影響で相対的に残りが悪く、不明確な点が多い。しかし、平安時代から鎌倉時代後半代の遺構は、各時期のものを少量確認している。それに続く鎌倉時代末期から室町時代前期前半に位置付けられる遺構は、今回の調査では確認していない。室町時代前期後半以降の遺構は序々に増加する。遺構数の増加は、近世に入りより顕著となる。江戸時代前期になると遺構密度が非常に高くなり、以後その状態は途切れることなく現代にまで至っている。以下、中世以



時代・遺構	備考
桃山時代以降 井戸 18基・土壇 23基・ピット 52基・落込 18基・堀込 4基・溝状遺構 2基・攪乱層 105基	攪乱層は土取穴が多い。(計 222基)
室町時代後期 井戸 3基・土壇 8基・ピット 6基・落込 11基・堀込 8基・溝状遺構 4基	井戸 15~17・落込 46・溝状遺構 7 (計 40基)
室町時代前期 井戸 1基・落込 1基	(計 2基)
鎌倉時代 井戸 2基・土壇 4基・ピット 3基・溝状遺構 1基	井戸 18 (計 14基)
平安時代後半 ピット 1基・堀込 1基	(計 2基)
平安時代前半 井戸 1基	井戸 19
不明 ピット 68基・落込 12基	(計 80基)

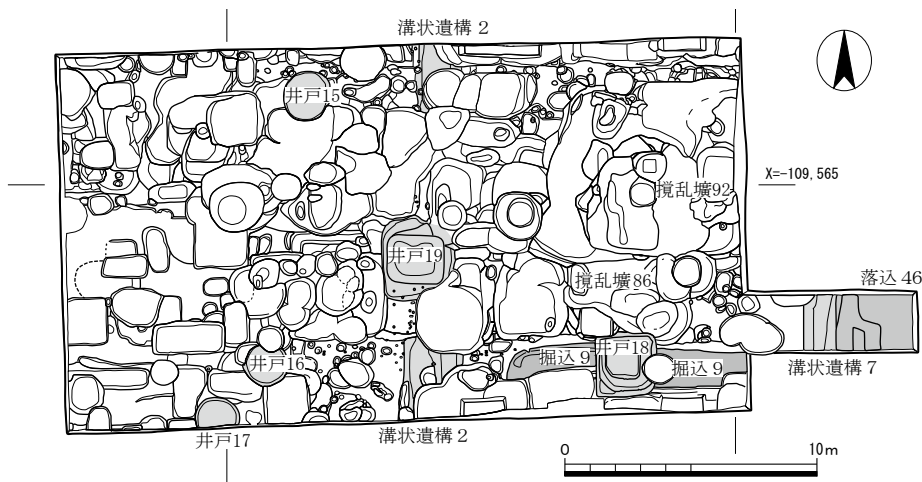
前の主な遺構と出土遺物について略述しておく。

井戸 19は、出土遺物から判断して平安時代前半代には放棄され、完全に埋没しものと理解している。推定陽成院の成立期間からみて、陽成院に関連した井戸であろう。掘形は一辺 2.2m・深さは検出面から 1.2mを測り、井戸側は多角形を呈する縦板組である。この井戸 19の掘形からは、初鑄年代が 890年の寛平大寶を始め、木簡片・土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・白色土器・輸入陶磁器等の遺物が出土している。また、井戸内堆積土からも同様の土器類が多数出土している。これらの出土土器群はそれぞれ型的にまとまりがみられ、平安時代前期末から中期前半代の土器編年を確立して行く上では重要な資料となるであろう。

溝状遺構 7・落込 46は、南北方向に延びる溝と考えられるが、トレンチ東側の狭い拡張区で確認したため上記の遺構名で扱った。

溝状遺構 7は、断面 U 字形を呈し、室町時代後半代に埋没した遺構である。落込 46は、西肩部しか確認できなかったが、西肩部は南北方向に延びている。埋没時期は、溝状遺構 7と大きな時間差はない。両遺構とも堆積土は水分をよく含んだシルト質の土であり、底部は地山に達している。この両遺構は、平安時代の西洞院大路の推定ラインにはほぼ重なる点などから考えて、室町時代の西洞院通の西側溝、もしくは西洞院川に関連する遺構の可能性がある。

**小結** 中世以前の遺構は全体に残存数が少なかったが、特に鎌倉～室町時代前期前半代の遺構は確認できなかった。本調査地におけるこの様な中世遺跡の有様は、中世京都における上・下の町の形成を、その中間地域における遺跡の有様を通して理解して行く上で示唆的な内容を数多く含んでいるといえるだろう。  
(小森俊寛・原山充志)



遺構配置図 (1:300)

## 7 左京二条四坊

**経過** この調査は公共防火水槽設置に伴うものであり、調査地は平安京左京二条四坊一町に該当している。数少ない京都御苑（御所）内での発掘調査ということもあり、調査面積が狭小（6×8m）ではあったが、近・現代の攪乱も少なく、遺構・遺物の検出が期待された場所であった。

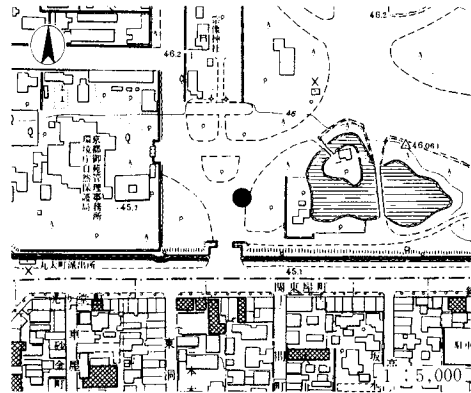
**遺構・遺物** 調査地の基本層序は、現代盛土層（40cm）、池内堆積土Ⅰ層（80cm）、同Ⅱ層（80cm）、暗灰色粘土層（20cm）、黄褐色砂礫層（地山）となっていた。

調査の結果、調査地はすべて池状遺構の中であることが判明した。池内堆積土Ⅰ層は黄褐色・灰色土を基調としており、わずかに北東に向って傾斜している。池内堆積土Ⅱ層は炭を含む黒色土を基調としており、上層では焼土が認められた。Ⅱ層はⅠ層に比べ埋立て状況が明瞭で、南西方向から順次埋めて行ったことが断面観察によって明らかとなった。Ⅰ・Ⅱ層いずれも、土師器・陶器・瓦等がぎっしりと詰まった状態であった。また暗灰色粘土層はほぼ平坦になっており、この土層から土器片が若干出土した。この粘土層の性格は地山が砂礫層であるため、漏水を防ぐ目的で貼り付けたと思われる。

出土遺物からみると、この池状遺構が掘られたのは江戸時代中頃で、埋められたのは江戸時代末期であると考えられる。

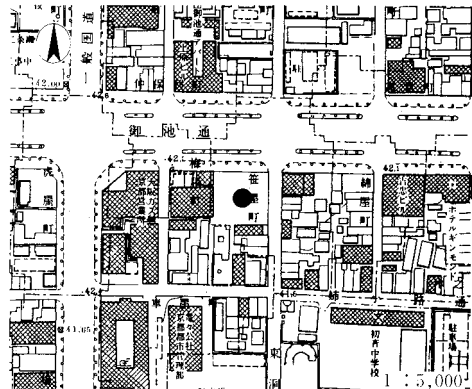
**小結** 今回の調査では平安京に関連する遺構の検出はなかったが、江戸時代の池状遺構の検出によって、調査地の東側に現存する「九条池」が本来は更に西に広がっていたものであることが確認された。この池は『林吉永版内裏図』（宝永6年刊）をみると“溜池”として描かれている。これは、宝永5年（1708）3月の洛中大火の後、都市の復興にあたって延焼防止策として内裏周辺の民家や公家邸を整理し、その跡地を大通り（火除地（ひけち）＝防火ライン）や防火用の水堀が掘られているので、今回の調査で検出した池状遺構もこれを起源とするものの一つと考えられる<sup>注</sup>。（久世康博）

注 「上京及史蹟」22 上京区文化振興会刊 昭和56年度



## 8 左京三条三坊 図版6-2

**経過** 平安京左京三条三坊十四町内における当地に第一生命ビルが建設されることになり発掘調査を実施する運びとなった。調査区の東端で東洞院大路西側側溝及びその路面が検出される位置にあり、また付近の調査例を考慮すると弥生時代から古墳時代、更には平安時代から中世及び近世の遺構・遺物が検出されることが十分予想できる場所にあった。



**遺構・遺物** 基本層序は、上から盛土層（1～2m）、近世の整地層（10cm）、茶色混礫泥砂層（20cm）、明茶色砂泥層（10cm）、暗褐色砂泥層（10cm）、黒褐色砂泥層（10cm）と続き、地山の黄色泥砂層となっているが、調査区内での堆積状況は一定ではない。検出した遺構は室町時代のものを中心として、中世から近世のものが大部分であった。

平安時代の遺構は明確なものが少なく、またそれ以前の遺構としても、土壌を1基検出したにとどまった。

主な遺構は、室町時代後期の東洞院大路西側溝・路面及び濠と鎌倉時代から室町時代にかけての溝・井戸などである。濠SD1は、幅3m、深さ検出面より2mを測る北西から南東方向の方位を持つものである。東洞院大路の西側溝と考えられる溝SD2は、幅2m、深さ検出面より1mを測り、調査区南東部で濠SD1と合流していた。井戸は6基検出した。いずれも石組みで、底部は木枠を組む構造であった。井戸の底面の標高は36.7～37.0mであった。

遺物は濠SD1、井戸SE5を中心に、整理箱に108箱出土した。その大半は鎌倉時代から室町時代のものである。濠SD1から室町時代後期のものが整理箱15箱出土した。

内容は、土師器・陶器・白磁・染付・銭貨・漆器・木器などである。また井戸SE5からは鎌倉時代後期の土師器皿を中心に陶器甕などが整理箱17箱出土した。

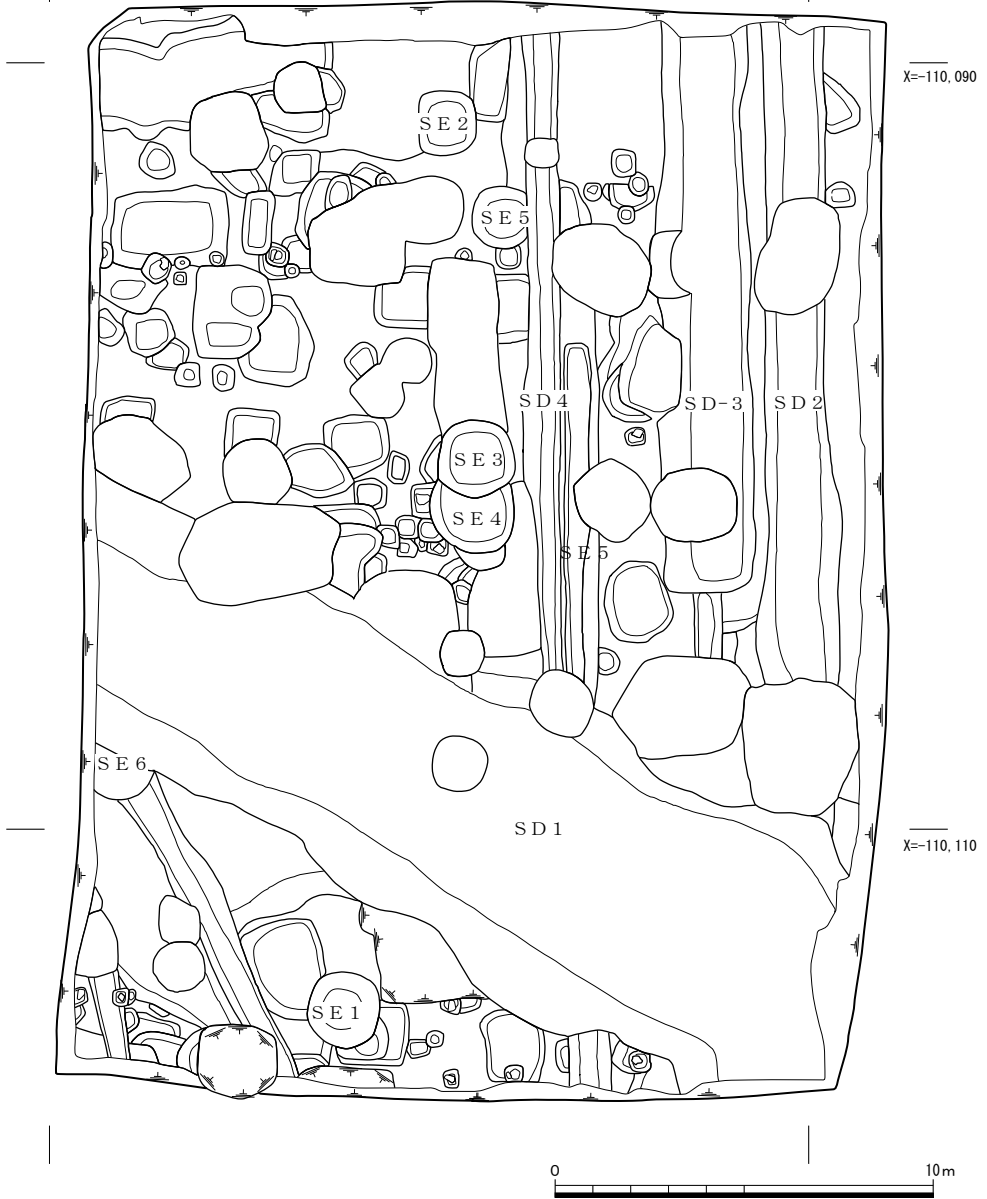
**小結** 調査地は左京三条三坊十四町のほぼ南北中心付近（X=-110104m）にあたり、東端で東洞院大路がかかる位置にあった。また濠SD1は調査地内では斜め方向に流れるもので、宅地内に大規模な濠が存在した点は注目される。また、東洞院大路西側SD2の位置は、平安京の条坊ラインとほぼ同じであることが知れた。

（辻 純一・平尾政幸）



Y=-21,580

Y=-21,560



遺構配置図(1:200)

## 9 左京四条三坊 図版 37・38

**経過** 調査地は左京四条三坊五町にあたり、「薬師堂」に推定されている。1982年10月に試掘調査を実施した結果、平安時代の遺構・遺物が良好に遺存することが判明したので発掘調査を実施する運びとなった。調査区は東西8m、南北14m、調査面積は約110㎡である。

**遺構・遺物** 調査の結果、平安時代前期の整地層・溝、平安時代中期から後期の井戸・土壇・溝・柱穴、鎌倉・室町・桃山時代の土壇・柱穴など総数にして162基の遺構を検出した。また、遺物は弥生時代から桃山時代のものが出土しているが、今回は整理作業の比較的進んでいる平安時代中期の井戸SE21出土のものを中心に報告を行う。

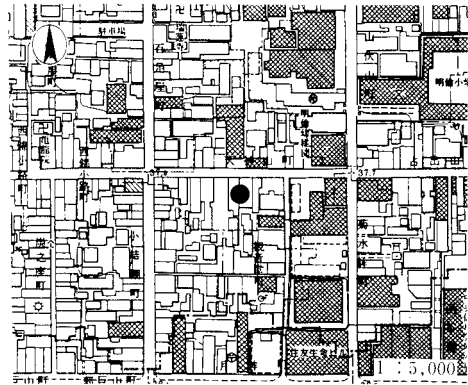
SE21は調査区の中央で検出した、一辺2.7mの隅丸方形の掘形を持つ井戸である。井戸枠は長さ1.1mの木枠組で、最下段の横棧、支柱や底部から50cm付近までの縦板、添板が遺存していた。底部には特別な施設はなく、最低部の標高は31.6mである。

SE21からは、土師器(皿・壺・甕・釜)、須恵器(杯・椀・鉢・壺・甕)、黒色土器(椀・盤・甕)、緑釉陶器(皿・椀)、灰釉陶器(皿・椀・壺)、輸入陶磁器(皿・椀)などの土器類の他に、瓦・銭貨(乾元大宝2枚)、木製品(曲物・箸・櫛・井戸枠)、植物種実、獣骨などが出土している。

土器類の総破片数は1959片を数え、各器種の構成比は、土師器74.73%、須恵器6.18%、黒色土器5.77%、緑釉陶器6.07%、灰釉陶器4.03%、輸入陶磁器1.54%、無釉陶器0.01%、その他0.76%、不明0.92%となっている。

土師器皿には、口縁部を内側に巻き込むA類(1~7)と、外反させるB類(8~13)の両方があり、各々は法量によってA類は4種類、B類は3種類に分けることができる。灰釉陶器椀は、体部が張り口縁部は丸くおさめ、やや高い付高台を持つもの(26・27)と口縁部が外反し体部の張りが緩やかで低い付高台を持つもの(25)の2種類がある。前者は美濃古窯址群中の虎溪山1号窯出土の椀に類似している。<sup>註1</sup>輸入陶磁器には、白磁(34・35)と青磁(36~38)があり、青磁はすべて越州窯系のものである。(37)は底部内面に毛彫文様を持つ。その他、黒色土器(22~24)、須恵器(20・21)、無釉陶器(39・40)、緑釉陶器(28~33)がある。

**小結** SE21出土土師器皿で特記すべきことは、量的に約1/3を占めるB類がA類と共伴し、A類は口径12cm以下のものが多数であるのに対し、B類は口径12cm以下のものが皆無な点が挙げられる。SE21出土土器群より時期的に前出する土器群ではB類が含まれず、後出の土器群からは口径



12cm以上のA類が消失し、12cm以下のB類が新たに出現することなどから考えて、SE 21出土土器群はこうした土器変化の過渡期にある土器群と位置付けることができよう。

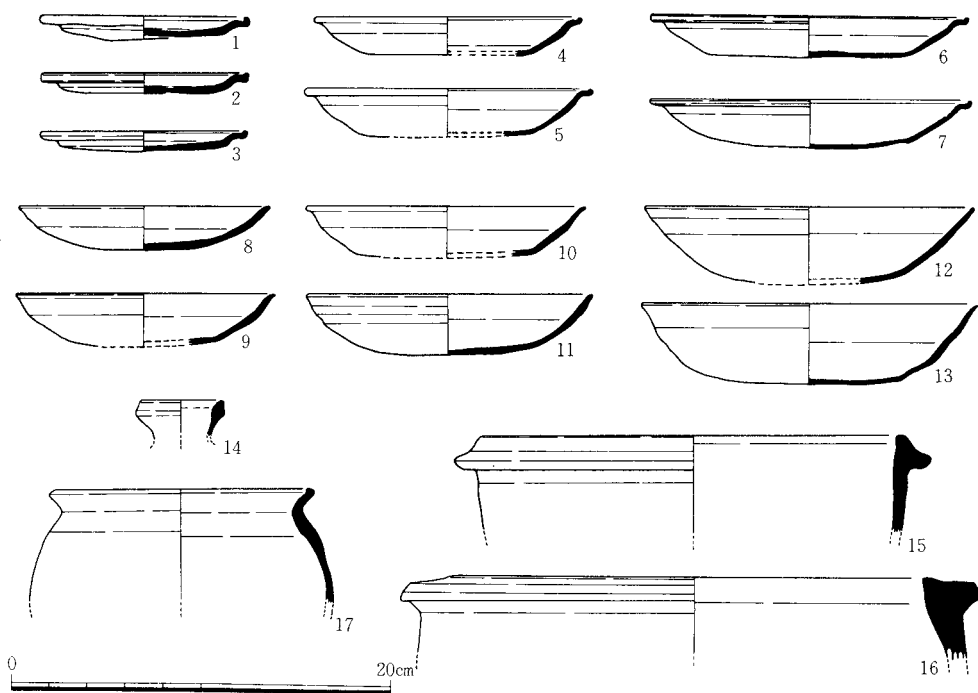
この他、輸入陶磁器の中には越州窯系の毛彫青磁碗が出土しているが、類例はわずかに大宰府鴻臚館跡と福岡県湯納遺跡から出土しているに過ぎず、<sup>注2</sup>平安京跡から出土が確認された意義は大きい。特に、湯納遺跡出土の草花文を細線で描いた碗に近似している。<sup>注3</sup>

最後にSE 21土器群の年代については、右京二条二坊S X 1（天曆七銘墨書土器出土）・SE 1より新しい要素が観察され、左京二条二坊高陽院跡S G 1 - Aより古い様相を呈することなどから、10世紀末葉に収まると考えている。（平田 秦）

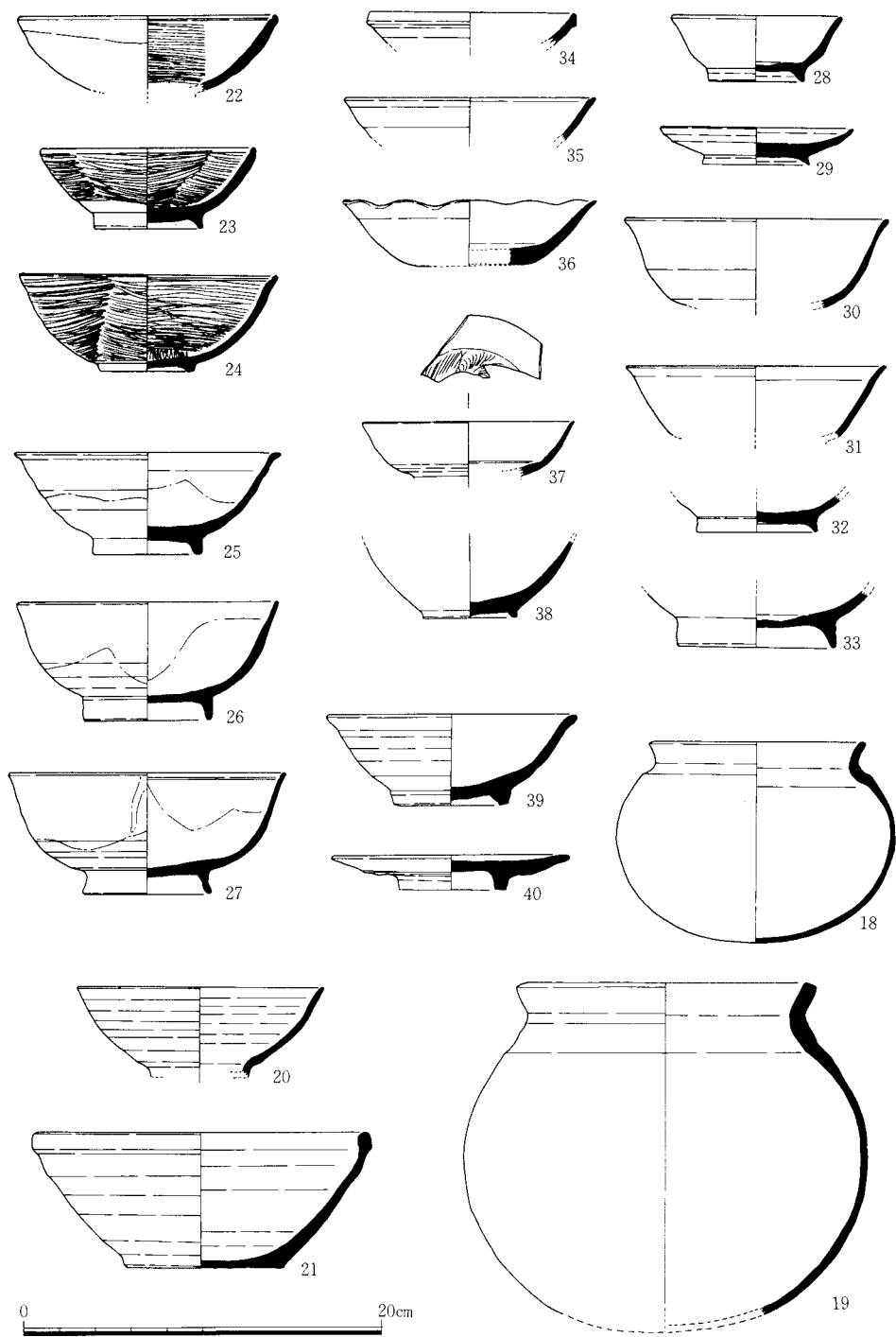
注1 田口昭二「美濃焼の起源を探る」岐阜県多治見市立精華小学校 1973年

注2 森田 勉「毛彫文様のある二・三の青磁について」『古文化談叢』第6集 1979年

注3 『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告』第4・5集 福岡県教育委員会 1976・77年



SE出土土器実測図1 土師器（1～17）(1:4)



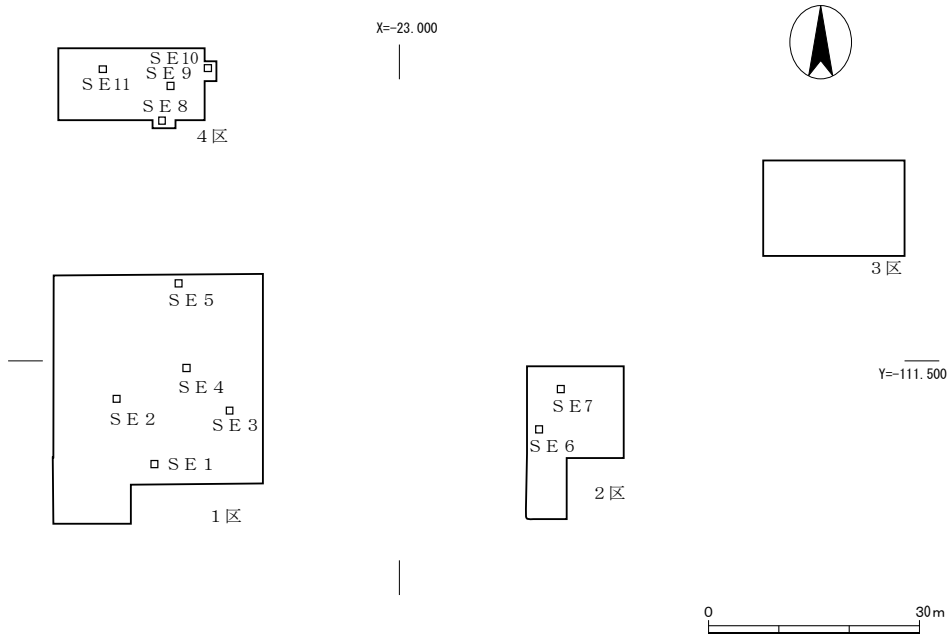
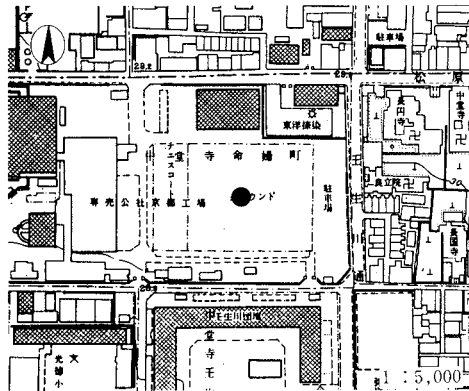
出土土器実測図2 土師器 (18・19)、黒色土器 (22～24)、須恵器 (20・21)、  
灰釉陶器 (25～27)、緑釉陶器 (28～33)、無釉陶器 (39・40) (1:4)



## 10 左京六条一坊

**経過** 調査地は左京六条一坊八町の南半にあたる。当地は最近まで日本専売公社京都工場のグラウンドとして使用されていたが、それ以前は公社の印刷工場及び資材倉庫が建てられていた。このため、敷地の中央部分はいずれも旧建物の基礎等で破壊されていることが予想できた。そこで、調査地全域に7カ所の試掘トレンチを設け、遺構の状況と基礎の位置を確認した。その結果、広範囲にわたる遺物包含層を確認し、公社側から提供を受けた旧建物の図面と試掘調査の結果を考慮し、4カ所の調査区を設定し発掘調査を行った。

**遺構・遺物** 1～4区で検出した遺構には、多数の不整形な落込み状の遺構及び井戸がある。落込み状の遺構は調査区のほぼ全域にわたって検出したが、これらは底部の状況を見ると多数の土層が切り合った様に見える。しかし、随所で行った断面観察によれば、一つ一つの落込状遺構の範囲を越えて同一の土層の堆積がみられ、切り合い関係は確認できなかった。ただ、堆積の方向や落込状遺構の分布状況からは、いくつかの小単位がまとまっておりそれらが連続した掘込みであることが観察された。こ



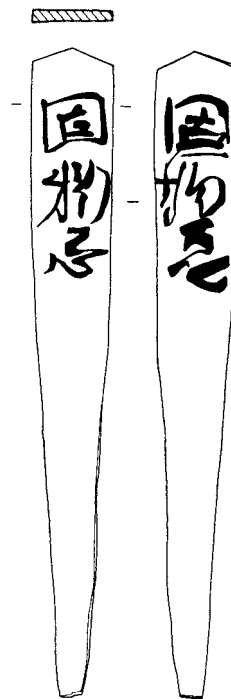
遺構配置模式図(1:1000)

れらはすべてこの付近一帯に分布する黄褐色砂泥層を対象として行われた採土跡（土取穴）と考えられ、このため、井戸の様に深い遺構を除いては他の遺構はすべて削平されたものとみられる。

井戸は1区で5基（SE 1～5）、2区で2基（SE 6・7）、4区で4基（SE 8～11）の合計11基を検出している。このうち、SE 3・5・6～8・10・11の井戸は方形の木組で、SE 10・11を除いては最下部に円形の曲物を据え付ける構造のものであった。また、SE 2は曲物を数段積み上げた構造で、底部から6段目までを確認した。SE 1・4は素掘の井戸であった。SE 9については中から木片が出土しているため、木枠があったものと思われるが、詳細な構造は不明である。

出土遺物は包含層及び井戸から整理箱約60箱分出土している。大半は土器類であるが、他に井戸から出土した木材、曲物、物忌札などの木製品も少量ある。土器類のうち9割以上が包含層からの出土であるが、それぞれの井戸からもかなりまとまった量の土器が出土している。特に、SE 3からは、土器類の他に、曲物、物忌札などが出土し注目された。

**小結** 今回の調査で検出した遺構や包含層の状況は、この地域の他の調査例とも共通しており、この付近一帯でかなり広範囲にわたる採土作業が行われたことが推測される。包含層中に含まれる遺物は、大半が平安時代後期～鎌倉時代のもので、また、検出した井戸もすべて平安時代後期～鎌倉時代に属するので、包含層出土の遺物中最も多くみられるものの時期と一致している。しかし、わずかではあるが近世に属する遺物も含まれているところから、採土の時期もこの頃に下るものと思われる。

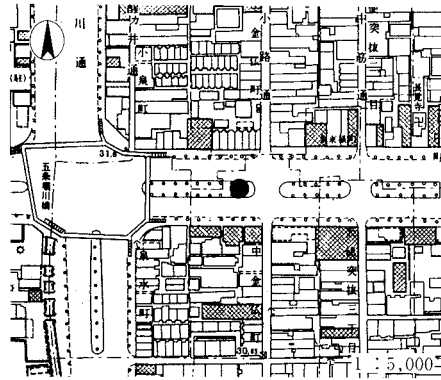


SE 3 出土物忌札（1：2）

（平尾政幸・梅川光隆・辻 純一）

## 11 左京六条二坊 図版7-1

**経過** 本調査は1号線共同溝工事に伴う第4次発掘調査である。今回の調査地は中央分離帯中で、堀川通から東中筋通までの約100mの区間である。調査区は2ヵ所に分かれ、幅5mである。調査地は左京六条二坊十・十四町に推定される。



**遺構・遺物** 調査地の層序は極めて複雑で、各時期の遺構・整地層が重複している。近・現代層(約1m)

の下は中世の包含層(約60cm)で鎌倉～室町時代の土壇・井戸等が複雑に切り合っている。平安時代の遺構面は緑灰色砂質土層の上面で標高30.5m前後である。この下層の灰色砂質土層より古墳時代の土器が出土したが、遺構は検出できなかった。

桃山～江戸時代の遺構には土壇・井戸などがあり、緑灰色砂質土層まで掘り込んであるものも多くあった。土壇はいずれもゴミ捨穴と考えられ、多量の遺物が出土した。

鎌倉～室町時代の遺構には土壇・井戸・溝・柱穴など多数ある。土壇の中には長方形のものがあり、墓の可能性もある。また室町時代の土壇には多量の土師器を含むものが多い。なお、調査区中央部では多数の柱穴を検出したが、調査区が狭いこともあって建物としてまとめることはできなかった。

平安時代の遺構には土壇・井戸・柱穴などがあるが、中・近世の遺構に削平されて遺存状態は良くない。調査区中央部で方形木枠組井戸2基、東西柵列1条を検出した。

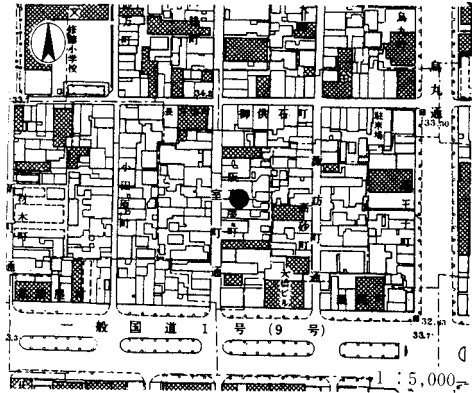
各遺構からは多量の遺物が出土したが、土器類が最も多く瓦類などは少ない。古墳時代の土器には土師器甕、須恵器杯・器台がある。時期は6世紀前半である。

**小結** 調査地内は平安時代以降の遺構が複雑に切り合う左京独特の状況を呈している。また調査区の幅が狭いため、遺構の一部を検出したに過ぎないものが多く、全体の性格等は不明な点が多い。調査区は六条坊門小路より南へ約15mの宅地内を、東西に横切っており、検出した遺構は小路に面する建物の後方に該当すると考えられ、平安時代の井戸等については当時の宅地内の建物配置との関連で注目される。なお、古墳時代の遺構は検出できなかったが、周辺の調査地からも同時期の遺構・遺物を検出しており、下層遺跡の状況も徐々に明らかになっている。

(上村和直・吉川義彦)

## 12 左京六条三坊 図版 28

**経過** 1982年12月1日、下京区室町通り五条上ル阪東屋町で試掘調査を実施した。当該地は左京六条三坊十町にあたり、小六条院の西端にあたる。試掘調査では室町小路東側溝と推測される溝が検出された。このため12月9日から翌年1月9日まで発掘調査を実施した。併行する工事に調査を制約され、東西13m、南北8mの約100㎡を調査した。後、東側に一部拡張して古墳時代の遺構を調査した。



**遺構・遺物** 層序は複雑で近世以降の土壌・整地層などの重複が著しい。室町時代以前の遺構はこれらの下部にわずかに残るだけである。平安時代以降の遺構の基盤となっている層は緑灰色微砂層であり、この層から古墳時代の遺物が出土する。緑灰色微砂層下に遺物を包含しない砂礫層があり、更に下に灰白色砂礫層がある。灰白色砂礫層からは弥生時代後期から古墳時代初期にかけての遺物が出土した。遺構は室町時代のものを中心とし、次いで近世から現代のものが多い。平安時代、鎌倉時代の遺構の明確なものは少ない。主な遺構は、平安時代の素掘の井戸・土壇、鎌倉時代の溝、室町時代の土壇などである。

砂礫層上面には古墳時代の土壇1基がある。東西4.2m、南北3.5mを測り、上部は近世の土壇により著しく攪乱されているが、下部は残りが良く、古墳時代前期の土師器がまとめて出土した。

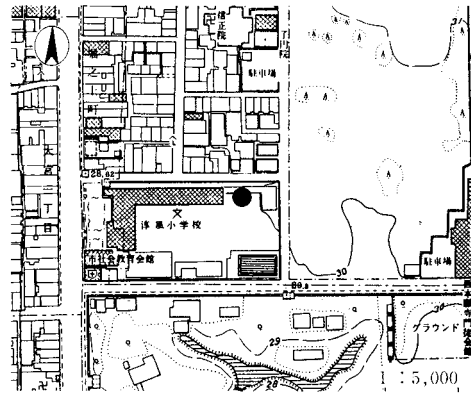
遺物は整理箱に26箱出土した。その大半は室町時代以降の土器類で占められている。土壇から出土した古墳時代のものには土師器の壺・甕・鉢・高杯・器台などがある。

**小結** 試掘調査で室町小路東側溝と推定された溝は本調査の結果、複雑に重複する土壇群を誤認したものと判った。また小六条院に関する遺構も、重複が著しく明確にし得なかった。古墳時代前期、布留式併行期の土師器が一括して出土した。これらの土器の中には山陰地方の特色を持ち、京都市内では出土例のない鼓形器台もあり、烏丸綾小路遺跡の性格を解明する上で重要な資料となる。なお、昭和57年度『平安京跡発掘調査概報』に本調査の概要を報告してあるのでそれを参照されたい。

(菅田 薫・平田 泰)

### 13 左京七条二坊

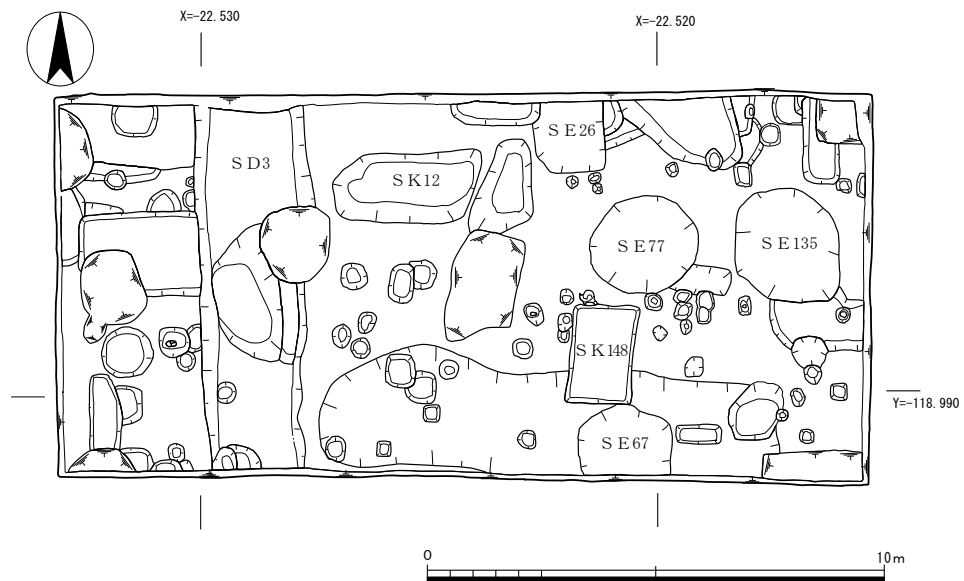
**経過** 調査地は平安京の左京七条二坊の一部にあたり、また、室町時代以降広大な寺域を占めた本圀寺跡の西南の一角にも該当している。現在、道路一つ隔てた南側に西本願寺が位置する。当地の北東約 100m の猪熊殿推定地で行われた発掘調査では、平安時代の建物や井戸、あるいは本圀寺跡に関連する濠などの遺構が数多く発見されている。



注 今回、市立淳風小学校内の給食棟建設に伴い立会調査を行ったところ、遺物包含層や遺構の存在が確認されたので、東西 18m、南北 8m の調査区を設け発掘調査を実施した。その結果、弥生時代の溝 1 条を始め、平安時代から江戸時代にわたる総数 191 基の遺構を検出した。

**遺構・遺物** 厚さ約 30cm の学校造成時の整地層下に江戸時代の遺構面がある。それ以下約 40cm に地山の黄褐色砂泥層が堆積しており、この両層の間に弥生時代及び平安時代以降桃山時代までの遺構が複雑に切り合って成立している。地山である黄褐色砂泥層上の層序は、下から暗茶灰色砂泥層・茶灰色砂泥層の順に堆積しているが、部分的には黄褐色砂泥層と暗茶灰色砂泥層との間に淡黄灰色砂泥層が分布しているところもある。

遺構は桃山～江戸時代のものを茶灰色砂泥層の上面で、室町時代のものを暗茶灰色砂泥層の上面で、



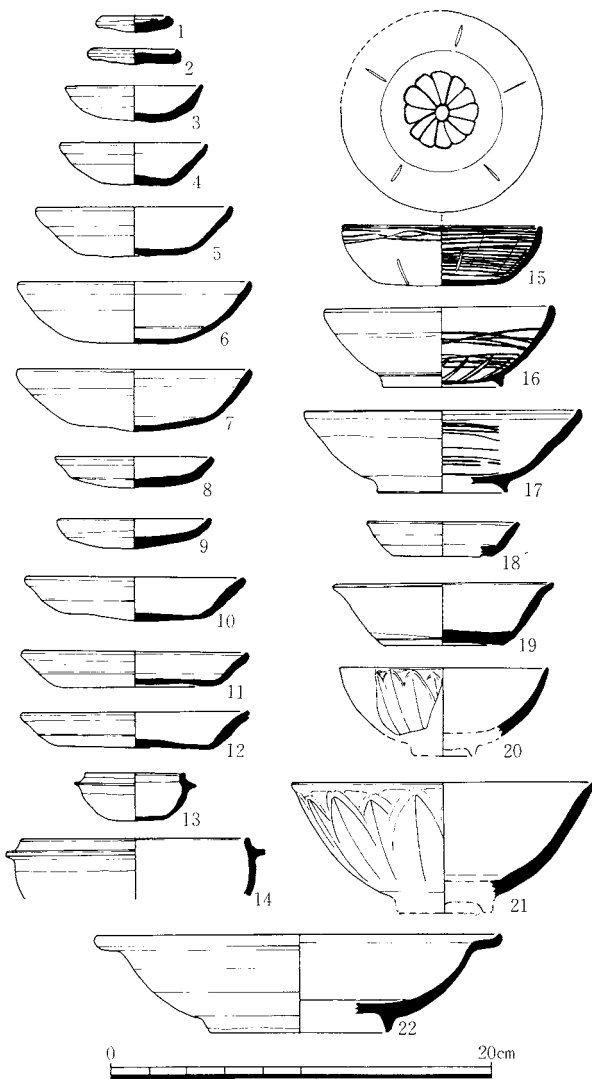
遺構配置図 (1:150)

そして、鎌倉時代とそれ以前のものを黄褐色砂泥層の上面で検出しており、土壙・溝・井戸などの他に、小規模な柱穴と思われるピットが多数みられた。

遺物は各時代の遺構から多数出土しているが、特に鎌倉時代の土壙SK12からは土器類がまとめて出土している。出土土器類の内容は現在整理中であるが、その主要なものを一部右に掲載しておく。図中、1～14が土師器、15～17が瓦器、18・19が白磁、20～22が青磁である。これらは鎌倉時代中頃の良好な一括資料といえる。

**小結** 調査成果の検討は十分ではないが、現在までに確認できた主な成果としては、まず、室町時代の遺構群が良好に遺存する点を挙げることができる。これらは、時期的にみても本圀寺跡に関連するものと考えられ、前述した発掘調査の成果と合わせ本圀寺跡に関する重要な資料となるであろう。(平尾政幸・辻 純一)

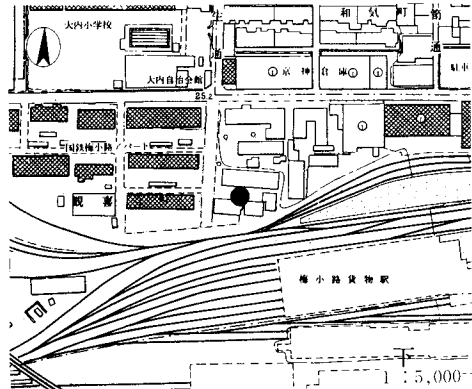
注 昭和54年に当研究所が発掘調査 未報告



SK12 出土土器実測図 (1:4)

## 14 左京八条一坊

**経過** 調査地は平安京左京八条一坊壬生大路推定位置に該当する。周辺地の発掘・立会調査の結果、遺構・遺物の遺存状態が良好な地域であり、工事に先立って試掘調査を行った。その結果、壬生大路東側溝と推定される南北溝を検出し、発掘調査に切り換え、5月15日より25日まで調査を実施した。調査面積は約250㎡である。



**遺構・遺物** 調査地の基本層序は単純で、現代盛土層(約60cm)、茶灰色泥砂層(約20cm)、茶灰色砂層(約10cm)、黄茶色砂礫層である。茶灰色砂層以下の堆積土層からは遺物の出土は認められない。

検出した遺構は近世、平安時代の溝・土塋である。調査区西側で検出した平安時代中期の南北方向の溝は、条坊復原による壬生大路東側溝にあたり、幅2.5m以上、深さ約20cmを測る。東肩は直線的に延びるものではなく凹凸状を呈し、肩部の一部には杭、横板からなる護岸施設と思われる痕跡が認められた。この他に、平安時代の遺物を包含する土塋を4基検出しているが、いずれも不整形で浅いものである。

遺物は整理箱に11箱分あり、弥生時代から古墳・平安時代の遺物が出土している。内容は弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・染付・瓦等である。

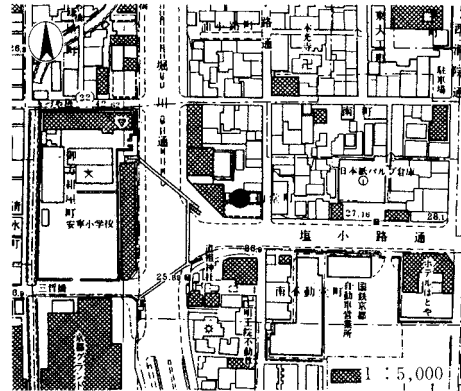


全景(南から)

**小結** 検出した平安時代の南北溝は、推定壬生大路の東側溝に位置し、条坊復原には欠かせない資料となった。更に周辺の立会調査等でも発見されている古墳時代中期の土器(壺・甕)が出土しており、付近に遺跡が存在する可能性を示している。(磯部 勝)

## 15 左京八条二坊 図版7-2

**経過** この調査は、油小路通木津屋橋下ル北不動堂町のビル新築工事に先立って実施されたものである。調査地は、左京八条二坊十町にあたり、油小路の検出が予想された。そのため、調査の目的は、油小路及び十町の宅地内の遺構を明らかにすることであった。まず試掘調査を行ったところ、予想された遺構・遺物が発見されたため発掘調査を実施した。



調査は、工事範囲を対象としたが排土等の置場を考慮して、東西 11.5m、南北 5.7mの調査区を設定した。

**遺構** 基本層序は、小路路面と宅地内では様相が異なる。路面部では、近・現代盛土層（厚さ 60cm）、近世整地層（厚さ 45cm）、第 1～3層灰色混小礫泥砂層と泥土層の互層（厚さ 10cm）、第 4層茶褐色砂礫層（厚さ 10cm）、第 5層灰色粗砂層（厚さ 5 cm）、第 6層暗灰色砂礫層（厚さ 10cm）でいずれも堅い整地層である。第 1層上面では室町時代の遺構、第 4層では平安から鎌倉時代の遺構、第 6層下では平安時代の遺構を各々検出した。宅地部では、近世以降の盛土層（厚さ 1m前後）、灰色混小礫泥砂層（厚さ 30cm）、灰色砂礫層（厚さ 5 cm）、茶褐色砂礫層（旧流路の堆積層）となり、茶褐色砂礫層上面で部分的に、焼土層を確認した。

灰色混小礫泥砂層上面より室町時代の遺構、茶褐色砂礫層上面より平安から鎌倉時代の遺構を検出し、茶褐色砂礫層より下は古墳時代以前の旧流路の堆積層であった。

平安時代の遺構としては、油小路路面・同西側溝・柱穴・土壇などがある。油小路西側溝（SD 4・5・6）はそれぞれの重複が認められ、SD 6には、土止めの施設と考えられる直径 10cmほどの小さな杭列を確認した。SA 37は、2間分（柱間間隔は2m強の等間隔）確認したにとどまる。土壇は、宅地部及び路面でも確認し、径 60cm以上の不定形を呈するものが多い。このうち路面部で確認した土壇から炭と共に平安時代前期の遺物がまとまって出土した。

平安時代末から鎌倉時代の遺構として井戸・溝・土壇などがある。井戸（SE 18）は一辺 65cmの縦板組方形井戸枠の井戸で、掘方は東西 1.3m、南 1.1mの矩形で、深さは 85cmである。SD 22は、路面部で検出した東西溝で幅 85cm 深さ 15cmの浅い溝である。この時期の西側溝はSD 6と同一地点で検出された溝で、SD 6同様に護岸の施設を持つ。

室町時代の遺構として、路面・溝・土壇などがある。西側溝（SD 24・25）重複の関係のある溝で、各々幅 1m、深さ 60cmの逆台形を呈する。宅地部でも東西溝（SD 26・27）2条を確認した。幅 90cm以上、深さは 60cmである。一方、この時期の土壇のうち、SK 33は東西 4m弱、南北 2m以上の大規模な



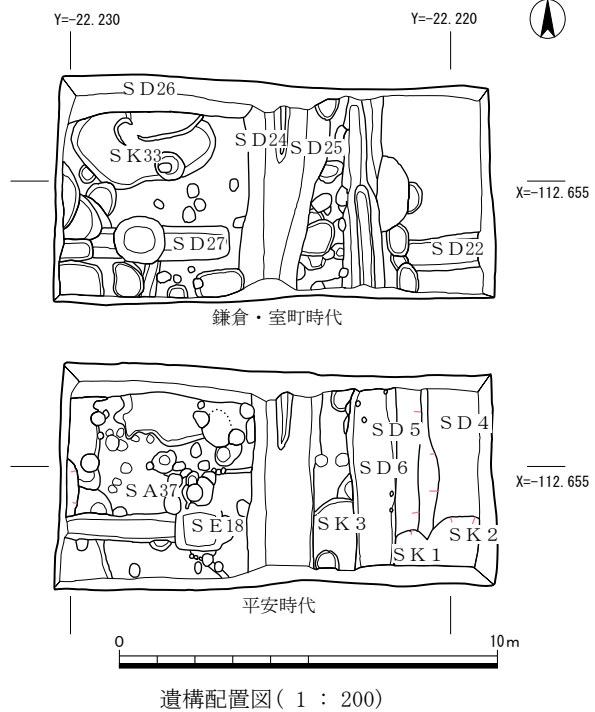
もので肩部に粘土を貼り付けた痕跡があり、炭・焼土と共に、坩堝等の遺物も多く含むことなどから  
 鑄造に関連する遺構と考えられる。

遺物 出土した遺物は整理箱で 27箱、破片総数で 22,400点にのぼる。これらを類別すると土器類  
 22,143点、木器類 23点、金属製品 89点、土製品 91点、石製品 32点、骨 10数点である。

時代別にみると、室町時代の遺物が 56%と過半数を占め、平安、鎌倉時代と続く。大部分は日常の  
 生活遺物であるが、絞胎陶器の壺片や鑄造関係遺物など注目すべきものもある。

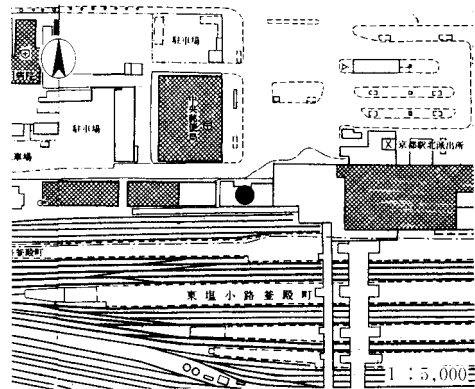
**小結** 調査の結果、予想通り油小路及び十町の宅地内の遺構が検出でき、かつこれらが平安時代から  
 室町時代まで及んでいることが判明した。以下その概要を述べる。油小路について、西側溝は、鎌  
 倉時代前半頃まではほぼ同位置を踏襲し、かつ規模等も大きな変化はない。路面もこの時期まで丁寧に  
 整地を繰り返していることが窺える。その後少し空白な時期があり、再び室町時代に地面が整備され、  
 西側溝は、宅地側へ少しずれたところに位置する。一方、宅地内の状況は条坊復原から判断すると、平  
 安時代の東西柵列は西四行北四門、五門の宅地割線上にあたり、地割の境界を示すものといえよう。そ  
 して平安時代後期になるとこの線上  
 に井戸が構築されることから、宅地  
 割がこの時期に変容したと考えられ  
 る。そして宅地内でも少し空白の時  
 期を経て室町時代になって再び同  
 地割の線上に溝を設置し、宅地内を  
 鑄造関係等の手工業の生産地として  
 再利用したことが判明した。

以上、今調査によって得られた成  
 果は、近年京都駅周辺の調査によっ  
 て明らかになった平安京南部の歴史  
 的変遷に新たなる知見を加えたもの  
 といえる。 (堀内明博)



## 16 左京八条三坊

**経過** 大阪鉄道郵便局京都分局庁舎新築工事に伴い発掘調査を実施した。調査は敷地内に2箇所  
の調査区を設定し、それぞれの遺構面まで機械力  
によって排土し、以下手掘りで調査を進めた。当  
地周辺における過去の調査例としては、1976年  
の下京区役所、1980年の地下街建設に伴う調査  
があり、今回の調査にあたってはこれらの成果を  
参考にした。



**遺構・遺物** 調査地は2～23m程の盛土層があり、この下には旧耕土層、以下茶褐色砂泥層、淡茶灰色泥砂層、灰色砂礫層、となっていた。灰色砂礫層は無遺物層である。第2調査区は包含層を検出したのみで、遺構は検出できなかった。

第1調査区においては、平安時代後期の土壙2基、鎌倉時代の土壙2基、室町時代の溝1条、及び時期不明の土壙2基を検出した。平安時代後期及び鎌倉時代の土壙は淡茶灰色泥砂層を切り込んで成立している。

出土遺物については、平安時代後期の土壙からは土師器皿・須恵器甕・灰釉陶器碗・輸入陶磁器（青磁）などが出土している。また鎌倉時代の土壙からは、土師器皿・須恵器鉢・瓦などが出土している。室町時代の溝は南北方向であり、幅25cm、深さ25cmの規模を持ち、茶褐色泥土層を掘り込んでいる。

出土遺物として、土師器皿・瓦器碗・緑釉陶器・白磁・瓦である。

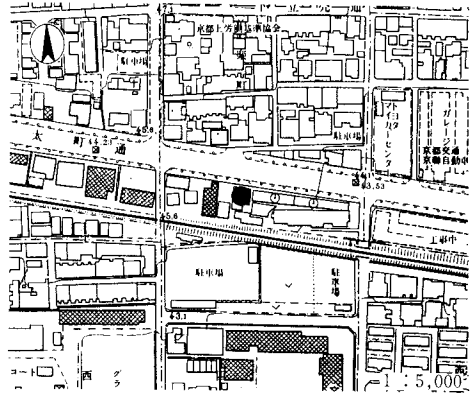
**小結** 今回の調査で検出した平安時代後期～室町時代にわたる遺構及び遺物包含層は過去のこの付近の調査結果と一致しており、周辺における遺跡の遺存状態が良好であることを改めて確認することとなった。（家崎孝治）



全景（南から）

## 17 右京一条三坊

**経過** 華陽ビルが新築されることになったが、その東隣のマンション建設時における事前調査<sup>注</sup>において、平安時代前期～中期の建物を多数検出していたため試掘調査を実施した。その結果、遺構の存在が明らかになったことから、発掘調査を実施する運びとなった。調査の結果、予想どおり平安時代中期の建物を検出し、20日間で調査を終了した。



**遺構・遺物** 基本層序は、地表下 20～30cmが盛土層で、その下層に室町時代の包含層である暗灰色泥砂層が約 20cm堆積している。その下層には平安時代中期の包含層である黒褐色砂泥層が約 10cm堆積している。この層を切って室町時代の暗渠が成立している。この下層は地山である黄色泥土層で平安時代の遺構はこの面で成立している。

検出した遺構は、平安時代中期の建物2棟以上・土壇・柵列と、室町時代後期の暗渠と思われる溝4条である。調査面積が狭いため、性格不明の遺構も多い。

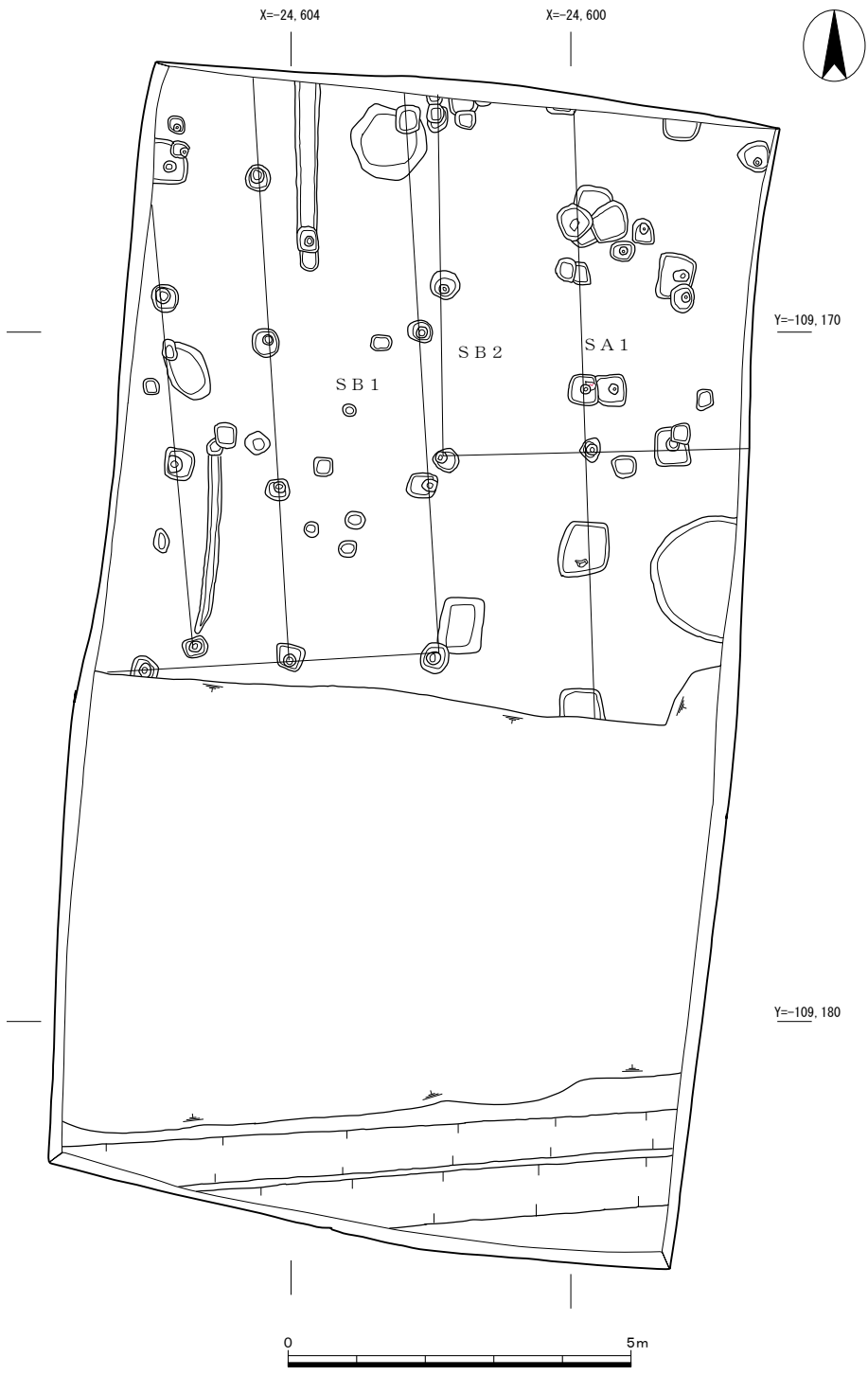
平安時代の建物S B 1は、南北3間、東西2間分を検出した。東端の1間分は廂と考えられる。柱穴の心々距離は、東西方向が 2.1m、南北方向は中央のものが 2.1m、両端のものが 2.4mを測る。南北方向の柵列S A 1とS B 1は同方位であり、4間分を検出した。建物S B 2は、南北2間、東西1間分を検出した。柱間寸法は各々が 2.4mである。また、平安時代の遺構に切られた溝を検出したが、遺物が出土せず時期は不明である。なお、調査区の南半では、地山の黄色泥土層を採集した、いわゆる土取穴で攪乱されていた。

遺物は整理箱6箱分出土した。その多くは黒褐色砂泥層から出土したもので、内容は、土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦などである。また、暗渠及び暗灰色泥砂層より室町時代後期の土師器・陶器などが若干出土している。

**小結** 当地は平安京右京一条三坊五町に位置し、その一町内東西中央やや西寄りの南端にあたる。また東隣の調査時に検出した遺構群との関連性も注目された。その結果、2棟以上の建物を検出し、S B 1の南端柱穴列が前調査時に検出された東西柵列と一直線上であることが明らかとなった。この並びは中御門大路北築地中心より北へ約3丈に位置するもので、平安時代の宅地割を考える上で好資料となる。

(辻 純一・平尾政幸)

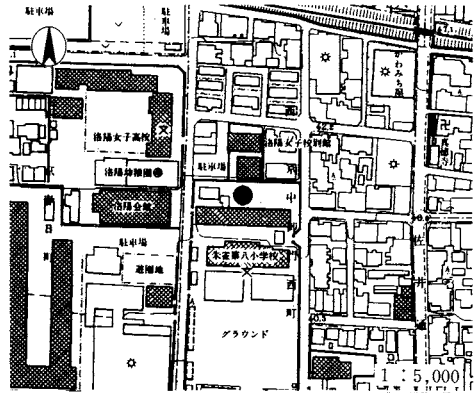
注「右京一条三坊」『昭和 56年度京都市埋蔵文化財調査概要』



遺構配置図(1:100)

## 18 右京二条三坊 図版 8-1

**経過** 朱雀第八小学校内で給食室を改築することになり、事前に発掘調査を実施する運びとなった。当小学校内では過去に4回の発掘調査が行われており、今回の調査地は第4次調査地のすぐ西にあたっている。また、西隣の洛陽女子高校内でも発掘調査が行われており、側溝や建物などが多数検出されている<sup>註</sup>。今回の調査地は第4次調査の成果から、調査区全面に東西方向の道路（春日小路）が検出されると予想された。



**遺構・遺物** 基本層序は、春日小路の路面である茶褐色粗砂層上に、グラウンド整地層・耕土層・灰褐色泥砂層・黒灰色粗砂層などが約40cm堆積している。茶褐色粗砂層は約5cm堆積し黒灰色シルト層に続く。このシルト層は地山の窪みに堆積したもので、一部礫を多く含んでいる。地山は灰黄色泥土層であった。

検出した遺構は、平安時代の春日小路路面・南側溝・築地の痕跡と思われる柱穴列及び、室町時代の土壇2基である。春日小路の南側溝SD1は、幅約1m、深さは検出面より20cmを測る。調査区南端部で検出した柱穴列SA1・SA2は、共にSD1と平行しており、各々SD1の南肩より約1mと1.6m南の位置にある。

遺物は整理箱15箱分出土した。大きく分けて春日小路の路面上と路面下に分けることができる。路面上では灰褐色泥砂層・黒灰色粗砂層及び2基の土壇から室町時代に属する土師器・陶磁器・瓦などが出土した。平安時代のものは春日小路南側溝SD1及び黒灰色シルト層より、土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦器・瓦木器などが出土した。

**小結** 今回の調査では春日小路の路面・南側溝・築地跡などを検出したが、これらは第4次調査の成果とほぼ同様であった。また洛陽女子高校内では春日小路の北側溝が確認されており、その結果、平安京の条坊制における春日小路の位置が南へ約3m（1丈）ずれることが明らかになった。しかし、左京域で検出された春日小路ではこの様なずれは確認されておらず、相互の関連が今後の課題である。また、今回検出した春日小路の路面は、シルト上に拳大の石を多量に入れて地業した面に造られていた。

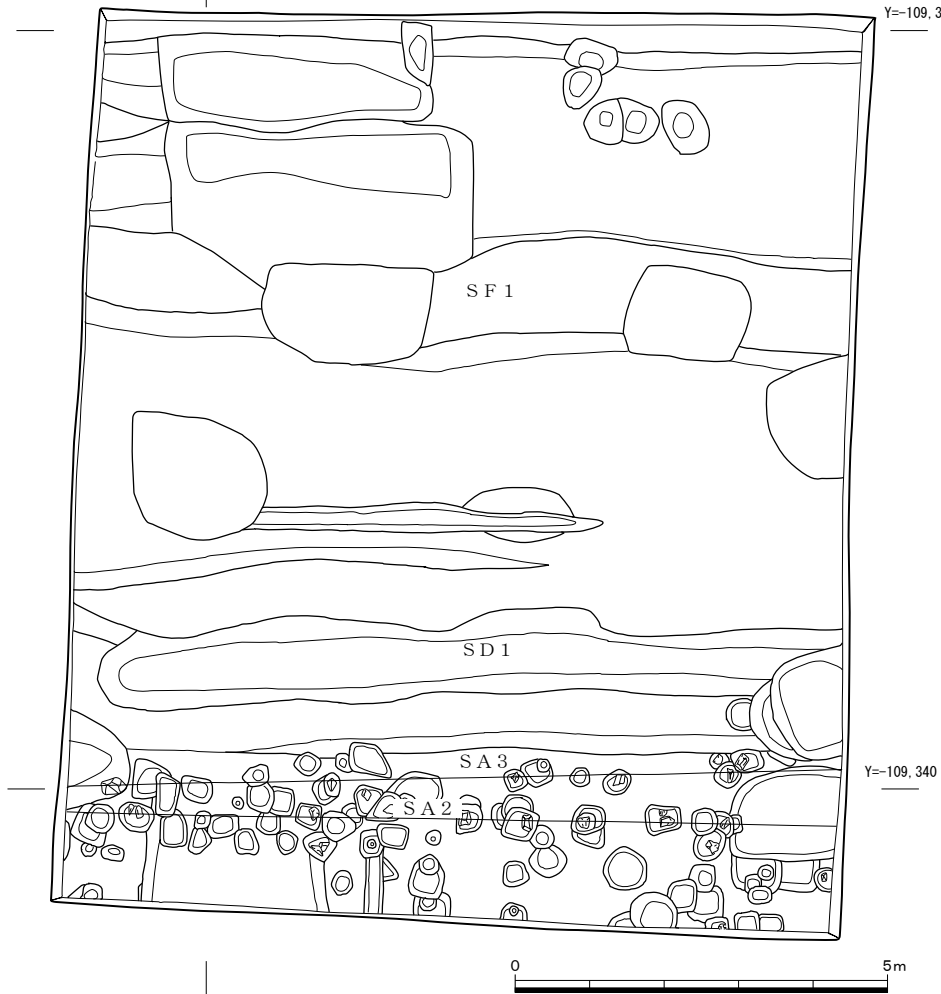
（辻 純一・菅田 薫）

注 「右京二条三坊」『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要』



X=-24,500

Y=-109,330



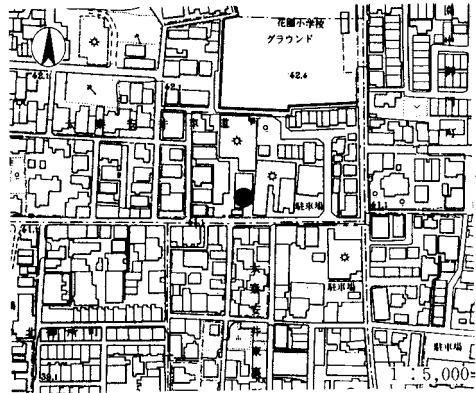
遺構配置図(1:100)

## 19 右京二条四坊

**経過** この調査は、右京区太秦安井車道町のマンション新築工事に先立って実施されたものである。調査地は、右京二条四坊八町にあたり、春日小路北側溝の存在が予想された。したがって調査の目的は、春日小路及び八町の宅地内の遺構を明らかにすることであった。調査は、建物の範囲とほぼ同規模の東西 11.5m、南北 57.6mを対象としたが、立会調査の結果その北半部分が既存建物の基礎により破壊されていることが判明したため、建物範囲の南半部に東西 11m、南北 14mの調査区を設定して調査を進めた。

**遺構** 調査区の基本層序は、現代盛土層（厚さ 20cm）、近世以降の整地層茶褐色土層（厚さ 15cm）、茶褐色泥砂層（室町時代前期、厚さ 15cm）、褐灰色泥砂層（鎌倉時代後期、厚さ 25cm）、暗灰色砂泥層（平安時代末～鎌倉時代前期、厚さ 5cm）、暗褐色砂泥層（平安時代中期、厚さ 5cm）、黄灰色泥土層（地山）となる。各堆積層はいずれも南に傾斜し厚くなる。このうち、暗灰色砂泥層と褐灰色泥砂層は、春日小路北側溝の北側で東西に帯状に認められた包含層である。調査で確認した遺構の大部分は、暗褐色砂泥層上面で検出できた以外は、地山上面で小規模な南北溝や土壇が若干認められたに過ぎない。遺構には建物跡・柵列・築地状遺構・溝・土壇などがあり、時期は平安時代中期から近世初期にわたっている。

建物跡は調査区の北部で非常に重複した状態で認められた。いずれも掘立柱建物の一部分であるが、桁行3間以上、梁行3間以上の建物が多い。柱間寸法は桁行・梁行とも6尺から8尺とばらつきがある。また柱穴間には複雑な切り合い関係が認められることから、数度にわたって建て替えられたものと考えられる。柵列、築地状遺構は、春日小路北側溝の北側で東西に検出したもので、柵列は4間分を確認した。柵列の柱間間隔は7尺から8尺で、この遺構にも重複関係がみられる。溝の主要なものは、調査区の南端で検出した東西溝で、春日小路北側溝に比定でき、その重複関係から7時期にわたる。幅はいずれも1m以上であるが、その内鎌倉から室町時代にかけてのものはやや広い。深さは40～70cm前後である。溝はいずれも素掘りで、断面は逆台形を呈する。堆積は平安時代中期の溝位置から、後期、鎌倉時代前期へと北側へ徐々に移動する。その後、鎌倉時代後期以降からは逆に南へ移動していることが窺える。土壇は、建物群の西側で集中して認められたが、調査区の東北部で確認した土壇は墓壇と考えられるものである。墓壇の形状は東西90cm、南北1.4mの長方形を呈し、深さは約10cmである。



墓境内の西南部からやや多くの土器が出土した。一方建物群のすぐ西側で確認した土壙群は、南北方向にやや長く、浅くて底に凹凸があり、溝状遺構の可能性もある。

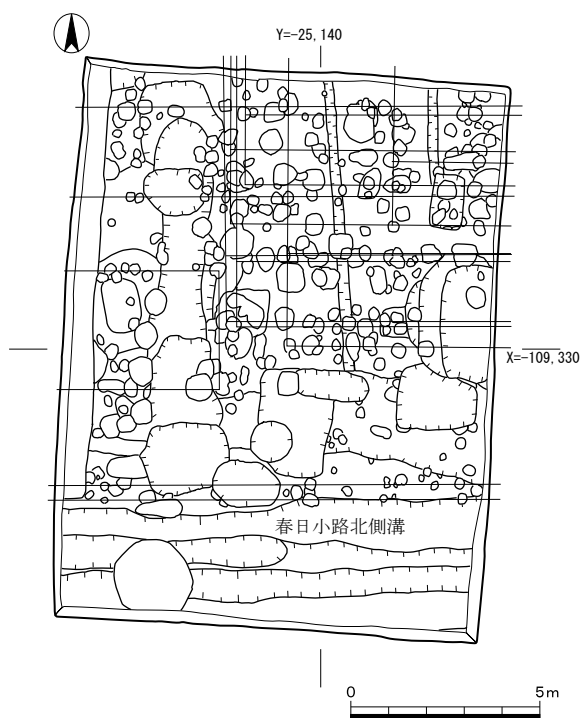
**遺物** 遺物は、整理箱で32箱出土し、類別ではほとんどを土器類が占める。これらの遺物は、春日小路北側溝群及び土壙、柱穴などから出土したが、土器溜などの多量の遺物が一括投棄された様な遺構はなく、遺構ごとの遺物量も少ない。出土遺物を時代別にみると、鎌倉時代から室町時代にかけてのものが最も多く、次いで平安時代となる。これらの遺物は、大部分が日常雑器で構成されているが元様式の青花壺片など注目すべきものもある。この遺物は、鎌倉時代前期の溝廃絶後に築かれた築地状遺構の整地層から出土しており、ある程度遺物の年代を知ることができる資料である。



青花壺片

**小結** 調査の結果、平安時代前期の遺構の確認はなかったが、平安時代中期において、春日小路北側溝及び宅地内での同時期の遺物包含層が確認できた。北側溝はこの時期以降近世初期まで各時期にわたって検出できた。一方宅地内では平安時代後期以降の建物・柵列・土壙などを検出したが、これらは室町時代まで造り替えを経ながらも存続する。平安時代後期において、小路と小路に接する宅地部との関係に何らかの変化があり、この時期が一つの画期であったことが窺える。そして、遺構群が近世初期まで存続することは右京の宅地変遷の中で特異な現象といえよう。

(堀内明博・梅川光隆)



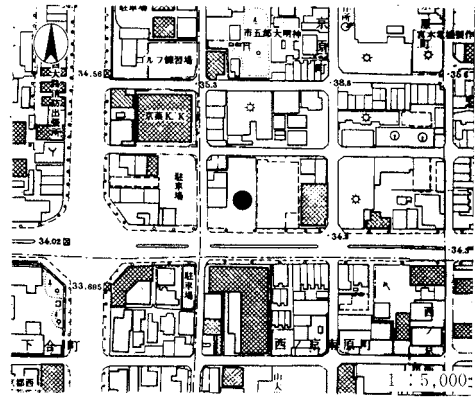
遺構配置図(1:200)



## 20 右京三条二坊 図版8-2

**経過** 調査地は右京三条二坊のほぼ中央、西堀川小路の推定地にあたる。当地一帯はこれまでに実施されてきた立会・発掘調査によって、平安時代前・中期の遺構が多数検出されている地域であり、今回の調査地においても西堀川小路の遺構が良好な状態で残存していることが予想された。

調査地内の南北2箇所を試掘調査を行ったところ、北側のトレンチでは旧建物の基礎によって著



しく破壊されていたが、南側のトレンチでは川跡と思われる砂礫層の堆積が確認された。そこで、この砂礫層の範囲を中心に、東西 14m、南北 20mの調査区を設定し発掘調査を行ったところ、表土下約 70cmで調査区のほぼ中央を南北に走る川と、その両面に道路の路面と思われる固くしまった整地面を検出した。また、隣接地との関連で一部にとどまったものの、西側溝と思われる溝を検出することができた。更に、下層では古墳時代の土壇と溝をそれぞれ1基ずつ検出した。

**遺構** 今回の調査で検出した平安時代の遺構は、川（SD 1）、道路（SF 2・3）、溝（SD 4）で、それぞれ西堀川小路の堀川とその両側の路面及び西側溝に該当するものである。

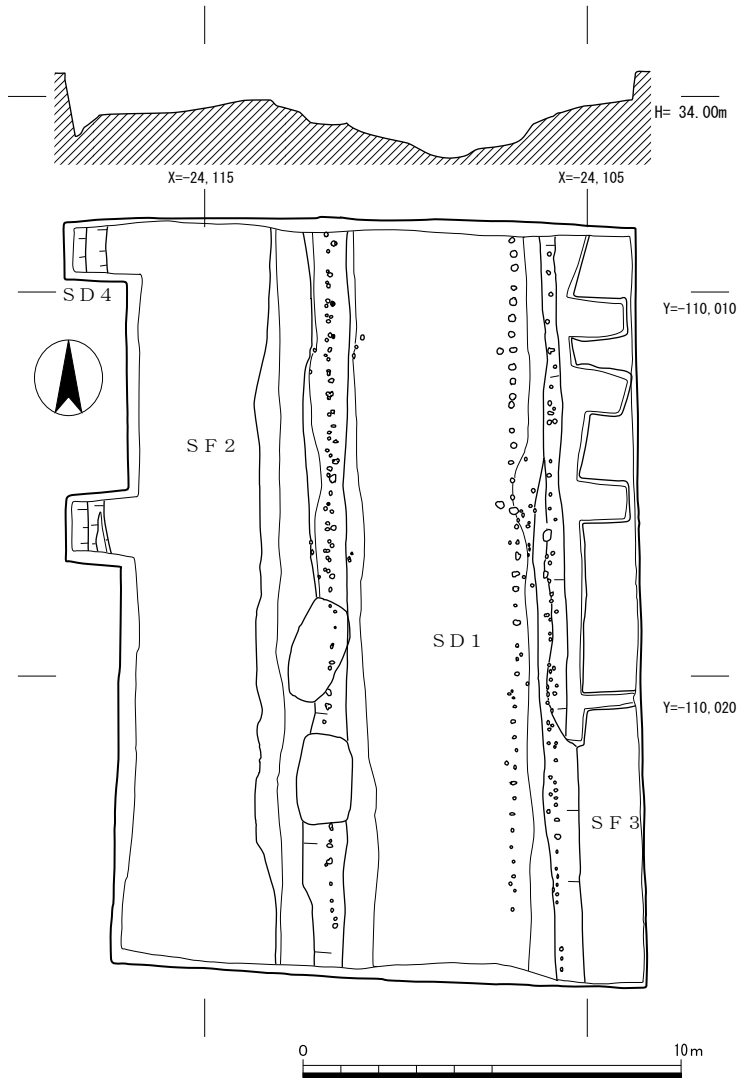
SD 1に幅約 6m、深さ約 1mで、両岸と東側底部付近には杭跡が並んだ状態で検出されている。川内には暗灰色や濃褐色系の泥土層と褐色の砂礫層が交互に堆積しているが、これらはおよそ3時期に大別できる。最上層の砂礫層は路面とほぼ同じ高さにまで堆積しており、このため、堀川は西側に幅 1m前後の溝状の流れを残してほとんど埋没している。

SF 2・3はSD 1の両側で確認した路面で、それぞれ数枚からなる整地層が確認できた。西側のSF 2では、SD 1寄りの幅 1m程度の部分がわずかに盛り上がっている。

SD 4は隣接地との境界付近にあるため東肩部を検出したにとどまり溝幅は不明であるが、深さ約 1mを確認している。SD 1西岸の杭列からSD 4の東肩まで約 6mを測るが、これが小路西路面SF 2の路幅に該当する。

**遺物** 遺物は整理箱に約 22箱出土したが、その大半がSD 1からのものである。土器類が大半を占め、他に少量の瓦片がある。土器類の総破片数 5245片のうち、最も多いのは須恵器で全体の 46.3%、次いで土師器 34.1%、以下灰釉陶器 8.5%・緑釉陶器 6.9%・黒色土器 4.0%・輸入陶磁器 0.2%となる。これを杯・碗・皿などの小型供膳形態に付いてみると、破片数 1955片中、土師器 48.8%・須恵器 10.3%・緑釉陶器 17.2%・灰釉陶器 15.0%・黒色土器 8.2%・輸入陶磁器 0.5%になる。須恵器や灰釉陶器には壺・甕などの貯蔵形態のものが多く含まれている。

**小結** 西堀川小路はすでに右京五条二坊で、堀川、東路面、東側溝及び築地が確認されており、それによって、路面幅約 24m（8 丈）と復原されている。<sup>注</sup> 今回の調査によっても、この数値と同様の値を得ているが、これは従来『延喜式』の解釈を巡ってあった 8 丈、あるいは 12 丈とする 2 説に明確な解答を与えるものである。しかし、堀川の川幅については、いずれの場合も約 6m（2 丈）で、『延喜式』に記載されている 4 丈（約 12m）の半分の規模しかなく、この点については新たな問題となろう。



遺構実測図(1:200)

堀川（SD 1）から出土した土器群は 9 世紀から 10 世紀後半にかけてのもので、西堀川は 10 世紀後半に廃絶されたことが確認された。（平尾政幸・辻 純一）

注 「右京五条二坊」『平安京跡発掘調査概報』昭和 55 年度 京都市文化観光局

## 21 右京七条一坊 図版9

**経過** 調査は京都市中央卸売市場第一市場施設整備工事に伴うものである。調査地は下京区堂ノ口町 10-1-1 他にあり、朱雀大路及びその西側溝、西鴻臚館の東半部、北小路と朱雀大路交差部などの諸遺構の検出が予想された。

発掘調査は 1982年1月 27日から同年 10月 15日まで行った。調査面積は敷地面積約 15,000㎡のうちの半分にあたる 7,500㎡であった。検出した主な遺構には、朱雀大路西側溝や9世紀後半の溝などがあり、遺構総数は各区合わせて 1,100基を数えた。出土遺物は、土器類・瓦類・金属製品・木製品・石製品・その他があり、整理箱 2,100箱分が出土した。

各調査区の面積と調査期間を右に掲げる。

**遺構** 検出した遺構には、平安時代前期の溝 4条、平安時代中期から後期の遺物が出土する朱雀大路西側溝、平安時代後期から鎌倉時代に属する溝 3条、土壇 4基、井戸 5基、柵 2列、柱穴多数、室町時代の溝 5条、桃山時代に属する御土居及びその濠などがある。

平安時代前期の溝 (SD 426B・428B・364・830)は、流れの方向は異にするものの連続した一連の溝と思われ、幅 80cm 深さ 40cmを測る。

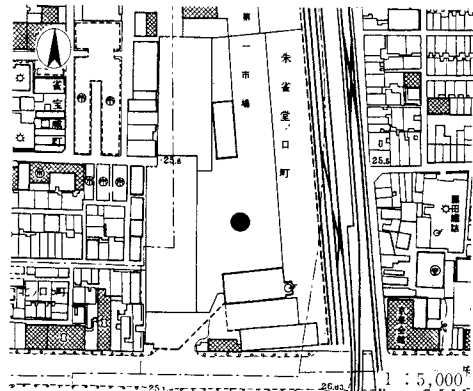
朱雀大路西側溝(SD 135)は、幅 7m～ 10m、深さ 0.5～ 1mを測り、南北 140mにわたり確認した。溝の最下層からは平安時代中期、上層からは平安時代後期の遺物が出土した。

6区では平安時代後期から鎌倉時代にかけての溝 (SD 771・772・774)、井戸 (SE 776・777・837)、柱穴群が集中してみられ、宅地内の様相を示す遺跡群として注目された。

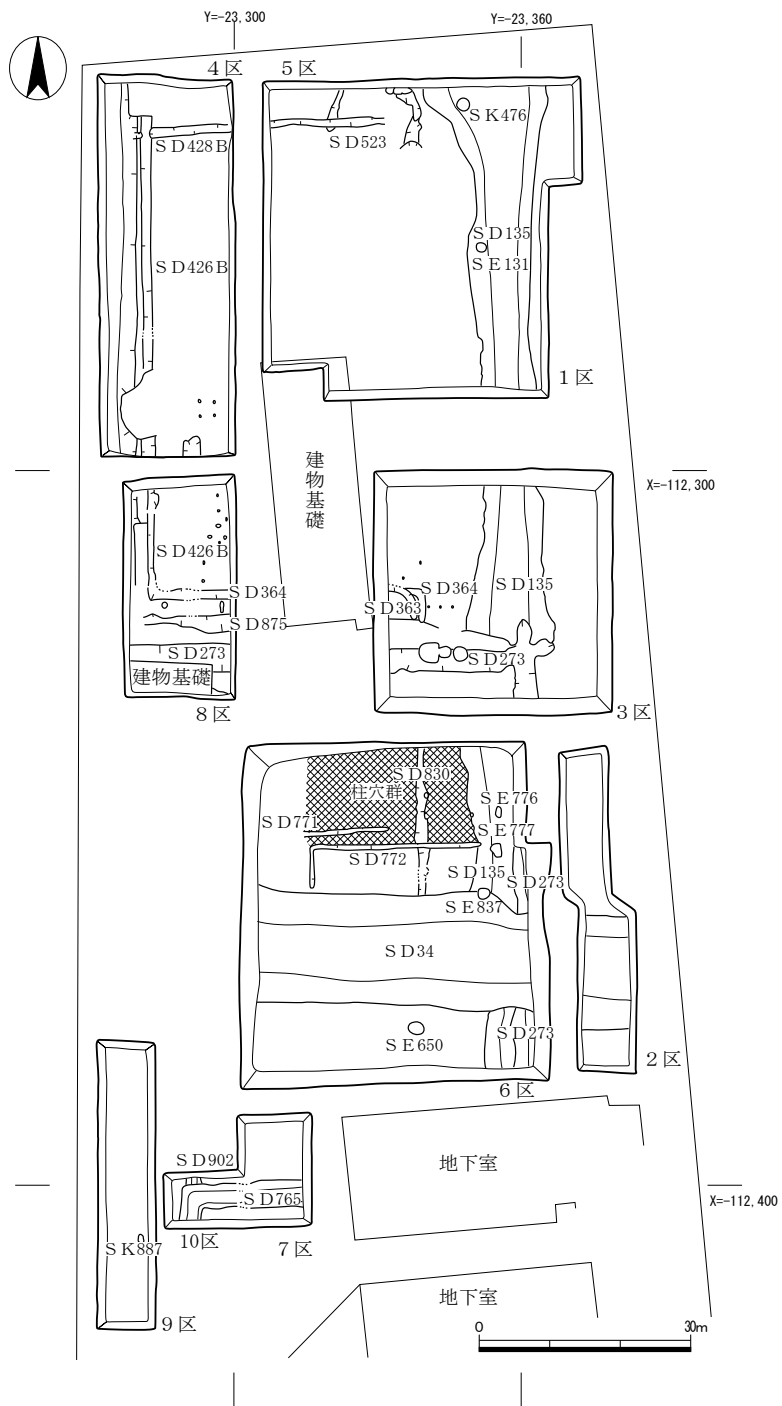
室町時代の溝 (SD 273・765・902)は、幅 3.5m、深さ 1.5mに達する大規模なもので、濠としての性格を持つものと思われる。3・6・7・8・10区で検出している。

この他、桃山時代に属するものとして、御土居とこれに伴う濠 (SD 34)を 2・4・6区で検出している。御土居は積土部分が幅 15m、高さ 2mを測り、濠は幅 20m、深さ 5mを測る。

**遺物** 出土した遺物は、時期別には縄文時代から近代に至る各時代のものを含む。このうち出土量



1区	550㎡	2月8日～3月19日
2区	450㎡	2月16日～3月20日
3区	1,150㎡	3月19日～5月25日
4区	1,040㎡	4月12日～7月5日
5区	1,400㎡	5月26日～7月23日
6区	2,150㎡	6月28日～9月24日
7区	160㎡	7月27日～9月14日
8区	480㎡	8月27日～10月7日
9区	360㎡	8月30日～10月7日
10区	80㎡	10月6日～10月12日



遺構配置図(1:1,000)

の特に多いのは平安時代以降のものである。

SD 364・830からは、平安時代前期の土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器などが一括して出土した。平安時代後期の遺物は、SD 771・772・SE 131・650・777などから、土師器・須恵器・輸入陶磁器・木製品などが出土している。

瓦類には、軒丸瓦・軒平瓦が約 400点あり、他に文字瓦や多量の丸瓦・平瓦がある。

銭貨は、饒益神寶・延喜通寶・寛平大寶などの皇朝銭を始め、皇宋通寶・元豊通寶などの宋銭や寛永通寶・文久永寶など合計 120枚程出土している。

また御土居の濠からは、文楽人形の頭部・燭台・漆器椀・付札・金泥櫛などの多量の木製品と人骨が6体分出土した。

その他、少量ではあるが縄文土器・弥生土器・古墳時代土師器などが出土している。

**小結** 調査で得られた第一の成果は、朱雀大路西側溝の検出が挙げられる。

これは南北 140mにわたり調査することかできたが、溝の幅は 7～10mを測り『延喜式』の記述とは適合していない。側溝の廃絶した時期は、この埋没後に出現する井戸の出土遺物を参考に、12世紀後半から 13世紀前半頃と推定することができる。

次に西鴻臚館跡に関しては、これと直接結びつく遺構は検出できなかったものの、3・4・5・6・8区で検出した溝は西鴻臚館の存続した時期と重なっており、西鴻臚館の施設に係わりを持つ溝と考えてよい、また各区より出土している多量の軒瓦は、大半が難波宮・平城宮・長岡宮などから搬入されたものであり、これらが西鴻臚館の建物に使用されていた可能性は極めて高いものといえる。

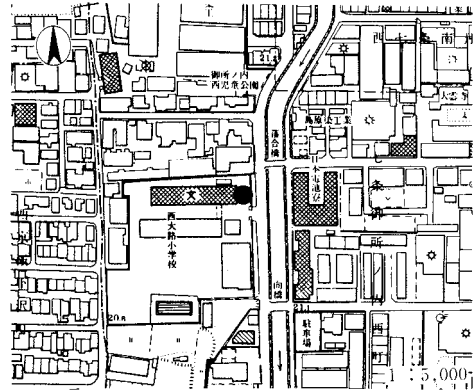
調査の結果からすると、西鴻臚館は 10世紀半ば以降、渤海国入観使の来朝が途絶えると共に

荒廃し、12世紀後半から 13世紀前半に一時的に小規模な建物や井戸・溝・土壙が形成される時期を経て、13世紀後半以降は『政所賦引付』の「西七条朱雀鴻臚館田云々」の記述にみられる様な耕作地として売買の対象になるほどの田園地帯へ変貌し、豊臣秀吉の御土居築造後は京洛と近郊の分離地帯として近世・近代に至ったと想定できる。

(平田 泰・吉川義彦・菅田 薫)

## 22 右京八条三坊

**経過** この調査は、右京区七条御所ノ内西町の西大路小学校給食室工事に先立って実施したものである。調査地は、右京八条三坊七町にあたり、宅地内の遺構の検出が期待された。また、調査地は1980年の同小学校内の調査で検出した平安時代後期の木樋から、真東へ60m離れることから、これに関連する遺構の存在も予想された。調査は、建物の範囲とほぼ同規模の東西7.3m、南北15mの調査区を設定し行った。



**遺構** 調査区の基本層序は、校舎建設時の際の盛土層（厚さ40cm）、旧耕土層（厚さ10cm）、第1層淡灰色泥砂層（厚さ10cm）、第2層淡茶灰色混小礫泥砂層（厚さ8cm）、第3層淡茶灰色泥砂層（厚さ5～10cm）、第4層灰色砂礫層となる。今調査で確認された遺構群のうち、鎌倉時代から室町時代に属する遺構は第2層上面から、平安時代後期に属する遺構は第3層上面から、平安時代前期に属する遺構は第4層上面から、各々層位的に検出することができた。また、第4層以下は旧流路の堆積層で、第4層中から摩滅した弥生時代～古墳時代にわたる土器小片が少量出土した。

平安時代前期の遺構には、掘立柱建物・柵列・井戸・溝などがある。掘立柱建物（SB1）は、建物東端側柱列の3間分を確認したもので、柱間隔は北側2間が1.8m、次の1間が2.1mである。柱列は、第6座標系の北から東へ約1°振れる。柵列（SA2）は、建物の東で確認した南北列で建物に伴うものと考えられる。井戸（SE3）は、内法一辺80cmの縦板組方形井戸枠を有するもので、掘方は一辺1.2mの方形を呈し、深さは90cmである。東西溝（SD4）は建物のすぐ北側で検出した幅50cm、深さ10cmの浅い溝で、調査区東端近くで消滅する。上述の遺構以外に、建物に切られた方位の異なる柱列もある。

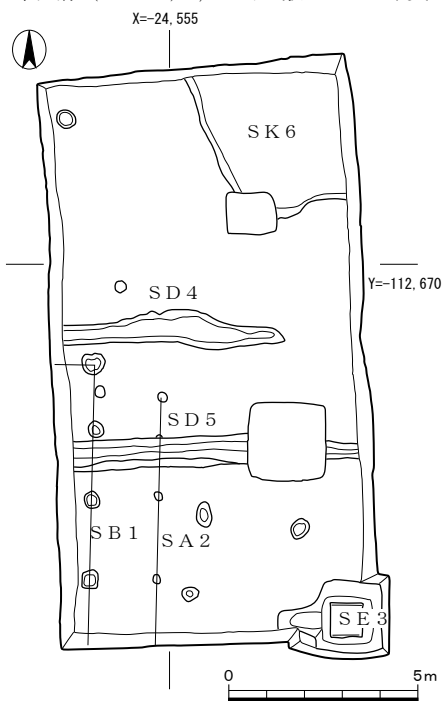
平安時代後期の遺構には、溝・池状遺構・土壇などがある。溝（SD5）は、前期の溝SD4から南へ3m前後の所で検出した幅80cm、深さ25cmの東西溝である。溝の上面には、廃絶時に投棄された様な状態で多量の拳大の礫が認められ、礫群の下から多量の土師器が出土した。池状遺構（SK6）は調査区の東北部で認められたもので、調査区内では4mほど検出した。遺構の肩部から底にかけて径3～10cmほどの礫が敷かれた様な状態で検出され、その礫の上に径30cmほどの石を2個確認した。また、調査区北端の礫の上面で多量の土師器が出土した。この礫敷については、園池の施設の一部と考えられる。

鎌倉から室町時代の遺構には溝・土壇・集石遺構などがある。溝は、調査区東端で南北方向に検出したものが主なもので、幅 40～70cm 深さ 10cm ほどの浅いものが重複して認められた。土壇・集石遺構は、いずれも小規模で楕円形あるいは円形を呈し浅いものが多い。

集石遺構からは、骨・鉄釘等の出土もなく性格は不明である。

遺物 調査によって出土した遺物には、土器・金属製品などがあり、平安時代前期と後期のものが大多数を占める。前期の遺物のうち SE 3 から 9 世紀前半と考えられる土師器・須恵器が出土し、これらに伴って銅製丸軋が 1 点出土した。後期の遺物は、溝 (SD 5)、池状遺構 (SK 6) から 12 世紀後半と考えられる多量の土師器が出土した。

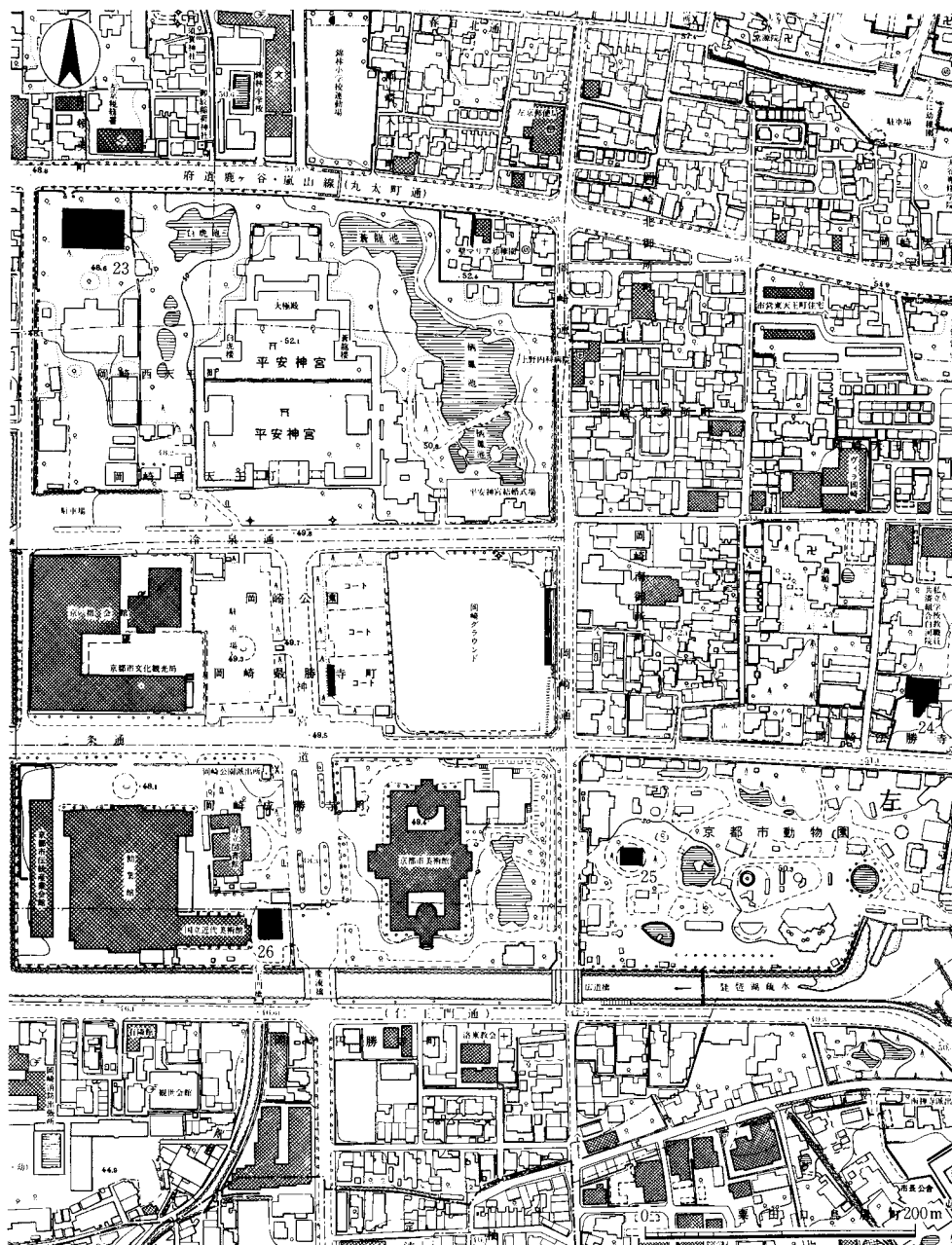
**小結** 本調査で当初の予想通り平安時代後期の遺構を検出し、その他に、平安時代前期の遺構も若干検出することができた。ここで今調査の成果と 1980 年の同敷敷地内の調査成果とを合わせて七町の敷地との関係について検討してみたい。まず、前期の東西溝 (SD 4) は、七町の敷地のほぼ中央に位置し、条坊復原から考察すると、北四門と五門の宅地割の境界線にあたり、宅地内の区画に関連した施設と考えられる。後期の溝 (SD 5) は SD 4 からほぼ 1 丈分南にはずれたところに位置し、この溝を西方に延長すると、1980 年調査の矩形を呈する木樋の東端を東に延長したところにあたる。このことから、この溝も、七町の敷地を南北に二分する地割の溝と思われる。七町の敷地に関しては平安時代前期から後期まで北四門と五門の地割の在り方が踏襲されていたことである。しかしながら、個々の遺構群の配置は、前期と後期では様相が異なっていることも窺える。今調査により七町宅地割の変遷の一端を知ることができたが、各時期の遺構群の性格解明や、二度の調査によっても明確にできなかった平安時代中期遺構・遺物の確認との宅地の在り方などは今後の課題といえる。



遺構配置図 (1:200)

(堀内明博・梅川光隆)

### Ⅲ 白河街区



調査地位置図 (1:5,000)



## 23 尊勝寺跡 図版 10・26

**経過** 京都市立芸術大学音楽学部跡地に新たに国際武道センターが建設されることになり発掘調査を実施した。調査地点は尊勝寺跡あるいは歓喜光院跡に推定されることから当該遺跡の検出に重点を置き調査を進めた。調査の結果、弥生時代から室町時代に至る多数の遺構・遺物を検出した。中でも弥生時代の方形周溝墓を検出したことは今回の調査の中で予想外の成果であった。なお、遺跡調査の一環として土層断面剥ぎ取り及び井戸（S E 15）の取上げ保存も併せて実施した。土層断面の剥ぎ取りは調査区の北・南壁の2箇所とS E 15の断ち割り箇所について実施した。

**遺構** 調査地の現地表の標高は、北東端で約 49.7m、南西端で約 49.3mと北東から南西に向ってわずかに傾斜しており、下記各土層もこの傾向を示す。調査区の基本層序は、上から積土層が厚さ約 20～30cm、近代の耕土層が厚さ 10～20cm、平安時代後期の遺物を包含する茶褐色砂泥層が厚さ 10～15cmある。茶褐色砂泥層下は無遺物層となり、黒褐色泥砂・茶褐色泥砂・黄灰色粗砂（白川砂）の各層が堆積する。白川砂層下で腐植土層を確認した。黒褐色泥砂層上面より腐植土層下面までの厚さは 1～14mある。遺構は茶褐色砂泥層～黄灰色粗砂層の上面でそれぞれ検出した。検出した遺構には、方形周溝墓・建物及びピット・井戸・竈・溝・土塋などがあり、遺構総数は 180以上に及ぶ。このうち主要な遺構について年代順にその概略を記す。

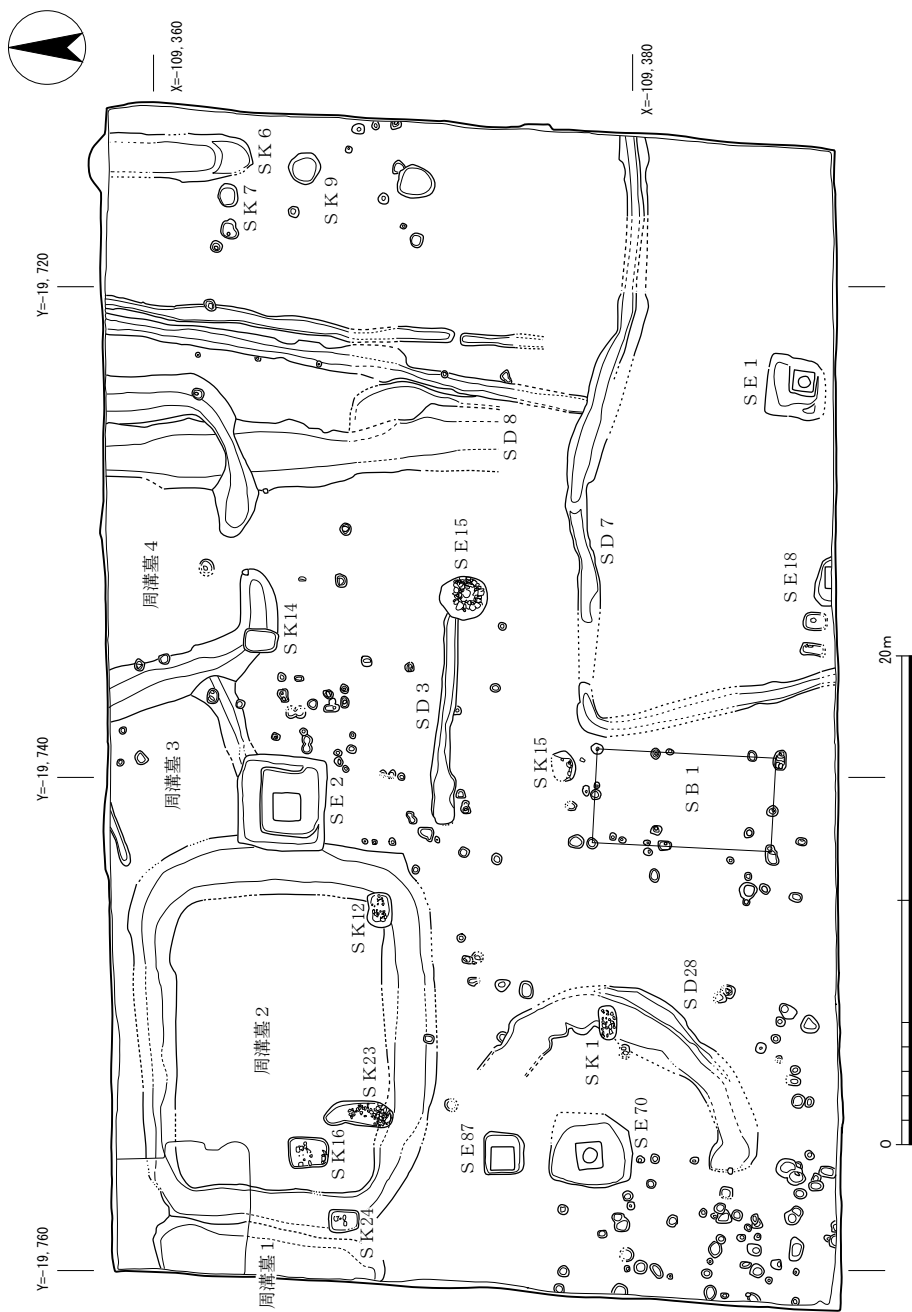
弥生時代 方形周溝墓 4基を検出した。いずれも主体部・盛土は削平されて検出できなかった。周溝墓 1は東辺周溝の一部を検出するにとどまった。周溝墓 2は周溝が全周しており、東西にやや細長い平面形を呈する。周溝内より畿内第Ⅱ様式に属する壺 8個体が出土した。周溝墓 3は北・南辺周溝の一部を検出したにとどまる。周溝墓 4は南半部を検出した。南辺周溝の中央に陸橋部を有する。このすぐ東側の周溝底より畿内第Ⅳ様式に属する甕 3個体がほぼ完形で出土した。周溝墓 3・4は主軸方向が北に対し西に振れる。重複状態及び出土遺物より周溝墓 1から周溝墓 4の順に築造されたと思われる。

平安時代前期 SK 6を検出した。南北に長い遺構で平安時代前期末の遺物が出土した。

平安時代後期～鎌倉時代 建物・井戸・竈・土塋・ピットなどを検出した。SB 1は南北3間、東西2間の掘立柱建物である。主軸方向は北に対してやや東に振れる。井戸は6基検出した。SE 1・2・18・70・87は方形木枠組みで、このうちSE 1・18・70は井戸底部に曲物を据える。SE 15は下部が方形木枠組み、上部がほぼ円形の石組みで井戸底部に曲物を据える。いずれの井戸も木枠・曲物とも腐朽しており遺存状態は極めて悪い。

SK 15はSB 1の北側に位置する竈と考えられる遺構で、土塋底に 10～40cm大の礫を敷き、袖及び奥壁と考えられる部分に軒平瓦・平瓦を積み上げ黄色粘土を貼り固めている。

溝はSD 3・7・8・28の 4条を検出した。SD 7はやや蛇行しつつ東西方向に延び、調査区中央



遺構配置図(1:300)

付近ではほぼ直角に南に折れる。溝底は東・南に向って深くなる。SD8は調査区東寄りに位置する南北方向の溝で、礫・瓦が多量に出土した。SD28は調査区西寄りに位置する南北方向の溝でやや弧状を呈している。

ピットは調査区中央部及び西南部に集中していた他、北東部でも検出した。いずれも円形で、素掘りのものと底に根石を据えるものがある。建物としては復原できなかった。

土壙は土取穴や土壙墓と考えられるものがある。後者は、SK1・7・9・12・14・16・24等である。SK16・24は土壙中に礫が散在し鉄釘・焼土・炭を含む。

室町時代 土壙4基以上を検出した。調査区中央西寄りに集中してみられた。

遺物 整理箱で約170箱出土した。弥生時代では畿内第Ⅱ様式の壺、第Ⅳ様式の甕の他に磨製石剣の柄の破片がある。平安時代～室町時代では、井戸・溝等から出土した遺物にみるべきものが多い。土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦器・輸入陶磁器・陶器・銭貨・金属製品・石製品・瓦などがある。瓦は奈良時代～平安時代後期までのもので、丸・平瓦を主とし、他に軒丸瓦・軒平瓦、刻印やヘラ記号を有するものも多い。

**小結** 弥生時代中期の方形周溝墓群を検出し、調査地区がこの頃には墓域であったことを明らかにした。更に同時期の方形周溝墓は京都大学農学部構内において発見されており、今後集落跡が発見されるならば当地一帯の弥生時代遺跡の復原は更に具体的なものとなろう。

次にSD8からは奈良時代から平安時代中期までの瓦が多量に出土したが、調査区内では、これより西には平安時代後期の瓦のみ出土し、SD8以東に平安時代中期までの瓦を使用した建物の存在した可能性を示している。調査地周辺の平安時代中期以前の様相は文献に乏しく、調査地東方で藤原氏の別業である白河院が知られる程度である。

尊勝寺あるいは歓喜光院があった時期に該当する平安時代後期から鎌倉時代にかけての建物・井戸・土壙・竈・溝等を多数検出したが、いずれも寺院の主要遺構でなく、寺域内に付属した居住施設関係の遺構群の可能性はある。しかし、近世の耕作と近代の建物基礎による削平が著しく、遺構群の性格を充分解明するに至っていない。

(辻 裕司・丸川義広)

## 24 法勝寺跡（1） 図版 11

**経過** 私立学校教職員共済組合京都合宿所の建て替え工事に先立ち発掘調査を実施した。調査地点は法勝寺跡に位置する。法勝寺は寺域の東から南にかけて広大な園池を配しており、今回の調査地点もこの園池に該当すると考えられた。法勝寺跡ではこれまでも発掘調査が実施されており、調査地点から西へ約 150mの地点では金堂跡の一部が、南へ 50mの地点では池跡の一部が検出されている。

**遺構・遺物** 基本層序は、現地表から 20～110cm までが積土層で、積土層の下は無遺物層となる。無遺物層は、SD 2 より北では黒褐色泥砂層、南では暗黄褐色粗砂層（白川砂）である。

検出した遺構は、古墳時代後期の掘立柱建物、平安時代前期及び中期の溝、平安時代後期から室町時代までの池、江戸時代から明治に至るまでの河川などである。

SG 1 は池で、3 期にわたる池の肩口を検出した。いずれの時期の肩口も東側は江戸時代の河川によって削り取られている。I 期は法勝寺創建当時の肩口、II 期は鎌倉時代に改修された際の肩口、III 期は室町時代に改修された際の肩口と考えられる。I 期の埋土からは多量の瓦が出土した。なお池は肩口のみを改修している。また断面観察によると、各期の池肩口に伴う整地が池から SD 2 の間に認められた。

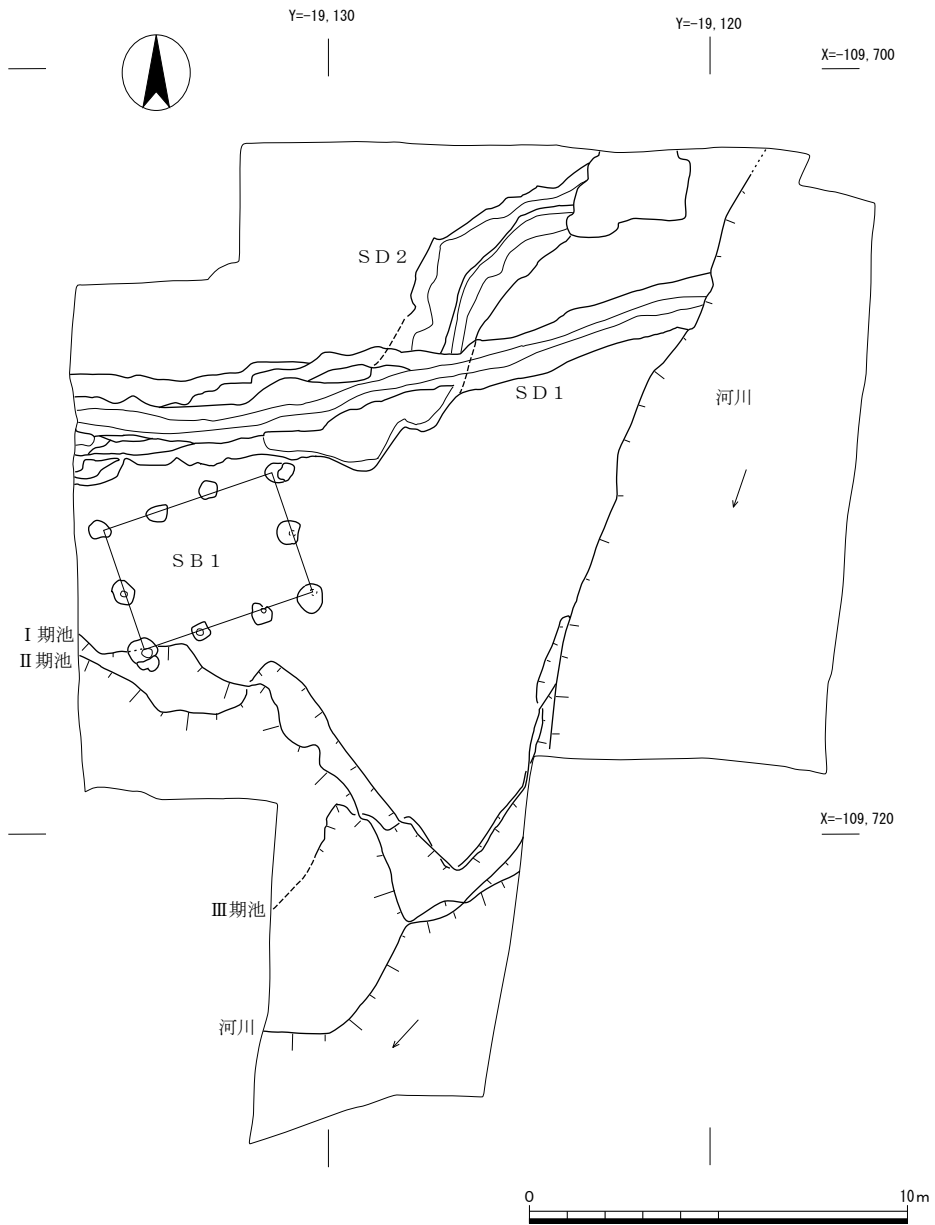
SD 1・2 は共に東西方向の溝であるが、調査区内中央で北へ急角度で折れ曲がる。SD 1・2 とともに東端は削り取られ、西端は更に調査区外へ延長する。埋土はいずれも砂及び砂礫層であった。SD 1 からは 9 世紀代の、SD 2 からは 10 世紀代の遺物が出土した。検出面の深さは、西壁で SD 1 が 12 m、SD 2 が 1 m ある。SD 2 は SD 1 を付け替えた溝と考えられる。

SB 1 は東西 3 間（約 4.7m）、南北 2 間（約 3.4m）の掘立柱建物である。柱穴は平面形がほぼ円形を呈し、検出面からの深さは 35cm～70cm ある。

出土遺物は整理箱で 157 箱ある。遺物内容は、弥生土器及び石器、古墳時代の土師器・須恵器、平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦・鉄釘、鎌倉時代から室町時代の土師器・瓦器などである。このうち平安時代後期の瓦には、軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦、ヘラ記号や刻印を有する瓦など多数あり、みるべきものが多い。

**小結** 法勝寺は藤原氏の別業の地で白河天皇に献上されたことを契機に建立された寺である。存続期間中、地震による倒壊や火災による焼亡が相次いだが、再建にあたっては、堂宇以外の園池についても改修されたことが今回の調査で裏付けられた。また I 期の池の埋土からは多量の瓦が出土しており、倒壊・焼亡の折に投棄された可能性もある。なお古墳時代後期の遺構は周辺では検出されておらず、今回検出した掘立柱建物は予想外の成果であった。

（辻 裕司・平方幸雄）



遺構配置図 (1:200)

## 25 法勝寺跡（2）

**経過** 市立動物園大水禽舎改築に伴う発掘調査である。調査地は法勝寺寺域の西端近くに位置しており、園池の一部に該当するものと推定される。調査地から西北約 30mの昨年度の発掘調査では、室町時代の建物などと共に、古墳時代の土器・木器を多量に含む流路が検出されており<sup>註</sup>、当該期の遺構・遺物も期待される。

調査は 1983年 1月 10日より 2月 1日まで実施した。調査面積は約 210㎡である。

**遺構・遺物** 調査地の現地表は標高約 49.5mである。基本層序は地表下 20～30cmの厚さの整地層があり、以下西半部においては黄褐色粗砂層ないしは黄灰色粗砂層（白川砂）がある。東半部では黒褐色ないしは黒灰色のシルト層の堆積となり、西から東に向って厚く堆積する。

遺構は西半部の白川砂直上面で柱穴・土壇などが検出された。東西 1間以上、南北 4間以上の掘立柱建物が 1棟確認できる。この柱穴掘形は径 40～45cmで、柱間は 2mを、東西南北ともに測る。これらの柱穴・土壇からの出土遺物は皆無に等しく、小破片のみであることや、上層を覆う層も現代の整地層であるため、各遺構の時期判定は困難である。東半分の黒褐色ないし黒灰色のシルト層は現代の池の堆積であり、その下に遺構は検出できなかった。

出土遺物のほとんどは、池からの出土である。現代の陶磁片・ガラス片などに混在して多量の平瓦・丸瓦・軒丸瓦・軒平瓦・緑釉土塔・土師器・須恵器などの古い遺物があった。

これらの遺物は平安後期から鎌倉期の時期に比定できる。

**小結** 調査区の大半は現代の池で占められており、調査の目的であった法勝寺に関する遺構は確認できなかった。（菅田 薫）



全 景（北から）

注 「法勝寺跡」『昭和 56年度京都市埋蔵文化財調査概要』

## 26 成勝寺跡

**経過** 京都国立近代美術館の新館建設に伴う発掘調査である。敷地の関係から本年度は駐車場部分のみ調査を行い、他を次年度に実施することとなった。調査予定地はこれまでの発掘調査の成果から成勝寺南限及び押小路末に推定される地点である。発掘調査は1983年2月12日から3月11日まで実施した。トレンチは当初南北約17m、東西約13mで設定したが、整地層が厚くまた白川砂で整地されているため壁面が倒壊しやすく、そのために発掘調査の安全を確保するため最終的な遺構面での調査面積は約100m<sup>2</sup>強となった。

**遺構・遺物** 調査地の現地表の標高は約48mである。基本層序は上から整地層が190から200cm、近代の耕土層が2面あり厚さ約30cm、室町時代の遺物を包含する黒褐色シルト層が30から40cmの厚さで堆積し、以下無遺物層である黄灰色粗砂層（白川砂）となる。黒褐色シルト層は2層に分層でき、下層は砂質分が多い。遺構は黒褐色シルト層上面、黒褐色砂質シルト層上面、黄灰色粗砂層上面での三面を検出することができた。

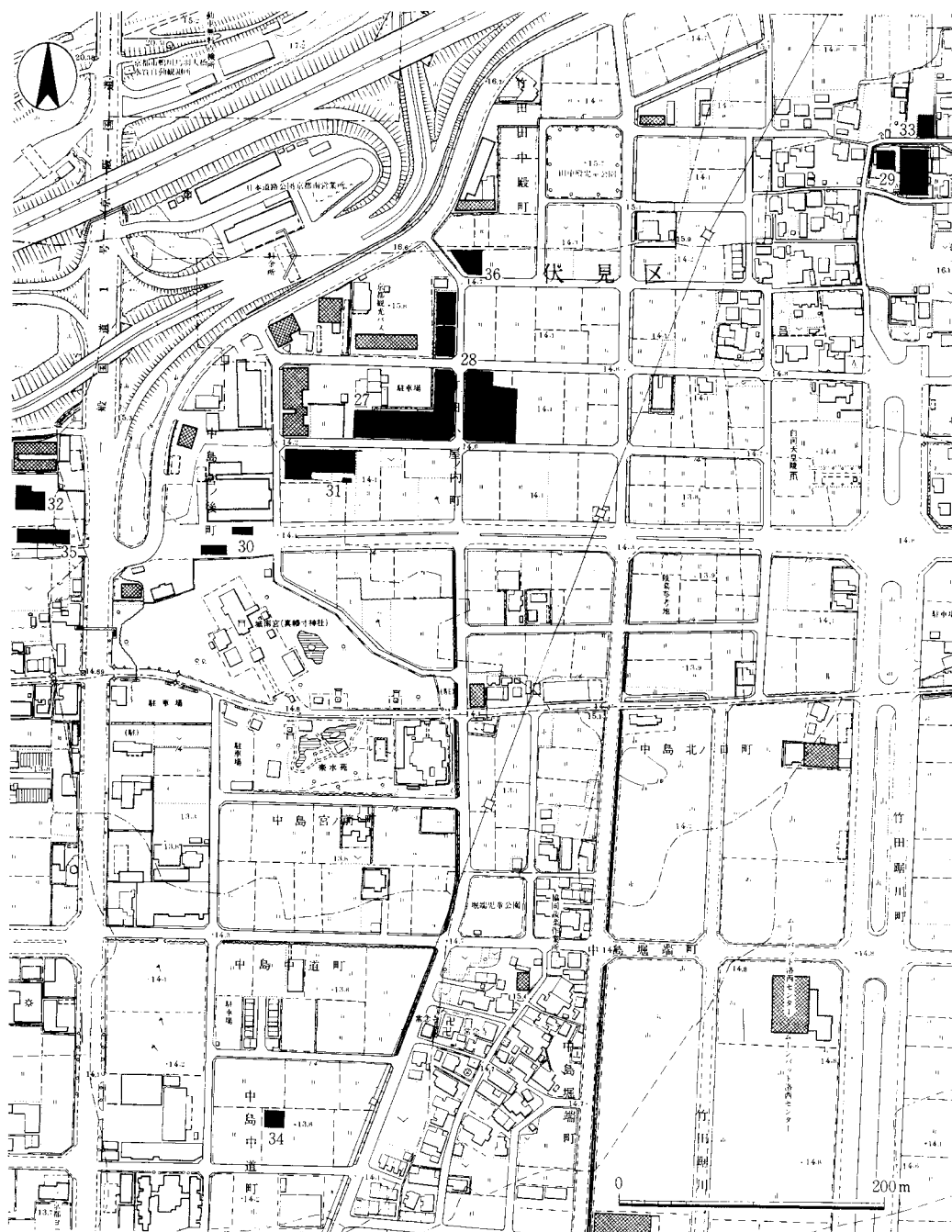
黒褐色シルト層上面での遺構は溝・土塋などで、疎水開削以前の時期の遺構と考えられる。黒褐色砂質シルト層上面検出の遺構も溝・土塋などであり、出土遺物から室町時代頃であろう。黄灰色粗砂層面で検出された遺構は溝・土塋・池状遺構などがある。この黄灰色粗砂層面で検出された遺構には、灰褐色砂泥層を埋土とするものと、茶褐色砂泥層を埋土とするものの二種があり、出土遺物、遺構の重複関係から灰褐色砂泥層を埋土とする遺構が新しく、ほぼ室町時代に比定でき、茶褐色砂泥層を埋土とする遺構は平安時代末から鎌倉時代に位置付けられる。また調査区北部からは池状の遺構が検出され、成勝寺の園池の一部に推定される。

出土遺物は整理箱に57箱出土しているが、その大半は池状遺構から出土した平安時代末から鎌倉時代の瓦類である。土器は少なく、わずかに溝などから出土しているに過ぎない。また、地山直上面よりサヌカイト製の無茎石鏃が1点出土している。

**小結** 成勝寺は六勝寺の中でも文献などの資料が少なく、規模・諸堂塔の配置など不明な点が多い。調査の結果、成勝寺存続期にある平安時代から鎌倉時代にかけての遺構は池状遺構・溝・土塋などがあるが、池状遺構が成勝寺の園池の一部と推定できる他に、明確に成勝寺を復原し得る様な遺構の検出はできなかった。また地山直上に堆積する黒褐色砂質シルト層は室町時代と考えられ、当該地は室町時代にはすでに耕作地化されていたものと思われる。したがって成勝寺は室町時代には寺域が縮小されたか、廃絶していたものとみられる。

(菅田 薫・吉川義彦)

## VI 鳥羽離宮跡



調査地位置図 (1:5,000)



## 27 第74Ⅱ次調査

**経過** 今回の調査地は、昨年度発掘調査を実施した第74次調査地のすぐ東側に位置する。調査は、第75次調査と併行して実施した。調査地の西端には深さ2m以上の擁壁が設けられていたため、調査地をやや東寄りに設定した。調査の結果、鳥羽離宮造営に伴う整地層や古墳時代から奈良時代にかけての掘立柱建物を検出した。

**遺構・遺物** 鳥羽離宮関係の遺構及び整地層が検出されたのは、標高13.5～13.6mであり鳥羽離宮造営以前の遺構は、平安時代前・中期のものを標高12.8～12.9m、古墳時代から奈良時代のものを標高12.5m前後で検出した。

層序は次のとおりである。耕土・床土層を除去すると細かな砂泥層になる。この堆積層は近世後半以降と考えられる。その下、厚さ40～50cmの灰褐色泥砂層を除去すると鳥羽離宮関係の遺構面が検出された。遺構検出面の明茶灰色泥砂層は、この付近の各調査地でも確認されている。この土層の厚さは、30～40cmが平均的である。この層は鳥羽離宮造営に伴う整地層と考えられる。暗緑灰色泥砂層は、その上面で平安時代の前・中期の遺構を形成する。茶褐色砂泥層は、古墳時代の遺物を包含する。その上面では柱穴などを検出した。主な遺構には、鳥羽離宮造営以前の建物がある。

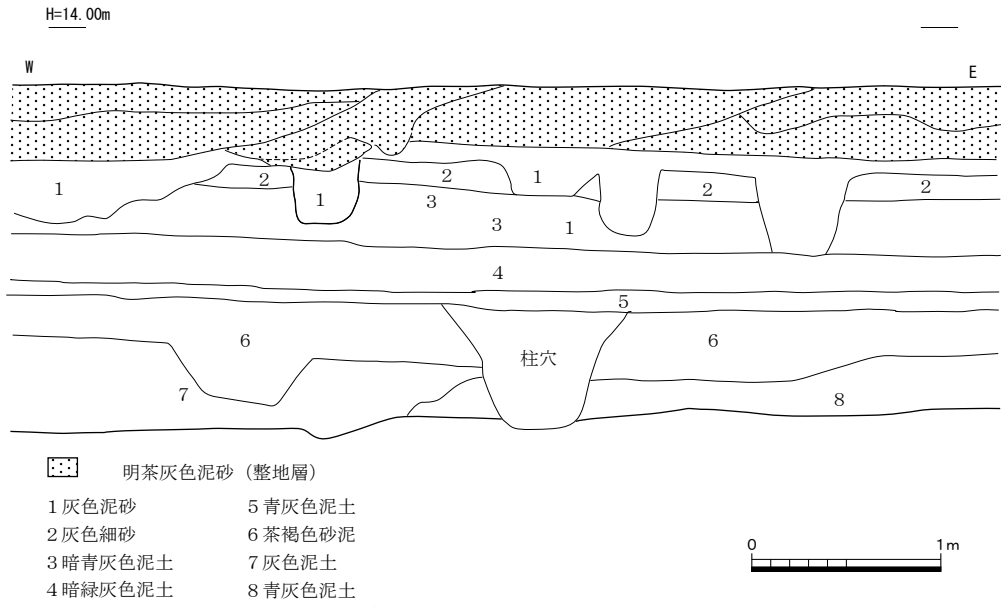
S B 14 梁行2間、桁行2間分を検出した。桁行は更に延びると思われる。梁・桁行とも柱間距離は約1.7mを測り、建物の方向はN 45° Eの傾きを持つ。北・東の隅柱の外側、桁行方向に、長さ35～40cm、幅25cmの長方形のピットを検出した。掘形の形状からみると、隅柱に向って傾斜しており、なんらかの理由で隅柱を支えるための柱を埋め込んだ痕跡ではないかと思われる。各柱穴は、一辺60cm前後の方形で、深さは50～60cmを測る。

S B 15 北東—南西の方向で2間分、南東—北西の方向で1間分検出した。各柱間距離は約2mである。各柱穴は一辺70cm前後の方形で、深さ30～40cmである。遺構検出面は茶褐色砂泥層で、標高12.5mである。西隣の第74次調査では、同一面より6世紀後半の竪穴住居3棟と、7世紀後半の土壙を検出している。また、上層には奈良時代の遺物が含まれており、S B 14・15の建てられた時期は6世紀後半から奈良時代の間と考えられる。

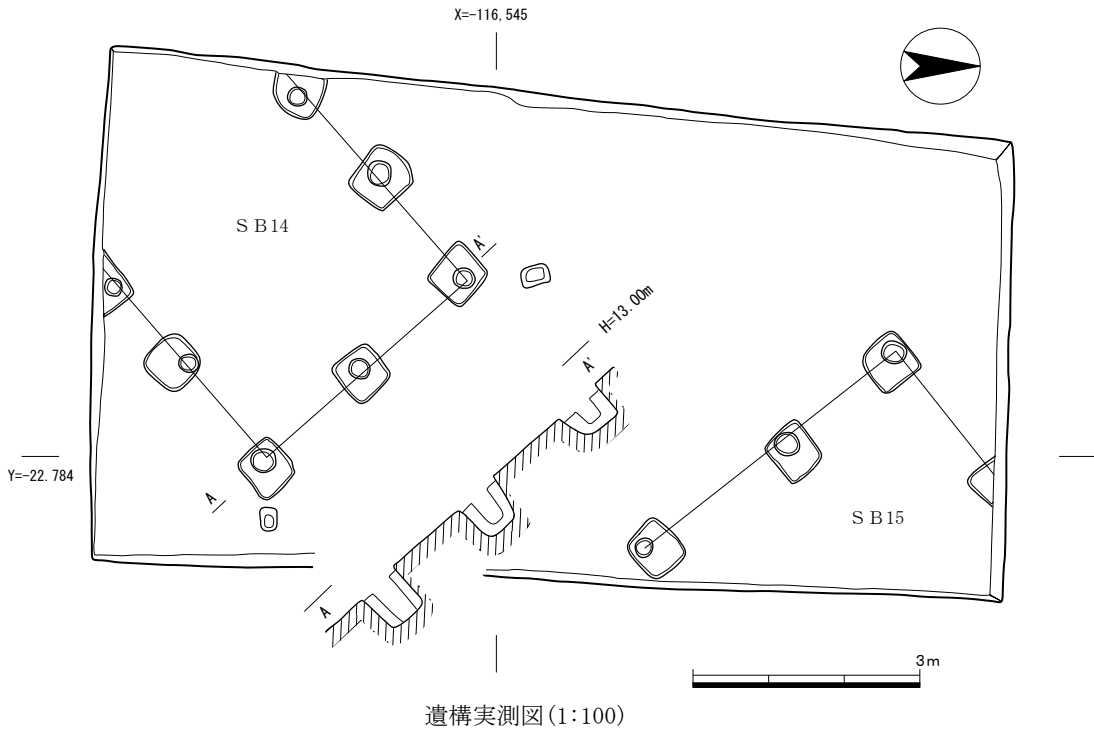
出土遺物には、平安時代後期の土師器や瓦、平安時代前・中期の土師器・緑釉陶器、奈良時代や古墳時代の土師器・須恵器などがある。

**小結** 過去、鳥羽離宮造営以前の遺構としては、古墳時代の竪穴住居や平安時代の土壙などが検出されているが、掘立柱建物の発見は初例で近接して2棟あり、今後の調査成果に期待が持たれる。

(鈴木久男・木下保明)



南壁土層断面図 (1:40)



遺構実測図 (1:100)

## 28 第75・76・79次調査 図版12～15・39

**経過** 従来、この付近で実施してきた発掘調査では、金剛心院関係の遺構と推定されるものが極めて良好な状況で多数検出されており、今年度実施した調査地もその東側に位置する。

第74Ⅱ次調査地と第75次調査とは、東西に隣接するため双方の調査は継続して実施した。耕土層及び床土層は重機を導入して、調査地の北東部より掘り下げを開始した。その結果、調査区北東部及び南東部で建物基壇を検出し、また西南部では雨落溝が巡る礎石建物や柱穴、石列などを検出した。このため、再度重機を導入して調査区を西側へ拡張し、新たに建物基壇と思われる土壇を2基検出した。また調査区の西側では、下層遺構確認のために掘り下げを実施した。

第76次調査は、第75次調査地北側の水田で実施した。その結果、調査区南端で東西方向の構を検出した。第75次調査区北東部で確認した建物基壇の北端は検出できなかった。地山直上まで掘り下げを実施したが、下層遺構は検出できなかった。

第79次調査地は、第75次調査地と道路を挟んで東6mに位置する。調査の結果、建物基壇や礎石建物を検出した。また、調査区南東隅で園池を一部検出した。そのため、この付近を拡張した結果、庭石を良好な状態で検出した。調査の進展に伴って、園池は更に北及び東方へ広がっていることが判明した。調査地東隣の地主と協議した結果、隣地の一部を調査できる様になり、このため、再度重機を導入して園池部分を拡張した。これにより、鳥羽離宮期の建物とその東側に造られた園池を同時に明らかにすることができた。

**遺構** 検出した遺構は、鳥羽離宮期に比定される建物基壇・礎石建物・雨落溝・園池などである。鳥羽離宮期及び古墳時代前期の包含層も検出した。なお、中世以降の遺構は今回省略する。以下、主な検出遺構の概要を述べる。

S B 1 東西 39.0m、南北 18.0m以上（ただし、北辺はS D 13に限られているので 23.0m未満となる）残存高 45cmの基壇を有する建物である。基壇上には礎石抜取穴等、建物の規模、構造を示す様な痕跡は残っていないかった。本来の基壇はもう少し高かったのが上部を削平されてしまったのであろう。雨落溝等の周辺の附属施設も確認されなかった。

S B 2 この建物基壇は、掘込地業によって構築されている。基壇上の礎石は遺存していなかったが抜取穴を検出した。今回の調査では、建物全体を明らかにすることはできなかったが、建物北辺部の状態を知ることはできた。基壇の規模は掘込地業とはほぼ同一であると思われる。検出した基壇の高さは、40cmである。掘込地業規模は、南北6m以上、東西約 30m、深さ 90cmを測る。建物については、基壇周囲に縁束と考えられる礎石抜取穴を、東西4間（推定7間）、南北3間以上、その内側に側柱筋と思われる柱位置を、東西3間（推定5間）、南北2間以上、更にその内側にも礎石跡を検出した。基

壇上で検出した礎石採取穴の中には、礎石に使用された花崗岩の風化剥落した痕跡が一部認められた。基壇の形態、外装については、削平が著しかったため明確にすることはできなかった。

S B 3 梁行2間、桁行5間の南北棟で、総柱の礎石建物である。梁間は東側より西側の方が60cmほど幅広い。礎石は2箇所に残存していただけで、他の礎石はすべて抜き取られていた。礎石採取穴底部には、礎石として用いられた花崗岩底部の風化剥落した部分が認められた。礎石据付穴は円形で、直径1.1～1.3mを測る。掘形内部には玉石や一辺30cm前後の偏平な石が根固め石として使用されていた。この建物とS B 2とは南北の柱筋が通る。また、建物の西側には偏平な石を南北方向に並べた幅1.6mの雨落遺構の一部を検出した。

S B 4 雨落溝を備える建物である。建物の北西隅と北側の一部を検出した。雨落溝の内側に接した形で花崗岩の礎石が4箇所据え付けられていた。礎石間の心々距離は西から1.6m、4m、4mを測る。この礎石列は、まだ東へ続くものと思われたので数箇所試掘を設けたが、礎石採取穴等は検出されず、規模を確定できなかった。

雨落溝は南北1.5m、東西7.7m分を検出した。30～40cm前後の大きさの河原石を両側に2列ずつ並べたものである。外側幅1.8m、内側幅50cm、深さ10cmを測る。溝底には石・瓦等を敷いた痕跡はなかった。溝上面、溝内に軒瓦を含む瓦片が出土している。また雨落溝の北辺でも瓦が集中して出土している個所がある。外側の礎石は、雨落溝に接近しすぎていることと、次の礎石との距離が短いことから考えて縁束になるものと思われる。また石組みの溝を有し、付近でかなり多くの瓦が出土しているので、この建物は瓦葺きであった可能性がある。

S B 5 礎石の採取穴より復原された建物である。各穴は不整形ではあるが、花崗岩の破片が含まれているものもある。梁行2間、桁行3間の南北棟の建物に復原でき、柱間距離は梁行2.1m、桁行3.6mになると思われる。梁行の中間の柱が若干内側へ入り込む。掘り込み地業は認められない。

S B 6 基壇を有する南北建物である。残存規模は、東西5.4m、南北13.3m、高さ40cmを測る。この基壇は、上面が削平されており礎石等は検出できなかった。また、巡りも削平されており建物規模についても不明である。基壇部を断ち割り断面観察を行った結果推定東西10m、南北13m幅の土盛りをしていることが判った。基壇の地業はS B 2にみられる様な石積でなく、粗い版築によっている。また、部分的に瓦・礫を多量に混入した土層も認められたが、規則的な出土状態ではなかった。

S B 7 今回の調査によって検出した建物群の西端に位置し、基壇を有する南北建物と思われる。残存規模は、東西14.8m、南北12.2m、高さ40cmを測る。この基壇は、削平されており、特に北東部についてはS B 6との関連等不明な点が多い。また、調査区外にも伸びており、規模については不明である。基壇部を断ち割り、断面観察を行った結果、地業は砂泥層と砂質土層を交互に積み重ね版築したものであることが判明した。更に、調査区南壁付近では、東西方向に並ぶ拳大の礫を4.2mにわたっ

で検出した。しかし、その周囲では、これと同様な石列及び関連遺構は全く検出できなかった。このため、石列の性格を明らかにすることはできなかった。

SB8 第78次調査区中央部で検出した計41箇所の礎石据付跡と、それに関連すると考えられる3列の石敷遺構を含めたものをSB8とした。遺構上面は、部分的に削平を受け残存状態は悪い。また、調査区外に続くため建物としてのまとまりは確認しがたい。このため、ここでは各々個別の建物を明示せず、検出状況だけにとどめる。

これらの礎石据付跡は、SB1, 2, 4などの大きな建物の間に位置している。SB1とSB2のほぼ中間では、礎石据付跡が2列東西方向に並ぶ。この列は、東西間隔は、不揃いで、南北間隔は6mである。SB2の西側とSB5の東側では、各々礎石据付跡が2列南北方向に並ぶ。南北間隔は約2.5mである。中央部では、礎石据付跡が全く検出できなかった。SB2とSB4の間では、礎石据付跡が2列東西方向に並ぶ。この列は、東西間隔は不揃いで南北間隔は約4mである。礎石据付跡は、1箇所を除きいずれも据付穴と根固め石を検出した。残存する礎石は、花崗岩で上面に円形の低い造り出しを持つ。この礎石の大きさは長さ約80cm、高さ30cmである。礎石の据付穴は、直径0.4～1m、深さ10～20cmである。掘形内部には、拳大の河原石を入れ、根固め石としている。この礎石据付穴は、SB3に比較して掘形、根石ともに小規模である。また3箇所で見出した石敷き遺構は、径20cmほどの扁平な石の平坦面を上にして、2～3列据え付けたものである。石敷き遺構の並びの方向は、礎石据付跡と同一方向である。

SG9 園池は建物(SB2・3)のすぐ東側に位置する。検出された園池は一部ではあるが、東西約20m、南北約40mで、園池西岸部である。この園池は、更に調査区外の南西や北東方向の未発掘部分に広がっているものと考えられる。他の全体的な形状は明らかでないが、調査地内では水際は大きく湾曲し、そのほぼ中央部は岬状に東へ突き出る。池の景観は、この岬状の突き出し部を境に、北と南とでは全く異なったものとなっている。すなわち、他の北半部は緩やかに傾斜する岸の水際に、拳大の礫を敷き州浜をつくり出している。これに対し南半部は、汀線及び岸に大小の石を組み、荒磯風の景観としている。

庭石は建物東側の陸と池の水際で検出した。池の水際に配された庭石は、岬状に突き出したところを北限とし、南限は調査区外になるため不明であるが、今回の調査区南壁端まで延びており、この間に38個の石を検出している。

池の基本堆積層は、底部の最も低いところには庄内式土器併行期の遺物を含む緑灰色泥土層が部分的にあり、その上層には鳥羽離宮期の遺物を多量に含む暗茶褐色有機物層が堆積している。この層は、今回検出の範囲には全面に認められた。更にその上に、灰色微砂層が薄く堆積している。この堆積層が今回検出した園池のベースである。その上層に、同じく鳥羽離宮期の遺物や植物遺体を含む暗茶褐色有

機物層が認められる。この層は、池が園池として利用されていた時期の堆積層である。これより上層は、園池が廃絶してから以降の堆積層である。なお、園池の廃絶年代は、14～15世紀と考えられる。

庭石の据え付け方には、掘形を持つものと持たないものがある。特に深い掘形を掘り立石させたものは、岬状に突き出た部分で認められた。これらは石の長軸を縦方向に用いている。庭石の高さは3～4段階に分けられ、高低差は約80cmを測る。今回の調査では、2個の緑色片岩を検出しているが、双方とも低いところに位置し、ほぼ同一の高さに据え付けられている。また、陸部から池に下がる肩口には、庭石の抜取穴と考えられる痕跡が数箇所認められた。

SX 10 建物基壇SB1の南東隅に据えられた4石からなる庭石である。その内、西側の2石は同一の掘形内に据えられているが、残りの2石は、それぞれ独立した掘形を持ち、石の1/2～2/3程度が埋め込まれている。これらの石の上端は、ほぼ同一の高さに据えられている。

SX 11 調査区南端部で検出した石組みで、池に向かって張り出す様に造られている。この張り出し部分は、人工的な土盛りによって形成されている。北側及び東側は、上下2段に石組みし、大型の石は使用しない。石の長軸を横方向に据え付けているものが目立つ。

SX 12 この井戸状遺構は、今回検出した洲浜部分の北端に位置し、汀線よりやや高いところで認められた。平面形は検出面で五角形、底部で方形を呈する。井戸枠は凝灰岩切り石の転用材・河原石・平瓦などを組み合わせて構築している。掘形は円形で、直径1.45～15m、検出面から底部までの深さ約77cm、底部は一辺33cmを測る。層位や遺構の前後関係からこの井戸の時期は洲浜と同時期の可能性が強い。

SD 13 第76次調査地の南端で輸出した溝である。幅1.8m以上、深さ60～70cmを測る。ほぼ東西方向の傾きを持ち、水は西から東へ流れていたものと思われる。また、この溝より若干古い溝が北側の肩口を共有して南へ広がってゆくが、調査区内では南の肩を検出することができなかった。この溝以北では、鳥羽離宮期の遺構ほとんど検出することができず、今回検出した遺構群の北辺に限る溝ではないかと思われる。

**遺物** 出土遺物には、土器類・瓦類・金属製品・銭貨・土製品などがあり、大半は瓦類である。土器は、平安時代後期の土師器・瓦器・平安時代中期の土師器・緑釉陶器や古墳時代前期の土師器、後期の土師器・須恵器などが出土した。軒瓦は、播磨系のもが多く、他に讃岐系のもや中央官衙系のもも認められた。丸瓦・平瓦も同様に播磨系のもが圧倒的に多い。銭貨はSB2の基壇中より祥符通寶・天聖元寶・紹聖元寶が出土した。いずれも北宋銭である。金属製品のほとんどが鉄製の釘である。また金銅製の飾金具片も数点出土している。他にSB2の地業中よりガラス玉が1点出土している。

**小結** 今年度実施した一連の調査では、鳥羽離宮期の遺構が良好な状態で検出されたばかりでなく、当地域の遺構分布密度が極めて高いことが明らかになった。この付近では、過去数次にわたって発掘

調査が実施され、金剛心院の九鉢阿弥陀堂と推定される建物やそれに関係する遺構が多数発見されている。更に、今回の調査によって東側に隣接する地点の状況を具体的に知る資料を得た。

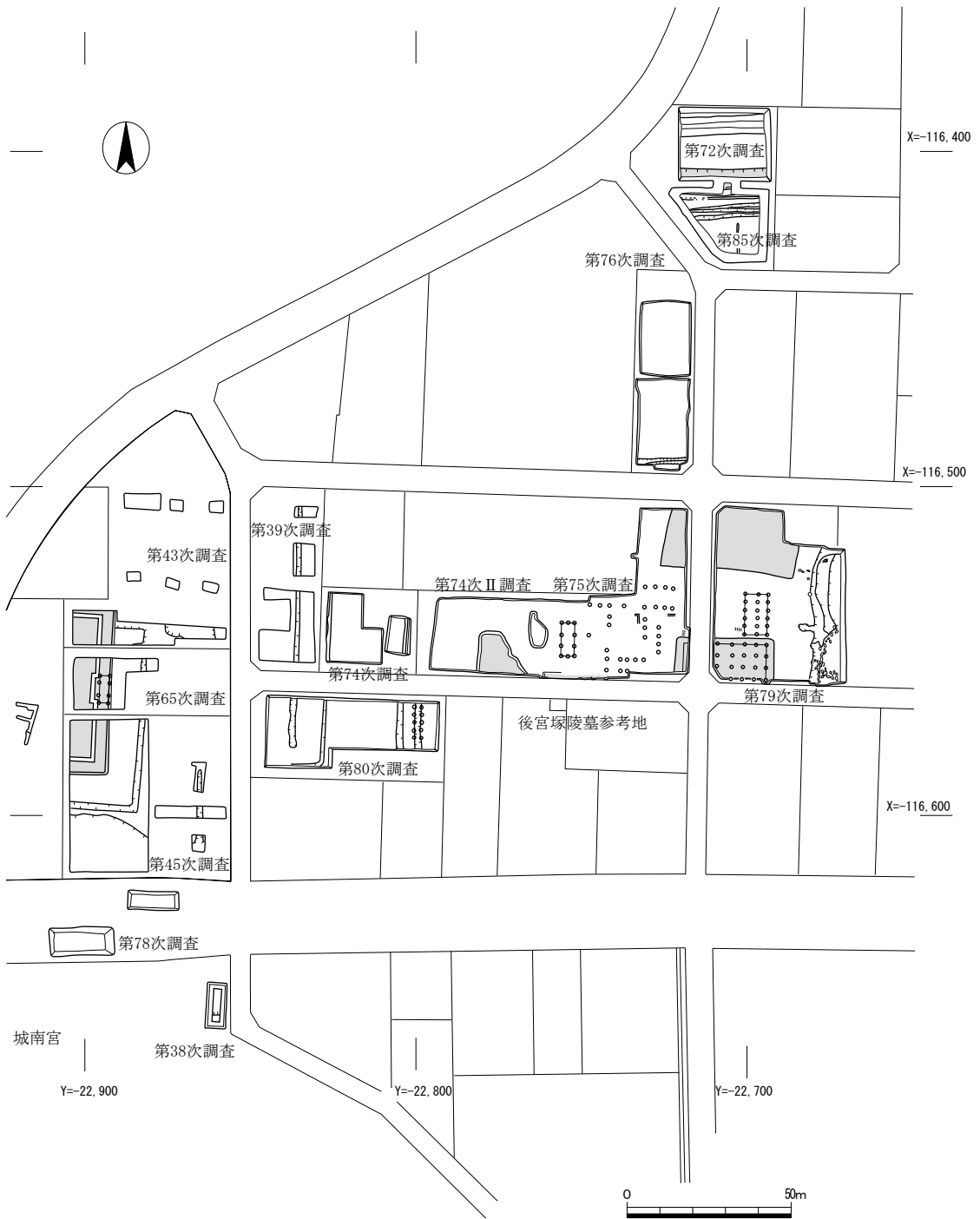
今回の調査では数棟の建物が検出されているが、これらはすべて礎石建物と考えられ掘立柱建物は検出されていない。また、建物基壇と思われる土壇（S B 1・5・6）や掘込地業を有する建物基壇（S B 2）も発見されている。この様な建物はいずれもその規模が大きく互に隣接し、複雑に配置されており、第 39 次・74 次調査地以東に集中してみられる点を指摘することができる。そして先述した様に特異な掘込み地業の工法によって築成された基壇上に建立された建物や、雨落溝の巡る大型の建物は、これらの建物群の中でも中核をなすものであろう。

園池はこの様な建物の東側で検出された。池の規模・形態・深さなど全体像については明確ではないが、現地表で観察できる水田の畦畔や水田面の乾燥状態などから類推するとかなりの規模を持つものと思われる。また池の下層に庄内式土器併行期の土器を含む自然堆積層が認められたことから、この園池は、造営以前からあった池もしくは低湿地に手を加えて景観を整えたものと考えられる。

池の水際で検出した石組遺構は、従来鳥羽離宮跡で発見されている南殿の東から南にかけての庭園遺構や東殿の庭園遺構に比べ規模が大きく、その姿は雄大である。また、石組みなどにみられる造庭技術は、平安時代後期に書かれた『作庭記』に記載されている内容に一致するところがある。庭石の中には、京都盆地周辺ではなく、紀ノ川流域西部から吉野川流域にかけて分布する緑色片岩が 2 石発見されている。これと同質のものは東殿の庭園遺構でも数点出土している。これらの石は、鳥羽離宮の作庭に際し搬入されたものである。

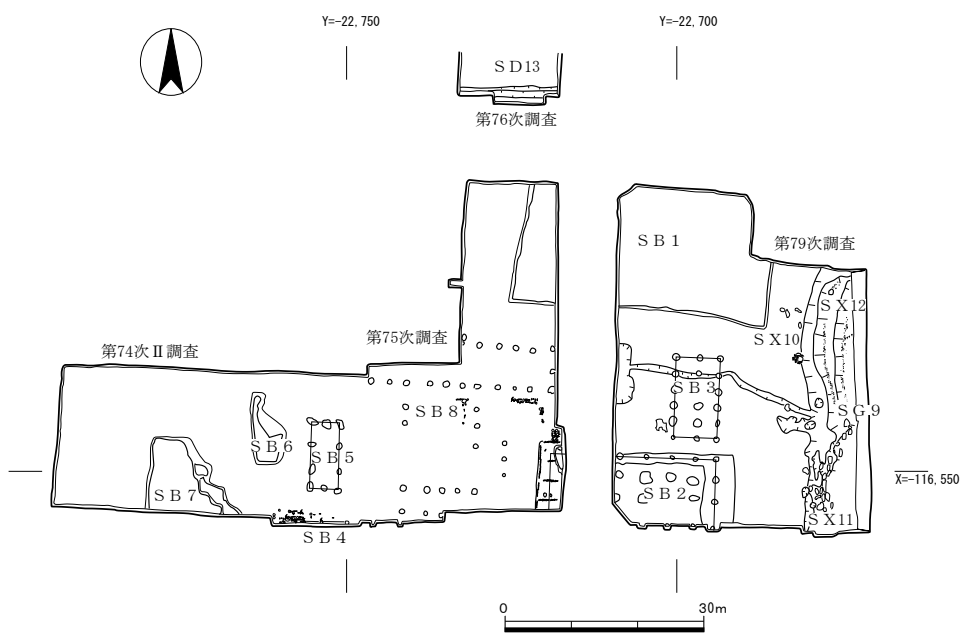
ところで、鳥羽離宮とほぼ同時代の庭園遺構は、平安京及びその周辺部でも発見例が少なく、本例は貴重なものといえる。また、今回の調査で明らかになった遺構は、田中殿に営まれた金剛心院の一部と推定される。

（鈴木久男・木下保明・上村和直）



遺構配置図(1:2,000)





遺構配置図(1:1,000)

## 29 第77次調査 図版 17 - 1・41・42 (1・7・8)

**経過** 今回の調査地は鳥羽離宮東殿の推定地にあたり、すでに調査地の南側は第54次調査、北側は第71次調査として、1979年及び81年に実施している。今回は調査の都合により、東区及び西区に調査区を分けて実施することとなり、東区より開始した。従来の周辺での調査結果をふまえ、重機により約70cmの盛土層を排除した後、遺構検出に取りかかり、以下5面にわたって調査を行った。西区については、東区の北部で検出した平安時代後期の溝を重視して、対象地の北寄りに調査区を設定し調査を進めた。東西両区共に最終面と考えられる淡灰色砂礫層を断ち割り、この層が1m以上堆積すること、平安時代中期の遺物を包含することを確認して調査を終了した。

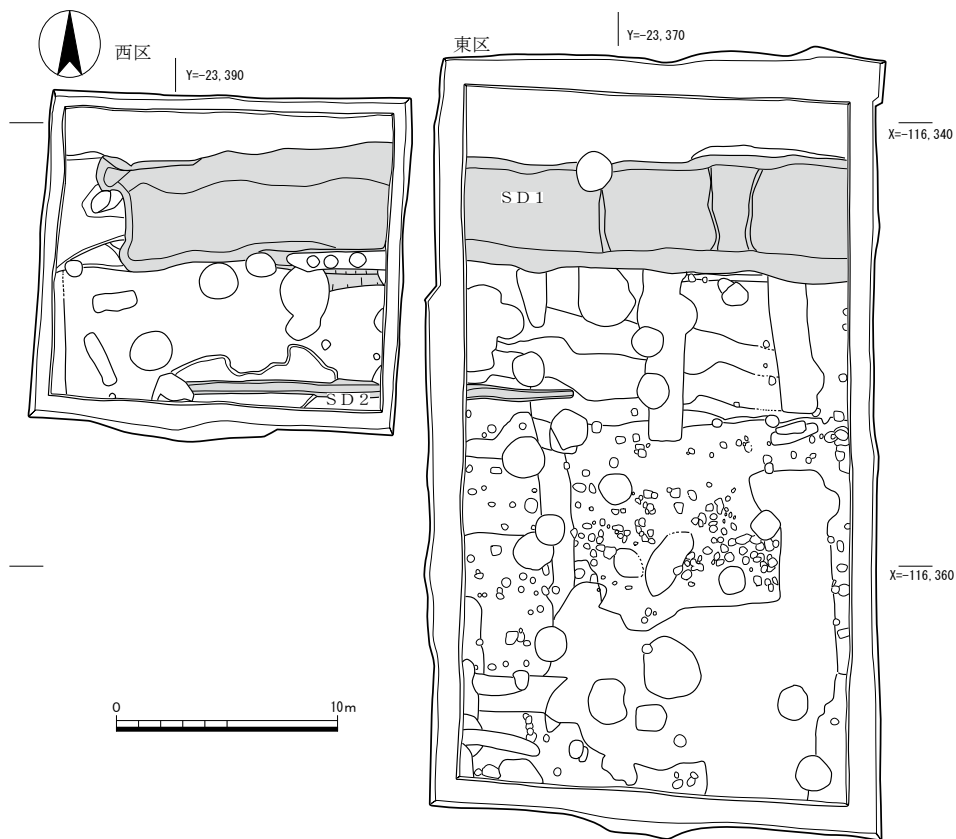
**遺構・遺物** 平安時代から江戸時代にわたる遺構・遺物を検出した。これらの遺構が成立する土層は極めて複雑であるが、基本的には上層より盛土層、黄灰色砂泥層、茶褐色泥砂層、淡灰色砂礫層と続いている。

平安時代中期の遺構は検出できなかったが、淡灰色砂礫層の中から、土師器・須恵器・緑釉陶器などが出土しており、この層は河川の堆積層の可能性がある。平安時代後期の遺構は灰色泥砂層の上面で溝(SD1・2)・柱穴を検出した。SD1は幅5m、深さ60cmの溝である。これは、調査区の西端近くで途切れるが、東は調査区外へ続く。SD2は、SD1と並行している溝で幅約80cm、深さ15cmである。これらの溝からは、土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器などの土器類と、楽人を描いた板絵・木簡・塔婆・将棋の駒・人形・木球・扇・櫛・漆器の椀・下駄・箸などの豊富な木器類が出土している。鎌倉時代の遺構は、主に淡黄灰色粘土層の上面で井戸・柱穴・土塋を検出した。遺物は、土師器・瓦器・陶器・輸入陶磁器等が出土している。室町時代の遺構は主に、淡黄灰色泥砂層の上面で溝・井戸・土塋・柱穴を検出した。遺物は、土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・輸入陶磁器・金属製品が出土している。安土・桃山時代の遺構は主に茶褐色泥砂層の上面で溝・井戸・土塋・柱穴・礎石等を検出した。遺物は、土師器・焼締陶器・施釉陶器・輸入陶器が出土している。江戸時代の遺構は主に黄褐色泥砂層の上面で溝・井戸・柱穴・礎石を検出した。遺物は、土師器・焼締陶器・施釉陶器が出土している。今回の調査では、平安時代以降の多数の柱穴、礎石群を検出しているが、あまりにも複雑なため建物等としてまとめることはできなかった。ただし瓦はすべて平安時代と江戸時代のもので、鎌倉時代から安土桃山時代にかけては瓦葺きの建物は存在しなかった可能性が強い。

**小結** 調査の成果は3点に要約できる。第1点は、第71次調査でみられた弥生時代の遺構が認められなかった点である。これについては、最終面である砂礫層と第71次調査の弥生時代の遺構面に比高差がないことから、弥生時代の遺構は流失したと考えられる。第2点は、鳥羽離宮東殿に関する溝が検出できたことである。これまでに東殿に関する遺構の発見例は少なく貴重である。出土遺物は質量共

に豊かで、特に楽人を描いた板絵や漆塗りの扇は平安貴族の生活を彷彿とさせるものである。第3点は、鎌倉時代から江戸時代にわたる多数の柱穴・井戸等を検出できたことである。これらから何世代にもわたり存在し続けてきた中世から近世にかけての集落の一端を知ることができた。このように東殿地域は、離宮造営時の遺構だけでなく、それ以前以後の遺構の発見例が多く、綿密な調査を必要とする地域である。

(吉崎 伸・鈴木廣司)



遺構配置図(1:300)

## 30 第78次調査

**経過** 調査地は、城南宮境内のすぐ北側に位置する道路建設予定地である。過去、この付近で実施した調査は第 38・43・45 次調査などがある。1978 年に実施した第 38 次調査では南から北に向って徐々に下がる傾斜面を検出した。埋土からは、平安時代後期の土器や呪符・懸仏などが出土した。また、同年実施した第 45 次調査では調査区北側に雨落溝の巡る基壇建物を検出し、南側では、北から南へ緩やかに下がる傾斜面を確認した。今回の調査地は、第 38 次調査地とのほぼ中間に位置する。調査地は東西に細長く、しかも一部車道としてすでに利用されていたため調査区はかなり限られたものとなり、東西方向に 2 箇所の特レンチを設定し調査を進めた。

**遺構・遺物** 2 箇所の調査区ともに遺構は検出されず、池もしくは低湿地に堆積したと考えられる自然堆積層が認められた。調査区の基本層序は、まず現代盛土層が旧水田面上に 1 m ほどある。旧水田面下には、淡茶灰色泥砂層、灰色泥砂層、暗灰色泥砂層、暗灰色粘質土層、茶褐色有機物層（腐植土層）、暗灰色粘土層などが堆積していた。青灰色粘土層以下はすべて自然堆積層である。出土遺物は、平安時代後期の土器や瓦などが少量認められた。

**小結** 今回の調査によって、第 38 次調査地と第 45 次調査地南半部との間が池もしくは低湿地であることが確実となった。今年度当調査地西側で実施した 81 次調査地でも同様な状況が確認されており、当調査地と一連のものと考えられる。

(鈴木久男)



航空写真（北東から）

### 31 第80次調査 図版16

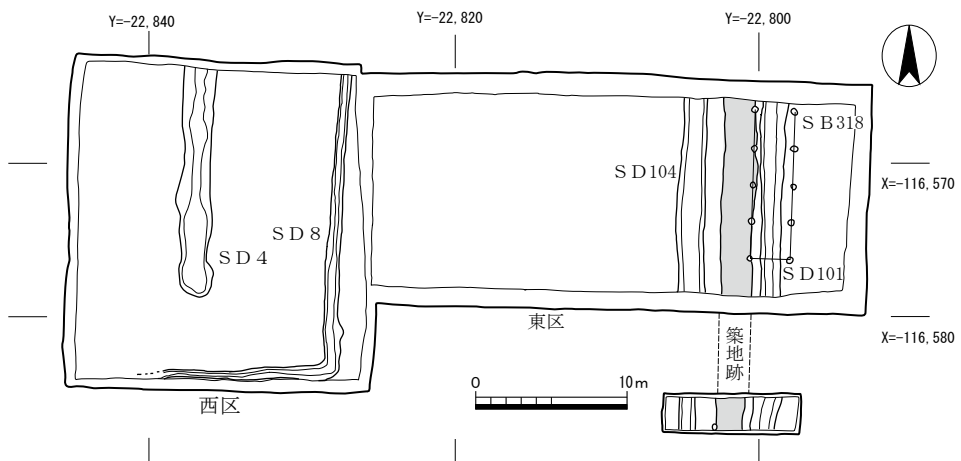
**経過** 調査地は城南宮の北方、名神高速道路京都南インターチェンジの東側に位置し、鳥羽離宮跡田中殿地区に推定されているところである。近辺の調査成果をみると、第43次・第45次・第65次調査では南北45mの長さを持つ建物、第39次・第74次調査では南北溝、第75次・第79次調査では建物群と庭園が検出されており、遺構・遺物が良好に遺存している地区であることが判明している。その他に古墳時代の竪穴住居も見つかっており、集落の存在が確認されている。

調査区は排土置場の関係で西区と東区に分け、まず西区を調査した。中世以降の耕土層は機械によって排土し、平安時代の遺構面から手掘り調査とした。

**遺構** 基本的な層位は、中世以降の耕土層（1.2m、7層に分けられる）、茶灰色砂泥層（15～30cm）、茶褐色砂泥層（1.0m）、である。平安時代後期の遺構は茶灰色砂泥層を切り込んで成立している。茶褐色砂泥層は下層が還元色を呈し古墳時代の、上層が飛鳥時代から平安時代中期までの遺物を包含している。各層の上面では水田の湿気抜きと考えられる小溝を多数検出した。

調査の結果、明らかになった主要な遺構は、古墳時代の竪穴住居が計6棟、平安時代後期の鳥羽離宮期の築地と第39次・第74次調査地から延びる南北溝である。

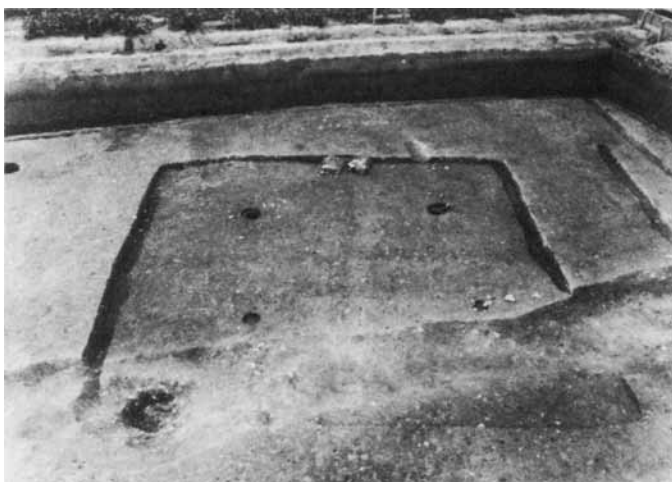
古墳時代では前期と後期の遺構があり、前期の遺構には竪穴住居1棟と土壇2基がある。住居は上部を削平されており、壁溝と柱穴のみが残存していた。一辺6mの方形を呈する。土壇は3×33mと3×35mの大きさの方形であるが、柱穴や炉等の施設は認められなかった。後期の竪穴住居は5棟検出され、すべて同一の方向性を持ち、西辺にカマドを有している。一辺が4.3m～6.5mの大きさで方形を呈するものである。2棟が若干のずれを持って重複している住居があるが、建て替えの結果と



遺構配置図(鳥羽離宮期) 1:500

思われる。

飛鳥時代から平安時代にかけては多数の溝とピットを検出した。溝は南北方向と東西方向があり、水田の湿気抜きと考えられるため、飛鳥時代以降水田として利用されていたものであろう。ピット群は建物としてあまり難しく、2棟を復原したにとどまる。



竪穴住居（西区、東から）

鳥羽離宮期の築地は南北方向で、幅 1.8m、長さ 23mにわたって検出した。築地は掘り込み地業を行い、拳大の石をつき固めて構築している。石の疎らな部分と密な部分があり、工法にばらつきが認められる。上部の構造は削平を受け不明である。築地は側溝（SD 101、104）を伴う。東側に接して東西1間、南北4間以上の掘立柱建物（SB 318）を検出した。2.7m×9.6m以上の規模を持ち、柱根が残存していた。また第39・第74次調査地から続く溝（SD 4・SD 8）を検出したが、SD 4は調査区内で途切れ、またSD 8はそれを囲む様に西側へ直角に折れ曲がる。

**遺物** 古墳時代の遺物には土師器（壺・甕・高杯・製塩土器）、須恵器（杯・蓋・壺・甕・高杯）、石製品（紡錘車・勾玉）、土製品（紡錘車）、鉄鎌等がある。平安時代では土器類に土師器・須恵器・瓦器・施釉陶器・黒色土器があり、瓦類に軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦等がある。また築地の地鎮に伴うものと思われる灰釉壺からは水晶玉が出土した。

**小結** 田中殿周辺の古墳時代集落に関しては、1棟のみであるが前期に遡る竪穴住居を検出し、その開始年代に新たな知見を加えた。また、築地は鳥羽離宮跡では初例であり田中殿の復原に重要な資料を加えたといえる。しかし北限と南限は明らかでなく、今後の調査が期待される。築地の地業が周辺の建物と同様な工法を用いること、灰釉壺を伴う地鎮施設を検出したこと等、築地の造営時の一端が明らかになったことは特筆すべきことである。

（前田義明・丸川義広）

## 32 第 81次調査 図版 17-2

**経過** 今回の調査地は鳥羽離宮の北殿に推定されているところである。このため、ホテル建設に先立ち遺構の有無を確認する試掘調査を実施したところ、平安時代後期から鎌倉時代にかけての遺物を検出したために発掘調査を実施する運びとなった。調査は建物によって破壊される部分について実施することとし、後世の堆積層約 1.3mを重機によって除去することから開始した。そして古墳時代から鎌倉時代までの遺構を順次調査し、調査区の南側で検出した池の汀線の方向を確認するため調査区の西側を一部拡張して調査を終了した。

**遺構・遺物** 検出した遺構・遺物は、古墳時代・奈良時代・平安時代後期から鎌倉時代の3時期に大別できる。古墳時代の遺構は調査区の中央部と東部で溝を2条検出した。東側の溝は東西方向で幅 60cm、深さ 60cmである。中央の溝は南北方向で幅 1.5m、深さ 50cmである。遺物はこれらの溝から、土師器・須恵器が出土している。奈良時代の遺構は調査区の東部で溝を1条検出した。幅約 5m、深さ 40cmで南北方向である。遺物は、溝から土師器・須恵器が出土しており、特に土師器は良好な一括資料である。平安時代後期から鎌倉時代の遺構は調査区の南部で池を検出した。池の汀線はほぼ東西方向であるが、調査区の西側でやや南方向に湾曲している。この池の西側で、庭石と考えられる石を3個検出した。遺物は、池の埋土から、土師器・須恵器・瓦器・瓦が出土している。また、銅製の飾金具が1点出土している。

**小結** 今回の調査で検出した平安時代から鎌倉時代の池は、池の西部で庭石と考えられる石が3個出土している点や、東部で汀線の部分に径 10cm 前後の円礫を貼り付けた跡がみられる点から、鳥羽離宮北殿



全 景（古墳時代、東から）

の庭園の一部と考えられる。従来、北殿一帯は鴨川の氾濫によって破壊されていると考えられていたが、今回の調査の成果によって、遺構の存在する箇所もある点が明らかとなった。

（鈴木廣司・吉崎 伸）

### 33 第82次調査

**経過** 調査地は鳥羽離宮の北殿に推定されており、第81次調査区の南側に隣接している。第81次調査では、平安時代後期から鎌倉時代の池が検出されており、今回の調査でも池が検出できることが予想された。調査は、当初重機によって灰色粘土層の上面までを除去することから開始した。しかし、遺構は全く認められず、同層は他の堆積層であると判断し、更に調査区の中央に幅約3mのトレンチを設定し茶褐色砂礫層まで掘り下げた。この層にも遺構が認められず掘り下げる予定であったが、この層以下は湧水が激しく、堆積状況、あるいは遺物の有無の確認は不可能であると判断し、調査を終了した。

**遺構・遺物** 今回の調査地の層序は極めて複雑であるが、基本的には上層より、盛土層約60cm、淡黄灰色泥砂層約10cm、暗緑灰色微砂層約10cm、暗灰色微砂層約30cm、灰色粘土層を中心とした粘土層約80cm（池堆積土1）、灰色砂礫層を中心とした砂礫層約70cm（池堆積土2）、茶褐色砂礫層と続いている。調査区内すべてに平安時代から鎌倉時代とみられる池の堆積層を確認した。遺物は池堆積土1から平安時代後期の土師器・瓦器・瓦が出土している。また、池堆積土1・2からは、古墳時代の土師器・須恵器も出土している。平安時代の遺物は摩滅が少ないのに比べ、古墳時代の遺物はいずれも摩滅が著しく少片である。

**小結** 調査地は第81次調査で検出された鳥羽離宮北殿に関連する池庭の一部であると考えられる。第81次調査では調査区の西側で池の汀線が南方向に湾曲していることが確認されているので、今回の調査では調査区の西端に汀線の続きを求めたのであるが、調査区全体に池の堆積層を検出したため、汀線は調査区以西に求められることとなった。また、古墳時代の遺物が少量ながら池の堆積土中から出土したことは、鳥羽遺跡の範囲を知る上で重要な手懸かりとなった。



全 景（東から）

（吉崎 伸・鈴木廣司）



## 34 第 83次調査 図版 30

**経過** 調査地は鴨川と桂川の合流点東側の鴨川の後背湿地にある。1983年1月社屋新築工事に先立ち試掘調査を行ったところ地表下1.4mの部位で遺構の存在が想定され、発掘調査を行うこととなった。後背湿地性土壌の上位を中心に調査したが、遺物は包含されているものの遺構を明確には識別し得ず、その中位で大半の遺構を検出した。

**遺構・遺物** 後背湿地性土壌の上位は9世紀前半から10世紀中葉の堆積で、その下に調査区西北部を中心として一時的な湿地性土壌があり、7世紀前半の竪穴住居を被覆する。

中位以下は5世紀後半以降の各遺構の地山となっている。

確認し得た遺構は、竪穴住居8棟(加1棟)・掘立柱建物1棟(加1棟)・溝2条・土壇2基の他、輪郭の不明瞭な浅い溝や建物としてまとまらない柱穴多数がある。時期別では、9世紀前半の溝1条、8世紀初頭から前半の溝1条・土壇2基(掘立柱建物1棟)、7世紀初頭から前半の竪穴住居・4棟・掘立柱建物1棟、6世紀前半の竪穴住居2棟(加1棟)、5世紀後半の竪穴住居2棟となる。各遺構は地山との識別が困難で、特に竪穴住居の古い時期のものは竈や床面の灰層を手懸かりに確認された場合が多く、竪穴掘込みの輪郭すら明瞭でないものもあった。竈は6世紀以降の竪穴住居では具備しているが、5世紀の竪穴住居では不明である。また7世紀の竈にはその廃絶時に土器が意図的に埋置されていた。

遺物は土器類30箱で、他に玉類・土錘・滑石製紡錘車・鉄利器・柱根がある。

**小結** 後背湿地性土壌の中・下位は5世紀後半以前の暫時的堆積であるのに対し、上位は堆積に間断がある。湿地の後退時に遺構が形成され、進出時に遺構が消失し土壌が形成されるといふ、湿地と陸地の一進一退の汀に調査地は位置していた。この様な一見劣悪とも思われる自然条件下にかたくなまでに居住地を求める当時の住居地選定意識を知り得た。



全 景 (西から)

(梅川光隆・木下保明)

## 35 第84次調査

**経過** 調査地は鳥羽離宮東殿の推定地及び鳥羽遺跡にあたり、1981年に実施した第71次調査の南東部に隣接している。更に南側では第77次調査を実施している。これらの調査によって、当地区周辺は弥生時代から江戸時代にわたる複合遺跡であることが判明している。今回の調査はこれらの調査結果をふまえ、江戸時代以降の層である地表下約1mまでを重機によって除去し、以後3時期の遺構を順次調査して終了した。

**遺構・遺物** 遺構は土層の堆積状況から、弥生時代・平安時代・鎌倉から室町時代の3時期に大別できる。調査地の土層堆積状況は、地表下約80cmが江戸時代の盛土層、その直下約20cmが江戸時代の遺物包含層で、以下暗灰色砂泥層(30cm)、暗褐色泥砂層(約30cm)、褐色泥砂層(地山)と続いている。

弥生時代の遺構は、褐色泥砂層(地山)の上面で南北方向の溝とそれに直交する2条の溝を検出した。この溝の埋土からは弥生時代中期の土器・磨製石斧・打製石鏃が出土している。平安時代の遺構は、暗褐色泥砂層の上面で、少数の柱穴を検出したにとどまる。遺物は、柱穴及び暗褐色泥砂層から、土師器・須恵器・瓦器・緑釉陶器が出土している。鎌倉から室町時代の遺構は暗褐色砂泥層の上面で、多数の柱穴・土壇・溝を検出したが、建物としてのまともなものは確認できなかった。井戸は、方形の木組と素掘の2基を検出した。遺物は、土師器・瓦器・陶器・輸入陶磁器等が出土している。また、遺構は確認し得なかったものの、暗褐色泥砂層中からは古墳時代の須恵器・土師器が出土している。

**小結** 今回の調査では、主眼であった鳥羽離宮東殿に関連する遺構等は全く検出できなかったが、おおむね第71次及び第77次調査と同様の状況が確認できた。また当地区周辺ではあまり発見例のない古墳時代の遺物が確認されたことは、今後付近での調査を進めて行く上で注意を要することである。

(鈴木廣司・吉崎 伸)



全 景 (弥生時代、北から)

## 36 第85次調査 図版 29

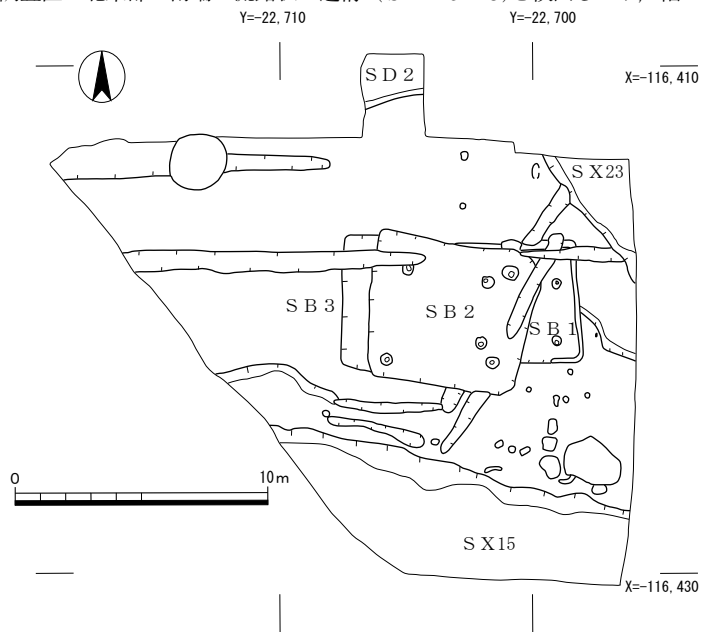
**経過** 調査地は名神高速道路京都南インターチェンジの東側にあたり、近年急速に拡大しつつあるホテル群の一角に位置し、鳥羽離宮田中殿関係の遺構が予想される地区である。近年の発掘調査では、第 72 次・第 76 次・第 79 次調査によって平安時代後期の道路と側溝・建物や庭園が検出されており、遺構と遺物が良好に遺存している地域である。調査地の北側に隣接する第 72 次調査では、「北大路」と推定される道路と側溝が見つかった他、下層で古墳時代の竪穴住居が検出されている。本調査では、第 72 次調査の南側溝の南肩部が未検出であったため、一部拡張した調査区を設定した。

**遺構** 基本的な層序は、造成他の盛土が約 1.2m、耕土層と旧耕土層（5層に分かれる）が 1m、黄灰色砂泥層 50cm、褐灰色砂泥層 10cm、地山の黄褐色微砂層である。黄灰色砂泥層の上面で平安時代、地山面で古墳時代の遺構を検出した。

調査の結果、主要な遺構としては古墳時代後期の竪穴住居と流路、平安時代後期の溝等が検出された。

竪穴住居は重複して 3 棟あり、SB 2 が最も新しい。SB 2 は 1 辺 6m のやや台形を呈する住居で、竈と壁溝の痕跡は認められない。しかし床面の焼けた部分が数箇所あり、移動式竈を用いていた可能性がある。SB 1 は、SB 2 に西半分を壊されているが、一辺 4.8m の方形と思われ、北辺に竈を有している。壁溝は北辺と東辺に認められている。SB 3 も SB 2 に切れ、西辺のみを検出した。一辺の長さは 5m である。調査区の北東部と南端で流路状の遺構（SX 15・23）を検出したが、幅どちらも不明である。SX 23 は北西から南東の方向で、5 世紀末～6 世紀初の遺物が良好な状態で出土した。SX 15 は東西方向である。竪穴住居は SX 15 と SX 23 の流路に挟まれた高所に位置していることになる。

平安時代の遺構は、溝と小規模なピットがある他は、顕著な遺構はみられなかった。溝は「北大路」の南側溝

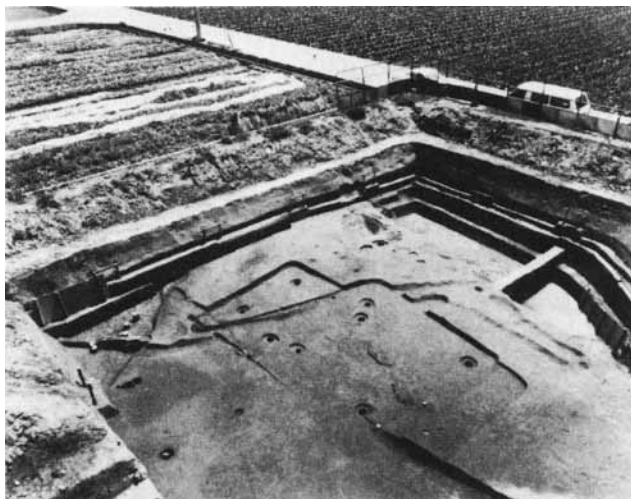


遺構配置図(古墳時代, 1:300)

とそれに沿って東西に5条、その南側で南北方向に一条走る。

鎌倉時代以降は、水田の湿気抜きと考えられる小溝を多数検出した。小溝は南北方向と東西方向がある。

**遺物** 整理箱で37箱出土した。大半が古墳時代の遺物である。古墳時代の土器類には土師器（壺・甕・高杯・製塩土器）と須恵器（杯・蓋・壺・甕・高杯）があり、石製品には剣形石製模



全 景（古墳時代、北西から）

造品・有孔円板・砥石、土製品には紡錘車と土錘がある。剣形石製模造品と有孔円板の材質はいずれも緑色片岩である。土錘は土師質で小形のものと、須恵質でやや大きめのものがある。他に少量ずつではあるが、弥生時代中期に属する壺・甕・高杯と、平安時代の土器類（土師器・須恵器・緑釉陶器）や瓦類が出土している。

**小結** 鳥羽離宮田中殿地区において、古墳時代の竪穴住居は今回の調査までに計16棟が検出されたことになる。調査区域は限定されているが、これまでの調査結果によると、古墳時代の集落は東北から西南へ帯状に広がって立地していることが考えられる。そして住居の検出された標高は、12mから13m付近に納まることが判明している。今後調査が進展するにつれて、集落の範囲は一層明らかになるであろう。

平安時代の鳥羽離宮期に相当する遺構としては、第72調査で検出された「北大路」の南側溝と、その南側で東西溝と南北溝が認められた。しかし、第75次・第79次調査では建物の基壇や園池の遺構が検出されているが、今回の調査ではそれらの痕跡は一切みられず、第76次調査も含めて、「北大路」までの間約80mの部分が空地であったことが想定される。

（前田義明・吉崎 伸）

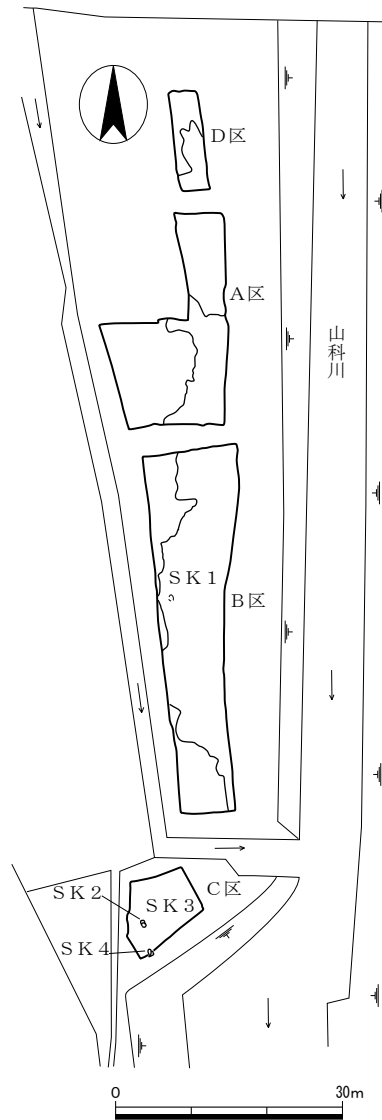


### 37 第51次調査 図版 18・25

**経過** 調査地点は山科川と西接した低位段丘部に位置する。当該地に南接した山科川改修工事部分（現、山科川流路）の発掘調査（23次）では、縄文時代晩期から弥生時代前・中期の土壌・埋甕・方形周溝墓等、弥生時代後期以後の竪穴住居、古墳時代後期の竪穴住居・掘立柱建物等が多数検出された。特に、23次調査地点の最北端にあたる調査区では縄文時代晩期から弥生時代前・中期の遺構群が密集しており、今回の調査区の南端付近にかけてこれらの遺構群が展開していると予測できた。調査対象地は南北約 130m・東西 18～37mある。排土処理等を考慮して、調査区を北からD区・A区・B区・C区に分割して設定した。

**遺構・遺物** 調査区の基本層序はA・B・D区とC区では異なる。A・B・D区ではB区の土層堆積状態が最も特徴的である。その層序の状態に付いてみると上層から近・現代の耕土・床土層、山科川氾濫による砂礫層、中世（鎌倉～室町時代）の耕土・床土層がある。それより下層は黒褐色泥土（古墳時代後期包含層）、暗灰色泥土、暗褐色泥土、黒色泥土（以上縄文時代晩期包含層）、以下無遺物層の黄灰色砂礫層となる。C区では積土及び現耕土・床土層が厚さ 80cm程あり、それより下層に茶褐色砂泥（古墳時代後期包含層）、黒褐色砂泥、灰褐色砂泥（以上縄文時代晩期包含層）、以下無遺物層の淡黄灰色砂泥となる。主な遺構は縄文時代晩期の埋甕をB区で1基、C区で3基、弥生時代前期～中期の自然流路をA・D区で1条、古墳時代後期の溝をA・B区で3条検出した。ここでは埋甕についてのみ、その概略を記すことにする。

SK1 B区で検出した埋甕である。土壌掘形の平面形は南北に長い楕円形で、長径約 80cm（推定）、短径 70cm 検出面から墳底までの深さは 29cmある。埋甕は深鉢形土器を転用し、土壌の中央部に



調査区配置図 (1:1,000)

直立した状態で埋めており、15×20cmの自然石を蓋として使用している。

S K 2 C区の南西寄り中央付近で検出した埋甕である。土壙掘形の平面形は円形を呈し、直径50cm、検出面から壙底までの深さは16cmある。埋甕は胴部下半を打ち欠いた深鉢形土器を転用し、直立した状態で埋めている。なお、土壙は南東の一部がS K 3によって削り取られ、土壙及び埋甕の上部は削平されていた。

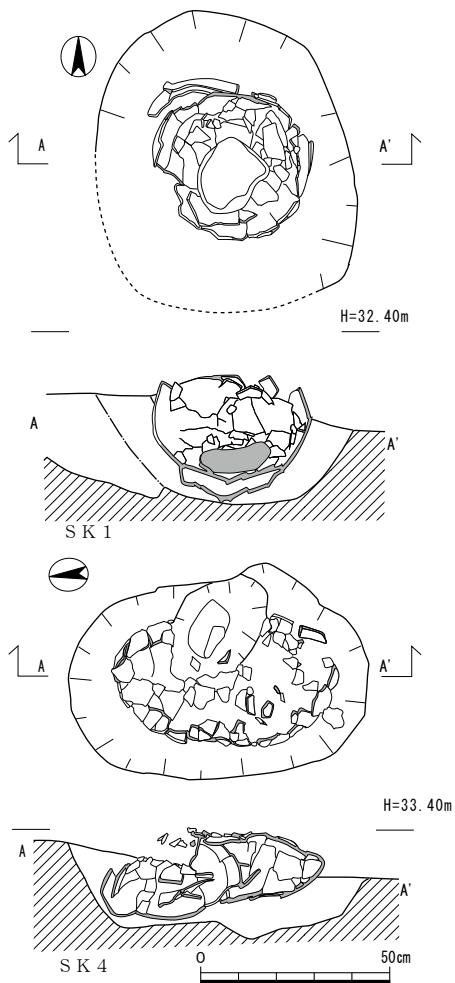
S K 3 S K 2の南東の一部を削り取って掘り窪めた埋甕である。土壙掘形の平面形は不整な円形を呈し、長径60cm、短径57cm、検出面から壙底までの深さは21cmある。埋甕は底部を打ち欠いた深鉢形土器を転用し、口縁部を上にしてやや斜めの状態で埋めている。なお、埋甕の肩部付近の下に10×16cmの方形の自然石が1個あり、埋甕の支えに使用したと考えられる。

S K 4 S K 3の南東で検出した埋甕である。土壙掘形の平面形は楕円形を呈する。長径80cm、短径50cm、検出面から壙底までの深さは23cmである。埋甕は深鉢形土器2個を転用して、合わせ口としている。

遺物は包含層及び遺構から縄文土器、弥生土器、石器、古墳時代～室町時代の土師器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦器などが遺物整理箱で117箱出土した。なお、石器には縄文時代の石鏃・石錘・磨石・石皿・凹石・石剣、弥生時代の石槍・石包丁がある。

**小結** 今回の調査で検出した縄文時代晩期の埋甕は、23次調査で検出した同時期の埋甕と一群をなす。B・C区及び23次調査地点を含めた周辺一帯は、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて展開した墓域であり、中臣遺跡における当該期の様相を復原する上で重要な地域である。なお、周辺の地形を考慮すれば、今回の調査区は墓域の東限と考えられ、西方に墓域の中心が広がっていると推測できる。

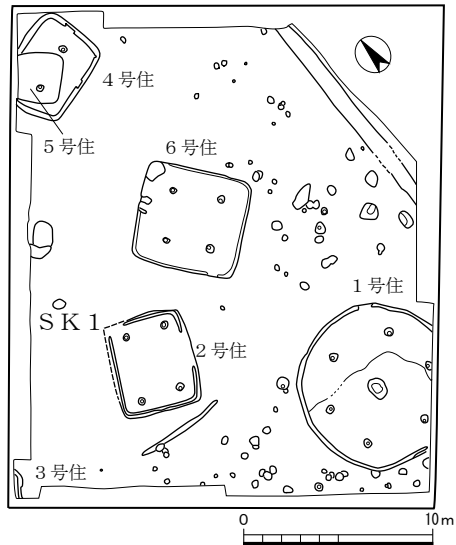
(平方幸雄・前田義明)



S K 1・4 実測図(1:20)

38 第52次調査 図版 19・27

**経過** 調査地点は栗栖野丘陵から旧安祥寺川にかけて形成された低位段丘部のほぼ中に位置する。当該地周辺におけるこれまでの発掘調査は市街化道路及び宅地などに対し昭和 48年度以降、断続的ではあるが、継続して発掘調査を実施している。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居・土壙等、古墳時代後期以後の竪穴住居・掘立柱建物等が多数検出されている。当該地付近には遺構が密に展開しており、今回の調査においても当該期の遺構を多く検出することが予測できた。調査は対象地のほぼ全面にわたって実施した。



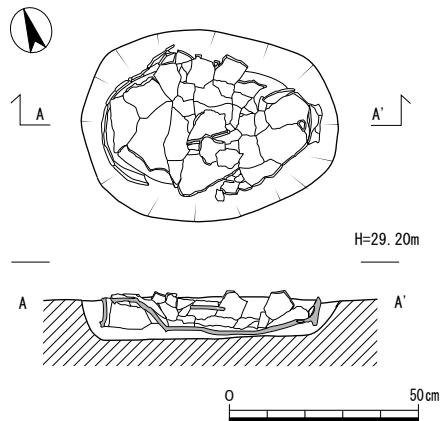
遺構配置図(1:400)

**遺構・遺物** 基本層序は耕土・床土層が 25～50cmあり、その直下が地山となる。遺物包含層は本来的には存在した筈であるが、後世の耕作等によりすべて削平されたとみられ検出しなかった。遺構はすべて地山面で検出したが、遺構の上面もまた同様に削平されていた。検出した主な遺構は縄文時代晩期の埋甕1基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居5戸、古墳時代後期の竪穴住居1戸がある。その他にピット等がある。

縄文時代晩期の埋甕は深鉢形土器2個体を転用している。土壙掘形の平面形は北西—南東に長い楕円形を呈し、長径 68cm、短径 50cmあり、検出面からの深さ 9～11cmある。なお、土壙及び埋甕の上半は削平を受けていた。

弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居平面形は1号住居が円形、2～5号住居は方形を呈する。方形竪穴住居は一辺 2.6m～6.4m、円形竪穴住居は直径 8.5mあり、円形竪穴住居は規模が大きい。方形竪穴住居は主柱穴が0・2・4カ所に配置されているが円形竪穴住居には6カ所に配置される。

遺物は各遺構から土器類が遺物整理箱で 12箱出土した。主な土器を挙げれば、縄文時代晩期の深鉢、弥生時代後期～古墳時代前期の壺・甕・脚台付鉢・高杯



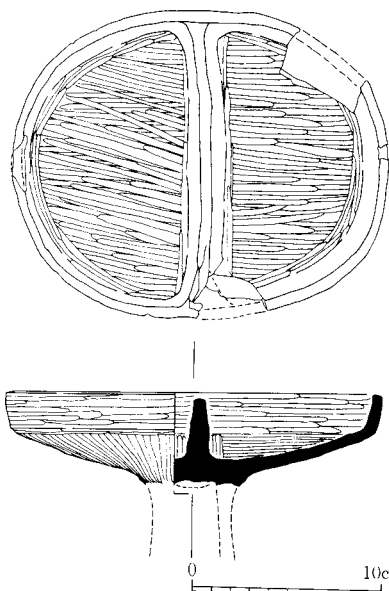
埋甕実測図(1:20)



などがある。

縄文時代晩期の深鉢は突帯文を口縁部外面と肩部に巡らし、突帯上に刻目を付ける。1号住居から出土した高杯の中には杯部の平面形が楕円形を呈し、短径方向の中央に間仕切りを有する特異なものがある。

**小結** 旧安祥寺川に面する低位段丘上では縄文時代の遺構としては、これまで後期の土壌が3次・6次調査で検出されているのみであった。今回の調査で検出した埋甕は晩期の遺構としては初めての検出例である。竪穴住居は今回の調査地点から東・西及び北方にかけて展開する3～5世紀・6～7世紀の集落を構成する一群である。なお、南接する8次調査地点から旧安祥寺川にかけての地域は竪穴住居等の遺構が検出されておらず、また遺跡の中に占める空間的位置からみて、水田等が営まれた場と考えられる。



1号住居址出土高杯実測図 (1:4)

竪穴住居から出土した遺物には、胎土の特徴から河内地方からの搬入品と考えられる一群の土器と、器形・手法等に東海・近江地方の強い影響を受けた一群の土器がある。中臣遺跡のあり方を探る上で興味深い。

(平方幸雄・辻 裕司)

竪穴住居一覧表

住居址	平面形	規模	主柱穴	中央ピット	カマド	備考
1号	円形	8.2m × ?	6箇所	有		○北半に弧状を呈するベッド状高まりあり。 ○焼失住居 ○3世紀
2号	長方形	3.8m × 4.7m	4箇所	無		○壁溝は壁体部から8～16cm中央寄りに巡り、東壁のほぼ中央部で途切れる。 ○焼失住居 ○3～4世紀
3号	方形	5.7m × 6.0m	4箇所	有		○東壁下に方形プランの貯蔵穴がある。 ○3次・35次調査で大部分を調査。 ○焼失住居 ○3～4世紀
4号	長方形	3.4m × 4.4m	2箇所	無		○補助柱とみられる小柱穴が3箇所ある。 ○4世紀
5号	方形	3.2m × ?	無	無		○4号住居址を掘り下げて構築する。 ○壁溝は巡らない。 ○4世紀
6号	方形	5.1m × 5.4m	4箇所		北西壁中央	○北隅に貯蔵穴を有する。 ○壁溝はカマドと貯蔵穴間を除きほぼ全周。 ○6～7世紀

## 39 第53次調査

**経過** 調査地点は栗栖野丘陵西南端付近から緩やかな傾斜を呈しながら、旧安祥寺川に至る低位段丘部のやや丘陵寄りの地点に位置する。当該地周辺の市街化道路及び宅地などに対し昭和 50年度以降、数次の発掘調査を実施し、弥生時代後期以降の竪穴住居・掘立柱建物などを検出している。また、当該地に東接する 41次調査地点では7世紀中頃以降の掘立柱建物及び溝の一部を調査している。今回の調査区にその未調査部分が延長しており、それらに対して調査を行った。調査はほぼ対象地全面にわたって実施した。

**遺構・遺物** 基本層序は現耕土・床土及び旧耕土・床土層が約 50cmあり、調査区の北側約3分の1ではその直下が地山である。それより南側には床土層下に黒褐色砂泥層が約 10～25cm、暗茶灰色泥土層が 20～60cmあり、南西に向って漸次厚く堆積する。なお、暗茶灰色泥土層は粘性を帯びており、湿地を形成する層である。遺構は黒褐色砂泥層上で溝、暗茶灰色泥土層上で掘立柱建物、地山の暗灰褐色砂礫面で竪穴住居を検出した。

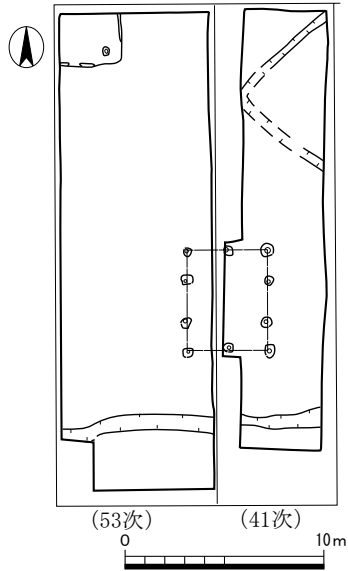
竪穴住居は調査区の北東隅で検出したが、住居の大部分は調査区外にあり、今回は南東の一部を調査したことになる。検出した部分の形状から平面形は方形を呈すると考えられるが、規模は不明である。遺物は南東隅付近の床面から土師器長甕等が出土した。

掘立柱建物は梁行2間（2.0－2.0m）、桁行3間（1.5－2.0－1.5m）である。

溝は幅 50～80cm、深さ 13～23cmあり、東西方向に延長する。溝底は西に向って下がる。

遺物は各遺構及び黒褐色砂泥層（弥生時代後期～古墳時代後期）、暗茶褐色泥土層（弥生時代後期～古墳時代前期）から遺物整理箱で2箱出土した。

**小結** 当該地周辺以西にはこれまでの調査（10次・36次調査）で暗茶褐色泥土層と類似した泥土層ないしは粘土層の堆積が確認されており、湿地が広がっているとみられ水田等生産の場が想定できる。今回の調査で検出した竪穴住居、掘立柱建物等は当該地の東及び南方に密集して展開する同時期の集落を構成する一連の遺構である。



41・53次遺構配置図(1:400)

(平方幸雄・辻 裕司)

## 40 第 54次調査

**経過** 調査地点は山科川と西接した低位段丘部にあつて、51次調査地点から約40m程北に位置する。51次調査の際に縄文時代晩期の遺物包含層を最北端の調査区で検出した。地形及び距離的にみて、当該包含層が今回の調査地点まで広がっていると予測できたため、この包含層の広がりを追求することを調査の主目的とした。調査対象地は東限が山科川、西限が民家で制約された三角形を呈し、西辺で南北約116m、南辺で東西約22mある。排土処理、対象地の形状等、制約を受け対象地全面にわたっては調査していない。調査区は南北に各1ヵ所を設定し、南をI区(14m x 44m)、北をII区(8m x 22m)とした。

**遺構・遺物** 基本層序は積土及び現耕土・床土層が約1.5mあり、それより下層に江戸時代の耕土・床土層が約50cm、室町時代の耕土・床土層が約40cm堆積する。それ以下は山科川の旧河道とみられる赤褐色砂礫層が堆積する。

検出した遺構は室町時代以後の畦畔・溝等がある。遺物はすべて耕土・床土層から出土し縄文土器、室町時代～江戸時代の土師器・須恵器・陶磁器類等が遺物整理箱で2箱ある。なお、室町～現代の耕土層間に礫及び砂層からなる間層が堆積しており、山科川の氾濫を何回かにわたって受けたと考えられる。

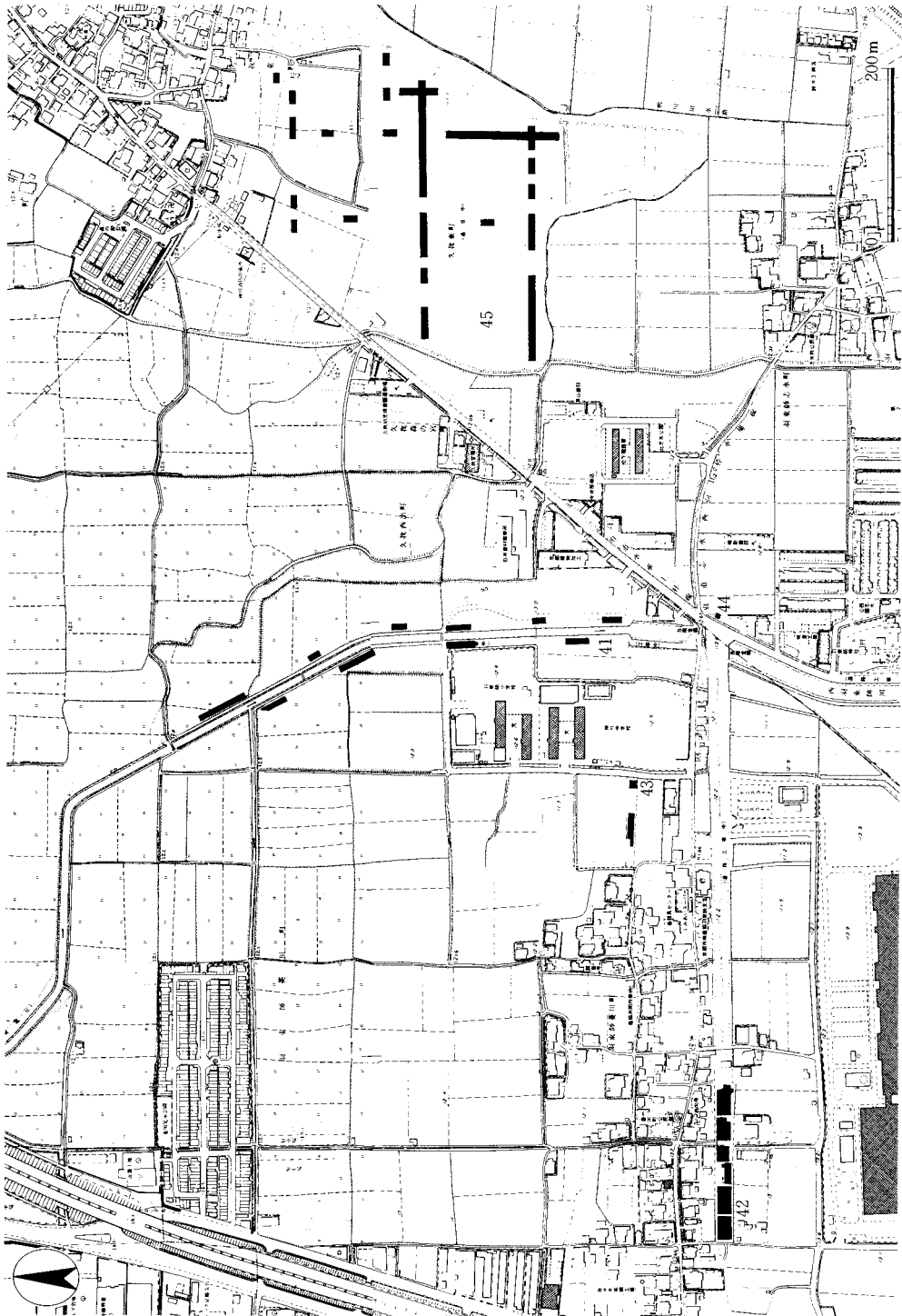
**小結** 今回の調査で主目的とした、縄文時代晩期の遺物包含層は検出できなかった。包含層は今回の調査区に南接する封じ川橋の西側橋脚部分で途切れていることを、調査と並行して行われた山科川改修工事中に観察した。その観察では、包含層が北側(今回の調査地点寄り)で途切れ、南側(51次調査地点寄り)に厚く堆積している。この観察結果と地形等を考慮すれば、包含層は今回の調査区よりも西側に形成されていると予測できる。なお、今回の調査では室町時代以前の遺構はまったく検出できず、山科川(旧流路)によって削平されたと考えられる。



I区全景(北から)

(平方幸雄・辻 裕司)

# VI長岡京跡



調査地位置図 (1:8,000)

## 41 左京三条四坊・四条四坊

**経過** 本調査は西羽東師川河川改修工事に伴う第3次の発掘調査である。調査地は左京三条四坊二・三・五・六町、四条四坊七・八町にあたる。また弥生～古墳時代の羽東師遺跡の範囲内でもある。調査対象地は河川両岸幅約5mで、長さ220mである。調査は対象地内に10ヵ所を設定した。調査の主眼を長岡京の条坊関連遺構及び条里関係遺構の確認とし、その推定地に調査区を設定した。また、同時に下層遺構の確認調査も行った。

**遺構・遺物** 調査の結果、7区で弥生時代の遺構、3・4・7区で長岡京期の遺構を検出した。また、6・8区を除き全調査区で中世の水田暗渠の小溝を多数検出した。6・8区は旧羽東師川流路内にあたり遺構を検出できなかった。

**弥生時代** 7区南部で土壇・溝・柱穴などを検出した。遺構上面は削平を受け、包含層は残存していない。出土した弥生土器には壺・甕・高杯などがある。時期は弥生時代中期（畿内第Ⅳ様式）である。

**長岡京期** 3・4・7区で長岡京期の東西道路を検出した。遺構上面はいずれも削平を受け、路面上の施設や両側の築地は認められず、両側溝のみを検出したにとどまった。3・4区北部では同一の道路SF2の側溝を検出した。側溝は幅1m、深さ10cmである。両側溝の心々距離は8.3mである。溝埋土は灰色粘土層で遺物は少ない。この両側溝は1979年に調査を行った羽東師小学校内で検出した道路側溝SD1・2に対応するもので、規模も同一である。また7区中央では道路SF1の両側溝を検出した。側溝はいずれも、幅70cm、深さ30cmで、両側溝の心々距離は推定9m、路面幅は8.3mである。埋土は淡灰色粘土層で、土師器皿・杯・甕、須恵器杯・壺・甕などが出土した。

**小結** 弥生時代の遺構は7区のみで検出したが、他の調査区でも弥生土器が出土し、調査地付近に集落跡が存在することも十分考えられる。

長岡京期の条坊関連遺構として、東西方向の道路を2条検出し、条坊復原の上で貴重な成果が得られた。最近の調査例からみるとSF1は二条南第三小路、SF2は三条大路にそれぞれ比定できる。四辻グリーンハウス内で検出した三条第二小路と今回のSF1との距離は約133m、SF1とSF2の距離は約135m、SF2と神川中学校内で検出した三条第一小路との距離は約131mを測り、推定造営単位（1町＝450尺＝133m）からみて若干のばらつきが認められる。

（上村和直・吉川義彦）

## 42 左京四条三坊 図版 20・42 (2～6)

**経過** 昭和 55 年度より継続して実施している都市計画街路に伴う発掘調査である。今年度の調査区は、小字東川原寺及び西川原寺に位置しており、東西約 200m の区間で 5 つの調査区 (O～S 区) を設定し調査を進めた。昨年までの調査では弥生・古墳時代の溝・土壇・竪穴住居と奈良時代の水田、長岡京期の建物・柵列・井戸・土壇等を発見していたが、今年度は新たに平安・鎌倉時代、及び長岡京期直前まで使用されていたと考えられる条里坪境の遺構を認め、地域の変遷を知る上では重要な複合遺跡であることが明らかとなった。しかし、字名の川原寺に直接結びつく様な寺院関係の遺構・遺物は検出されず、今後の問題を残した。また昨年度までの調査区では旧小畑川の氾濫が部分的に認められていたが、今年度の調査区は大部分がこの小畑川の氾濫により削平を受けていた。特に P 区・R 区では全面が砂礫層に覆われており、長岡京期の遺構は検出されず、変って砂礫層上に平安・鎌倉時代の遺構群を検出することができた。

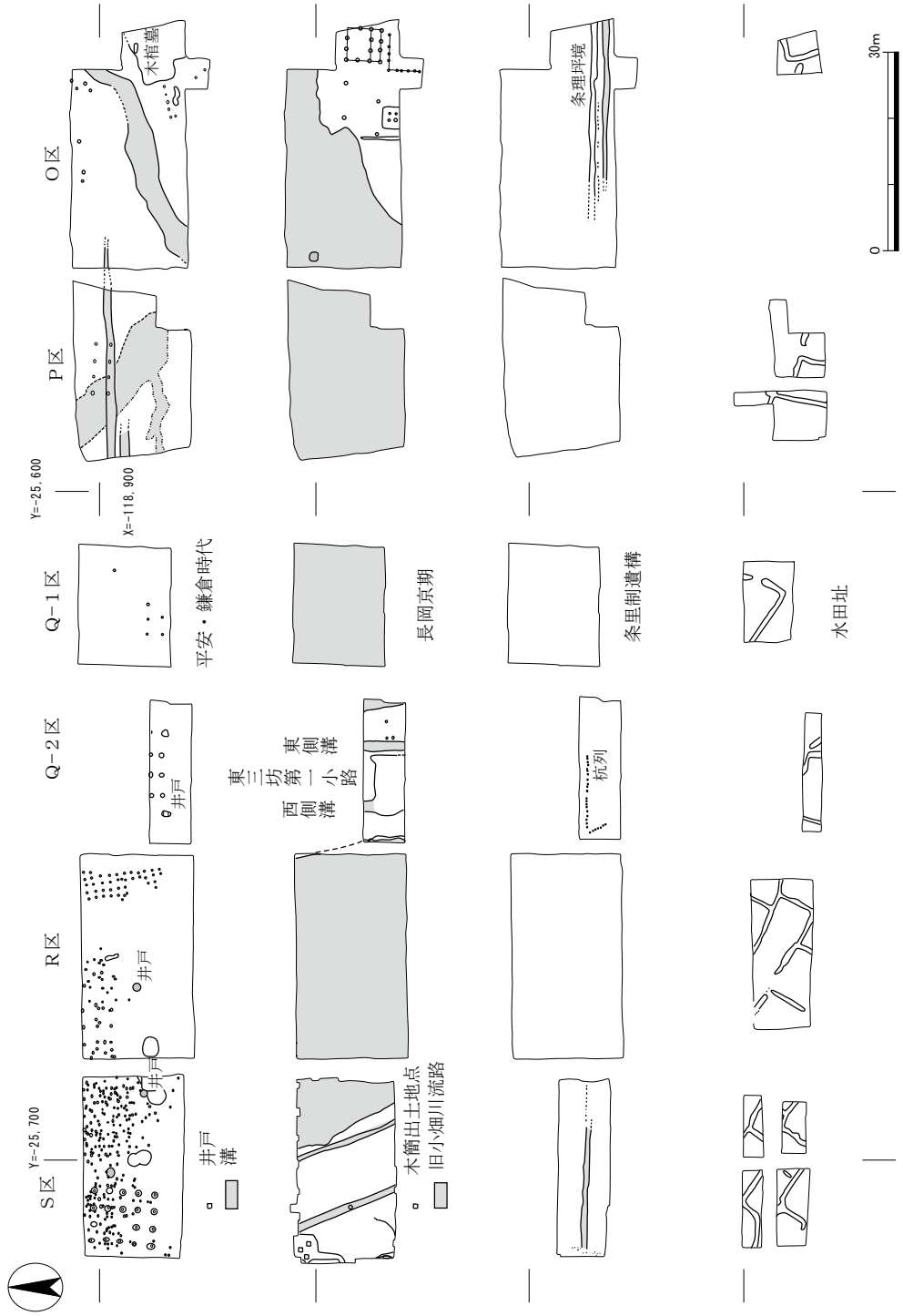
**遺構・遺物** 今年度は遺構の時期が増加したために、以下、時期ごとにその概要を述べる。

平安・鎌倉時代 R 区・S 区を中心として、Q-2 区に一部広がる遺構群を検出した。これらの遺構群は、旧小畑川の氾濫によりもたらされた砂礫層上に展開してみられ、建物・柵列・土壇・溝・井戸などがある。これらの遺構より、土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・瓦器・磁器などが出土している。これらとは別に、O 区では平安時代の木棺墓や土壇・土器溜などを検出している。

**長岡京期** O 区・Q-2 区・R 区において遺構を検出したが、他の調査区においては小畑川の氾濫による削平のため遺構は検出できなかった。長岡京の条坊関係の遺構としては、Q-2 区で東三坊第一小路の両側溝を検出している。この付近の遺構としては、建物・井戸・柵列・溝・土壇などがある。出土遺物としては、土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器などの土器類の他に、木簡・人形・削掛・円形容器・箸などの木製品も出土している。

木簡は 4 点あり、いずれも S 区で出土している。以下釈文を記載する。なお、判読については奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部史料調査室に御教示いただいた。

- 1) ・ 謹啓 □□□□ 長 (171)×幅 (26)×厚 8  
・ □□□□進□銭期□ 019 型式
- 2) ・ □□□使添上郡 (301)× 32× 8  
[付カ] □ □ 081 型式  
□合銭一貫二百文  
・ □□□□右銭限□□
- 3) □□六十二□ (77)× 21× 4



各時代遺構配置図(1:1,000)

〔共カ〕 031型式

4)・刑マ酒力自女 131×18×3

・□□□□□ 051型式

1)～3)は同一遺構から出土しており、1)、2)は同一材の可能性はある。

奈良時代 当時代の遺構は、7世紀頃の水田と、長岡京造営前の条里坪境の遺構とに分けることができる。条里坪境の遺構はO区、Q-2区、S区で検出しており、O区の幅約60cm、高さ30cmを測る畦畔状の部分と、Q-2区、S区の杭列のみ検出した部分に分かれる。水田は各調査区で検出しているが、畦畔の方向はほぼ北西から南東に至るものの一定ではない。また、この畦畔の振れも、昨年度までのN区以東の振れとは異なっている。

弥生・古墳時代 当時代の遺構は緑灰色粘土上面にみられる。この粘土層は標高9m前後で広範囲にみられ、当地一帯の基盤をなす。今年度検出した遺構はすべて自然の状態で形成されたとみられる流路及び落ち込み状の遺構であり、出土遺物も小片のみで、須恵器などは出土していない。流路はS区で北西から南東に走る2本を検出した。

**小結** 3年を経過した当調査は、初め長岡京関係の遺構を主目的に調査を開始したが、調査の進展と共に、弥生・古墳・奈良時代の各遺構も存在することが明らかとなり、当地一帯が市内でも屈指の大規模な複合遺跡であることが判ってきた。各時期ごとに各々の課題も山積みしており、今後の調査が期待される。



条里坪境 (O区、西から)

(長宗繁一・本 弥八郎)



### 43 左京四条三坊・四坊

**経過** 調査地は伏見区菱川町 49 番地に所在する水田で、ここに住宅が建設されることになり、昭和 58 年 2 月 20 日から 3 月 23 日にかけて発掘調査を実施した。敷地面積は約 1700m<sup>2</sup>あるが、調査面積はこのうちの 450m<sup>2</sup>であった。

調査の結果、古墳時代と長岡京期の各遺構を検出し、各々の時期の遺物が出土した。古墳時代の遺構には溝 6 条があり、長岡京期の遺構には建物 1 棟、柵 2 列、土壇 1 基、柱穴多数がある。特に、長岡京期に属する溝 2 条は長岡京東三坊大路の東・西側溝と考えられるものである。出土した遺物は、縄文時代、弥生時代、古墳時代、長岡京期、その他の時期のものがあり、整理箱で 8 箱を数えた。

**遺構・遺物** 古墳時代の溝 6 条のうち、遺物がまともって出土した溝には、S D 40・S D 63・S D 64・S D 67がある。

S D 64は幅 10m以上と考えられ、検出面からの深さは 2.8mを測る。遺物は上層の青灰色粘土層と下層の黄灰色砂層の境界付近に集中しており、古墳時代前期に属する土師器の他に木製品、植物遺体、弥生土器、縄文時代の石匙などが出土した。

S D 40はS D 63を切り込んで成立しており、古墳時代後期の遺物が出土した。

S D 63はV字形の断面を呈する溝で、人工的に開削された可能性が高い。古墳時代前期の土器が出土した。

長岡京期の遺構としては、東三坊大路東・西側溝（S D 27・36）とこれらに伴う柵 2 列（S A 25・37）、建物 1 棟（S B 33）、土壇 1 基（S K 28）などがある。

S D 27は幅 1.4m、深さ 35cm、S D 36は幅 1 m、深さ 30cmを測る。両方の溝からは長岡京期に属する土師器、須恵器、瓦、木製品、銭貨などが出土した。

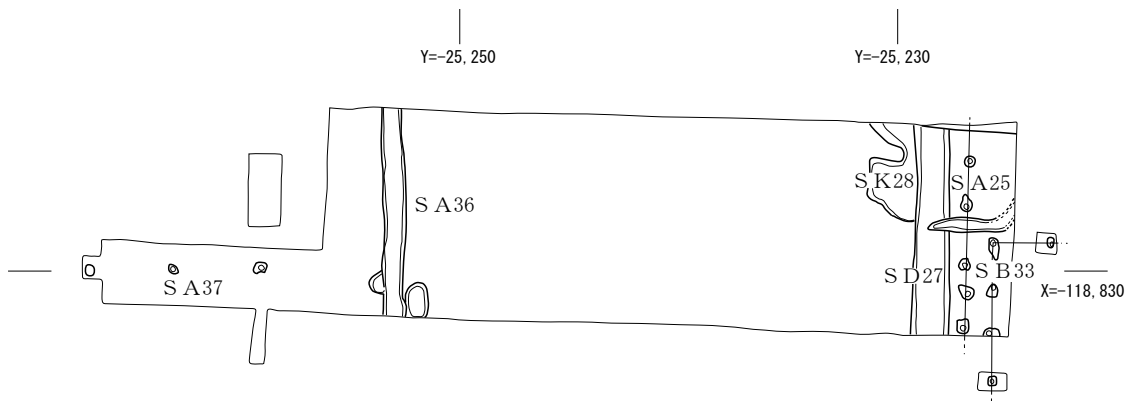
S B 33は南北 3 間、東西 1 間分を検出した。

S A 25はS D 27に伴うとみられる柵列で、南北 4 間分を検出したが柱間は不揃いである。

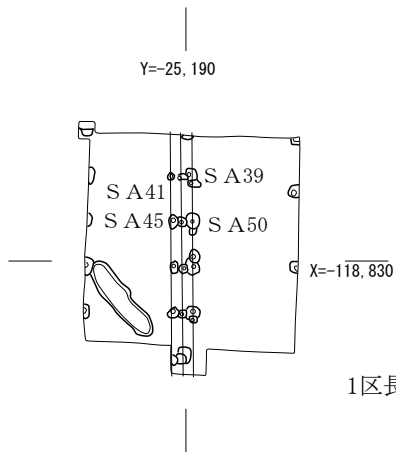
**小結** 今回の調査で得られた第一の成果には、長岡京東三坊大路東・西側溝を検出したことが挙げられる。両側溝の心々距離は約 25mを測り、大路幅 8 丈とする説によく合致する結果となった。更に、東側溝に沿って、築地（S A 25）、建物（S B 33）を検出しており、道路と共に宅地の様相を一部明らかにした点は貴重な成果といえる。

この他、縄文時代の石匙がS D 64から出土したことが注目される。S D 64の肩口は標高 10.5mを測るが、近年桂川右岸地域でも低位置から縄文時代遺物の出土が報告されているので、今回出土した石匙もこれらと共に縄文時代遺跡の立地を再考する上での貴重な一資料となろう。

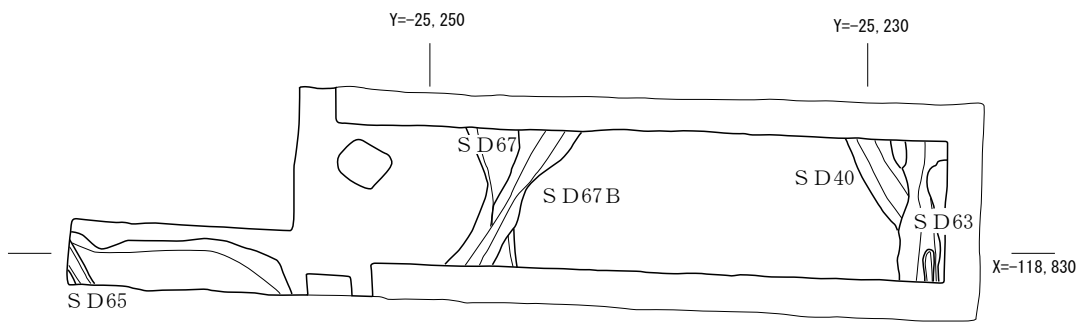
（平田 泰・本弥八郎）



2区長岡京期



1区長岡京期



2区古墳時代



遺構配置図(1:400)

#### 44 左京西条四坊 羽束師遺跡

**経過** 今回の調査は、桂川流域右岸の公共下水道工事に伴う立坑部の発掘調査である。調査区は 7.4 m× 7.6mで、全体の盛土及び耕土層を機械力で除去した後、手掘りで調査を進めた。調査期間は 12 日間であった。

**遺構・遺物** 調査地の基本層序は、現代盛土層（2m）、耕土及び床土層（20～30cm）、黄灰色泥土層（90cm）、灰色泥土層（20～30cm）、緑灰色泥土層（地山）となっている。

第1面は黄灰色泥土層をベースにしており、水田暗渠（湿気抜き）を検出した。出土遺物は江戸時代末期以後のものであった。

第2面は灰色泥土層をベースに成立している。検出した遺構は、北東から南西方向に斜行する溝1条と東西方向の溝2条である。斜行溝からは瓦器片を含む遺物が少量、東西溝のうちの1条からは長岡京期の遺物が少量出土している。

緑灰色泥土層をベースとする最終面では、南北方向の流路を検出した。調査区内では西肩部を確認したのみで、その規模については不明である。流路内からは弥生土器が若干出土したが、時期の限定は困難であった。しかし、周辺の調査結果を参照してみると、弥生末～古墳時代のものではないかと考えられる。

出土遺物は整理箱で2箱と少量であった。土師器・須恵器が大半を占め、他に瓦器・陶器・瓦・漆器・木製品が出土している。ほとんどが小片であり、器形を推定できるものは杯・皿など数個体分に過ぎない。

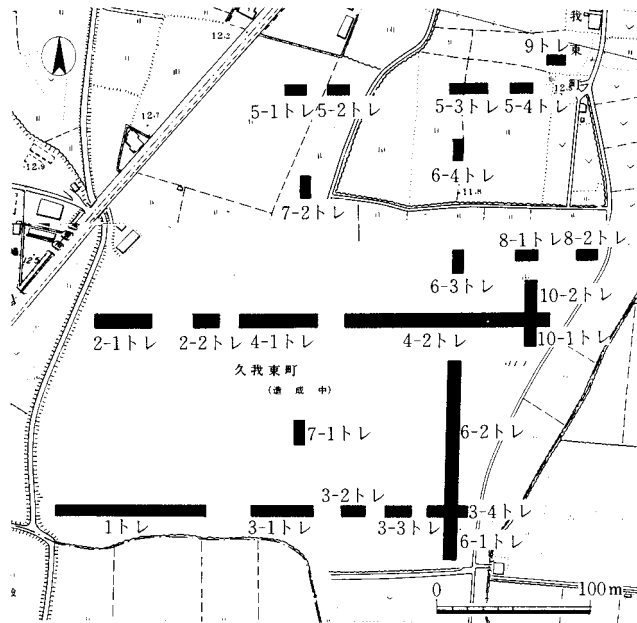
**小結** 長岡京に関連する明確な遺構は検出できなかった。また、羽束師遺跡に関しては流路の方向及びベースとなる緑灰色粘土層の安定性からみて、前年度に実施した公共下水道工事に伴う立会調査の成果同様、調査地の南西部で遺構の検出される可能性が高い。（久世康博）



全 景（北西から）

45 左京四條四坊 他 図版 21

**経過** 調査は敷地面積が広大なため、遺構・遺物の発見が期待される長岡京域を発掘調査とし、これ以東の部分についての遺跡の有無確認を目的として実施した。長岡京についてはほぼ平城京型に近い型で造営されていることが判ってきたが、平安京型の可能性も考慮に入れ、まず敷地西半分に東西方向のトレンチを設定し遺構の発見に努めた。しかし、長岡京に關係する遺構は発見されず、中世の湿地状堆積がみられるのみであった。したがって、この地域での



調査を終了し、敷地東半部の遺跡確認調査に移った。この調査では東西方向に4本、南北方向に3本のトレンチを設定し、3と6トレンチの交差部で13～14世紀の遺構群、4と10トレンチの交差部で12～13世紀の遺構群を発見した。

**遺構・遺物** 検出した遺構には、4と10トレンチ交差部を中心とする12世紀から13世紀にかけての敷地東端部の遺構群と、3・6トレンチ交差部を中心とする13世紀から14世紀にかけての敷地東南部の遺構群とがある。東端部の遺構には、建物・溝・土壙・木棺墓などがある。溝(S D 82)は、2時期にわたる礫敷がみられたが性格は不明である。この溝の西方に建物群・土器溜(S K 73)がみられ、最も西側に木棺墓(S K 42)を検出した。更に南側に溝(S D 7・9)を検出した。東南部の遺構には、建物・大溝・土壙・土壙墓・土器溜などがある。3トレンチの建物群を中心に、北側に土壙墓(S K 134)と焼灰層の堆積がみられる土壙墓(S K 137)更に6トレンチ中央部で長楕円形土壙(S K 133)を検出した。

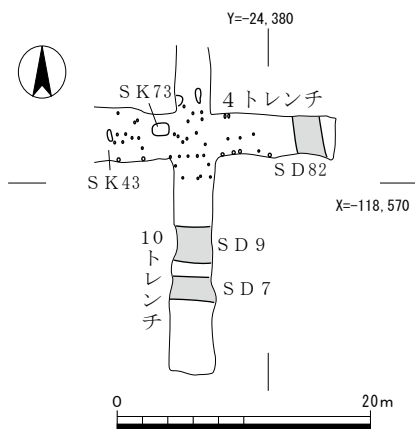
大溝(S D 47)は、北西から南東に走り、幅約6m、深さ約1.5mを測る。堆積土からは、多量の中世土器類が出土した。

遺物は、整理箱80箱を数え、弥生土器片を6トレンチで出土した他は中世の土器が全体の99%を

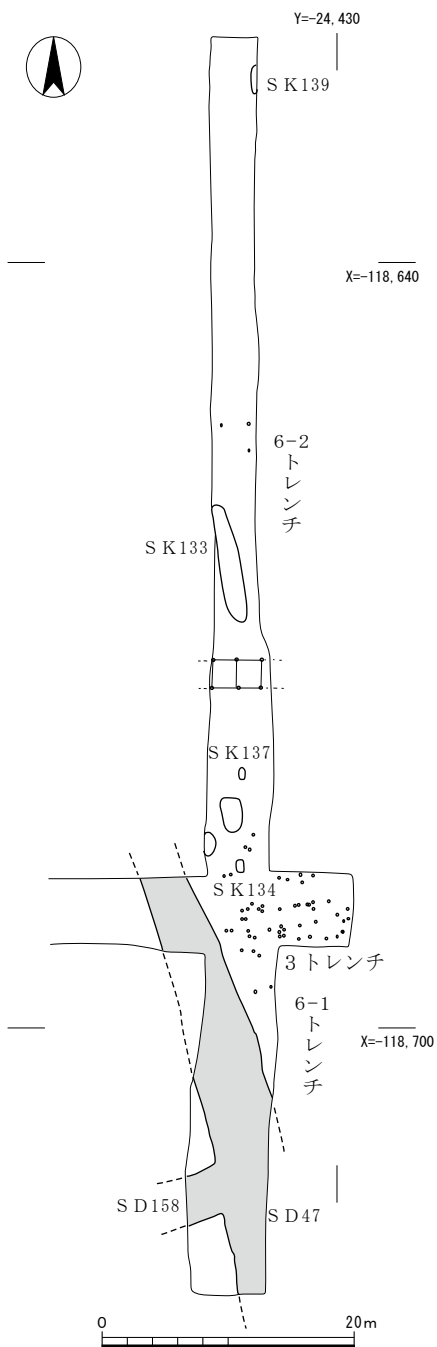
占める。土器類には、土師器（皿）、瓦器（椀・皿・羽釜・鍋・小壺）、陶器（壺・鉢・椀・甕）、磁器（椀・皿）が出土し、瓦器類が最も多い。その他石製品（滑石製鍋・小壺）、銭貨（元豊通寶・元聖元寶・政和通寶・治年元寶・至道元寶・聖宋元寶）がみられた。

**小結** 調査の目的の一つであった長岡京関係の遺構については、中世に形成された湿地状遺構により削平を受け検出されなかった。敷地東半で行った遺跡の有無を知る調査では、当地域で初めて中世の遺構群を検出することができた。この遺構群は遺跡中心部が敷地東方に推定されること、東端部と南東部との遺構群に時期差があることなどが明らかとなった。ちなみに、付近一帯は久我荘に属しており、当遺跡もその荘域内の一集落と考えられる。

（長宗繁一・本 弥八郎・鈴木廣司）



4・10トレンチ遺構配置図 (1:600)



3・6トレンチ遺構配置図 (1:600)

## Ⅶ その他の遺跡

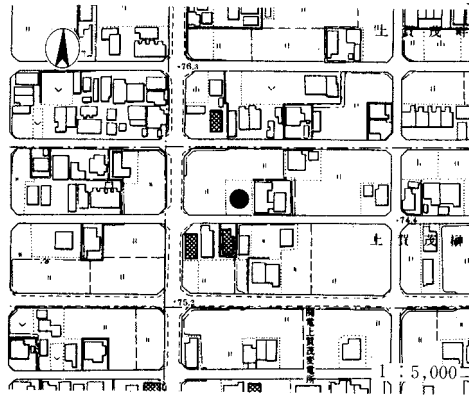
### 46 植物園北遺跡（1）

**経過** 近藤アパート新築工事に伴う発掘調査を実施した。調査対象地約 150㎡のうち排土置場などを配慮して、L字型の調査区（約 100㎡）を設定し調査を進めた。

植物園北遺跡は 1979～81年に公共下水道敷設工事に伴う立会調査によって、弥生末～古墳時代の集落跡と確認された遺跡である。また、この遺跡が立地する鴨川扇状地の北西端には上賀茂神社があり、古代鴨氏との関連で注目される重要な遺跡である。

**遺構・遺物** 層序は、上から盛土層（30cm）、耕土層（20cm）、茶褐色砂泥層である。茶褐色砂泥層は無遺物層である。遺構は調査区の北東で東西に走る道路跡及びび野壺 1 基を検出した。道路跡 S F 1 は 10cm 程の厚さで礫が固く敷きつめられており、規模は幅 5m である。S F 1 は大正 11 年の測量図にみえる深泥池から上賀茂神社へ抜ける道路にあたり、昭和 47 年の区画整理によって廃絶されたものである。この S F 1 は大正 11 年の測量図では条理区画を踏襲するものと読みとれるが今回の調査では路面の成立が近世以前に遡る根拠は見いだせなかった。

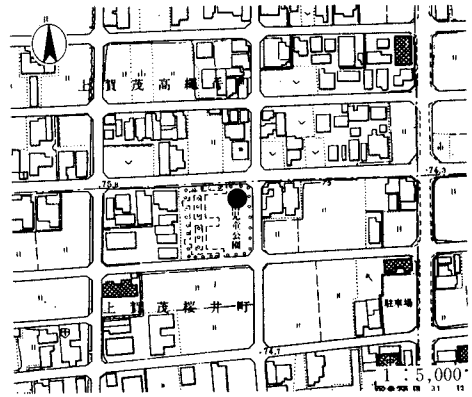
**小結** 今回の調査地は付近の立会調査の成果などから遺構の検出が期待されたが、主に近世以降の著しい削平によって、全く遺構・遺物を検出することはできなかった。なお、条里に関連する溝が過去の調査で数例見つかっているので、今後の調査に際しては事前に資料を検討する必要がある。（家崎孝治）



航空写真（北東から）

## 47 植物園北遺跡（2）

**経過** 京都市消防局により糠田公園内に防火用水槽設置の計画が立てられ、当該地区が植物園北遺跡の範囲内にあたるため発掘調査を実施した。1979年から81年にかけての公共下水道工事に伴う立会調査の結果によれば、調査地は弥生時代末～古墳時代の集落群から若干はずれた地点にあり平安時代～中世の遺構が点在するものと予想された。



**遺構・遺物** 調査他の基本層序は、現代盛土層（60cm）、旧耕土層（20cm）、床土層（10cm）、黄褐色砂泥層（地山）となり、ほぼ水平に堆積している。検出した遺構はすべて黄褐色砂泥層を切って成立していた。調査区内での検出遺構は土壇3基のみであった。土壇内からは、平安時代の土師器・須恵器片を含むものと、青磁片を含むものがあったが、いずれも細かな時期を決定することはできなかった。出土遺物はいずれも小片で、器形を復元できる様なものは出土していない。

**小結** 今回の調査では特筆すべき遺構は検出されなかった。植物園北遺跡は近年の都市再開発に伴う立会調査を契機として発見された遺跡であり、発掘調査による明確な遺跡確認は、その広大な面積に比してほとんど行われていないのが実情である。その意味でも、今回の調査はこの遺跡の内容を解明する端緒とも言える発掘調査にあたり、遺跡全体の様相を明らかにするには、なお長い年月が必要であろうが、特に当遺跡ではこうした小規模な発掘調査も、その一つ一つが重要な資料の蓄積となり得るのである。



（久世康博）

全 景（北から）

#### 48 北野廃寺 図版 22・35・36

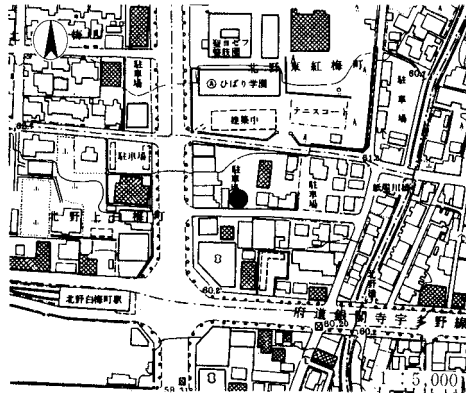
**経過** この調査は、北区上白梅町のビル新築工事に先立って実施されたものである。調査地は、推定北野廃寺寺域の北東に位置し、従来の調査地北側と南側の発掘では、飛鳥時代から室町時代までの各時期に及ぶ遺構・遺物が確認されている。そのため調査地内でもこれらに関連する遺構の存在が予想された。

調査は、工事範囲を対象として東西 15.5m、南北 10.5mの長方形の調査区を設定した。

**遺構** 調査区内の基本土層は、近世以降の盛土層（厚さ 50～70cm）、第1層極暗赤褐色砂泥層（厚さ 15cm）、第2層極暗赤褐色砂泥層（厚さ 10～25cm）、第3層赤黒色砂泥層（厚さ 10～15cm）、第4層黒褐色砂泥層（厚さ 20cm）、第5層黄褐色砂泥層となり、第4層以下は遺物の出土が認められなかった。飛鳥時代から平安時代までの遺構は、第4層上面から検出したが、室町時代の遺構は今調査区内では確認できなかった。

奈良時代以前の遺構には、南北溝・土壇などがある。溝（S D 25）は、調査区の東寄りで見出したもので、幅 2～25m、深さは 90cmの素掘りの溝で、その方位は約N 4°20'Eである。溝の最下部には、厚く褐色砂礫の堆積が認められ、飛鳥時代の土器と共に、有稜素弁八葉蓮華文軒丸瓦が出土した。土壇は、いずれも 2.5m前後の不定形で、深さ 30cmと浅い。西北部の土壇から奈良時代前半の土器と複弁蓮華文軒丸瓦が完形で出土した。

平安時代の遺構には、建物2棟・柵列状遺構2条・土壇状遺構などがある。まず建物遺構には、調査区西南部で確認した桁行3間以上・梁行1間以上の掘立柱建物（S B 29）がある。柱間寸法は、桁行が東端から2間分 6尺8寸等間で、3間目が 8尺5寸と広くなり、梁行は 8尺である。建物の方位はN 3°Wである。遺構の重複及び柱穴出土遺物からその廃絶時期は平安時代前期末と考えられる。次いで調査区東端部で柱間1間分だけを確認した基壇を有する建物（S B 28）がある。基壇の外装施設は認められなかったが、基壇の端に一様に径 20cmほどの河原石が散乱していることから石積みであった可能性がある。建物は掘立柱建物で、柱穴の掘形は一辺 60cm～80cmである。柵列は、西南部の掘立柱建物の側柱列と重複する様な状態で東西方向に認められたS A 27と、それから北へ約 5mほどのところで認められた東西方向の柵列（S A 26）がある。南側の柵列は 8尺等間で、その方位は約N 93°Wであるのに対し、北側柵列は、7尺等間で、その方位はN 90°Wと異なる。土壇は多数認められたが、調査区中央部及び西南部にある土壇（S K 18・15・9・2）は、径 2.5m以上の不定形を



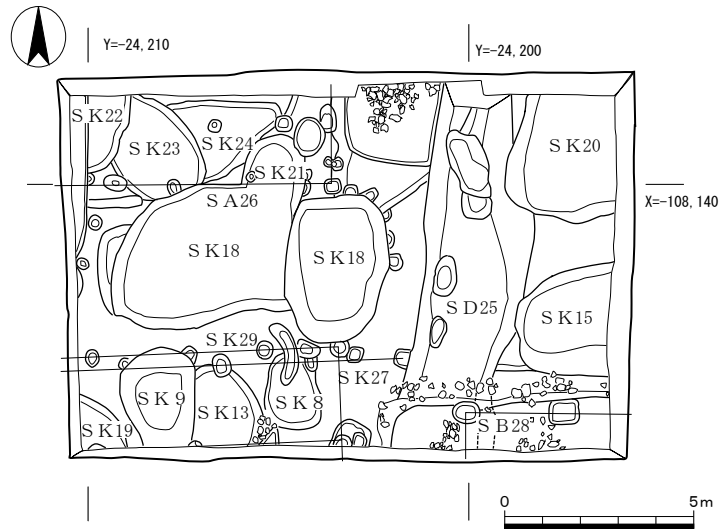


呈する深さ 50cm 前後の大規模土壌で、いずれも多量の土器が出土した。

**遺物** 出土した遺物は、土器類・瓦埴類・鉄製品など整理箱 80 箱ほどである。これらの遺物のうち土器類と瓦埴類が大部分を占める。時期は、飛鳥時代から室町時代まで至るが、平安時代の遺物が半数以上を占める。

土器類のうち、調査区中央部に検出した SK 18・15・9・2 より一括投棄された様な状態で出土したものがある。これらの土壌から出土した土器群は、数量も多く、かつ器種も豊富であり、その年代は平安時代前期末から中期前半に属する。このうち SK 18 からは表裏一面に墨書が認められる方形の土師器皿 B、緑釉陶器鉄鉢形鉢・脚付瓶・壺など特殊な器種が出土している。瓦埴類は、軒丸瓦 7 点・軒平瓦 5 点・埴及び多量の丸・平瓦がある。軒丸瓦には、有稜素弁八葉蓮華文軒丸瓦、周縁に線鋸歯文を配する複弁八葉蓮華文軒丸瓦、細弁蓮華文・単弁蓮華文軒丸瓦など飛鳥時代から平安時代のものが含まれる。軒平瓦は、重郭文・唐草文などがある。

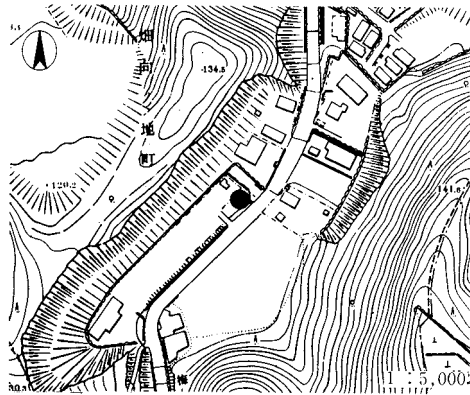
**小結** 調査の結果は予想以上に遺構・遺物についての新しい知見を得ることができた。ここで主要な遺構を、その重複関係及び出土遺物から前後関係を概観すると、飛鳥時代の溝 (SD 25) から SB 29・SA 27、SK 18→SB 28・SA 26、SK 15→SK 2・9 とたどることができる。今回の成果を従来の調査例と対応してみると、N3°W 前後の方位を示す遺構群は、2 次調査の瓦積み基壇、3 次調査の建物群、6 次調査の溝群があり、真北を示す遺構群は西大路通より東側でしか認められていない。一方、飛鳥時代の遺構は、190m ほど南北溝が認められたに過ぎず、今後これらの各遺構群の相互関係を把握する作業が必要であろう。(堀内明博・前田義明)



遺構配置図 (1:200)

#### 49 御堂ヶ池1号墳 図版23・31

**経過** 御堂ヶ池古墳群は昭和38・39年の造成工事で大半が消滅してしまいましたが、その中でこの1号墳だけは保存運動の支えもあって今日までよく残されてきた古墳であった。今回、土地所有権の変更に際して公有化の要望が出され、府・市との協議も進まないまま造成工事に突入したため、やむなく緊急調査を実施した。調査は石室内の精査と石室実測の後、墳丘を断ち割り、石室の移築保存を前提とした石材吊り出し作業を経て終了した。



**遺構** 本古墳の墳丘には過去にも重機が入られており、正確な規模は明らかでないが一応径約30m、高さ5mの円墳とされていた。今回の調査では墳丘を十字に断ち割るトレンチを設定し、石室掘形の規模や墳丘の盛土の具合、側壁石材との対応については明らかにしたものの、墳丘裾部や周溝等については今一つ明確にし得なかった。

本古墳の主体部は南々東に開口する両袖式の横穴式石室で、その概要はすでに報告されている<sup>註</sup>。石室内には平均80cm程の流土が堆積しており、これを3層に分けて掘り下げた。上から第3層までが中・近世の堆積層であり、第3層下が本古墳の床面をなす層であった。この層からは土器・鉄器等の遺物が出土したが、敷石等の施設は認められなかった。床面まで掘り下げた状態での石室の寸法は、石室全長8.3m以上、玄室長3.65m（西では4m）、玄室幅2.7m、玄室高3.7m、羨道長4.55m以上、羨道幅1.5m、羨道高2.4mである。

本古墳の横穴式石室は古墳群の中でも卓越した規模を有し、奥壁最下段や東西の袖石、天井石には特に巨大な石材が用いられている。石材は平らな面を内に向け、持ち送りを持って構築されている。奥壁は3段、玄室側壁は4段積みである。最下段の石材は平坦面を強調するごとく縦積みし、2段目以上は横積みを原則としている。東西の袖石は共に厚みのない石材が立てて用いられており、これが玄室と羨道を厳然と画している。玄室最下段は共に2石からなるが、袖石との間に隙間があり、これを小石で詰めて調整している。使用石材は大半がチャートであったが、他に脈石英・緑色岩類・礫岩が含まれていた。また石材吊り出し時の重量計測によると、最も重い石材は奥壁最下段石（11.5トン）で、以下袖石上の天井石（11トン）、中央の天井石（9トン）、東の袖石と奥壁上の天井石（7トン）、西の袖石（6トン）の順となっており、石室の全重量は約115トンに達することが判明した。

**遺物** 整理箱に17箱ある。須恵器・土師器の土器類の他、馬具・鉄器等の金属製品と主体部に理納されたと思われる石棺・陶棺の破片多数があり、他に平安時代から中・近世の遺物も若干出土している。

各々の内訳は以下のとおりである。

須恵器 杯・蓋・椀・高杯・短頸壺・脚付壺・高台付壺

土師器 杯・高杯・長頸壺

馬具 鞍・鉸具・飾金具・鋌・輪鐙

鉄器 刀子・鏃・釘

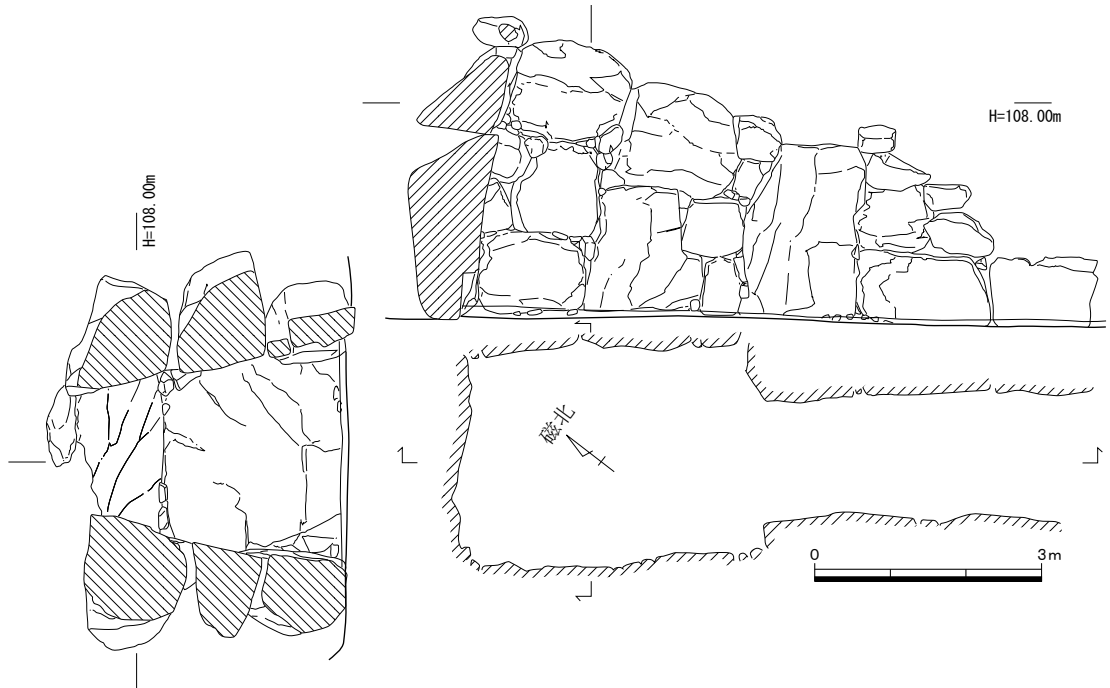
石棺 流紋岩質凝灰岩（竜山石）の組合式家形石棺と思われるものの破片多数。

陶棺 土師質亀甲形で全長2m、高さ1m前後、棺身と棺蓋を別作りした「合口式」。

**小結** 今回の調査によって、本古墳の主体部には家形石棺、土師質陶棺、木棺の最低3棺が埋納されたこと、副葬の土器から6世紀末葉に造営され、その後7世紀前葉にかけて追葬されたことが明らかとなった。家形石棺や馬具の出土は、巨大な横穴式石室の存在と合わせて本古墳の群集墳中における階層的優位性を表現したものと思われ、更に周辺で出土をみない土師質陶棺も埋納されており、本古墳の被葬者を復原する作業上興味深い事実が明らかになった。

（丸川義広・北田栄造）

注 京都大学考古学研究会 『嵯峨野の古墳時代』 1971年



石室実測図(1:100)

## 50 法住寺跡

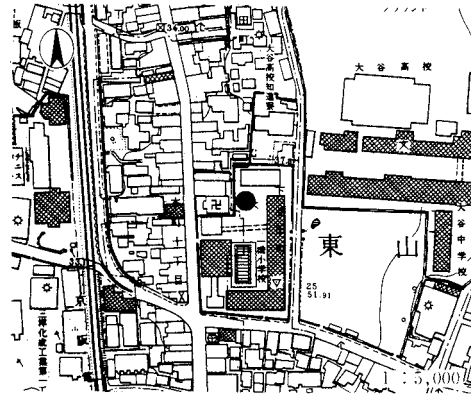
**経過** 調査地は法住寺域に位置する一橋小学校内にあり、ここに給食室が新築されることになったので試掘調査を実施したところ、版築状の基壇が検出されたため発掘調査を実施する運びとなった。調査区の規模は8×11mである。

**遺構・遺物** 調査地の基本層序は、現代盛土層(30cm)、基壇層(90cm)、暗褐色泥砂層(40cm)、黄灰色泥土層(地山)であり、黄灰色泥土層は南から北にかけて急激に落ち込む。

基壇直上で検出した遺構には、土壙・柱穴がある。これらは中世のものであり、土壙のうちの1基は墓壇の可能性もある。柱穴は南北に並ぶが建物か柵列かは不明である。

基壇部は断面観察を行ったところ、版築工法によって造成されたものではなく、南東方向から北西方向に順次埋めたものであることが判明した。また、仕事の内容としては幾つかの工事区を設定していた様で、基壇上の南1/3は砂・礫を主体としており、残余部では粘土を主体としていた。今回の調査では、基壇に伴う礎石・柱穴等は削平のためか検出できなかった。しかし、中央部では基壇を造成するにあたってできたと思われる轍を検出している。これも南東から北西に向っており、10条以上を確認できた。幅は10cm内外で、深さは1～2cm、検出の最大長は3mである。埋土は砂であり、遺物は出土しなかった。車輪の幅等については今後の検討が必要である。

基壇下層では東西2間、南北3間以上の規模を持つ建物の北西部を検出している。柱間は2.3～2.4mであり、方向はかなり東偏している。組み合わせの判らない柱穴もある。



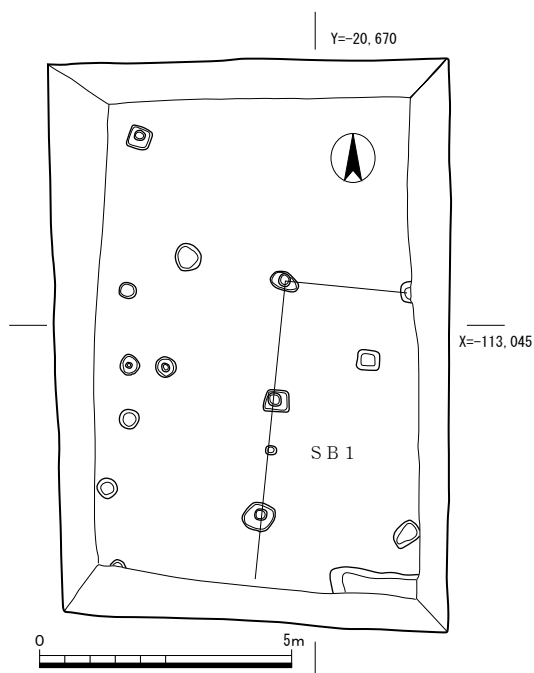
轍(西から)

調査区から出土した遺物は整理箱にして 20箱ある。出土総量の大半を占めるのが土器であり、他に瓦・石製品なども出土している。これらの遺物を時代別にみると、平安時代後期のものが最も多く、弥生時代後期、古墳時代前・中期、室町時代のものも出土している。その他、奈良時代のものも若干あるが、詳細を知るには至らない。平安時代後期の遺物は基壇下層の包含層中より出土したが、遺構には伴っていない。

**小結** 今回の調査で明らかとなった点を挙げると、まず基壇の築成方法がただ単に土砂を低地に埋め立てて整地をしただけのものである点を挙げることができる。しかし、この基壇上にどのような建築物があったのかについては、より多くの検討と調査成果を必要とする。次に基壇下層においても平安時代後期の建物を検出しているが、現段階ではその性格等は不明である。しかし、史料中には「建春門院法住寺御領上棟最勝光院是也、両院臨幸伴也元是故顕長卿母堂之地也、伴堂壞渡他所」『百鍊抄』承安二年（1172）三月三日条という記事があり、この記載事項と出土遺物の年代がほぼ合致するところから、これらは最勝光院と何らかの関連を持った遺構ではないかと考えられるのである。また、別の史料には「今日最勝光院御八講初日也…未斜院自新熊野有臨幸…」『古記』寿永二年（1183）七月八日条とあって、舟で連絡すべき条件を示している。これは、現在の大谷中・高校のグラウンドを中心とした町名及び現地形によっても認められるが、調査地の旧地形とも適合しているので、調査地周辺を法住寺殿の御堂、最勝光院の寺域と考えることが妥当であろう。

更に、最下層で認められた弥生時代末から古墳時代前期にかけての遺物包含層の存在は、先述の旧地形の確認の上からも、調査地の南部から旧一の橋に至る微高地上には何らかの遺跡が存在することを予想されるものといえる。

（久世康博・吉川義彦）



遺構配置図 (1:150)

## 51 伏見城跡（1）

**経過** 京都市消防局の京都府立桃山高校内防火水槽埋設工事に先立ち、発掘調査を実施した。9月8日に防火水槽予定地内に6m×6mのトレンチを設け黄茶色泥砂層上面より調査を始めた。土壌を4基検出、これを掘り終えて調査を終了した。

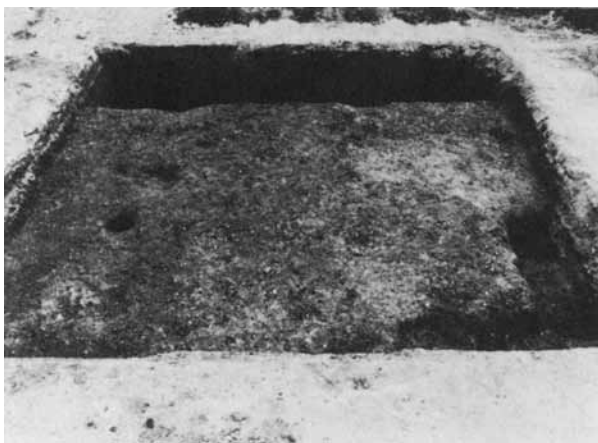
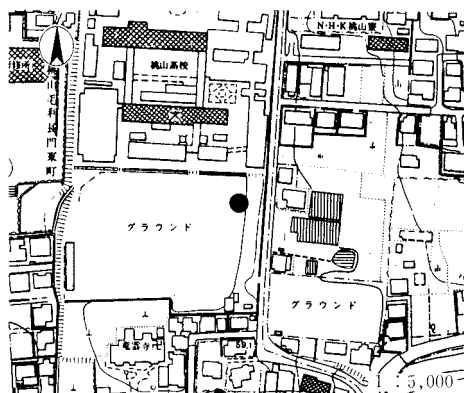
**遺構・遺物** 調査区の基本層序は、学校建設時の整地層（約15～25cm）が堆積し、以下黄茶色泥砂層（約10cm）、黄褐色粘質土層（約10cm）、黄褐色砂礫層が堆積している。黄茶色泥砂層には染付・瓦・ガラス等の遺物が含まれ、黄褐色砂礫層からは遺物の出土は認められなかった。

検出した遺構は桃山時代の土壌3基、江戸時代の土壌1基である。これらは一部切り合いを持ち、黄褐色粘質土層上面より検出している。4基の土壌はいずれも不整形で、深さも約5～20cmである。

今回の調査で出土した遺物は桃山時代から近世のもので整理箱に1箱分ある。江戸時代のものとして平瓦・染付、桃山時代では平瓦・金箔を施した軒平瓦が出土している。

**小結** 今回の調査は面積も狭く、伏見城に関する十分な成果を挙げることはできなかったが、当地周辺の発掘調査、特に同高校内で京都府が行った発掘調査、当研究所がNHK桃山寮で行った調査では建物等良好な遺構・遺物を数多く検出している地域であり、今後共に注目して行く必要がある。

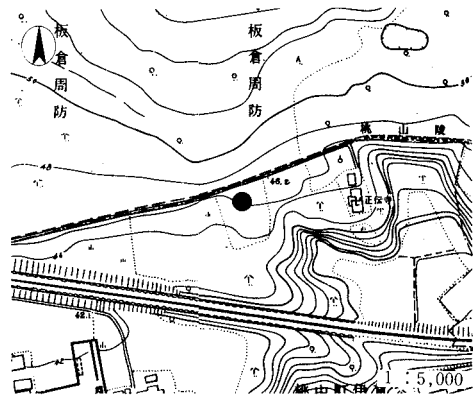
（磯部 勝）



全 景（北から）

## 52 伏見城跡（2） 図版 24 - 1・40

**経過** この調査は、伏見区桃山町伊賀の京都橋女子学園新築工事に先立って実施したものである。調査地は、伏見城大名屋敷の一面に相当し、それに関連する遺構の存在が予想された。まず、学校建設予定地内全域にわたって分布調査を行い、遺物が密に散布している地区が判明したのでこの地区に9箇所のトレンチを設定し試掘調査を実施した。その結果、東西方向の石列等が確認できたの



で、石列遺構が認められた試掘トレンチの東側の地域に調査区を3箇所設置して、発掘調査を実施した。調査区は西から1区・2区・3区とし、各々の規模は1区50m×10m、2区30m×12m、3区5m×8mとしたが、更に調査の進行中に遺構の相互関連の必要から順次拡張して行った。

**遺構** 調査区の基本層序は、表土層（厚さ40～50cm）、暗黄灰色砂泥層（厚さ10cm）、暗褐色砂泥層（厚さ10～25cm）、黒灰色砂泥層（厚さ15cm）、黒灰色混小礫泥砂層（厚さ15cm）、淡黄灰色砂礫層（地山）となる。遺物包含層はいずれも江戸時代以降に属する。2区の东北部には地山上面に茶灰色系の古墳時代から平安時代の遺物を含む包含層が認められた。また、1・2区の南部では、安土・桃山時代の薄い整地層の広がりを確認した。

遺構は、1・2・3区全域で認められ、大部分が安土・桃山時代から江戸時代初期のもので、堀状遺構・溝・建物・柵列・築地状遺構・土塙などがある。これらの遺構は、薄い整地層上面と整地層の下から検出できたものがあり、層位的に上下2群に大別できる。古い時期をA期とし、新しい時期をB期と仮称する。各々の時期の遺構の主軸方向を観察すると、A期はN 14° 25' W前後、B期はN 7° 40' W前後と異なる。

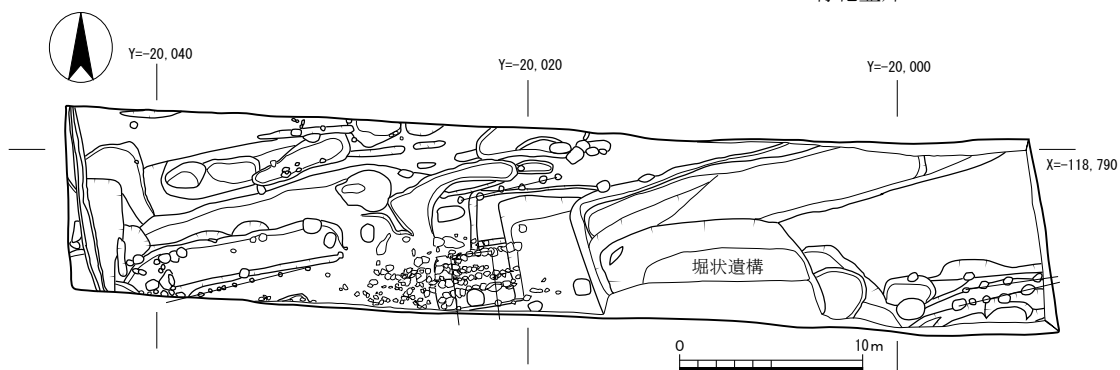
A期の遺構群中最も顕著なものに、1・2区1条ずつ確認した堀状遺構がある。これらは調査区北部で終る幅11m、深さ4mの南北堀状遺構である。このうち1区の遺構には、その北端で幅3mの東西溝状遺構が取り付く。堀間は地山を水平に削平した幅20m、奥行10mの逆台形を呈する平坦面となる。この南端は幅1mの段が付き、1条の柱列がある。次に、2区北端には37mほど確認した幅1m、深さ40cmの逆台形を呈する石組溝がある。溝の北側は、幅9m以上にわたる厚さ30cmの非常にしまった礫を含む整地層があり、何らかの地業の一部と考えられる。一方南側は2.5mほどの所で溝に並行な段があり、西へ徐々に低くなり不明瞭になる。この他A期の遺構には、1区西部の段状遺構や東西柵列（柱間間隔約1.5m等間）、2区堀状遺構東の南北柵列（柱間間隔約2.5m等間）などがある。

B期になると堀の規模は縮小し、遺構群の様相は一変する。1区の堀状遺構は北端の溝状遺構が埋められ、堀の肩から底まで3度の整地を行っている。整地層間には炭などを多量に含む火災層も認められる。堀底部の整地上面に掘立柱建物1棟が認められた。2区でも堀状遺構は南部を埋め、北西部で逆L字状を呈する浅い窪みとなり、その全面に1区の堀と同様の整地を行っている。整地層上面で2間以上(1.4m等間)の礎石建物を1棟検出した。また、堀間の平坦部は北端から幅6m、厚さ1mほど台形状の盛土をし、北端の段差をなくしている。西南隅には性格不明の一边1mの方形柱礎石が1基認められた。一方、2区北端の東西石組溝は廃絶し、南側の平坦面を1mほど拡張して、その上面に東西方向の掘立柱建物を構築する。建物の東部南端には東西5m前後、南北2.5mの張り出し部が取り付く。これは、その東側に自然石を3段に南北に並べてあることから階段の施設と考えられる。これ以外では、1区西部の整地層及び掘立柱建物、内面が焼けた痕跡のある円形土壙2基、2区の石組土壙などがある。

遺物 遺物には、瓦・土器・鉄製品・木器・銭貨などがあり、整理箱で747箱出土した。このうち瓦類が715箱と全体の約96%で圧倒的多数を占める。瓦類は、1・2区の堀状遺構から主に出土し、軒丸瓦・軒平瓦・鬼板・鬼瓦・面戸瓦と多量の丸瓦・平瓦がある。軒丸瓦は三巴紋・菊紋・桐紋などで、三巴紋が半数以上を占め、金箔のものが多い。軒平瓦は唐草文・花文など7種以上あり、すべて桐紋で金箔を施す。面戸瓦も、すべて桐紋金箔瓦で数点出土した。土器は、伏見城期の土師器皿・国産陶器・輸入陶磁器が大部分で、古墳時代から平安時代のものも少量ある。国産陶器は、瀬戸・美濃系の皿・天目椀、唐津焼の椀・皿、織部焼、備前焼、丹波焼、信楽焼の播鉢・壺などがあつたが遺構中から伊万里焼の出土はなかった。輸入陶磁器は、大半が明代の青花磁器椀・皿で、わずかに白磁・青磁・交趾三彩・五彩・緑釉などの破片がある。このうち、2区中央部より出土した元末～明初と考えられる青花唐草文獸耳壺の破片は京



青花壺片



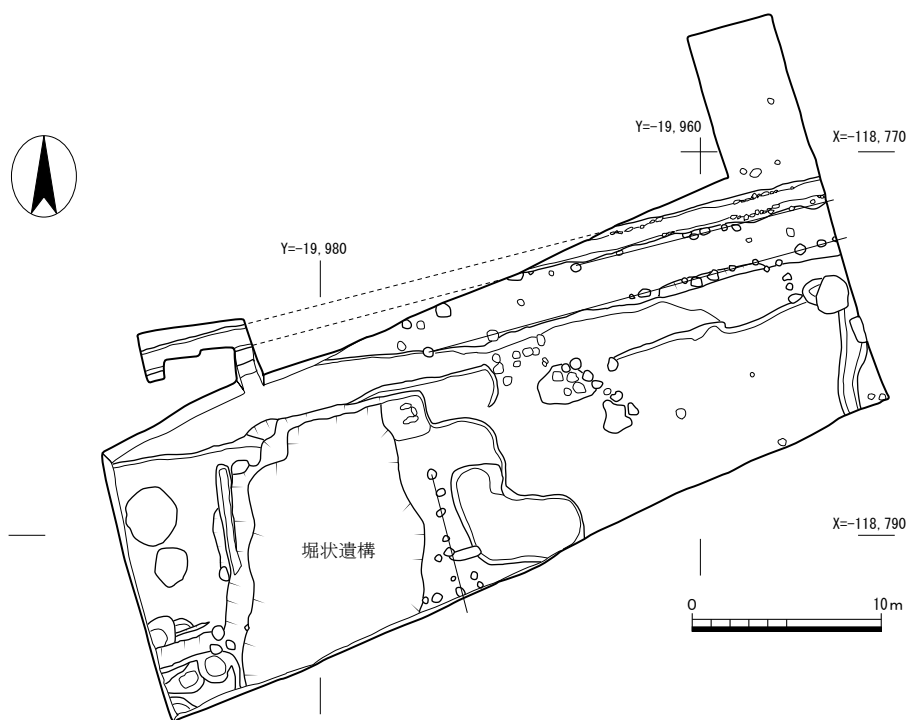
1区遺構配置図(1:400)



都でも出土例がほとんどなく、特記すべきものといえる。

**小結** 今回の調査で検出した遺構群はA・B 2期に大別できる。A期には堀状遺構があり、かつ堀中から多量の金箔瓦や巨大な鬼瓦・鬼板などが出土したことから、付近に重要な建築物があったことが窺える。B期には堀が縮少され、また石組溝を伴う地業のある施設も廃絶されて建物が造られる。A期からB期へとその様相は大きく変化しているが、一方、出土遺物においても陶磁器に関してみると、A期では瀬戸・美濃系の椀皿類が多いのに対しB期では唐津焼がかなり認められ、椀皿類の構成が変化している。以上のようにA・B両期では遺構・遺物についてかなりの相違点が確認できる。これらの時期に関しては、整理が進行していない今即断はできないが、現時点ではB期を関ヶ原以後のものと考えている。

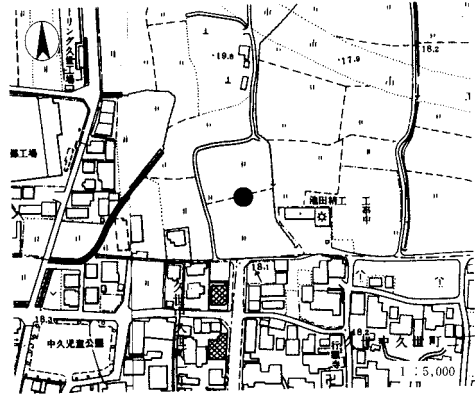
(堀内明博・梅川光隆)



2・3区遺構配置図(1:400)

## 53 上久世遺跡 図版 24-2

**経過** 調査地は桂川右岸の農村地帯にあり、中世庄園村落として著名な上久世庄に属する。東隣の久世西小学校で以前大規模な調査が実施され、中世土豪層の屋敷とそれに隣接する小屋敷が明らかにされている。当地でもこのような遺構の続くことが予想された。南北に細長い街路予定地を対象とし、中久世町との境界を基点に10m単位で南から順に1区・2区・・・12区と地区割りした。



排土の都合上、Ⅰ期（7～10区）、Ⅱ期（3～6区）、Ⅲ期（11・12区）に分割して調査した。1・2区については現土地利用者との兼ね合いで立会調査とした。調査中、悪天候が続いたが調査地の乾燥防止にはかえって好都合となった。後半に入って街路造成工事で重なったがさしたる支障もなく、立会調査もその主旨を達成した。

**遺構・遺物** 9区以南は現耕土層直下ですべての遺構を検出し、それ以北では数枚の旧耕土層（最北部で厚さ約20cm）を除去して検出した。検出層は湖成粘土層でその上部は酸化され黄褐色を呈する。遺構土は淡灰色から暗灰色まで様々な色調があり、水路は検出時には地山よりもわずかに泥性を帯びているだけであった。

遺構は12世紀の水路1条を除き、13世紀後半から14世紀後半に集中している。その主たる時期の遺構は、屋敷跡関係では復原し得た家屋18棟・井戸4基・土塋7基・溝9条・柵1列があり、他に用排水路4条、川1条もある。家屋は7区では南北15mの区域に7棟の重複を確認し、うち6棟については新旧関係を推測し得た。この他4～6区で8棟、8～9区で4棟ほど確認した。井戸は石積の2基はいずれも6区にあり、素掘りの2基は7区と8区に水路を挟んで検出した。土塋は家屋に近接するものは方形、家屋から離れた南方のものは不整形、北の川近くのものには水溜め様と形状・性格を異にする。溝は家屋の雨落ちや屋敷境の性格を持ち、浅くやや蛇行したりする。柵は8区の水路の北肩で1列確認した。用排水路はいずれも1.7～2mの幅でほとんどが東西流する。深いもので1m前後ですべて埋戻されている。川は12区を西南から東北に流れ、一時廃絶したのち近世に再度開削され現在も墓地の東境として残存している。なお、1区南端の立会調査で上久世庄と下久世庄の庄境の水路を2条検出している。

遺物は33箱で、土師器・須恵器・瓦器・陶器・磁器の土器が29箱と圧倒的に多く、木臼・漆椀・シュロ製ロープなどの木製品がこれに次ぎ、小刀・槍身・銀製合子蓋などの金属製品、滑石製鍋・五輪塔などの石製品も若干出土している。以上は遺跡の主要な時期である13世紀後半から14世紀後半

の遺物であるが、他に 12世紀、6世紀、弥生時代の土器も少量ながら出土している。

**小結** 東隣の久世西小学校の調査では曖昧であった屋敷地における家屋の変遷を明らかにした。これは更に検討を要するが、当時の家屋構造を具体的に知る資料として貴重であり、関連史料との照合によって当時の庄園村落を考古学的資料から具体化する手懸かりを得たものと確信している。そして、ここから出土した様々な遺物は、当時の生活を知る資料としてのみ有効なものではなく、広く京都近郊という視野からみた場合、その生活の地域的特色を導き出す素材ともなる。

(梅川光隆・堀内明博)



7区全景（北から）

## 第2章 試掘・立会調査

### I 昭和 57年度の試掘・立会調査概要

**平安宮・京跡** 今年度実施した平安宮・京域の試掘・立会調査件数は、平安宮内 92件（内試掘 16件）、左京 271件（同 30件）、右京 191件（21件）の計 554件である。その内宮内 2件、左京 2件の計 4件については発掘調査に切り換えた。

今年度の調査で得られた主な成果としては、まず平安宮内では、内裏内郭の調査（HQ 40）で平安初期の土器を多量に包含する遺構を検出、また中務省の調査（HQ 51）で平瓦を敷き詰めた遺構を検出し、いずれも遺構の遺存状態が良好なため発掘調査に切り換えた。

内裏内郭回廊の調査（HQ 81）では平安前期の溝 1 条を確認している。次に平安京域の調査で得られた条坊関係の遺構を以下列挙してみると、左京では、三条三坊（HL 44）において烏丸小路西側溝、四条一坊（G 15-18）で四条坊門小路北側溝、五条一坊（G 15-32）及び五条二坊（W 78）で高辻小路北側溝、八条一坊（G 15-15）で壬生大路西側溝、八条二坊（HL 142）で油小路西側溝及び路面を検出している。右京では、二条二坊（HR 81）において西大宮大路に沿って流れる南北の川、三条二坊（HR 30）で西堀川小路の路面と川、四条二坊（G 15-11）及び五条二坊（G 15-28）で道祖大路を南北に貫流する道祖川、八条一坊（G 15-10）及び八条二坊（W 50）で塩小路北側溝、八条二坊（G 15-12）で西靱負小路東側溝、九条一坊（W 39）で九条大路南側溝、皇嘉門大路東側溝、同じく九条一坊（W 19）で針小路北側溝などを検出している。平安京内においては平安京造営以前の遺跡の存在も数多く知られており、今年度の調査においても二、三の新しい知見を得ることができた。右京五条二坊の調査（G 15-1）において弥生時代中期の遺物包含層を検出し、従来より知られていた近辺の集落跡（山ノ内山ノ下町遺跡など）の範囲がより東へ拡がることが明確となった。また九条一坊（W 39）の唐橋遺跡内においては新たに弥生時代後期の流路、古墳時代前期の竪穴住居を検出している。以上の他の成果としては、左京六条二坊の調査（G 15-2）で室町時代後期の本圀寺に關係する堀状遺構を検出している。また右京八条二坊の調査（W 56）で江戸時代後期の木棺墓を検出し、この木棺には梵字と仏名が全面に墨書してあり、稀な出土例である。

**京域外の遺跡** 京域外で実施した試掘・立会調査件数は、試掘調査 62件、立会調査 165件、分布調査 1 件の計 228件である。その内 9 件については発掘調査に切り換えた。

主な調査成果としては、まず仁和寺南院の調査（UZ 5）において池状遺構を検出し、堆積土層中より動物形、人形、物差などの木製品および木簡が出土したことが挙げられる。特に、この物差は一尺（約 31.0cm）の完形品で、平安後期の土器類と共に出土して注目される。蟹ヶ坂瓦窯の分布調査において

は新たに瓦窯1基を確認し、従来より明らかであった窯1基と合わせて2基となり、次年度の発掘調査に展望を与えることになった。北白川上池田町古墳群内の調査（KS 15）では古墳時代後期の合わせ口甕棺墓を検出した。鳥羽離宮の調査（TB 38）では飛鳥時代の遺構を検出し発掘調査に切り換え、離宮以前の当地を知る新たな知見を得た。中久世遺跡（MK 10）では弥生時代中期から古墳時代前期の溝、土壙を、東土川遺跡（NG 9）では弥生時代中期～古墳時代前期の溝、土壙などを検出し、共に集落に直接関係する遺構を確認することができた。中久世・東土川遺跡（W 42）においては弥生時代～古墳時代、弥生時代～平安時代の溝2条、長岡京・東土川遺跡（SW 37）では、縄文時代後期～古墳時代の流路、弥生時代中期の遺物包含層、土壙、長岡京期の遺物包含層を検出した。また大原野の調査（MK・HO）においては、窯自体の検出はできなかったが、多量の緑釉陶器、無釉陶器が出土し、新たな資料を得ることができた。

以上が今年度の試掘・立会調査の概要である。現在、当研究所では、周知の遺跡内における土木工事に際し、道路部・宅地部を問わず試掘・立会調査を実施している。特に古代日本の代表的な都城遺跡平安京は現代の京都市街地と全く重複した条件下にあり、推定される大路・小路の大部分が現有道路部と重なり合っており条坊遺構の検出には、道路部における調査、上下水道、ガス、電信電話、電気などの工事による立会調査が重要な位置を占める。また京域外の調査においても、遺跡の分布、立地、環境および遺存状況を的確に把握する調査法としては、試掘・立会調査は極めて有効な調査手段であり、それはまた将来的に遺跡の研究、調査を進めて行く上で貴重な基礎資料となるものであると考える。

（家崎孝治・加納敬二）

昭和 57 年度試掘・立会調査一覧

番号	遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	m	種 類	調 査 契 機	概 要	担 当 者	本 文 (ペ - ジ)
1	御井跡 (82HK - AH3)	中京区西ノ京車坂 15 - 5 市立朱雀第 6 小学校	'82.9.3	60	試掘	屋内体育館 新築工事	検出なし。	磯部	
2	左馬寮跡 (82HK - AH1)	中京区西ノ京左馬寮町 3 - 1 市立朱雀第 2 小学校	'82.7.14	10	試掘	給食棟 増改築工事	検出なし。	家崎	
3	西雅院跡 (82HK - AH9)	上京区浄福寺通下立売 中務町 491 - 81 市立出水小学校	'82.9.17	25	試掘	給食棟 増改築工事	平安期の土壌検出。	家崎	
4	朝堂院・豊楽院跡 (82HK - D35)	中京区聚楽廻松下町 ～聚楽廻東町	82.6.23 ～ '83.1.21	268	立会	電信電話線 埋設工事	江戸後期の 土壌検出。	家崎	132
5	左馬寮跡・ 右京一条二坊 (82HK - K36)	中京区九太町西大路 ～千本東入ル	82.6.25 ～ '83.5.7	854	立会	高压電気線 埋設工事	平安前期の 土壌検出。	家崎	
6	左京四条一坊 (82HK - G15 - 18)	中京区壬生朱雀町地先～ 壬生四坊大宮町 185 番地先	82.8.9 ～ '82.9.18	487	立会	瓦斯低圧管 入替工事	四条坊門小路 北側溝 (平安前期) 検出。	吉村	136
7	左京五条一坊 (82HK - G15 - 32)	中京区壬生相合町地先～ 下京区大宮通高辻東入ル杉 麩子町地内	83.2.9 ～ '83.2.28	222	立会	瓦斯低圧管 入替工事	高辻小路北側溝 (平安前期)、 鎌倉の包含層検出。	百瀬	137
8	左京五条二坊 (82HK - W78)	下京区高辻通大宮～堀川他	83.3.22 ～ '83.4.20	330	立会	配水管布設 替工事	高辻小路北側溝 (平安前期)、 平安の小穴検出。	吉村	138
9	左京六条一坊 (82HK - HK)	下京区中堂寺命婦町 1 日本専売公社関西支社	83.2.21 ～ '83.3.3	375	試掘	会議所 新築工事	発掘調査 に切り換え。	久世	
10	左京六条二坊 (1) (82HK - W66)	下京区東中筋高辻通～五条通	82.12.21 ～ '83.3.20	626	立会	配水管布設 替工事	江戸期の土壌検出。	百瀬	
11	左京六条二坊 (2) (82HK - AH 8)	下京区醍ヶ井通松原下ル 篠原町 59 市立醒泉小学校	'82.9.11	30	試掘	給食棟 増改築工事	平安期の土壌、 鎌倉～室町期 の土壌検出。	磯部	
12	左京六条二坊・ 七条二坊 (82HK - G15 - 2)	下京区猪熊通五条下ル柿本 町 594 番地先～大宮通花屋 町上ル堀之上町地先	82.6.1 ～ '82.6.29	640	立会	瓦斯低圧管 入替工事	平安期の柱穴、 鎌倉期の井戸、 室町後期の堀検出。	百瀬	139
13	左京六条四坊・七 条四坊 (82HK - G15 - 8)	下京区河原町五条下ル本塩 籠町地内～七条上ル住吉町 地内	82.5.12 ～ '82.9.8	929	立会	瓦斯低圧管 入替工事	江戸期の溝検出。	磯部	
14	左京八条一坊 (1) (82HK - G15 - 15)	南区八条町 457 番地先～ 大黒町 97 番地先	82.7.10 ～ '82.7.31	370	立会	瓦斯低圧管 入替工事	壬生大路西側溝 (平安前期) 検出。	吉村	
15	左京八条一坊 (2) (82HK - AH 2)	下京区観音寺町 3 市立大内小学校	'82.8.26	30	試掘	給食棟 増改築工事	平安期の土壌検出。	磯部	
16	左京八条四坊 (1) (82HK - G15 - 24)	下京区木屋町通七条上ル新 日吉町地内～南区東九条北 河原町 14 番地内	82.11.1 ～ '83.3.31	2724	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	吉村	
17	左京九条三坊 (1) (82HK - G15 - 21)	南区東九条上殿田町地内 ～東山王町地内	82.9.7 ～ '82.9.30	344	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	磯部	
18	左京九条三坊 (2) (82HK - G15 - 33)	南区東九条下殿田町 2 番地 先～西御堂町 40 番地先	82.3.24 ～ '83.3.31	770	立会	瓦斯低圧管 入替工事	鎌倉期の包含層、 江戸期の溝検出。	吉村	
19	右京一条二坊・ 二条二坊 (82HK - G15 - 34)	中京区西ノ京鹿垣町 9 番地 先～上平町 3 番地先	83.3.25～ '83.3.31	489	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	百瀬	
20	右京二条二坊 (82HK - G15 - 23)	中京区西ノ京南西町 54 番地 先～笠殿町 38 番地先	82.9.1 ～ '82.11.24	877	立会	瓦斯低圧管 入替工事	平安～鎌倉期 の流路鎌倉期 の柱穴検出。	百瀬	
21	右京二条四坊 (82HK - G15 - 19)	右京区大泰安井馬塚町地内 ～藤ノ木町地内	82.8.19 ～ '82.9.10	228	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出ない	百瀬	
22	右京四条二坊 (82HK - G15 - 11)	右京区西院上今田町地内 ～東淳和院地内	82.6.4 ～ '82.10.15	1570	立会	瓦斯低圧管 入替工事	平安前期の包含層、 土浦、井戸、平安～ 現代の道祖川検出。	百瀬	144

平安宮・京跡

	番号	遺 跡 名	所 在 地	調 査 期 間	m <sup>2</sup>	種 類	調 査 契 機	概 要	担 当 者	本 文 (ハ'-ジ')
平安宮・京跡	23	右京五条二坊 (82HK - G15 - 3)	右京区西院平町地先～三蔵町 20 番地先	'82.4.1 ～'82.4.24	300	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	百瀬	
	24	右京五条二・三坊 (82HK - G15 - 28)	右京区西院平町 6 番地～ 巽町 5 番地	83.2.1 ～'83.3.31	1187	立会	瓦斯低圧管 入替工事	平安前～中期の土 塚、溝、平安～現代 の道祖川検出。	百瀬	147
	25	右京五条七坊・六条二坊 (82HK - G15 - 1)	右京区西院矢掛町 30 番地内 ～高田町地内	'82.4.13 ～'82.7.13	917	立会	瓦斯低圧管 入替工事	弥生中期の包含層 道祖川流路検出。	百瀬	149
	26	右京六条二坊・七条二坊 (82HK - G15 - 14)	下京区中堂寺栗田町 31 番地 先～西七条東石ヶ坪町 10 番 地先	82.7.16 ～'82.8.26	388	立会	瓦斯低圧管 入替工事	時期不明の流路検 出。	磯部	
	27	右京七条二坊 (82HK - G15 - 6)	下京区西七条掛越町 45 番地 先～北衣田町 36 番地先	'82.5.12 ～'82.6.30	516	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	磯部	
	28	右京八条一坊 (82HK - G15 - 10)	下京区朱雀裏畑町地先～梅 小路本町 33 番地先	82.6.4 ～'82.10.9	2468	立会	瓦斯低圧管 入替工事	塩小路北側溝検出。	吉村	
	29	右京八条二坊 (1) (82HK - G15 - 12)	下京区西七条南衣田町地内 ～七条御所ノ内本町地内	'82.6.18 ～'82.9.6	779	立会	瓦斯低圧管 入替工事	西靱負小路東側溝 (平安前期)、検出。	吉村	151
	30	右京八条二坊 (2) (82HK - W56)	下京区梅小路西中町他	82.10.12 ～ '82.11.20	414	立会	配水管布設 替工事	梅小路北側溝 (平安 前期)、鎌倉期の井 戸、江戸後期の木棺 墓検出。	吉村	152
	31	右京八条二・三坊 (82HK - G15 - 5)	下京区西七条南月読町地先 ～七条御所ノ内本町地先	82.5.10 ～'82.8.25	2417	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	吉村	
	32	右京九条一坊 (1) (82HK - W39)	南区唐橋花園町、高田町、 羅城門町	82.7.20 ～'82.8.28	20 550	試掘 立会	配水管布設 替工事	弥生後期の流路、古 墳前期の竪穴住居、 九条大路側溝、皇嘉 門大路東側溝検出。	百瀬	155
	33	右京九条一坊 (2) (82HK - G15 - 4)	南区唐橋高田町 14 - 8 番地 内～羅城門町 53 番地内	'82.4.24 ～'82.7.28	1362	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	百瀬	
	34	右京九条一坊 (3) (82HK - G15 - 22)	南区唐橋花園町 46 番地先～ 羅城門町 60 番地先	'82.9.3 ～ '82.10.14	279	立会	瓦斯低圧管 入替工事	検出なし。	百瀬	
	35	右京九条一・二坊 (82HK - W19)	南区唐橋井園町、赤金町、 八条源町	'82.5.12 ～'82.5.29	504	立会	配水管布設 替工事	針小路北側溝 (平安前期) 検出。	大矢 吉村	159
京域外の市内遺跡	36	大徳寺境内隣境地 (82U Z - AH 5)	北区紫竹西北町 1 - 3 市立待風小学校	'82.9.30	60	試掘	屋内体育館 新築工事	室町期の土塚検出。	磯部	
	37	散布地 (82UZ - AH 7)	右京区嵯峨新宮町 63 - 2 市立嵯峨中学校	'82.10.7	35	試掘	校舎新築工 事	検出なし。	磯部	
	38	円宗寺跡 (82U Z - G15 - 17)	右京区御室小松野町地先～ 小松野町 18 番地先	82.8.4 ～ '82.10.16	526	立会	瓦斯低圧管 入替工事	時期不明の 流路検出。	磯部	
	39	常盤東ノ町古墳群 常盤伸之町遺跡・ 広隆寺境内 (82U Z - G15 - 20)	右京区常盤西町 17 番地先～ 太秦蜂ヶ岡町 9 - 17 番地先	'82.8.19 ～'82.8.28 '83.1.17 ～'83.1.31	320	立会	瓦斯低圧管 入替工事	江戸期の溝検出。	百瀬	
	40	蟹ヶ坂瓦窯跡 (82RH - NG 1)	北区西賀茂円峰 市立鴨川中学校	82.12.25 ～'83.1.10	20000	分布	造成工事	白風期の瓦窯検出 発掘調査に切り換 え。	家崎 久世	
	41	大深町古窯跡群 (82RH - SW20)	北区西賀茂大深町、今泉町	'82.4.23 ～'82.7.27	343	立会	公共下水道 工事	平安中期、室町期 の包含層検出。	家崎 百瀬	161
	42	紫野斎院跡隣接地 (82RH - AH10)	上京区堀川通寺之内上ル 2 丁目下天神 650 - 1 市立成逸小学校	82.10.15	30	試掘	給食棟増改 築工事	室町期の土塚検出。	磯部	
	43	法住寺殿跡 (82RT - AH6)	東山区本町通 10 丁目東入下 池田町 527 市立一橋小学校	82.10.5	25	試掘	給食棟増改 築工事	平安後期の建物基 礎検出。	磯部	
	44	白河街区・京大構内遺跡 (82K S - W62)	左京区吉田中阿達町、 吉田下阿達町、吉田橋町、 吉田井、宮町	82.11.9 ～'82.12.7	665	立会	配水管布設 替工事	旧白河道検出。	百瀬	163
	45	白河街区 (82KS - G15 - Z)	左京区吉田近衛町 26 - 6 番 地 ～聖護院西町 12 番地	82.12.1 ～ '82.12.17	324	立会	瓦斯低圧管 入替工事	鎌倉期の包含層、土 埃検出。	百瀬	

	番号	遺 跡 名	所 在 地	調査期間	m <sup>2</sup>	種類	調査契機	概 要	担当者	本文 (A'-J')
京 域 外 の 市 内 遺 跡	46	法住寺殿・法性寺跡 (82RT - G15 - 7)	東山区東大路通七条下ル 三十三間堂廻り 644-2 番 地先～本町十五丁目 11 番地 先	82.5.14 ～'82.8.23	1769	立会	瓦斯低圧管 入替工事	江戸後期の土埃検 出。	磯部	
	47	鳥辺野 (82RT - G15 - 31)	東山区清閑寺池田町地先	'83.12.6 ～'83.1.19	183	立会	瓦斯低圧管 新設工事	時期不明の路面検 出。	百瀬	
	48	六波羅政庁跡 (82RT - W63)	東山区大和大路通、五条通 ～七条通他	82.11.15 ～'83.3.4	1462	立会	配水管布設 替工事	鎌倉期の溝検出。	吉村	165
	49	国立京都病院構内遺跡 (82FD - ZZ II)	伏見区深草向畑町 1-1 国立京都病院	'82.6.17 ～'82.6.21	80	試掘	病院棟新築 工事	検出なし。	磯部	
	50	伏見城跡 (82FD - G15 - Z5)	伏見区桃山町丹後 33 番地先 ～東町 8 番地先	'82.11.1 ～'83.1.31	651	立会	瓦斯低圧管 入替工事	旧巨椋池の一部検 出。	吉村	
	51	長岡京・旧淀城跡 (82NG - G - 26)	伏見区納所下野地先	'82.11.2 ～'83.1.24	507	立会	瓦斯低圧管 敷設工事	検出なし。	百瀬	
	52	中久世・長岡京・ 東土川遺跡 (82MK - W42)	南区久世中久世町、東土川 町	82.8.26 ～ '82.10.13 '83.3.7 ～'83.4.12	850	立会	配水管布設 替工事	弥生～古墳期の溝 弥生～平安期の溝 検出。	加納	
	53	長岡京・東土川遺跡 (82NG - SW37)	南区久世東土川町	82.8.2 ～ '83.3.31	2833	立会	公共下水道 工事	縄文後～古墳期の 流路、弥生中期の包 含層、土壌、長岡京 期の包含層検出。	加納	168



昭和 57 年度文化庁国庫補助による試掘・立会調査一覧表

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
平安宮跡	中、西ノ京小堀町 2	立	4 / 5	検出なし。		HQ - 1
〃	上、御前通下立売上ル三助町 281-51	立	4 / 6	検出なし。		HQ - 2
〃	上、日暮通丸太町下ル南伊勢屋町 758	立	4 / 13	検出なし。		HQ - 3
〃	上、中立売通松屋町東入新白水丸町 462	立	4 / 13	検出なし。		HQ - 4
〃	上、七本松通仁和寺街道下ル二番町 211-15	立	4 / 13	検出なし。		HQ - 5
〃	上、上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町 517	試	4 / 22	検出なし。		HQ - 6
〃	中、聚楽廻東町 31-8-2	立	4 / 16	盛土のみ。		HQ - 7
〃	上、仁和寺街道千本西入五番町 166	立	4 / 19 ~ 22	検出なし。		HQ - 8
〃	上、裏門通下長者町上ル亀木町 216	立	4 / 22	検出なし。		HQ - 9
〃	上、七本松通下長者町下ル三番町	立	5 / 8	検出なし。		HQ - 10
〃	上、下立売通浄福寺東入下丸屋町 498-1	立	5 / 12	表土下 1.0m にて平安前期 ～中期の土壌。		HQ - 11
〃	上、千本通竹屋町下ル東入主税町 803-6	立	5 / 12	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 12
〃	上、日暮通下立売上ル天秤町地先	立	5 / 17	検出なし。		HQ - 13
〃	上、六軒町通仁和寺街道上ル四番町 126-7	立	5 / 25 ・26	表土下 0.5m にて 江戸後期の土壌 1。		HQ - 14
〃	上、下立売通御前東入西東町 356	立	5 / 26	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 15
〃	上、丸太町通知恵光院東入西院町 924	立	6 / 1	検出なし。		HQ - 16
〃	上、六軒町通下長者町下ル西入利生町 294-97	立	6 / 2	埋土のみ。		HQ - 17
〃	上、出水通日暮西入金馬場町 175	立	6 / 4	検出なし。		HQ - 18
〃	中、聚楽廻西町 186-88	立	6 / 15	検出なし。		HQ - 19
〃	中、聚楽廻中町 49-17	立	6 / 16	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 20
〃	上、千本通中立売上ル西中筋町 17	立	6 / 16	検出なし。		HQ - 21
〃	中、聚楽廻中町 39	立	7 / 2	検出なし。		HQ - 22
〃	中、西ノ京内畑町 18-2	立	6 / 24	検出なし。		HQ - 23
〃	中、聚楽廻西町 64-18	立	6 / 26	検出なし。		HQ - 24
〃	上、松屋町通下立売上ル浮田町 608-2	立	6 / 28	検出なし。		HQ - 25
〃	上、千本通仁和寺街道仲御霊町 77	立	6 / 29 ～ 7 / 1	表土下 1.3m にて室町の包含層。		HQ - 26
〃	上、仁和寺街道七本松西入上ル二番町 194	立	7 / 1	検出なし。		HQ - 27
〃	上、下長者町通松屋町東辰巳町 117-1	立	7 / 6	盛土のみ。		HQ - 28
〃	中、聚楽廻西町 181	試	7 / 8・9	検出なし。		HQ - 29
〃	中、西ノ京右馬寮町 10-8	試	7 / 12	検出なし。		HQ - 30
〃	上、千本通下立売下ル小山町 908-94	立	7 / 15	盛土のみ。		HQ - 31
〃	上、日暮通出水下ル天秤町 580	立	7 / 15	検出なし。		HQ - 32
〃	上、日暮通出水下ル天秤町 583-1・2	立	7 / 16	盛土のみ。		HQ - 33
〃	上、日暮通下立売上ル天秤町 581-5	立	7 / 20	盛土のみ。		HQ - 34
〃	上、日暮通下立売上ル天秤町 581-6	立	7 / 29	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 35
〃	上、裏門通上長者町下ル亀木町 220-3	立	7 / 23	盛土のみ。		HQ - 36
〃	上、出水通智恵光院西入田村備前町 217-3	立	7 / 27	盛土のみ。		HQ - 37
〃	上、仁和寺街道御前東入鳳瑞町 224	立	7 / 27	検出なし。		HQ - 38
〃	中、西ノ京右馬寮町 13	立	7 / 31	盛土のみ。		HQ - 39
〃	上、千本通下立売下ル小山町 908-11	立	8 / 3	表土下 0.15m にて平安前期の 土壌 2。発掘調査に切り換える。		HQ - 40
〃	上、裏門通下長者町上ル亀木町 216	立	8 / 7	盛土のみ。		HQ - 41
〃	上、竹屋町通千本東入主税町地先	立	8 / 7・9	盛土のみ。		HQ - 42
〃	上、竹屋町通千本東入主税町 827-10	立	8 / 13	検出なし。		HQ - 43
〃	上、出水通松屋町西入西天秤町 152-1	立	8 / 21	盛土のみ。		HQ - 44
〃	中、西ノ京左馬寮町 3-1 (朱雀第二小学校)	立	8 / 21	検出なし。		HQ - 45
〃	中、西ノ京内畑町 14	立	8 / 24	盛土のみ。		HQ - 46
〃	上、下立売通智恵光院西入下丸屋町 492-2	立	8 / 27・30	検出なし。		HQ - 47

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
平安京跡	中、西ノ京車坂町 15 - 5 (朱雀第六小学校)	立	8 / 27	検出なし。		HQ - 48
〃	中、聚楽廻中町 51	立	9 / 2	盛土のみ。		HQ - 49
〃	上、中立売通日暮東入新白水丸町 462 - 99	立	9 / 16	検出なし。		HQ - 50
〃	上、丸太町通浄福寺西入中務町 491 - 81	試	9 / 18	表土下 0.8m にて平安中期の包含層、下層で南北方向に平瓦を敷きつめた遺構を検出。 発掘調査に切り換える。		HQ - 51
〃	中、聚楽廻中町 44	立	9 / 29	盛土のみ。		HQ - 52
〃	上、六軒町通下立売上ル七番町 330 - 9	立	9 / 29	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 53
〃	中、西ノ京右馬寮町 17 - 6	試	9 / 30	表土下 0.95m にて平安の包含層。		HO - 54
〃	上、千本通下立売下ル小山町 908 - 86	立	10 / 6	盛土のみ。		HQ - 55
〃	上、上長者町通浄福寺西入新柳馬場頭町 517	立	10 / 15	盛土のみ。		HQ - 56
〃	上、中立売通六軒町西入三軒町 65 - 41	試・立	10 / 16 ~ 29	表土下 0.7m にて南北方向の平安の溝 1。		HQ - 57
〃	上、仁和寺街道七本松西入上ル一番町 108 - 2	立	3 / 14	盛土のみ。		HQ - 58
〃	上、千本通下立売西入稲葉町 456	立	10 / 23	盛土のみ。		HQ - 59
〃	中、西ノ京小堀町 2	立	11 / 9	検出なし。		HQ - 60
〃	中、聚楽廻東町 7 - 1	立	11 / 11	検出なし。		HQ - 61
〃	上、下長者町通六軒町西入利生町 294 - 67	立	11 / 30	盛土のみ。		HQ - 62
〃	上、下立売通七本松西入西東町 367 - 2	立	12 / 3	盛土のみ。		HQ - 63
〃	上、丸太町通智恵光院東入中務町 486 - 18	試	12 / 13	検出なし。		HQ - 64
〃	上、千本通二条上ル聚楽町 854	試	12 / 14	検出なし。		HQ - 65
〃	中、聚楽廻中町 36 - 1	立	12 / 13	検出なし。		HQ - 66
〃	中、聚楽廻西町 71 - 3、中町 40 - 15	試	12 / 21	検出なし。		HQ - 67
〃	上、出水通土屋町東入東神明町 295	立	1 / 10	盛土のみ。		HQ - 68
〃	上、御前通下立売上ル三助町 281 - 44	立	1 / 17	盛土のみ。		HQ - 69
〃	上、竹屋町通千本東入主税町 1245 ~ 6	立	1 / 27、2 / 14	検出なし。		HQ - 70
〃	中、聚楽廻西町 65	試	1 / 28	検出なし。		HQ - 71
〃	上、土屋町通中立売下ル西富仲町 683	立	1 / 31	盛土のみ。		HQ - 72
〃	上、丸太町通千本東入中務町 491	試	2 / 1	検出なし。		HQ - 73
〃	中、聚楽廻東町 19 - 1	試	2 / 9	検出なし。		HQ - 74
〃	上、下長者町通七本松西入鳳瑞町 241 - 7	立	2 / 12	盛土のみ。		HQ - 75
〃	上、松屋町通丸太町上ル左馬松町 782 - 6	立	2 / 16	表土下 0.9m にて室町の包含層。		HQ - 76
〃	上、千本通二条下ル東入主税町 824 - 4	立	2 / 18	表土下 0.7m にて平安の包含層。		HQ - 77
〃	上、裏門通中立売上ル今新在家町 206 - 11	立	2 / 18	盛土のみ。		HQ - 78
〃	上、七本松通一条下ル一番町	立	2 / 22	検出なし。		HQ - 79
〃	上、中立売通智恵光院東入上ル新白水丸町東組 462	立	12 / 22	盛土のみ。		HQ - 80
〃	上、土屋町通水上上ル東神明町 291 - 1	試	2 / 25 3 / 7 ~ 18	表土下 0.7m にて平安~鎌倉の土壙 20、溝 2。本文 133P。		HQ - 81
〃	上、千本通竹屋町上ル東入南主税町 1197	立	3 / 15	盛土のみ。		HQ - 82
〃	上、千本通竹屋町上ル主税町 1206	立	3 / 15	盛土のみ。		HQ - 83
〃	上、下長者町通七本松西入上ル鳳瑞町 241 - 7	立	3 / 22	盛土のみ。		HQ - 84
〃	上、下長者町通七本松西入鳳瑞町 247 - 1	立	3 / 22	盛土のみ。		HQ - 85
〃	上、下長者町通七本松西入鳳瑞町 247 - 1	立	3 / 22	巡回時工事終了。調査不可能。		HQ - 86
〃	上、下立売通千本東入田中町 453	立	3 / 30	盛土のみ。		HQ - 87

平安京左京

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
五条一坊	中、壬生柳ノ宮町 30	立	4 / 1	盛土のみ。		HL - 1
四条四坊	中、蜻薬師通富小路東入油小路町 141	立	4 / 5	表土下 1.25m にて平安後期~江戸の包含層、土壙 6。		HL - 2

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
三条四坊	中、東洞院通二条下ル瓦之町 373、380	試	4/7・8	表土下 1.46m にて室町の包含層、土壌 2。	HL - 3
六条四坊	下、松原通柳馬場杉屋町 295	立	4/7～9	表土下 1.45m にて室町の路面及び東西方向の溝 1。五条大路及び南側溝に位置する。	HL - 4
四条一坊	中、神泉苑通三条下ル今新在家町 89	立	4/8	表土下 0.63m にて平安後期の包含層、土壌 1。	HL - 5
四条四坊	中、寺町通錦小路下ル東大文字町 300	試	4/9・10	表土下 0.8m にて平安後期～江戸の路面 5。東京極大路に位置する。	HL - 6
五条四坊	下、高倉通仏光寺上ル西前町 377	立	4/9	検出なし。	HL - 7
一条二坊	上、黒門通出水上ル吉野町 697	立	4/9	検出なし。	HL - 8
一条二坊	上、上長者町通霞屋町東入南俣町 336	立	4/10	検出なし。	HL - 9
一条三坊	上、下長者町通新町西入藪之内町 82	立	4/10	検出なし。	HL - 10
七条二坊	下、黒門通五条下ル柿本町 594 - 24	立	4/10	検出なし。	HL - 11
七条一坊	下、北小路通壬生川東入西酢屋町地内	立	4/10・12	検出なし。	HL - 12
四条一坊	中、壬生坊城町 48	立	4/13	検出なし。	HL - 13
一条二坊	上、出水通猪熊東入荒神町 426 - 11	立	4/16・19	検出なし。	HL - 14
七条四坊	下、六条通高倉東入栄町 516	立	4/16	検出なし。	HL - 15
三条二坊	中、二条通西洞院西入西大黒町 340	立	4/17・19	検出なし。	HL - 16
四条四坊	中、柳馬場通六角下ル井筒屋町 405	立	4/20・22・23	表土下 0.95m 以下にて平安後期～室町の包含層、土壌 3。	HL - 17
北辺二坊	上、中立壳通堀川東入橋詰町地先	立	4/20	埋土のみ。	HL - 18
四条四坊	中、柳馬場通錦小路下ル中魚屋町 478	立	4/21	検出なし。	HL - 19
北辺二坊	上、小川通上長者町上ル小川町 187	立	4/21～30	表土下 0.4m 以下にて室町の包含層、土壌。	HL - 20
六条一坊	下、中堂寺鍵田町 12 - 2	立	4/22・24	表土下 0.55m 以下にて平安後期～鎌倉の包含層、土壌群。	HL - 21
九条一坊	南、八条源町、東寺町地内	立	4/22～5/10	表土下 0.5m にて弥生後期の土壌 1。	HL - 22
二条二坊	中、油小路通丸太町下ル大文字町 43 - 3	立	4/26	検出なし。	HL - 23
九条四坊	南、東九条上御霊町 54	立	4/26	表土下 0.6m にて鎌倉の溝。	HL - 24
九条三坊	南、東九条烏丸町 35	立	4/26	表土下 0.5m 以下にて平安～室町の包含層、土壌 3。	HL - 25
四条四坊	中、高倉通六角下ル和久屋町 360	立	4/28	検出なし。	HL - 26
五条四坊	下、四条通柳馬場西入立売中之町 107 - 4	立	4/30	表土下 0.9m にて室町の包含層。	HL - 27
六条二坊	下、五条通油小路西入小泉町 110 - 1、112 - 9	立	4/30、5/6	表土下 0.65m 以下にて室町後期の包含層。	HL - 28
八条二坊	下、猪熊通塩小路下ル南夷町地内	立	4/30、5/4～7	検出なし。	HL - 29
九条一坊	南、大宮通八条下ル九条町 411、412 地先	立	4/30、5/4・6	表土下 0.35m にて室町の包含層。	HL - 30
二条二坊	上、大宮通棋木町下ル 1 丁目 832 - 3	立	5/6～8	表土下 0.55m にて室町後期の包含層、土壌 1。	HL - 31
六条四坊	下、柳馬場通五条上ル柏屋町 332 - 1	立	5/6	検出なし。	HL - 32
七条三坊	下、烏丸通七条上ル常葉町 754	立	5/6・7	表土下 1.07m にて室町、平安後期の包含層。	HL - 33
九条二坊	南、西九条春日町 33 - 2	立	5/6・7	表土下 0.35m にて平安前期の包含層。	HL - 34
八条三坊	下、烏丸通塩小路東塩小路町 718	立	5/6～10	表土下 1.15m にて平安中期～鎌倉の包含層、土壌。	HL - 35
五条三坊	下、綾小路通東洞院西入扇酒屋町 275 - 2	立	5/7・10	表土下 1.3m 以下にて室町の包含層。	HL - 36
六条四坊	下、木屋町通五条下ル平居町地内～都市町地内	立	5/8	検出なし。	HL - 37
六条三坊	下、不明門通六条上ル仏具屋町 172	立	5/10、11	表土下 1.15m にて路面 2、室町後	HL - 38

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
八条二坊	下、猪熊通梅小路上ル南夷町 170	立	5/10～12	期の東西方向の溝1。六条大路北側溝に位置する。表土下1.2mにて平安～室町の土壌多数。	HL - 39
四条一坊	中、六角通大宮西入三条大宮町 242	立	5/10・11	表土下1.0mにて室町後期の東西方向の溝、井戸。	HL - 40
八条一坊	下、観喜寺町(国鉄用地内)	試	5/12	表土下0.6mにて路面、南北方向の溝1。壬生大路東側溝に位置する。発掘調査に切り換える。	HL - 41
七七三	下、七条通新町西入夷之町 718	立	5/14・17	検出なし。	HL - 42
七七三	下、北小路通油小路西入北小路町 138	立	5/15	表土下1.4mにて鎌倉の包含層。	HL - 43
七七三	中、烏丸通御地下ル虎屋町	立	5/19～6/5	表土下2.5mで平安後期の南北方向の溝。烏丸小路西側溝に位置する。本文135P。	HL - 44
六九三	下、中堂寺前田町 22 - 2	立	5/19	検出なし。	HL - 45
六九三	南、東寺門前町 76	立	5/21	検出なし。	HL - 46
六九三	中、御地通油小路西入森ノ木町	立	5/24	検出なし。	HL - 47
六九三	南、八条内田町 6 - 13	立	5/24	検出なし。	HL - 48
六九三	上、猪熊通丸太町下ル葦屋町 536 - 65	立	5/25	表土下0.6mで平安前期の東西方向の溝1。大炊御門大路南側溝に位置する。	HL - 49
四三三	中、烏丸通六条下ル七観音町 638	立	5/25、6/8	検出なし。	HL - 50
四三三	中、二条通烏丸東入仁王門町 11	立	5/25～27	検出なし。	HL - 51
四三三	中、西ノ京池ノ内町地先	立	5/25	検出なし。	HL - 52
四三三	上、大宮通下立売下ル菱屋町 796	立	5/27・31	検出なし。	HL - 53
四三三	中、中立売通室町西入三丁目 471 - 3	立	5/29	検出なし。	HL - 54
四三三	上、東中筋通正面下ル紅葉町 359	立	6/1	表土下0.95mにて平安後期の包含層。時期不明の土壌2。	HL - 55
三四	中、西洞院通御池三坊西洞院町 580	立	6/4	検出なし。	HL - 56
三四	中、壬生坊城町 33 - 5	立	6/8～14	表土下0.7m以下にて平安中期の包含層。下層で同時期の池状堆積。	HL - 57
六六二	下、堀川通五条泉水町	立	6/11、7/14	検出なし。	HL - 58
六六二	下、御幸町通松原石不動町 691	立	6/17・18	検出なし。	HL - 59
六六二	中、烏丸通夷川上ル少将井町 250	立	6/17～24	表土下2.5mにて室町後期の包含層、溝1。3.2mで平安後期の包含層。	HL - 60
四一	下、四条通西洞院東入郭巨山町 26	立	6/18～21	表土下0.35m以下にて室町の包含層、土壌。0.8mにて時期不明の溝状遺構。	HL - 61
四一	上、西洞院通下長者町上ル頭町 265	立	6/19	検出なし。	HL - 62
四四	中、黒門通姉小路上ル下黒門町 441	立	6/21	検出なし。	HL - 63
四四	中、御幸町通三条下ル海老屋町 319	立	6/22	表土下0.35mにて室町以降の土壌2、包含層。	HL - 64
三四	中、押小路通高倉西入左京町 140	立	6/24	盛土のみ。	HL - 65
三四	中、六角通烏丸西入骨屋町 154 - 5	立	6/26	表土下0.85mにて室町～江戸の包含層。	HL - 66
八四四	下、郷之町 109 - 2	立	6/26	検出なし。	HL - 67
八四四	下、六角通烏丸西入骨屋町 154 - 6	立	6/26	検出なし。	HL - 68
八四四	中、神泉苑通三条下ル今在家東町 89 - 6	立	6/28	検出なし。	HL - 69
八四四	下、中堂寺鍵田町地内	立	6/28	表土下0.6mにて鎌倉の包含層。	HL - 70
四一	中、西洞院通蛸薬師下ル古西町 442	立	7/8～14	検出なし。	HL - 71
四五	下、大宮通高辻下ル東高辻大宮町 123、123 - 5	試	6/29	検出なし。	HL - 72
四五		試	7/2	表土下1.3mにて室町の東西方向	HL - 72

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
四 条 四 坊	下、麩屋町通四条上ル立売東町 28 - 2	立	7 / 2・6・26・27	の溝 1。大宮大路西側溝に位置する。 表土下 1.15m にて路面 4 面。時期不明。1.7m 以下にて鎌倉、平安後期の包含層。	HL - 73
三 条 二 坊	中、西堀川通三条上ル姉西堀川町 507、508	立	7 / 2・5	表土下 0.73m にて鎌倉前期の土壌 1。	HL - 74
八 条 四 坊	下、西之町 19、23、24、下之町 20、21	試	7 / 5	表土下 1.5m にて平安～室町の河跡。	HL - 75
四 条 二 坊	中、西洞院通蛸薬師上ル池須町 432 - 3	立	7 / 5	検出なし。	HL - 76
三 条 四 坊	中、高倉通二条下ル瓦町 566 - 1	立	7 / 5	検出なし。	HL - 77
四 条 一 坊	中、壬生坊城町 48 - 3 他	立	7 / 5	検出なし。	HL - 78
三 条 四 坊	中、麩屋町通二条下ル尾張町 205	立	7 / 6・12	検出なし。	HL - 79
九 条 一 坊	南、壬生通八条下ル東寺町 534 ~ 588	立	7 / 6・8・14・15	表土下 0.7m にて南北方向の旧河川の堆積。	HL - 80
二 条 二 坊	中、東堀川通丸太町下ル七町目 1	試・立	7 / 6・8	表土下 0.8m 以下にて平安～室町の包含層、土壌 1。	HL - 81
一 条 二 坊	上、上長者町通小川東入有春町 179	立	7 / 8	検出なし。	HL - 82
四 条 二 坊	中、岩上通六角下ル岩上町 746	試	7 / 9・10	表土下 0.3m 以下にて平安後期～鎌倉の土壌、柱穴多数。図版 50 - 10	HL - 83
三 条 三 坊	中、御地通車屋町東入梅屋町 361 - 1	立	7 / 12	検出なし。	HL - 84
一 条 二 坊	上、東堀川通下長者町上ルニ町目 22 - 1	立	7 / 14	検出なし。	HL - 85
二 条 四 坊	中、寺町通竹屋町上ル下御霊前町 639 - 1	立	7 / 15 ~ 22	表土下 1.0m 以下にて平安前期～室町にかけての包含層。	HL - 86
四 条 二 坊	中、黒門通錦小路上ル下黒門町 444	立	7 / 17・21	表土下 0.3m 以下にて平安末期の包含層 3、時期不明の土壌 1。	HL - 87
三 条 二・三 坊	中、西洞院通姉小路上ル三坊西洞院町 576	立	7 / 21・23・26	検出なし。	HL - 88
七 条 二 坊	下、堀川通花屋町下ル門前町 60	立	7 / 20 ~ 29	表土下 0.5m 以下にて平安～室町の包含層、土壌 1。	HL - 89
北 辺 二 坊	上、辰星町通上長者町上ル南俣町 322	立	7 / 20	検出なし。	HL - 90
四 条 三 坊	下、四条通西洞院東入郭巨山町 5	立	7 / 20・21	検出なし。	HL - 91
三 条 四 坊	中、柳馬場通姉小路上ル柳八幡町 74	立	7 / 20	検出なし。	HL - 92
三 条 四 坊	中、柳馬場通御地下ル柳八幡町 74 - 2	立	7 / 20	検出なし。	HL - 93
二 条 二 坊	中、西洞院通夷川上ル毘沙門町 397 - 2	試	7 / 20	表土下 1.0m 以下で室町以降の包含層、土壌 3。	HL - 94
五 条 二 坊	下、綾小路通醒ヶ井西入西半町 79	立	7 / 21	表土下 0.8m にて平安の包含層。	HL - 95
三 条 四 坊	中、三条通柳馬場東入中之町 12	立	7 / 23	表土下 1.8m にて鎌倉の包含層。	HL - 96
三 条 二 坊	中、油小路通二条下ル二条油小路町 289 - 2	立	7 / 23・27	表土下 0.7m 以下にて平安中期～後期の包含層。	HL - 97
三 条 一 坊	中、大宮通御地下ル三坊大宮町 150	立	7 / 23	表土下 1.2m にて室町後期の包含層。	HL - 98
三 条 四 坊	中、御地通車屋町～麩屋町	立	10 / 4 ~ 1 / 20	表土下 1.4m 以下にて平安後期室町の包含層、土壌。	HL - 99
六 条 二 坊	下、堀川通五条下ル柿本町、泉水町	立	7 / 30	検出なし。	HL - 100
六 条 二 坊	下、堀川通五条下ル柿本町、泉水町	立	7 / 30	検出なし。	HL - 101
五 条 四 坊	下、松原通堺町東入杉屋町 285 - 2	立	7 / 30	検出なし。	HL - 102
二 条 三 坊	中、新町通丸太町下ル大炊町 201 - 1	立	8 / 4	表土下 1.26m にて鎌倉の包含層、下層に平安後期の土壌。	HL - 103
二 条 三 坊	中、烏丸通二条上ル葺絵屋町 282、283	立	8 / 9	表土下 1.7m にて平安の土壌 3。	HL - 104
七 条 二 坊	下、大宮通花屋町上ル柿本町 609 - 1 (淳風小学校)	立	8 / 5	表土下 0.45m 以下にて平安末期～室町の土壌 3。	HL - 105
七 条 二 坊	下、東中筋通花屋町下ル柳町 317 - 4	立	8 / 5	表土下 0.55m にて室町の土壌 1、	HL - 106

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
五条三坊	下、仏光寺通新町西入上ル菅大臣町	立	8/6・19	下層にて平安後期の井戸1。	HL - 107
四条二坊	中、油小路通四条上ル藤本町 549	立	8/6	検出なし。 表土下 0.55m にて江戸の路面数面。	HL - 108
六条四坊	下、富小路通松原下ル本上神明町 461、463	試	8/6	下層にて室町の土壌、包含層。	HL - 109
二条二坊	上、丸太町通堀川西入西丸太町 187	立	8/9	表土下 1.05m にて鎌倉の包含層。	HL - 110
四条二坊	中、三条通油小路西入橋東詰町 26	立	8/17	検出なし。	HL - 111
五条四坊	下、高辻通東洞院東入三軒町 552、553	試	8/19	表土下 1.0m にて室町の包含層。	HL - 112
二条二坊	中、二条通小川東入西大黒町 315 地先～槌屋町地先	立	8/19	検出なし。 埋土のみ。	HL - 113
六条四坊	下、富小路通五条下ル本塩竈町 557	立	8/20	検出なし。	HL - 114
四条三坊	中、新町通錦小路上ル百足屋町 385 - 3	試	8/21	表土下 2.0m にて室町の包含層。	HL - 115
四条四坊	中、柳馬場通蛸薬師十文字町 433	立	8/23	検出なし。	HL - 116
六条四坊	下、間之町通五条下ル2丁目塗師屋町 123	立	8/23	表土下 1、.6m にて室町後期の土壌	HL - 117
七条二坊	下、西洞院通正面下ル鍛冶屋町 435 - 1	立	8/23	1。	HL - 118
九条二坊	南、西九条西蔵王町 1	立	8/24	検出なし。	HL - 119
北辺二坊	上、東堀川通中立売下ル東橋詰町 65 - 1	立	8/25	検出なし。	HL - 120
四条一坊	中、壬生坊城町 48	立	8/27	検出なし。	HL - 121
九条二坊	南、西九条池ノ内町 97	立	8/26・30	検出なし。	HL - 122
八条一坊	下、観喜寺町 3 (大内小学校)	立	7/28	表土下 1.1m にて平安中期の包含層。	HL - 123
八条二坊	下、大宮通七条下ル上之町 421 - 3	立	8/31,9/1・3	表土下 1.0m 以下にて室町の河川の堆積。	HL - 124
九条二坊	中、西九条春日町 13 (九条弘道小学校)	立	7/15	検出なし。	HL - 125
三条二坊	中、小川通御池上ル下古城町 405、他	試	9/2	表土下 0.75m 以下にて室町の包含層。下層にて平安末期～室町の包含層。	HL - 126
五条四坊	下、柳馬場通仏光寺上ル永原町 106 - 1	立	9/3	盛土のみ。	HL - 127
二条二坊	上、丸太町通黒門東入薬屋町 536 - 1 (待賢小学校)	立	9/6	盛土のみ。	HL - 128
六条三坊	下、若宮通五条上ル布屋町 96 - 1	立	9/7・9・13	検出なし。	HL - 129
四条三坊	中、三条通室町西入衣棚町 59 - 1	立	9/7	表土下 1.6m にて室町後期の包含層、土壌 1。	HL - 130
五条二坊	下、黒門通松原上ル来迎堂町	立	9/7	検出なし。	HL - 131
四条三坊	下、四条通新町東入月鉾町 54	立	9/8～14	表土下 1.4m にて平安後期の土壌 1。	HL - 132
三条三坊	中、室町通三条上ル役行者町 369	試	9/9	表土下 1.0m にて室町後期の土壌 1。下層にて平安中期の包含層。	HL - 133
七条一坊	下、貫町通花屋町上ル突抜一丁目 342	立	9/9	検出なし。	HL - 134
三条四坊	中、堺町通三条上ル榎屋町 64 - 2	立	9/9	表土下 1.0m にて室町の包含層。	HL - 135
北辺二坊	上、東堀川通一条上ル堅富田町 438 - 29	立	9/10	表土下 0.56m にて室町の包含層。	HL - 136
六条四坊	下、麩屋町通五条上ル下鱗形町 545 - 3	立	9/11・18	表土下 1.0m にて平安後期の包含層。	HL - 137
四条三坊	中、錦小路通西洞院東入西錦小路町	立	9/14	表土下 0.8m にて室町の包含層、土壌 2。	HL - 138
三条四坊	中、三条通柳馬場西入榎屋町 75	試	9/16	表土下 1.35m にて室町後期の土壌 1。	HL - 139
五条一坊	下、四条通大宮四条大宮町	立	9/16	表土下 0.99m にて室町の土壌 2。	HL - 140
二条四坊	中、夷川通東洞院東入三本木五丁目 501 - 1	立	9/16	検出なし。	HL - 141
八条二坊	下、油小路通木屋屋橋下ル北不動堂町 521 - 1	試	9/17	表土下 1.6m で平安～鎌倉の土壌	HL - 142

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
三条一坊	中、西ノ京勸学院町13	立	9/20	検出なし。	H L - 143
六条二坊	下、醒ヶ井通松原下ル橋町	立	9/21	表土下0.97mにて室町の土壌1。	H L - 144
二条二坊	上、丸太町通堀川西入西丸太町187	立	9/21	検出なし。	H L - 145
五条四坊	下、富小路通仏光寺上ル仏光寺東町121	立	9/21	検出なし。	H L - 146
一条二坊	上、中長者町通西洞院西入中橋詰町168	立	9/22	表土下0.85mにて平安中期の土壌1。	H L - 147
二条二坊	上、棋木町通黒門東入中御門横町576	立	9/22	検出なし。	H L - 148
七条四坊	下、西木屋町通正面上ル梅湊町98地先～92-10地先	立	9/24	検出なし。	H L - 149
二条四坊	中、二条通柳馬場東入晴明町663	立	9/27～10/6	表土下1.3mにて室町の包含層。2.0mにて平安前、中期の包含層。	H L - 150
三条二坊	中、堀川通御池東入森ノ本町地内	立	9/27	検出なし。	H L - 151
四条四坊	中、堺町通六角下ル甲屋町283	立	9/27・28	表土下1.2mにて室町後期の包含層。	H L - 152
五条三坊	下、綾小路通新町西入矢田町119	立	9/28～10/7	表土下1.3mにて平安後期～室町の土壌。	H L - 153
三条三坊	中、押小路通新町西入頭町22-2	立	9/29	検出なし。	H L - 154
五条四坊	下、四条通高倉西入立売西町	立	9/29・30, 10/9	表土下1.7m以下にて弥生後期～古墳前期の包含層。	H L - 155
四条三坊	中、錦小路通室町西入天神山町287	試	10/1・2	表土下1.5mにて平安中期～室町後期の包含層、土壌20数基。発掘調査に切り換える。	H L - 156
六条二坊	下、醒ヶ井通松原下ル篠屋町54	立	10/1	検出なし。	H L - 157
五条三坊	下、仏光寺通新町東入糸屋町209	立	10/4・5	鎌倉の包含層。	H L - 158
三条三坊	中、新町通三条上ル町頭町97	試	10/8	平安後期～室町の土壌。	H L - 159
六条三坊	下、不明通五条下ル2丁目下平野町473	立	10/6・7	室町の包含層。	H L - 160
六条一坊	下、中堂寺坊城町16	立	10/7	巡回時工事終了。調査不可能。	H L - 161
三条三坊	中、新町通御池上ル中之町50	立	10/8	室町の包含層。	H L - 162
六条三坊	下、東洞院通五条上ル深草町576-1	立	10/12	表土下0.9mにて室町～江戸の土壌2。	H L - 163
三条四坊	中、柳馬場通三条上ル油屋町100、他1筆	試	10/21	表土下0.9mにて室町の石組遺構。2.29mにて室町の土壌6。	H L - 164
七条一坊	下、櫛笥通花屋町下ル裏片町198-2	立	10/14	検出なし。	H L - 165
四条一坊	中、三条通神泉苑西入今新在家西町25-2	立	10/15	検出なし。	H L - 166
四条一坊	中、壬生坊城町48-3他	立	10/15	検出なし。	H L - 167
二条二坊	上、大宮通丸太町上ル1丁目843	立	10/20～22	表土下0.5mにて平安の包含層、江戸の土壌2。 1.2mにて路面遺構。大宮大路に位置する。	H L - 168
北辺二坊	上、小川通中立売上ル小川町260	立	10/21・23	検出なし。	H L - 169
六条二坊	下、醒ヶ井通松原下ル篠屋町60	立	10/21	表土下0.7m以下にて鎌倉～室町の包含層、弥生～江戸の土壌12。	H L - 170
二条三坊	中、衣棚通夷川下ル堅大恩寺町742-1	立	10/22・23	検出なし。	H L - 171
七条一坊	下、大宮通丹波口下ル大宮一丁目565-4・6	立	10/22	検出なし。	H L - 172
北辺三坊	上、一条通新町東入東日野殿町394-1	立	10/25	盛土のみ。	H L - 173
五条二坊	下、堀川通綾小路下ル綾堀川町311-2他	立	10/26	表土下1.3mにて流路。時期不明。	H L - 174
四条二坊	中、錦小路堀川東入三文字町	立	10/30・11/2	表土下1.0mにて室町の包含層。	H L - 175
五条二坊	下、高辻通堀川西入富永町681	立	10/30・11/4	表土下0.4mにて鎌倉前期の包含層。0.7mにて平安の土壌。	H L - 176
六条三坊	下、室町通五条下ル堺町235-3	立	11/2	表土下1.9mにて旧河川の堆積。	H L - 177

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
三条二坊	中、御地通油小路西入森ノ木町 208 - 1	立	11/ 8・11・13	包含層、土壌 2。 表土下 0.45m にて室町の包含層。 下層にて室町の土壌 2、鎌倉の井戸 1。		HL - 179
三条三坊	中、御地通烏丸東入笹屋町地先～松下町地先	立	11/11 ~ 22	表土下 1.55m にて室町の包含層。		HL - 180
一条三坊	上、下立売通室町西入東立売町 23 - 2	立	11/12・19	表土下 1.3m にて鎌倉の包含層。 調査区西側では 1.4m にて室町の土壌 8。		HL - 181
六条二坊	上、五条通堀川東入小泉町地先	立	11/16	検出なし。		HL - 182
七条三坊	下、西洞院通六条下ル東側町 512	立	11/18	表土下 0.95m にて鎌倉の土壌 1。 1.04m にて平安末期の包含層。		HL - 183
四条四坊	中、御幸町通三条下ル海老屋町 328	立	11/18	検出なし。		HL - 184
四条四坊	中、御幸町通錦小路上ル船屋町 369、他	立	11/20	表土下 2.1m にて平安前期～鎌倉の土壌 5。		HL - 185
七条二坊	下、北小路通西洞院西入文覚町 394	立	11/22	表土下 0.75m にて鎌倉の包含層。 下層にて鎌倉の土壌 3。		HL - 186
二条四坊	中、堺町通夷川上ル絹屋町 135	立	11/25	工事に伴う掘削なし。		HL - 187
七条二坊	下、油小路通六条下ル	立	11/26・27	表土下 0.65m にて室町の包含層。 1.0m にて土壌 6。		HL - 188
七条二坊	下、堀川通花屋町西入門前町地先～元日町地先	立	11/27	盛土のみ。		HL - 189
七条一坊	下、下松屋町通花屋町下ル突抜二丁目 375	立	11/27・29	表土下 0.2m 以下にて土壌 8。時期不明。		HL - 190
七条三坊	下、新町通六条下ル長町 877	立	11/29	検出なし。		HL - 191
六条三坊	下、室町通五条上ル阪東屋町 266	試	12/ 1	表土下 1.4m にて東西方向の溝。 室町小路東側溝に位置する。発掘調査に切り換える。		HL - 192
三条三坊	中、御池通室町西入西横町 181	立	12/ 1	検出なし。		HL - 193
四条三坊	中、三条通室町西入衣棚町 57	立	12/ 1	表土下 0.75m にて旧河川の堆積。		HL - 194
四条一坊	中、壬生朱雀町 8 - 13	立	12/ 3	検出なし。		HL - 195
三条四坊	中、富小路御地下ル松下町 138	立	12/ 4	表土下 0.9m にて平安の包含層。		HL - 196
二条四坊	中、高倉通竹屋町下ル福屋町 729	立	12/ 4・11	検出なし。		HL - 197
六条二坊	下、松原通堀川東入橘町 27	立	12/13	表土下 0.7m にて室町の東西方向の溝。五条大路南側溝に位置する。		HL - 198
四条一坊	中、壬生朱雀町 8 - 8	立	12/13	検出なし。		HL - 199
七条三坊	下、不明門通七条上ル紛川町 231	立	12/14	表土下 1.5m にて室町の包含層。		HL - 200
一条二坊	上、黒門通下長者町下ル吉野町 688	立	12/17	検出なし。		HL - 201
三条二坊	中、西洞院二条下ル二条西洞院町 654	立	12/20	盛土のみ。		HL - 202
六条四坊	下、堺町通松原下ル鍛冶屋町	立	12/22	盛土のみ。		HL - 203
五条二坊	下、堀川通四条下ル四条堀川町 262、他	立	1 / 10	検出なし。		HL - 204
四条二坊	中、堀川通錦小路下ル錦堀川町 663	立	1 / 10	検出なし。		HL - 205
三条一坊	中、大宮通三条上ル姉大宮町東側 115 - 12	立	1 / 10	検出なし。		HL - 206
五条四坊	下、高辻通東洞院東入灯籠町 560	立	1 / 14	検出なし。		HL - 207
九条三坊	南、東九条西山王町 5	立	1 / 20	検出なし。		HL - 208
四条四坊	中、御幸町三条下ル海老屋町 323 - 3	試	1 / 24	表土下 2.0m にて平安中、後期の土壌 3。		HL - 209
五条四坊	下、御幸町通仏光寺下ル橘町	立	1 / 24	検出なし。		HL - 210
四条四坊	中、新京極蛸薬師下ル東側町 501 - 11・12	立	1 / 24	盛土のみ。		HL - 211
九条二坊	南、西九条川原城町 20	立	1 / 24	表土下 0.55m にて室町の土壌 1。		HL - 212
七条二坊	下、大宮通花屋町上ル柿本町 609 - 1	立	1 / 25	検出なし。		HL - 213
八条二坊	下、黒門通木津屋橋上ル徹宝町 413 - 1	立	1 / 25	表土下 11m にて鎌倉前期の土壌		HL - 214



遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
六条四坊	下、万寿寺通寺町西入植松町 736	立	1/28	検出なし。	HL - 215
六条四坊	下、富小路通五条上ル本神明町 426 - 1	立	1/28 ~ 2/1	検出なし。	HL - 216
七条三坊	下、若宮通正面上ル四本松町 595	立	2/1	表土下 1.1m にて平安の包含層。	HL - 217
七条四坊	下、七条通河原町西入稲荷町 451	立	2/1	検出なし。	HL - 218
八条二坊	下、猪熊通姉小路上ル南夷町 170	立	2/3	表土下 1.0m にて平安後期の土壌 16、鎌倉後期の土壌 7、室町前期の土壌 4、江戸の土壌 5。 図版 50 - 11。	HL - 219
四条四坊	中、錦小路通富小路西入東魚屋町 182	立	2/3	盛土のみ。	HL - 220
五条二坊	下、醒ヶ井通綾小路下ル要法寺町 430 - 3	立	2/3	表土下 0.9m にて鎌倉の包含層、土壌 3。時期不明の土壌 6。	HL - 221
四条二坊	中、岩上通錦小路下ル松浦町 861	試	2/4	検出なし。	HL - 222
一条二坊	上、下立売通大宮東入橋西二丁目 643	立	2/9・10	検出なし。	HL - 223
三条二坊	中、三条通油小路東入塩屋町 56 - 2	立	2/14	表土下 0.8m 以下で平安、鎌倉の包含層。	HL - 224
北辺二坊	上、中立売通大宮東入常陸町 396	立	2/14	検出なし。	HL - 225
四条四坊	中、東洞院通六角下ル御射山町 206	試	2/16	表土下 1.8m にて平安後期～鎌倉の包含層。	HL - 226
五条一坊	中、壬生賀陽御所町 49	立	2/16 ~ 18	表土下 0.5m で土壌 8、平安前期～室町後期。	HL - 227
六条三坊	下、諏訪町通五条上ル高砂町	立	2/24	表土下 1.1m 以下で鎌倉、室町の包含層。	HL - 228
七条四坊	下、加茂川端上ノロ下ル菊屋町 372	立	2/25	検出なし。	HL - 229
六条二坊	下、五条通堀川東入柿本町 576 - 1	立	2/25・28	表土下 0.4m 以下で平安末期～室町の包含層、室町後期の土壌。	HL - 230
四条四坊	中、六角通東洞院東入藤屋町 187 - 3	立	2/28	検出なし。	HL - 231
九条一坊	南、四ツ塚 34	立	2/26	表土下 0.68m にて湿地または旧河川の堆積。	HL - 232
二条三坊	中、二条通室町東入東玉屋町 482 - 2	立	2/28	検出なし。	HL - 233
四条三坊	中、東洞院通蜻薬師下ル元竹田町 631	試	3/3	表土下 2.7m にて室町末期の包含層。	HL - 234
二条四坊	中、夷川通東洞院東入山中町 537、三本木町 5丁目	立	3/3	検出なし。	HL - 235
四条三坊	中、室町通六角下ル鯉山町 523	立	3/3	検出なし。	HL - 236
七条一坊	下、西新屋敷中堂寺町 56	立	3/3・7	表土下 0.47m 以下で古墳前期～江戸の土壌 14、包含層。	HL - 237
北辺一坊隣接地	上、千本通一条下ル伊勢殿構町 682、北伊勢殿構町	立	10/21	盛土のみ。	HL - 238
三条三坊	中、両替町通押小路西入金吹町 460	立	3/5	検出なし。	HL - 239
四条四坊	中、三条通柳馬場西入榊屋町 72	立	3/7・8	検出なし。	HL - 240
九条一坊	南、八条通大宮西入九条町 405	立	3/8	表土下 0.7m にて鎌倉後期の包含層。	HL - 241
五条三坊	下、綾小路通室町東入童侍者町 160	立	3/9	検出なし。	HL - 242
七条二坊	下、七条通堀川～油小路	立	3/9・25	表土下 1.5m にて路面 2 面。七条大路に位置する。	HL - 243
一条二坊	上、出水通堀川東入四丁目 190	立	3/10	検出なし。	HL - 244
四条二坊	中、猪熊通蜻薬師下ル下瓦町 585	立	3/11・12	表土下 1.15m にて古墳の包含層、平安後期の柱穴。	HL - 245
二条三坊	中、烏丸通竹屋町上ル大倉町 218 - 1・3	立	3/15 ~ 19	表土下 1.5m にて室町の包含層。下層にて平安末期、鎌倉の土壌。	HL - 246
八条二坊	下、油小路通下魚ノ棚下ル油小路町 301	立	3/15	表土下 1.2m にて室町の包含層。	HL - 247

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
六条三坊	下、不明門通五条上ル玉屋町 519	立	3 / 16	層。 検出なし。	HL - 249
一条二坊	下、下立売通室町西入東立売町 209 - 1	立	3 / 19・29	表土下 1.3m 以下にて鎌倉～室町の包含層、土壌。	HL - 250
七条四坊	下、間之町通花屋町下ル天神町 401 - 1	立	3 / 19	表土下 0.94m にて平安中期の包含層。	HL - 251
八条四坊	下、塩小路通河原町東入下ル川端町 4	立	3 / 22	検出なし。	HL - 252
五条四坊	下、富小路通綾小路下ル塩屋町 66 - 2	立	3 / 24	検出なし。	HL - 253
三条三坊	中、室町通御池上ル中之町 42	立	3 / 26 ~ 30	表土下 0.45m 以下平安後期～室町の包含層、土壌多数。	HL - 254
四条四坊	中、寺町通六角下ル式部町 244	立	3 / 26	表土下 0.9m にて路面 5 面。東京極大路に位置する。	HL - 255
三条二坊	中、三条通猪熊西入御供町 289	立	3 / 2	表土下 0.9m にて鎌倉の包含層。	HL - 256
四条一坊	中、壬生坊城町 53 - 6・8・14	試	3 / 30	検出なし。	HL - 257
五条一坊	中、壬生相合町 71 - 1	立	3 / 31	検出なし。	HL - 258

### 平安京右京

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
六条三坊	右、西院西寿町 33	立	4 / 1	表土下 0.9m 南北方向の平安中期の導。宇多小路東側溝に位置する。	HR - 1
六条三坊	右、西院西寿町 27 地先	立	4 / 1	検出なし。	HR - 2
九条一坊	南、唐橋西寺町 (唐橋小学校)	立	4 / 1	表土下 0.5m にて西寺焼失時の層と考えられる焼土層。	HR - 3
一条二坊	中、西ノ京南大炊御門町 25 - 2	立	4 / 2	表土下 0.8m にて佐比川東岸部。平安中期。	HR - 4
四条一坊	中、壬生森町 56 - 20	立	4 / 5・6	表土下 1.6m にて室町の溝状遺構。	HR - 5
七条一坊	下、朱雀分木町 78 - 1・2	立	4 / 5	検出なし。	HR - 6
四条一坊	中、壬生神明町地内	立	4 / 6	検出なし。	HR - 7
六条三坊	右、西院溝崎町 12、他 7 筆	立	4 / 7・8	検出なし。	HR - 8
三条二坊	中、西ノ京銅駝町 76 地内	立	4 / 8	検出なし。	HR - 9
八条三坊	右、西京極大門町地先	立	4 / 8	検出なし。	HR - 10
三条一坊	中、西ノ京星池町 20 - 57	立	4 / 9	盛土のみ。	HR - 11
一条三坊	中、西ノ京伯楽町 24	試	4 / 12	中御門大路の路面と南側溝。発掘調査に切り換える。	HR - 12
北辺二坊	上、一条通御前西入大上之町 67	立	4 / 16	盛土のみ。	HR - 13
五条二坊	右、西院平町 6	立	4 / 19	表土下 0.35m にて平安前期の包含層。	HR - 14
九条一坊	南、唐橋門脇町 4	立	4 / 26 ~ 28	表土下 1.2m にて平安中期の包含層。鎌倉、室町の木枠の井戸各 1。下層砂礫層より古墳中期～後期の須恵器数片出土。	HR - 15
八条一坊	下、西七条東久保町 55	立	4 / 22	検出なし。	HR - 16
四条二坊	右、西院東淳和院町 16 - 1	立	4 / 24	表土下 1.0m にて池状堆積。室町前期。	HR - 17
二条二坊	中、西ノ京南円町 76	立	4 / 26・27	表土下 1.6m にて平安中期の包含層。	HR - 18
三条四坊	右、山ノ内北ノ口町 1 - 17・18	立	5 / 4	検出なし。	HR - 19
八条三坊	右、西京極東町～佃町地内	立	5 / 7	盛土のみ。	HR - 20
六条二坊	右、西院西高田町 33	立	5 / 6・7	検出なし。	HR - 21
八条一坊	下、梅小路東中町 36	立	5 / 8	検出なし。	HR - 22
一条四坊	右、花園寺ノ前町 40 - 7、50 - 3・4	立	5 / 8	表土下 0.6m にて平安末期の包含	HR - 23

遺跡名	所在地	試立	調査日	概要	調査番号
九条一坊	南、東寺通御前～御土居、御土居通東寺～八条、他	立	5/10～21	近現代層より多量の瓦、土師器、須恵器、弥生土器など出土。	HR-24
二条四坊	右、太秦安井春日町13	立	5/15・17	表土下0.4mにて平安中期の包含層。	HR-25
二条三坊	中、西ノ京壺ノ内町2	立	5/15・17	表土下0.33mにて平安の包含層。	HR-26
一条二坊	中、西ノ京大炊御門町地先	立	5/18～24	検出なし。	HR-27
九条一坊	南、唐橋門脇町5-5	立	5/19	検出なし。	HR-28
八条三坊	下、西七条南月読町2-1、七条御所ノ内西町50-1	試	5/21・22	表土下1.7mにて平安前期～後期の包含層。	HR-29
三条二坊	中、西ノ京原町64	試	5/26	表土下0.6mにて御土居の土塁基底部。下層にて南北方向の平安中期の流路と路面。西堀川小路に位置する。発掘調査に切り換える。	HR-30
三条四坊	右、山ノ内五反田町16-11	立	5/28	表土下0.6mにて室町の包含層。	HR-31
四条三坊	右、西院下花田町8	立	6/2	表土下0.76mにて路面。宇多小路に位置する。	HR-32
四条二坊	右、西院上今田町地先～東今田町地先	立	6/2～29	表土下1.6mにて平安中期の包含層。	HR-33
三条一坊	中、西ノ京星池町	立	6/5～9	表土下0.7mにて奈良～平安中期の包含層。	HR-34
九条三坊	南、吉祥院前河原町地内	立	6/5	巡回時工事終了。調査不可能。	HR-35
九条一坊	南、唐橋門脇町4-8	立	6/12	表土下0.6mにて平安中期の土壌4、包含層。	HR-36
六条三坊	右、西院南寿町10	立	6/10	表土下0.25mにて江戸、0.7mにて平安中期の東西方向の流路各1。	HR-37
四条三坊	右、西院乾町70-1・3	立	6/11・12	表土下0.64m以下池または流れ堆積。表土下0.86mにて土師器、須恵器、曲物など出土するが細片にて時期不明。	HR-38
二条二坊	中、西ノ京上平町54	立	6/11・12	検出なし。	HR-39
五条一坊	中、壬生森前町19-3	立	6/12	盛土のみ。	HR-40
四条三坊	右、西院小米町2、3	試	6/14	表土下1.6mにて弥生の包含層、土壌。	HR-41
七条四坊	右、西京極北裏町7-3地先～東池田町78地先	立	6/14～19	検出なし。	HR-42
九条一坊	南、唐橋花園町32	立	6/16	巡回時工事終了。	HR-43
三条三坊	中、西ノ京西中合町地先	立	6/17	検出なし。	HR-44
三条三坊	中、西ノ京桑原町1	立	6/21	検出なし。	HR-45
三条三坊	中、西ノ京月輪町38	立	6/25	検出なし。	HR-46
二条二坊	中、西ノ京南門町138	立	6/29	検出なし。	HR-47
九条一坊	南、八条源町36	立	7/3・5	検出なし。	HR-48
二条二坊	中、西ノ京中御門東町17	立	7/5	検出なし。	HR-49
四条一坊	中、壬生森町F21	立	7/9	検出なし。	HR-50
二条二坊	中、西ノ京両町5	立	7/12	検出なし。	HR-51
三条一坊	中、西ノ京小倉町10	立	7/13・14	表土下1.14mにて古墳～平安の池あるいは湿地状の堆積。	HR-52
六条一坊	下、中堂寺栗田町1	試	7/16・17	表土下0.8mにて平安前期の土壌2。	HR-53
七条二坊	下、西七条西石ヶ坪町32-1	立	7/20	表土下1.09mにて流れ堆積。古墳～平安前期。	HR-54
六条一坊	下、中堂寺南町10	立	7/23	検出なし。	HR-55

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
四 条 四 坊 一 条 三 坊	右、山ノ内山ノ下町 22 (山ノ内小学校) 中、西ノ京大炊御門町 8	立	7/26	面。時期不明。下層にて平安の包含層。 検出なし。	HR -57
		立	8/31		表土下 0.95m にて平安の南北方向の溝 2。
七 条 一 坊	下、朱雀宝蔵町 110	立	7/29	検出なし。	HR -59
八 条 三 坊	下、七条御所ノ内西町 8-4	立	7/31	表土下 0.32m にて平安～室町末期の旧河川の堆積。	HR -60
北 辺 三 坊	北、大將軍南一条町 37-4 (大將軍小学校)	立	8/2・23	表土下 0.75m にて室町後期、下層にて平安中期の包含層。	HR -61
二 条 三 坊	中、西ノ京北壺井町 134	立	8/5	表土下 1.0 m にて平安の包含層。	HR -62
六 条 一 坊	下、中堂寺庄ノ内町 56-10	立	8/10	表土下 0.8m で土壌 3。	HR -63
三 条 二 坊	中、西ノ京中合町 55	試	8/14	表土下 1.2m にて平安後期の包含層。	HR -64
二 条 二 坊	中、西ノ京南円町 32	立	8/19	表土下 0.4m にて平安後期の包含層。下層にて平安中期の土壌。	HR -65
一 条 四 坊	右、花園猪毛町地先	立	8/21	検出なし。	HR -66
八 条 二 坊	下、七条御所ノ内中町 44-2・6	立	8/20	表土下 0.3m にて平安の包含層。	HR -67
九 条 一 坊	南、唐橋花園町 18-1、19	立	8/23	盛土のみ。	HR -68
四 条 一 坊	中、壬生朱雀町 29-3・4	試	8/23	検出なし。	HR -69
五 条 二 坊	中、壬生東高田町 32-1・2	立	8/24	検出なし。	HR -70
七 条 四 坊	右、西京極北裏町 11-5	立	8/24	検出なし。	HR -71
八 条 一 坊	下、西七条西久保町 3	立	8/26	検出なし。	HR -72
一 条 二 坊	北、大將軍東鷹司町 59-1	立	8/28・31	表土下 0.9m にて湿地状の堆積。平安前期～中期。	HR -73
九 条 二 坊	下、七条御所ノ内南町 95	立	9/1	検出なし。	HR -74
五 条 二 坊	中、壬生東土居ノ内町 20	立	9/1	検出なし。	HR -75
七 条 二 坊	下、西七条掛越町 45 地先	立	9/1～3	埋土のみ。	HR -76
五 条 四 坊	右、西院安塚町	立	9/1・2	表土下 0.8m にて平安の包含層。	HR -77
八 条 四 坊	右、西京極中沢町地内	立	9/3	埋土のみ。	HR -78
七 条 二 坊	下、西七条比輪町 35	立	9/3	表土下 1.0m にて平安の包含層。	HR -79
八 条 一 坊	下、梅小路本町 30-2	立	9/3	検出なし。	HR -80
二 条 二 坊	中、西ノ京南両町 31、32、45、46	試	9/6～24	表土下 0.8m にて平安の南北方向の河跡及び平安～鎌倉の東西方向の溝 2。本文 143 P。	HR -81
五 条 三 坊	右、西院北矢掛町 31-1	立	9/7	検出なし。	HR -82
一 条 二 坊	中、西ノ京北円町 75、76、77	立	9/8・10・11	表土下 0.6m にて室町の包含層。	HR -83
五 条 一 坊	中、壬生高樋町 45	立	9/9	検出なし。	HR -84
五 条 一 坊	中、壬生高樋町 45	立	9/9	検出なし。	HR -85
三 条 二 坊	中、西ノ京東中合町 47	立	9/13・14	表土下 0.62m にて平安の土壌 2。	HR -86
五 条 一 坊	中、壬生松原町 43-19	立	9/13	盛土のみ。	HR -87
九 条 四 坊	南、吉祥院中河原里南町 6	立	9/14	検出なし。	HR -88
四 条 三 坊	右、西院下花田町 19	立	9/16	表土下 0.5m にて平安中期の土壌 1。	HR -89
北 辺 四 坊	右、花園猪ノ毛町 2-39	立	9/17	盛土のみ。	HR 90
四 条 一 坊	中、壬生神明町 1-86	立	9/17	巡回時工事終了。調査不可能。	HR -91
六 条 一 坊	下、中堂寺庄ノ内町 44-9	立	9/20	検出なし。	HR -92
九 条 二 坊	中、唐橋平垣町 19-2、20-1	立	9/21	検出なし。	HR -93
北 辺 三 坊	北、大將軍一条町北部 150	立	9/24	検出なし。	HR -94

遺跡名	所在地	試立	調査日	概要	調査番号
二条二坊	中、西ノ京南上合町 13-3	立	9/27	検出なし。	HR-96
六条三坊	右、西院西寿町 26	立	9/27	表土下 0.82m にて南北方向の溝 1。時期不明。	HR-97
六条四坊	右、西京極東大丸町 22	立	9/27	検出なし。	HR-98
三条二坊	中、西ノ京南原町 10	試	9/29	表土下 1.0m にて平安中期の湿地状堆積。	HR-99
北辺二坊	上、一条通御前西入大東町 92	立	10/1	検出なし。	HR-100
七条二坊	下、西七条東御前田町 49	立	10/1	盛土のみ。	HR-101
一条二坊	上、御前通上ノ下立売上ル北町 574-8	立	10/5	表土下 1.05m にて鎌倉の土壌 1。	HR-102
七条一坊	下、朱雀分木町 68-5、78-3	立	10/6	検出なし。	HR-103
六条四坊	右、西京極東大丸町 1	立	10/7	検出なし。	HR-104
五条四坊	右、西院東貝川町 37-2	立	10/7	検出なし。	HR-105
北辺一坊	上、一条通御前東堅町 120	試	10/9	検出なし。	HR-106
平安京隣接地・四円寺跡	右、御室小松野町、他	立	10/13~3/3	表土下 1.0m にて池または湿地状の堆積、鎌倉の井戸。1.5m にて平安の包含層。	HR-107
二条三坊	中、西ノ京塚本町 6-3、6-10、41	立	10/18	表土下 0.23m にて平安中期の包含層。	HR-108
三条一坊	中、西ノ京永本町 5-20	立	10/18	盛土のみ。	HR-109
八条三坊	下、七条御所ノ内西町 3-1、他	試	10/20	表土下 1.18m にて平安の包含層。	HR-110
北辺二坊	北、北野下白梅町 26	立	10/22	盛土のみ。	HR-111
一条二坊	上、上ノ下立売通御前西入 2丁目堀川町 527-33	立	10/22	検出なし。	HR-112
一条二坊	北、大將軍東鷹司町 82-2	立	10/22	盛土のみ。	HR-113
五条一坊	中、壬生下溝町 51-58	立	10/23・26	検出なし。	HR-114
七条二坊	下、西七条北衣田町 5	立	10/25	表土下 1.45m にて池状の堆積。	HR-115
七条四坊	右、西京極西池田町 13-4	立	10/29・30	表土下 1.3m にて池状の堆積。	HR-116
五条四坊	右、西院東貝川町 56、57	立	10/29	検出なし。	HR-117
一条二坊	北、大將軍東鷹司町 58-3	立	11/2	表土下 0.54m にて平安中期の包含層。	HR-118
八条一坊	下、梅小路本町 92 地先~79 地先	立	11/15~19	表土下 0.25m にて平安の包含層。0.43m にて溝 2。	HR-119
七条一坊	下、朱雀北ノ口町 5	立	11/15	表土下 0.35m にて平安後期の包含層。	HR-120
一条二坊	中、西ノ京円町 37	立	11/19	表土下 0.47m にて土壌 11。時期不明。	HR-121
一条三坊	中、西ノ京伯楽町 14-51	立	11/22	表土下 0.2m にて土壌 4。時期不明。	HR-122
五条四坊	右、西院安塚町 21	試	11/24	表土下 2.2m にて土壌 4。時期不明。	HR-123
八条一坊	下、西七条東久保町 55	立	11/25	盛土のみ。	HR-124
九条二坊	南、吉祥院清水町 36	試	11/30	表土下 0.47m にて河川の堆積。	HR-125
三条三坊	中、西ノ京中合町 38	立	11/30	盛土のみ。	HR-126
四条一坊	中、壬生森町 45-24	立	12/7	検出なし。	HR-127
八条一坊	下、西七条東久保町 55	立	12/7	検出なし。	HR-128
一条三坊	中、西ノ京御輿岡町 12-8・23	立	12/8	盛土のみ。	HR-129
四条二坊	中、壬生東大竹町地内	立	12/10~13	検出なし。	HR-130
一条二坊	上、上ノ下立売通御前西入 2丁目堀川町 572-28	立	12/13	盛土のみ。	HR-131
九条三坊	南、吉祥院中河原里南町 20	立	12/13	検出なし。	HR-132
二条二坊	中、西ノ京円町 6-2	立	12/13	検出なし。	HR-133

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
六条三坊	右、西院太田町 84、85	立	12/17～22	表土下 0.5m にて平安の溝 11、柱穴 6。	HR -135
七条四坊	右、西京極西川町地先	立	12/18	検出なし。	HR -136
九条三坊	南、吉祥院西ノ庄湖ノ西町 14 -1	立	12/23	盛土のみ。	HR -137
北辺二坊	北、大將軍川端町 49	立	1 /10	検出なし。	HR -138
三条三坊	中、西ノ京中合町 49、50	立	1 /10	検出なし。	HR -139
六条一坊	下、中堂寺粟田町 1	立	1 /13	検出なし。	HR -140
三条二坊	中、西ノ京新建町 1	試	1 /17	表土下 0.5m 以下時期不明の旧河川の堆積。	HR -141
九条二坊	南、唐橋西寺町 26	立	1 /21	盛土のみ。	HR -142
四条一坊	中、壬生天ヶ池町 29	立	1 /24	盛土のみ。	HR -143
一条三坊	中、西ノ京伯楽町 10 -4	立	1 /25	検出なし。	HR -144
七条四坊	右、西京極北裏町 15	立	1 /25・26	表土下 1.3m にて平安中期の包含層及び平安前期～中期の土層 7。図版 48 -4・5、52 -1～3。	HR -145
九条三坊	南、吉祥院前河原町 15 -1	試	1 /26	検出なし。	HR -146
四条二坊	右、西院巽町 40 -2	立	2 /12	検出なし。	HR -147
八条四坊	右、西京極野田町 2	立	2 /14	検出なし。	HR -148
一条四坊	右、花園宮ノ上町地先	立	2 /14・18・23	表土下 0.2m にて鎌倉後期の包含層。	HR -149
北辺二坊	上、天神通一条下大東町 84	立	2 /19	検出なし。	HR -150
六条一坊	下、中堂寺庄ノ内町 37 -6	立	2 /22	表土下 0.5m にて平安の包含層。	HR -151
六条四坊	右、西京極野田町 51	立	2 /22	盛土のみ。	HR -152
三条二坊	中、西ノ京原町地先	立	2 /22	検出なし。	HR -153
四条二坊	右、西院東今田町 10 -13	立	2 /22	表土下 0.95m で平安中期の包含層。	HR -154
一条二坊	上、上ノ下立売通御前西入大宮町 488 -1	試	2 /23	表土下 1.05m にて平安前期の包含層。	HR -155
八条二坊	下、西七条南農田町 68	立	2 /23・25	表土下 1.0m にて土層 1。時期不明。	HR -156
七条二坊	下、西七条市部町 41 -2	立	3 /3	検出なし。	HR -157
九条二坊	下、七条御所ノ内本町 100	立	3 /3	表土下 0.85m にて平安中期の土層 1。	HR -158
九条二坊	南、唐橋門脇町 28	立	3 /3	表土下 0.17m で室町、下層で古墳前期の土層。	HR -159
一条二坊	中、西ノ京円町 15	立	3 /7・8	表土下 0.2m にて平安中期の包含層、土層 6。	HR -160
一条四坊	右、花園宮ノ上町地先～伊町地先	立	3 /11・12	検出なし。	HR -161
二条二坊	中、西ノ京円町 29 -3	試	3 /14	検出なし。	HR -162
六条一坊	中、中堂寺庄ノ内町 1 -212	立	3 /15	表土下 0.41m 以下で平安中期の包含層、室町の土層 1。	HR -163
二条三坊	中、西ノ京藤ノ木町 1 -4	立	3 /15・18	検出なし。	HR -164
一条二坊	北、大將軍東康司町	立	3 /15・16	表土下 0.55m 以下で平安～室町の包含層、室町の土層。	HR -165
四条二坊	中、壬生大竹町 23	立	3 /15	盛土のみ。	HR -166
七条二坊	下、西七条西石ヶ坪町 40	試	3 /16	表土下 0.35m で平安中期の包含層。	HR -167
五条四坊	右、西院東貝川町地内	立	3 /17・18	検出なし。	HR -168
五条三坊	右、西院太田町 24	立	3 /22	検出なし。	HR -169
七条一坊	下、朱雀宝蔵町 58	試	3 /28	検出なし。	HR -170
九条三坊	南、吉祥院西ノ庄湖ノ西町 14 -2	立	3 /28	盛土のみ。	HR -171
二条三坊	中、西ノ京伯楽町 4 -15	立	3 /24	検出なし。	HR -172
八条二坊	下、西七条石井町 30 -1	立	3 /31	表土下 1.0m で古墳前期の包含層。	HR -173

京域外の遺跡

遺跡名	所在地	立	調査日	概要	要	調査番号
仁和寺院家跡	右、常盤御池町 21 - 14	立	4 / 5	表土下 0.9m にて鎌倉前期の包含層。		UZ - 1
広隆寺境内遺跡	右、太秦一ノ井町 13 - 10	立	4 / 5	巡回時工事終了。調査不可能。		UZ - 2
森ヶ東瓦窯跡	右、太秦森ヶ東町地内～森ヶ東町 4	立	5 / 24・26	検出なし。		UZ - 3
常盤東ノ町古墳群	右、常盤村ノ内町 8 - 43	立	6 / 14	盛土のみ。		UZ - 4
仁和寺南院跡	右、宇多野御屋敷町 1 - 1	立	5 / 29 ~ 6 / 5	表土下 0.6m で池状の堆積。南院内の池状遺構と考えらる。図版 524。		UZ - 5
上ノ段町遺跡	右、太秦宮ノ前町～垂箕山町	立	6 / 15 ~ 7 / 24	検出なし。		UZ - 6
井戸ヶ尻遺跡	右、太秦海正寺町地内	立	6 / 19 ~ 7 / 16	検出なし。		UZ - 7
常盤東ノ町古墳群	右、常盤村ノ内町 1 - 5・14	試	8 / 9・10	表土下 0.5m 以下にて古墳後期～室町の包含層、土壌群。		UZ - 8
〃	右、太秦一ノ町 32 - 15	立	8 / 19	検出なし。		UZ - 9
広隆寺境内遺跡	右、太秦蜂岡町 32	立	9 / 10・18・22	表土下 0.1m 以下にて平安の包含層、土壌 3。		UZ - 10
散布地門田町遺跡	右、嵯峨広沢西裏町 35 - 1・4	立	9 / 14・16	検出なし。		UZ - 11
〃	右、太秦門田町 4	立	10 / 29, 11 / 11	検出なし。		UZ - 12
〃	右、太秦門田町 4	立	10 / 29, 11 / 11	検出なし。		UZ - 13
仁和寺院家跡	右、宇多野三ノ宮町地先	立	10 / 29, 11 / 11	検出なし。		UZ - 14
広隆寺境内遺跡	右、太秦東峰岡町 10	立	12 / 2	盛土のみ。		UZ - 15
一ノ井遺跡	右、太秦森ヶ西町 6 - 3	試	12 / 10	表土下 0.7m にて古墳後期～室町の土壌、柱穴。		UZ - 16
広隆寺境内遺跡	右、太秦森ヶ西町 6 - 3	立	2 / 18	表土下 0.15m にて柱穴 1、土壌 1。時期不明。		UZ - 17
円教寺跡	右、太秦蜂岡町 10 - 165	立	2 / 28, 3 / 3	表土下 0.45m で柱穴。時期不明。		UZ - 18
栗栖野瓦窯跡	右、花園天授ヶ岡町 3	立	3 / 18	表土下 0.63m で平安の包含層。		UZ - 19
出雲寺跡	左、岩倉幡枝町 1234, 656	試	4 / 1	表土下 1.6m にて平安の湿地状の堆積。		RH - 1
大徳寺境内植物園北遺跡	上、烏丸通鞍馬口東入下ル上御霊堅町 446 地先	立	4 / 6	検出なし。		RH - 2
北野廢寺	北、紫野北花ノ坊町地内～大徳寺町地内	立	4 / 13	検出なし。		RH - 3
植物園北遺跡	左、松ヶ崎西山 16 - 1 地先	立	4 / 26	盛土のみ。		RH - 4
平安京左京北辺一坊隣接地	上、今小路通御前西入上ル観音寺門前町 821 - 46	立	5 / 6	盛土のみ。		RH - 5
南ノ庄田瓦窯跡	北、上賀茂土門町 66	立	5 / 25	検出なし。		RH - 6
室町殿跡	上、一条通千本東入北伊勢殿構町 681	立	5 / 31	盛土のみ。		RH - 7
北野廢寺植物園北遺跡	左、岩倉幡枝町 410 - 1, 433 - 2	試	6 / 10	検出なし。		RH - 8
室町殿跡	上、烏丸通今出川上ル御所八幡町 110 - 14	立	6 / 11	盛土のみ。		RH - 9
北野廢寺植物園北遺跡	北、北野東紅梅町 6	立	4 / 5, 6 / 18	検出なし。		RH - 10
室町殿跡	北、上賀茂桜井町 88 - 1 ~ 5	試	6 / 30	検出なし。		RH - 11
相国寺旧境内隣接地	上、室町通上立売下ル裏築地町 88	立	7 / 20	検出なし。		RH - 12
遺跡外	上、室町通上立売上ル室町頭町 278	立	7 / 27	表土下 1.3m にて室町の包含層。		RH - 13
植物園北遺跡	上、油小路通元誓願寺上ル東入針屋町 (小川小學校)	立	7 / 27	表土下 1.2m にて室町の包含層。		RH - 14
平安京右京北辺一坊隣接地	北、上賀茂桜井町 31	立	8 / 9	盛土のみ。		RH - 15
北野廢寺相国寺旧境内	上、一条通七本松西入滝ヶ鼻町地内	立	8 / 20	検出なし。		RH - 16
〃	北、西大路通平野神社南～今小路	立	8 / 21 ~ 30	検出なし。		RH - 17
〃	上、室町通寺ノ内上ル下柳原北半町 211 - 3	立	8 / 24・26	表土下 0.95m にて室町の包含層。		RH - 18
〃	上、烏丸通上御霊前下ル相国寺門前町 647 - 7	立	9 / 3	検出なし。		RH - 19

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
植物園北遺跡	左、下鴨南芝町 39	立	9/27・28	表土下 0.15m にて土壌 5。時期不明。		RH - 20
北野麩寺	北、北野東紅梅町 22 - 3	立	10/ 6	検出なし。		RH - 21
〃	北、北野上白梅町地先～上、紙星川町地先	立	10/15・16	検出なし。		RH - 22
聚楽第跡	上、笹屋町通大宮西入榎屋町 585	立	11/ 4	表土下 0.8m にて室町後期の包含層。		RH - 23
室町殿跡	上、今出川通堀川～烏丸西入	立	11/29 ～ 3/ 7	表土下 0.8m 以下で平安末期～室町末期の包含層及び土壌多数。		RH - 24
植物園北遺跡	左、下鴨南芝町 28 - 3	立	12/ 7	盛土のみ。		RH - 25
北野遺跡	北、北野西白梅町 64	立	12/15	盛土のみ。		RH - 26
相国寺旧境内	上、室町通上立売上ル東入柳ノ園子町 308	立	1/20・21	表土下 0.34m 以下で室町時代の包含層、土壌。		RH - 27
紫野斎院跡	上、大宮通西裏蘆山寺上ル 2 丁目堅社南半町 223、225	立	2/17 ～ 19	表土下 0.25m 以下にて平安後期の包含層、土壌 9。		RH - 28
聚楽第跡	上、元誓願寺堀川西入富小路町 460	立	2/21・22	検出なし。		RH - 29
植物園北遺跡	北、上賀茂石計町 52	立	3/ 7	盛土のみ。		RH - 10
相国寺旧境内	上、烏丸通今出川東入玄武町地先	立	3/31	検出なし。		RH - 31
白河街区跡	左、岡崎円勝寺町 91 地先	立	4/ 2	巡回時工事終了。調査不可能。		KS - 1
〃	左、岡崎天王町 48 - 2	立	4/10	盛土のみ。		KS - 2
〃	左、聖護院川原町 27 - 1	立	4/13	検出なし。		KS - 3
〃	左、岡崎成勝寺町 5 - 4	立	4/20	盛土のみ。		KS - 4
〃	左、聖護院蓮華蔵町地先	立	4/22	検出なし。		KS - 5
〃	左、聖護院蓮華蔵町 8 - 12	立	5/15・17	検出なし。		KS - 6
〃	左、新東洞院通仁王門下ル菊鉢町 296	立	5/15	表土下 1.5m にて室町後期の土壌 1。		KS - 7
〃	左、岡崎天王町 35 地内～ 39 地内	立	5/28 ～ 6/4	表土下 0.4m にて鎌倉の包含層、土壌 2。		KS - 8
〃	左、聖護院川原町 1	立	6/ 7・8	検出なし。		KS - 9
〃	左、岡崎天王町地先	立	6/12・15	表土下 0.15m にて鎌倉前期の包含層。		KS - 10
〃	左、孫橋町～岡崎成勝寺町	立	6/24 ～ 10/ 6	検出なし。		KS - 11
禅林寺境内	左、若王寺町 13	立	6/28	盛土のみ。		KS - 12
白河街区跡	左、川端通二筋東一条上ル新先斗町 131 - 2、129	立	6/29	検出なし。		KS - 13
〃	左、丸太町通岡崎道～天王町他	立	7/6・8・21・22	表土下 0.8m にて室町の包含層。		KS - 14
北白川上池田町	左、北白川上池田町 7 地先～下池田町 94 地先	立	7/ 9 ～ 8/ 4	表土下 0.12m 以下で古墳後期～鎌倉の包含層、土壌。図版 48 - 1 ～ 3。		KS - 15
古墳群						
白河街区跡	左、岡崎徳成町 24	立	7/12	盛土のみ。		KS - 16
京都大学農学部	左、北白川西町地内	泣	7/13 ～ 26	検出なし。		KS - 17
構内遺跡						
修学院小学校内	左、修学院川尻町（修学院小学校）	立	5/31	検出なし。		KS - 18
遺跡						
北白川麩寺	左、北白川山ノ元町地内	立	8/10 ～ 19	検出なし。		KS - 19
京都大学農学部	左、北白川西町 85 ～ 88	立	8/13 ～ 9/1	検出なし。		KS - 20
構内遺跡						
白河街区跡	左、岡崎徳成町 23 - 6	試	8/25	表土下 1.6m にて平安の包含層。		KS - 21
〃	左、吉永町 272 - 1	立	8/25・28	検出なし。		KS - 22
〃	左、岡崎徳成町～北門前町	立	8/28	盛土のみ。		KS - 23
〃	左、仁王門通新高倉東入北門前町 474 - 2	立	9/ 6	表土下 0.7m にて室町の包含層。		KS - 24
〃	左、岡崎最勝寺町	立	3/11・12	表土下 0.25m にて平安後期の包含層。		KS - 25
法成寺跡	上、寺町通荒神口上ル東入宮垣町 78 - 1	立	9/30、10/ 1	検出なし。		KS - 26



遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要	調査番号
白河街区跡	左、仁王門通疎水西通～神宮道	立	10/5	巡回時工事終了。調査不可能。		KS - 27
〃	左、竹屋町通川端東入東竹屋町 63 - 2	試	10/12	検出なし。		KS - 28
〃	左、竹屋町通川端東入東竹屋町 64、68 - 1	立	10/12	盛土のみ。		KS - 29
〃	左、丸太町通川端東入東丸太町 39	立	10/13	検出なし。		KS - 30
〃	左、岡崎円勝寺町 149 - 3、他 3 筆	試	10/20	表土下 2.56m にて平安末期の包含層及び土壇 1。		KS - 31
追分町古墳群	左、北白川追分町 89 ～小倉町 58	立	11/2・4・11・15	表土下 1.33m にて縄文晩期の包含層。		KS - 32
白河街区跡	左、仁王門通新高倉東入福本町 413	立	11/6	表土下 1.3m で室町の包含層。		KS - 33
一乗寺西浦畑町遺跡	左、一乗寺西浦町地先	立	11/8・9	検出なし。		KS - 34
京都大学農学部構内遺跡	左、吉田中ノ宮町地先	立	12/7	検出なし。		KS - 35
白河街区跡	左、岡崎法勝寺町（京都市立動物園）	立	12/9・10	検出なし。		KS - 36
小倉町・別当町遺跡隣接地	左、北白川上池田町 12 地先	立	12/9～11	検出なし。		KS - 37
白河街区跡	左、岡崎成勝寺町 9	立	1/10～3/8	表土下 0.65m 以下で古墳～室町の包含層。		KS - 38
吉田山遺跡	左、吉田神楽岡町 8 - 144	立	1/17	検出なし。		KS - 39
白河街区跡	左、吉田下大路町 24	立	1/17	検出なし。		KS - 40
〃	左、岡崎成勝寺町地先～円勝寺町地先	立	1/17・19	盛土のみ。		KS - 41
〃	左、岡崎天王町 45 - 1	立	1/19	表土下 0.1m にて包含層。時期不明。		KS - 42
〃	左、丸太町通川端東入東丸太町 15 - 1・2	立	2/25	検出なし。		KS - 43
〃	左、仁王門通岡崎円勝寺町～南禅寺草川町	立	2/26	盛土のみ。		KS - 44
〃	左、吉田近衛町 26 地先～26 - 6 地先	立	3/3～25	表土下 0.25m 以下平安末期～江戸の包含層及び土壇 4。		KS - 45
〃	左、岡崎北御所町 48 - 3	立	3/23	盛土のみ。		KS - 46
〃	左、岡崎北御所町 46 - 17	立	3/25	検出なし。		KS - 47
平安京左京三条四坊隣接地	中、寺町通御池下ル天性寺前町地先	立	4/5	検出なし。		RT - 1
山科本願寺跡	山、西野山階町 25 - 5	立	4/7	盛土のみ。		RT - 2
法興院跡	中、新烏丸通夷川上ル梅之木町 146	立	4/12	検出なし。		RT - 3
中臣遺跡	山、勸修寺東金ヶ崎 52 - 1	立	4/12	盛土のみ。		RT - 4
〃	山、西野山中臣町	立	4/16	検出なし。		RT - 5
〃	山、勸修寺西栗栖野町 40 - 19	立	4/16	盛土のみ。		RT - 6
法性寺跡	伏、深草正覚町 27	立	4/23、5/31	検出なし。		RT - 7
法観寺旧境内	東、高台寺南通下河原東入榊屋町 359	立	4/24、5/4・6	検出なし。		RT - 8
法住寺殿跡	東、大和大路七条下ル辰巳町 608	立	5/7・8	表土下 0.35m にて鎌倉の土壇 1。		RT - 9
中臣遺跡	山、西野山中臣町 64	試	5/17	検出なし。		RT - 10
法性寺跡	東、今熊野池田町	立	5/17	検出なし。		RT - 11
六波羅政庁跡	東、本町四丁目 125 - 2	立	5/14	検出なし。		RT - 12
中臣遺跡	山、東野舞台町	立	5/18	表土下 3.0m にて平安～室町の包含層。3.4m で縄文晩期～弥生前期の包含層。		RT - 13
法性寺跡	東、泉涌寺門前町 26	立	5/29	検出なし。		RT - 14
中臣遺跡	山、勸修寺西金ヶ崎 77 - 1	試	6/2	表土下 0.55m にて古墳の包含層。		RT - 15
珍皇寺境内	東、松原通大和大路東入 2 丁目糖樋町 110	試・立	6/5・10・11	表土下 0.6m にて鎌倉前期～室町の土壇。		RT - 16
法住寺殿跡	東、大和大路七条下ル辰巳町 595 地先	立	6/9・10	検出なし。		RT - 17
法興院跡	中、寺町通～折檻木町通、丸太町通～二条通	立	6/10～7/28	表土下 0.85m 以下にて室町の包含層及び平安末期の南北方向の溝状		RT - 18

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
法性寺跡	東、本町十三丁目 237 - 6	立	6 / 15	遺構。 検出なし。	RT - 19
法興院跡	中、新烏丸通竹屋町下ル梅之木町 136 - 1、137	立	6 / 16	検出なし。	RT - 20
中臣遺跡	山、勸修寺西栗栖野町 21 - 4	立	6 / 22	検出なし。	RT - 21
六波羅政庁跡	東、大黒町通五条上ル音羽町 321	立	6 / 23	盛土のみ。	RT - 22
法住寺殿跡	東、南瓦町 705 - 7	立	6 / 30	検出なし。	RT - 23
法性寺跡	東、泉涌寺門前町 30	立	7 / 23	検出なし。	RT - 24
六波羅政庁跡	東、大黒町通七条上ル塗師屋町 581	立	7 / 27	盛土のみ。	RT - 25
鳥辺野	東、今熊野南日吉町 30 地先	立	8 / 9 ~ 23	検出なし。	RT - 26
六波羅政庁跡	東、大和大路通五条下ル 3 丁目東入南梅屋町 199	立	8 / 20	検出なし。	RT - 27
〃	東、五条橋東四丁目 423	立	8 / 24	盛土のみ。	RT - 28
〃	東、六波羅南通東入三盛町 170	立	9 / 1	検出なし。	RT - 29
元屋敷廢寺	山、大塚元屋敷町 63、大岩 5 - 25	立	9 / 6	検出なし。	RT - 30
勸修寺境内	山、勸修寺西北出町 23 - 1	立	9 / 8	盛土のみ。	RT - 31
鳥辺野	東、妙法院前側町 439	立	9 / 13	検出なし。	RT - 32
〃	東、今熊野南日吉町 21 - 23	立	9 / 13	盛土のみ。	RT - 33
六波羅政庁跡	東、六波羅南通東入三盛町 174	立	9 / 16	検出なし。	RT - 34
法興院跡	中、河原町通夷川上ル指物町 327	立	10 / 9	検出なし。	RT - 35
大塚遺跡	山、大塚野溝町地先～北溝町地先	立	10 / 12 ~ 25	検出なし。	RT - 36
鳥辺野	東、今熊野阿弥陀ヶ峯町 3 - 1、今熊野北日吉町	試	10 / 13	検出なし。	RT - 37
法性寺跡	東、今熊野柳ノ森町	立	10 / 20	検出なし。	RT - 38
法興院跡	中、新榎木町通竹屋町上ル西草堂町 205 - 4	立	10 / 29・30	表土下 1.85m 以下旧河川の堆積。	RT - 39
中臣遺跡	山、勸修寺西金ヶ崎 78 - 2・3	立	11 / 2	検出なし。	RT - 40
〃	山、栗栖野狐塚 41 - 4	立	11 / 5	検出なし。	RT - 41
〃	山、柳辻番所ヶ口町 27 - 2	試	11 / 11	表土下 1.35m で飛鳥、奈良の包含層。発掘調査に切り換える。	RT - 42
六波羅政庁跡	東、渋谷通東大路鐘鐺町 414 - 11・12	立	11 / 12	検出なし。	RT - 43
大塚遺跡	山、大塚野溝町 76 - 1	立	11 / 19・20	検出なし。	RT - 44
中臣遺跡	山、勸修寺西金ヶ崎 15、16	立	11 / 20	盛土のみ。	RT - 45
六波羅政庁跡	東、五条通建仁町西入五条橋東二丁目 4、他	立	11 / 24 ~ 26	表土下 1.8m 以下旧河川の氾濫原。	RT - 46
中臣遺跡	山、勸修寺西栗栖野町 54 - 3	立	11 / 29	検出なし。	RT - 47
〃	山、勸修寺東栗栖野町 13 - 1、17	試	12 / 3	検出なし。	RT - 48
〃	山、勸修寺東金ヶ崎 26 - 3	試	12 / 6	検出なし。	RT - 49
鳥辺野	東、今熊野南日吉町 21 - 25	立	12 / 7	盛土のみ。	RT - 50
大宅廢寺	山、大宅中小路町 17 - 2	試	12 / 15	検出なし。	RT - 51
法性寺跡	東、一橋野本町 105	立	12 / 16	盛土のみ。	RT - 52
〃	東、泉涌寺東林町 29	試	1 / 19・24・25	表土下 0.45m にて平安後期の柱穴 1。	RT - 53
中臣遺跡	山、勸修寺西金ヶ崎 75	試	1 / 27	表土下 0.65m にて東西方向の溝 1、堅穴住居址 1 戸。発掘調査に切り換える。	RT - 54
中臣遺跡隣接地	山、柳辻封ジ川町 10 - 1	試	1 / 24	検出なし。	RT - 55
珍皇寺境内	東、小松町～轆轤町地先	立	1 / 28・29	表土下 0.45m にて室町の土壌 1。	RT - 56
六波羅政庁跡	東、大黒町通正面上ル蛭子町南組 239	立	2 / 1	表土下 1.55m にて室町の池状の堆積。	RT - 57
山科本願寺跡	山、西野広見町 38 地先	立	2 / 4 ~ 26	表土下 1.15m にて室町の包含層。	RT - 58
中臣遺跡	山、東野舞台町 69 - 10、65 - 7	立	2 / 5	盛土のみ。	RT - 59
〃	山、栗栖野狐塚 10、11、11 - 7、27、27 - 1・2	試	2 / 14	検出なし。	RT - 60
法性寺跡	東、泉涌寺雀ヶ森町 3	立	2 / 14	検出なし。	RT - 61
中臣遺跡	山、	立	2 / 21	検出なし。	RT - 62
六波羅政庁跡	東、問屋町通正面上ル鍵屋町 497	立	3 / 8	表土下 0.75m 以下流れ堆積。	RT - 63
〃	東、六波羅南通東入多門町 158	立	3 / 9	検出なし。	RT - 64

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	調査番号
法住寺殿跡	東、大和大路通塩小路上ル七軒町575、576、578	試	3/11	表土下0.6mで平安後期の整地面。 発掘調査に切り換える。	RT-65
〃	東、東大路通七条下ル東瓦町地先	立	3/11・12	盛土のみ。	RT-66
中臣遺跡	山、栗栖野狐塚18-4、他	試	2/28	検出なし。	RT-67
〃	山、勸修寺東栗栖野町78	立	3/14	盛土のみ。	RT-68
伏見城跡	伏、銀座町四丁目279	立	4/6	盛土のみ。	FD-1
〃	伏、京町北七丁目9-1	立	4/17	表土下0.15mにて桃山の包含層。	FD-2
〃	伏、桃山町泰長老179	試	4/26、5/24-29	検出なし。	FD-3
〃	伏、桃山町大蔵45	立	5/28・29	埋土のみ。	FD-4
〃	伏、下板橋町639	試	6/21・23	表土下1.0mにて桃山の土壌1。	FD-5
深草寺跡	伏、深草田谷町1	試	6/28	検出なし。	FD-6
伏見城跡	伏、東大手町759	立	8/4	検出なし。	FD-7
〃	伏、銀座町1、他	立	8/5	検出なし。	FD-8
〃	伏、桃山町永井久太郎(官有地)	立	8/11	検出なし。	FD-9
〃	伏、桃山町金森出雲1-3	立	8/23	検出なし。	FD-10
〃	伏、桃山町板倉周防~本多上野地内	立	9/22~29	表土下0.6mにて伏見城の濠跡。	FD-11
〃	伏、桃山町泰長老179	立	9/24	検出なし。	FD-12
〃	伏、桃山町伊賀56、56-1	立	10/8	検出なし。	FD-13
国立京都病院構内遺跡	伏、深草向畑町(国立京都病院構内)	試	11/12	検出なし。	FD-14
伏見城跡	伏、桃山井伊掃部東町	立	11/13・15	表土下0.4mにて室町末期の落ち込み。	FD-15
〃	伏、下板橋町~伯耆町	立	11/15、1/6~31	表土下0.95mにて室町の落ち込み。	FD-16
〃	伏、墨染町706	立	11/12	検出なし。	FD-17
深草遺跡	伏、深草直達橋八丁目地先	立	11/17	検出なし。	FD-18
伏見城跡	伏、深草墨染町地内	立	11/25	検出なし。	FD-19
〃	伏、京町四丁目168-1、169-1、170-1	立	1/6・7・11	検出なし。	FD-20
〃	伏、桃山毛利長門西町地内	立	12/18・20	検出なし。	FD-21
〃	伏、桃山町大蔵45	立	1/17	検出なし。	FD-22
〃	伏、桃山町毛利長門東町	立	1/21	盛土のみ。	FD-23
〃	伏、墨染町708	立	2/16	検出なし。	FD-24
下鳥羽遺跡	伏、下鳥羽北ノ口町41-1・2	立	4/9・12	検出なし。	TB-1
〃	伏、竹田鋸川町地先~梅ノ川町地先	立	4/13・16	検出なし。	TB-2
鳥羽離宮跡	伏、竹田内畑町18	試	4/19	表土下0.7mにて東西方向の濠状の遺構。同肩部にて鳥羽離宮時代の柱穴1。	TB-3
〃	伏、中島前山町25-1	立	4/27	検出なし。	TB-4
〃	伏、中島前山町24-1	立	4/28	工事に伴う掘削なし。	TB-5
〃	伏、中島御所ノ内町25-1	試	5/31	表土下1.1mにて池状堆積。	TB-6
〃	伏、竹田浄菩提院町64、65	試	6/5	表土下0.1mにて東西に延びる基壇状の遺構。	TB-7
〃	伏、竹田浄菩提院町73、73-9	試	6/7	検出なし。	TB-8
〃	伏、竹田小屋ノ内町11-B	試・立	6/8・12	表土下0.68mにて鳥羽離宮期の溝状遺構。	TB-9
〃	伏、竹田田中殿町34	立	6/19	表土下0.5mにて鳥羽離宮期の包含層。	TB-10
〃	伏、中島中道町20	立	6/18	盛土のみ。	TB-11
〃	伏、中島前山町	立	6/25	表土下0.6mにて池または旧河川の堆積。	TB-12
深草遺跡	伏、深草キトロ町32	立	6/28	検出なし。	TB-13
唐橋遺跡	南、唐橋川久保町地先	立	6/28	検出なし。	TB-14

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	要調査番号
鳥羽離宮跡	伏、中島中道町 10-1、11-1、12	試	7/22	表土下 1.52m にて池状の堆積。	TB-15
唐橋遺跡	南、吉祥院九条町 55-5	立	8/24	表土下 0.6m にて室町の包含層。	TB-16
鳥羽離宮跡	伏、中島前山町 8-1	立	8/26	盛土のみ。	TB-17
〃	伏、竹田小屋ノ内町 36、浄菩提院町 33-A	試	8/30	検出なし。	TB-18
〃	伏、中島宮ノ後町 12-1、他 3 筆	試	9/4-5	表土下 0.7m にて鳥羽離宮期の基壇の地業。	TB-19
下鳥羽遺跡	伏、寝小屋町 62, 62-4, 64, 64-3, 67	試	9/10	表土下 0.45m にて鎌倉の包含層、下層で鎌倉の溝状遺構。	TB-20
西飯食町遺跡	伏、深草池ノ内町官有地	試	9/13	表土下 1.5m にて旧河川の堆積層。	TB-21
鳥羽離宮跡	伏、中島堀端町	立	9/30、10/1	表土下 0.25m 以下にて鎌倉後期の土壇 2。	TB-22
〃	伏、竹田浄菩提院町地先	立	10/6	検出なし。	TB-23
下鳥羽遺跡	伏、下鳥羽北ノ口町 40-1・2, 41-1・2, 渡瀬町 31-11	立	10/6	検出なし。	TB-24
〃	伏、竹田泓ノ川町、下鳥羽城ノ越町	試	10/7	表土下 1.5m にて旧河川の堆積。	TB-25
平安京左京九条三坊隣接地	南、東九条南鳥丸町 19 (東和小学校)	立	9/21	検出なし。	TB-26
鳥羽離宮跡	伏、竹田桶ノ井町	立	10/21	盛土のみ。	TB-27
〃	伏、中島前山町	立	10/26	検出なし。	TB-28
下鳥羽遺跡	伏、竹田松林町 40, 40-1	試	10/27	表土下 1.5m にて湿地状の堆積。古墳後期。	TB-29
鳥羽離宮跡	伏、中島秋ノ山町 32	試	11/4	表土下 1.5m にて鳥羽離宮期の遺構面。発掘調査に切り換える。	TB-30
〃	伏、竹田小屋ノ内町 9, 9-2, 10, 浄菩提院町	試	11/8	検出なし。	TB-31
〃	伏、中島中道町 23-11・22	立	11/9	検出なし。	TB-32
西飯食町遺跡	伏、深草池ノ内町 12-1	試	11/15	調査区西側表土下 0.85m にて鎌倉の包含層。	TB-33
下鳥羽遺跡	伏、竹田薬屋町 27-A	立	11/29・30	表土下 0.76m にて奈良～平安の包含層。	TB-34
鳥羽離宮跡	伏、竹田内畑町 66 地先～79 地先	立	12/2・3・7・8	検出なし。	TB-35
〃	伏、竹田内畑町 10-3・5, 25-1・2	立	12/13	検出なし。	TB-36
深草遺跡	伏、深草西浦町 7 丁目 6-1	立	12/24	検出なし。	TB-37
鳥羽離宮跡	伏、中島中道町 28, 29, 30-3	試	1/7	表土下 1.4m にて飛鳥の遺構面と土壇 2。発掘調査に切り換える。	TB-38
深草遺跡	伏、深草西浦町 4 丁目 60-2	試	1/12	検出なし。	TB-39
鳥羽離宮跡	伏、竹田真幡木町 50-1、50-2	試	1/14	検出なし。	TB-40
〃	伏、中島外山町 7-1	立	1/19	表土下 1.1m 以下旧河川の堆積。	TB-41
〃	伏、中島秋ノ山町	立	1/31	盛土のみ。	TB-42
〃	伏、竹田真幡木町 42-2	試	2/7	検出なし。	TB-43
〃	伏、中島宮ノ前町 16-1	試	2/17	検出なし。	TB-44
〃	伏、竹田浄菩提院町 101、竹田小屋ノ内町	試	2/18	検出なし。	TB-45
〃	伏、中島宮ノ後町	試	2/21～24	表土下 1.3m で鳥羽離宮期の土壇。	TB-46
〃	伏、竹田内畑町 19-2	立	2/23・24	表土下 0.75m で鎌倉後半～室町の池状堆積。	TB-47
〃	伏、竹田浄菩提院町 73-9	立	3/8	検出なし。	TB-48
上鳥羽遺跡	南、上鳥羽南花名町 36	試	3/9	表土下 0.93m 以下旧河川の堆積。	TB-49
下鳥羽遺跡	伏、下鳥羽芹川町 3-10、39-2、39	立	3/25・26	表土下 0.83m 以下で弥生の包含層。	TB-50
平安京左京九条一坊隣接地	南、唐橋堂ノ前町 45～羅城門町 60	立	3/25～28	検出なし。	TB-51
鳥羽離宮跡	伏、竹田桶ノ井町 50-2, 50-3	立	3/31	検出なし。	TB-52
〃	伏、竹田小屋ノ内町	立	3/31	検出なし。	TB-53
中久世遺跡	南、久世中久世町 736	立	5/8, 6/8・9	盛土のみ。	MK-1

遺跡名	所在地	地試・立	調査日	概要	調査番号
上久世遺跡	南、久世上久世町 417-1	立	5/20・21・24	表土下 0.4m にて北東～南西方向の溝 1。溝延長部にて室町前期の土壙及び溝状遺構。	MK-2
中久世遺跡	南、久世穀城町 104-4	立	5/23	表土下 0.85m にて北西～南東方向の溝 1、土壙 5。時期不明。	MK-3
〃	南、久世殿城町 126	立	5/29	盛土のみ。	MK-4
〃	南、久世殿城町 33	立	7/29・30	表土下 1.3m にて古墳の包含層。1.7m にて弥生の包含層。	MK-5
上久世遺跡	南、久世上久世町地先	立	9/27	検出なし。	MK-6
中久世遺跡	南、久世中久世町四丁目 10	試	10/4	表土下 1.2m 以下にて平安後期～室町の柱穴、溝及び弥生後期の竪穴住居址状の遺構 2。	MK-7
上久世遺跡	南、久世上久世町	立	12/13～2/1	検出なし。	MK-8
福西古墳群	西、大技北福西町四丁目地先	立	12/2	盛土のみ。	MK-9
中久世遺跡	南、久世中久世町二丁目 104-4	立	1/21～27	表土下 0.66m 以下にて弥生中期～古墳前期の土壙、南北方向の溝。本文 166 P。	MK-10
上久世遺跡	南、久世中久世町一丁目	立	2/21～24	検出なし。	MK-11
上久世遺跡 隣接地	南、久世上久世町 400-2、他	試	3/25・26	検出なし。	MK-12
中久世遺跡	南、久世中久世町五丁目 81	立	3/8	検出なし。	MK-13
小塩窯跡・ 南春日町遺跡	西、大原野小塩、南春日町	試	1/24～3/30	緑釉陶器、無釉陶器多量に出土。本文 171 P。	MK-H02
長岡京跡	伏、納所薬師堂地内	立	4/8・16	埋土のみ。	NG-1
旧淀城跡	伏、納所妙徳寺（納所小学校）	立	5/10	検出なし。	NG-2
長岡京跡	南、久世東土川町 183	立	7/22	盛土のみ。	NG-3
〃	南、久世築山町 470	試	7/30	検出なし。	NG-4
淀城跡	伏、淀本町 167	試	8/2	検出なし。	NG-5
長岡京跡	伏、淀本町 174-46	立	8/31、9/1	表土下 0.7m にて旧河川の堆積。	NG-6
〃	南、久世築山町 485、486	試	9/22	検出なし。	NG-7
〃	伏、羽東師菱川町地先～志水町地先	立	9/28～10/1	検出なし。	NG-8
東土川遺跡	南、久世東土川町 334-2	立	10/5～7	表土下 0.5m にて弥生中期～後期の溝、土壙、柱穴。本文 167P。	NG-9
淀城跡	伏、淀本町 231	試	11/2	検出なし。	NG-10
長岡京跡	南、久世東土川町 10-1	試	11/18	表土下 2.1m にて長岡京の包含層。	NG-11
〃	伏、横大路西海道、他	立	11/24～1/8	表土下 1.2m にて旧河川の堆積層。出土遺物なし。	NG-12
〃	伏、淀樋爪町 627、628	立	1/12	検出なし。	NG-13
〃	南、久世大藪町 500-1、2	試	1/21	表土下 1.1m にて柱穴 2、溝状遺構及び弥生の包含層。	NG-14
〃	南、久世大藪町 545-3	立	2/9	検出なし。	NG-15

## II 平安宮・京跡

### 1 朝堂院・豊楽院跡

**経過** 調査地は平安宮朝堂院および豊楽院の北辺部に相当する。工事掘削が推進工法で行われたため、竖坑部のみ5カ所の立会調査を実施した

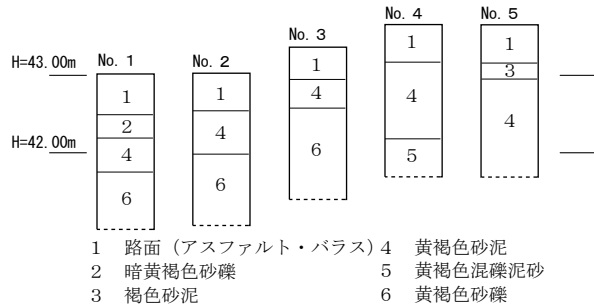
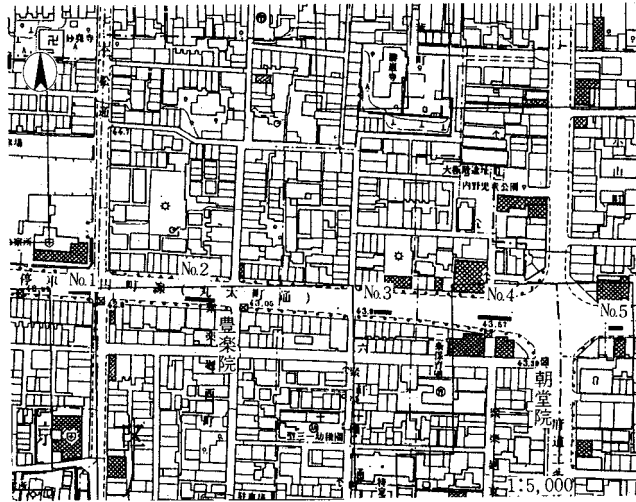
**遺構・遺物** 調査地5カ所の基本層序は路面（アスファルト・バラス）直下から黄褐色の

無遺物層となり、遺物包含層は一切認められなかった。これは市電敷設時における道路改変の際に削平を受けた結果によるものと考えられる。遺構としてはNo. 4地点において近世の土取穴と考えられる土壌を2基検出した。土壌の埋土中より近世陶器と共に多量の瓦類が出土した。その大半は平安時代前期に属するもので、緑釉を

施した瓦片も数10点出土している。緑釉を施した瓦類の大半は丸瓦・鬘斗瓦で瓦当を持つものはないが、鴟尾が1点出土している。その他には凝灰岩の破片が10点程度出土しているが瓦類同様原型をとどめるものはない。一方、No. 1地点においても既設管理土中より多量の平安前期の瓦類が出土している。ここでは緑釉を施した瓦は皆無で、比較的大ぶりの鴟尾片が採集されているがこれも無釉である。No. 2, 3, 5の調査地点では遺構・遺物は検出できなかった。

**小結** 今回の調査では2カ所の調査地点より多量の瓦類が出土したが、いずれも平安宮の遺構に伴うものではなかった。しかしNo. 4地点が朝堂院大極殿に、No. 1地点が豊楽院北辺部に相当することから判断して、両地点より多量に出土した瓦類はそれらの殿舎の屋根に使用されたものと考えられる。

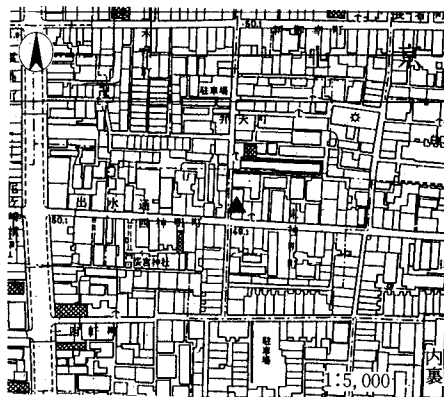
(家崎孝治)



柱状断面図 (1:100)

## 2 内裏内郭回廊跡 図版 43・51 -1~12

**経過** 調査地は平安宮内裏の北西部にあたる。当地の北方約 30mの地点で行われた発掘調査<sup>注1</sup>によって内裏北西に位置する蘭林坊の東南隅築地とみられる遺構が検出されており、その位置から考えれば、当地は内裏内郭の北側回廊が推定される部分にあたる。建物基礎掘りに先立つ擁壁工事に立会ったところ、平安時代の遺物包含層および土壌を確認したため、南北 10m、東西 2.5mのトレンチを設け調査を行った。その結果、平安時代前期の溝1条を含め、土壌、井戸等を検出した。調査期間は 1983年 3月 7日から 18日であった。



**遺構** 検出した遺構は溝2条、井戸1基、土壌 20基である。このうち平安時代に属するものは土壌9基、溝1条であり、他は近世および近代のものである。土壌のほとんどは全形が不明であるが、1基を除いて地山の黄褐色砂泥層に深く掘り込まれている。土壌内には、茶灰色砂泥、暗茶灰色砂泥が堆積し、細片になった土器や瓦が多く含まれていた。これらの土壌によって大部分の面が失われていたが、トレンチ南方に部分的に残っていた黄褐色砂泥層の上面で平安前期の溝を検出した。溝は北に対して約 30°程西へ振れた方位を持ち、幅約 0.8m深さ 0.15mである。溝内には濃褐色の粘性を帯びた泥土が堆積し、土師器、須恵器等が出土した。

**遺物** 出土遺物は整理箱にして 60箱出土した。調査面積 25m<sup>2</sup>に対してかなり遺物の密度は高いといえよう。このうち全体の 80%にあたる約 50箱が瓦類で、他は土器類である。これらの遺物は近世以降の井戸や土壌から出土した少量を除き、その大半が平安時代のものである。ここでは平安時代のものについて簡単に述べる。

瓦類には軒平瓦、軒丸瓦、平瓦、丸瓦がある。このうち軒平瓦が 38種64点、軒丸瓦が 25種59点あり、時期は平安時代前～後期を通じてある。主なものを図版 51に示した。

土器類はいずれも小片が多く全体を復元しうるものは少ない。その内容は、土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、無釉陶器<sup>注2</sup>、輸入陶磁器があり、他に表面に白土を塗った特殊な土器がある。総破片数にして 3968片あり、その比率は、土師器 78.2%、無釉陶器 9.2%、緑釉陶器 5.8%、須恵器 3.2%、黒色土器 2.1%、灰釉陶器 0.9%、輸入陶磁器 0.4%、その他 0.1%の順である。

**小結** 今回の調査によって検出された遺構は先に述べたとおりであるが、当初推定された内裏内郭回廊については明確な遺構を検出することができなかった。ただ調査区南部で検出した溝 (SD 16)

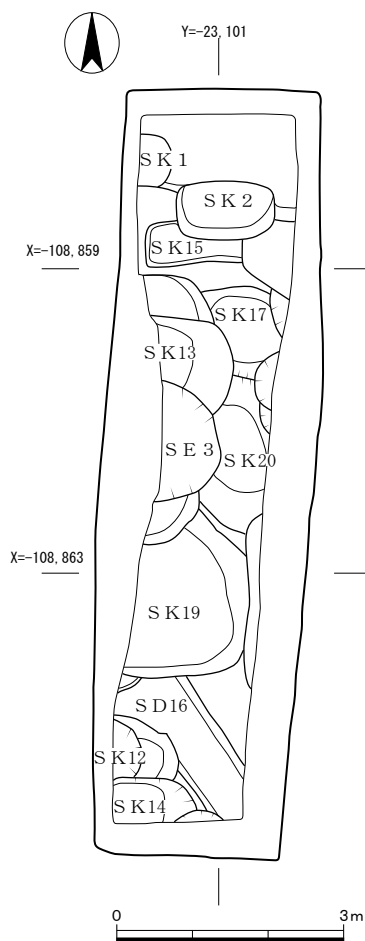
は平安時代前期に属するものであり、内郭回廊に関連するものかあるいは、その付近の施設と考えられる。またこの遺跡の土器類に関して注目されるのは、無釉陶器の比率の高さと、表面に白土を塗った土器の存在である。無釉陶器は平安宮、京内の調査では必ずといってよい程出土するが、出土量は土器全体に対してかなり少ないのが一般的である。ここで得られた9.2%という高い比率は、他の遺跡で出土する無釉陶器の量に対しては異常な高さである。前述した蘭林坊<sup>注3</sup>の調査でも、正確な数量は不明であるが、かなり出土していることが記述されており、内裏地区の性格とこの種の土器の間には何らかの関連が窺えるのではないだろうか。また表面に白土を塗った土器も、胎土は通常の土師器に近い色調を示す他は粒子の細い精良なものを用い、成形、調整の手法や器形は無釉陶器に酷似しており、さらに表面に白土を塗ることによって外観はほとんど変わらない。これらも無釉陶器と同様の用途に用いられたものと思われるが、この種の土器についての報告例はなく、今後の資料の増加をまちたい。(平尾政幸)

注1 寺島孝一 佐々木秀夫 松井忠春「平安宮推定  
内裏蘭林坊跡発掘調査の概要」

『古代文化』 卷27-11 1975年

注2 この種の土器については従来無釉陶器、白色土器、土師質土器等と呼称されているが、ここでは無釉陶器と仮称しておく。

注3 注1と同じ



遺構配置図(1:100)



### 3 左京三条三坊 図版 50-1～9

**経過** 当該地は左京三条三坊十一町にあたり、烏丸小路西側溝の検出が予想された。

1982年5月19日に試掘調査を実施した所地表下2.5mで南北溝を検出し、5月28日から6月5日まで発掘調査を行った。

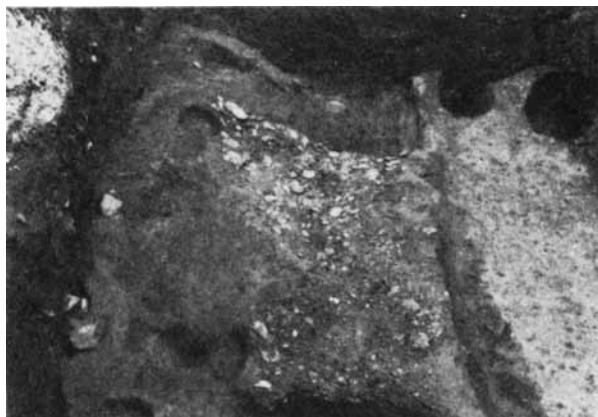
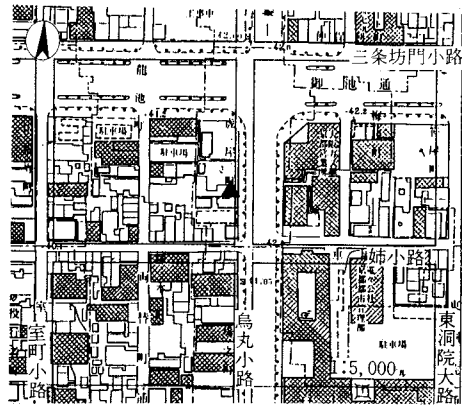
**遺構** 基本層序は、上から盛土(0.4m)、茶灰色泥砂(1.2m)、暗灰色砂泥(0.6m)、黄褐色泥砂層である。黄褐色泥砂層以下は無遺物層である。

検出した遺構は土壇11基、溝2条、柱穴8基などである。時代は平安中期から室町期にわたる。主要な遺構としては、烏丸小路西側溝と推定される南北溝がある。南北溝は黄褐色泥砂層を掘り込んで成立しており、幅1.6m、深さ0.5mの規模を測る。堆積土は暗灰褐色泥土(第1層)、暗灰色粗砂(第2層)、暗褐色粗砂(第3層)である。第1層と第2層は炭が多く混在する。溝内には多量の土器類が投棄された状態で検出できた。

**遺物** 南北溝より出土した土器類の大半は土師器皿で、他に土師器三足鉢、須恵器碗・鉢、緑釉陶器碗、灰釉陶器碗、瓦器碗、白磁碗・壺などがある。また鉛ガラスの珠数玉が1個出土している。これら南北溝出土の土器類は、寛治5年(1091)の墨書土器が伴出した土器群(平安京調査会『平安京跡発掘調査報告左京四条一坊』1975年)よりも古い様相を持っており、11世紀中葉に位置付けて考えている。

**小結** 今回検出した南北溝は、今までの発掘調査などの成果から判断して烏丸小路西側溝に推定される。溝からは多量の土器類が出土したが、土器の堆積状態を考えると、これらの土器群が埋まった時点で溝の機能は著しく阻害されたものと思われる。

(家崎孝治)



全景(北から)

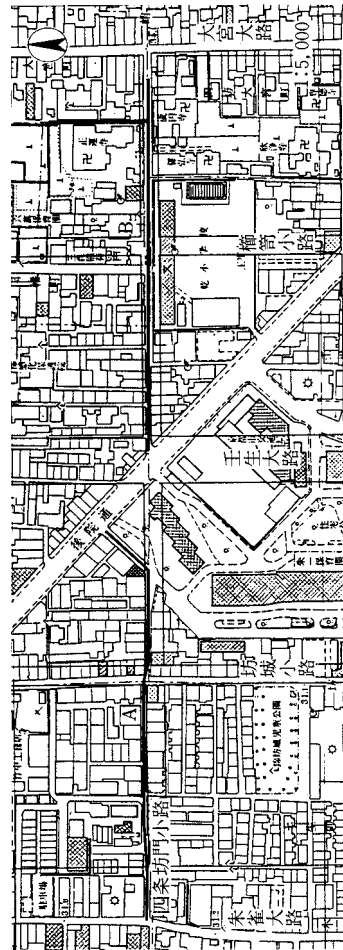
#### 4 左京西条一坊

**経過** 1982年8月9日より9月18日にかけて実施された大阪瓦斯による旧管と新管の入れ替え工事に際し立会調査を行った。場所は通り名で言うと蛸薬師通の内で大宮通と千本通間で中央は後院通によって分断されている。町名で言うと壬生朱雀町、御所ノ内町、馬場町、六角大宮町、四坊大宮町にわたっている。そこで西半部をA区、東半部をB区とした。

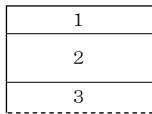
**遺構** B地点で示したところは、乾小学校の北側と正蓮寺との間で、道路北側を主に掘削した。ここには近世から近代とみられる溝があつて幅は不明であるが深さ1.6mある。この部分には平安時代の遺構は検出できなかった。A地点の斜線部(付図)において地表下0.5～0.7mの間に平安時代の遺物である須恵器、土師器片、緑釉陶器片が入っており、遺物包含層が0.2mの厚さで連続して検出できた。

**遺物** 平安時代の遺物はB地点で出土したもので小片ないし細片化していた。これは9世紀から10世紀にかけてのもので土師器片を中心として瓦片も含まれていた。

**小結** 今回の調査地は、付近で発掘調査があり壬生の公団住宅建設の折や四条坊門などでも、条坊に関する遺構が発見されている。B区(東半部)においては、北半分を掘削した結果、

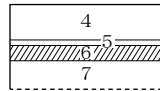


B H=31.50m



- 1 うめ土
- 2 灰色礫泥
- 3 灰色泥土

A H=33.10m



- 4 もり土
- 5 褐色泥砂
- 6 灰褐色泥土
- 7 褐色礫

断面模式図(1:100)

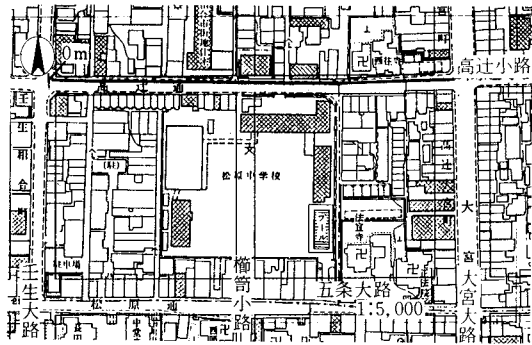
近代まで平行し

た水路があつてすべてこの中を断ち割る形で工事が進められており、左京の櫛笥小路の痕跡は検出できなかった。A区(西半部)は平安時代の土師器片、須恵器片、緑釉陶器片を続けて検出した。位置関係から四条坊門小路の北側溝ではないかと推定できる。

(吉村正親)

## 5 左京五条一坊

**経過** 調査地は中京区壬生相合町，下京区坊門町，五条大宮町で平安京の左京五条一坊にあたる。壬生大路，櫛笥小路，大宮大路，高辻小路などの条坊遺構の検出が期待された。調査の結果高辻小路北側溝と推定される遺構の検出をし，一定の成果を挙げた。期間は 1983年 2月 9日から 2月 28日までの 17日間を要した。



**遺構** 調査した高辻通の土層は西部と東部とで異なる。西部の土層は現路面，褐灰色泥砂，暗灰色泥砂，灰褐色砂礫層と続く。第Ⅱ層は近代遺物を含み，第Ⅲ層には鎌倉時代の遺物を含む。東部の土層は現路面，灰色泥砂，暗灰色泥砂，灰黄色砂層と続き，西部に比べ安定している。検出した主要遺構には次の様なものがある。

1. 溝 東部の 49m～ 51mにかけて溝状遺構を検出した。規模は幅 2m，深さ 0.5mある。Ⅲ層の鎌倉時代遺物包含層の下層から成立し，暗灰色泥砂を埋土とする。出土遺物には小片の土師器がある。
2. 溝 東部の 206m～ 212mにかけて高辻小路の北側溝と推定される溝状遺構を検出した。地表下 0.4m～ 1mの溝の埋土は，上層が灰色泥砂，下層が暗灰色泥砂である。下層から多量の土師器を中心とする遺物が出土した。溝の幅は工事掘削溝と平行したため不明。

**遺物** 出土遺物は高辻小路北側溝からのものである。器種には土師器，須恵器，緑釉陶器，瓦などがあり，9世紀後半のものである。

**小結** 調査地東部で検出した高辻小路北側溝関連の遺構は，1980・1982年の上水道工事に伴う立会調査などで検出され，堀川小路から櫛笥小路間の状況が断片的ながら知られる。1980年の立会調査では高辻，猪熊通の交差点南部で東西溝を検出した。この地点の土層断面は現路面，暗茶灰色泥砂，暗灰色泥砂，暗茶灰色粘土層と続き，Ⅲ層の暗灰色泥砂層から9世紀後半の遺物が多量に出土した。この土層の南北幅は不明ながら東西方向に 15m前後続くことから溝と推定され，高辻小路南側溝と考えられる。1982年立会調査でもこの溝の東部延長線上で同一の遺構を検出した。したがってこの地域では平安時代前期末に条坊遺溝（側溝）が廃棄されたことが知られる。後の時代の道路遺構に関連する溝は現在まだ確認していない。

(百瀬正恒)

## 6 左京五条二坊

**経過** 調査地は高辻通の内で大宮通と堀川通間、他に岩上通、黒門通の高辻通、松原通間である。平安京（条坊復原図の推定で）の地域は、高辻小路にあたっている。

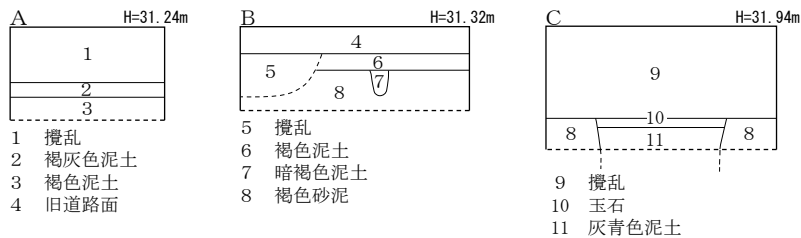
**遺構** A地点で検出された溝は、高辻通の南側歩道と平行して走っており 0.7～0.9mの深さで検出できた。上面は埋設管によって破壊されていた。この他に直径 1.6mの円形の井戸跡もあり地表下約 1.2mの部分に径 0.2m大の玉石が埋っておりその下は灰青色泥土が堆積していた。最下層までは確認できなかったが、若干の江戸時代の遺物を検出した。B地点では地表下 0.55mまでは中世・近世の旧路面で、この下より小穴を検出した。

**遺物** 平安時代の高辻小路北側溝から9世紀後半の土師器皿を多数発見した。これは同一層に含まれていたもので、やや薄手の口縁部を少し内側に反らした作りである。他に土師器の甕が2点あって下腹部には斜めの叩き痕があり口縁部は「く」の字に外反している。その他にも唐草文を持つ軒平瓦もあった。江戸期の井戸からは火舎や染付、播鉢が出土した。

**小結** 条坊遺構はA地点で発見できた。（A地点は古代友禅館の前にあって、比較的攪乱の少ない土層が確認できた。）条坊復原図によると高辻小路はやや南にずれており現代の南側歩道下が北側溝にあたっている。その平安時代の溝は地表下 0.7～0.9mの間で連続して観察できた。溝は高辻通と同一方向であったのでその幅を確認することはできなかった。

B地点は岩上通にあって土師器の小片を含む直径 0.25mの小穴があり他に包含層も検出され平安時代に含まれるものである。ここは左京五条二坊の内三町の中央部北端にあたる。

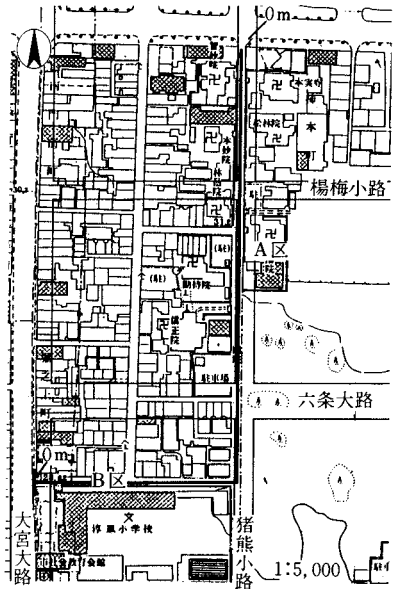
（吉村正親）



断面模式図(1:100)

## 7 左京六条二坊・七条二坊

**経過** 調査地は下京区柿本町、堀之上町の道路部分で、猪熊通と淳風小学校北側を調査した。この地域一帯は日蓮宗本圀寺の旧寺域内にあたる。本圀寺は貞和元年（1345）鎌倉から京都の堀川小路西、六条坊門小路南、大宮大路東、七条大路北に十二町の寺地を得、移ってきた。寺は上京区の妙顕寺に並び称されるほど発展、寺観を整えたが、天文五年（1536）の延暦寺衆徒による天文法華の乱で灰燼に帰した。その後復興されたが、昭和40年代に山科区に移転した。さらに平安時代は左京六条二坊、七条二坊にあたり、六条大路北、堀川小路西、猪熊小路東には院政期から鎌倉時代の初期にかけて摂政・関白を努めた近衛基通の邸宅、猪熊殿があった。



調査は猪熊通をA区、淳風小学校北通をB区として行った。A区では近世から平安時代にかけての遺構、遺物を多数検出、中でも室町時代後期に廃棄された大規模な堀状遺構は注目される。B区では鎌倉、室町時代の土壌を検出した。調査は1982年6月1日から6月29日にかけて行った。

**遺構** A区では近世の路面、室町時代後期の堀状遺構、鎌倉時代の井戸、平安時代の柱穴など多数の遺構、遺物が出土した。A区北部38m地点の土層は、現路面、路面、灰色砂泥、灰色泥砂、灰褐色泥砂層と続き地山は灰褐色泥砂である。1. 堀 A区11m地点から101.2m地点にかけて堀状遺構を検出した。堀の埋土は淡灰茶色泥砂、灰褐色泥砂、灰色泥砂で地表下0.6m前後から始まり1.4m前後まで続く。堀の方向は南北で約90m確認したが、北の開始地点は攪乱で不明。東西幅も不明であるが堀西肩は現在の猪熊通西路肩付近に推定される。遺物は48m地点から瓦器の羽釜が多数出土した。2. 堀 A区135mから138.5mにかけて堀状遺構を検出したが南肩は攪乱で不明。北肩は3.の溝北肩を切っている。埋土は暗灰色泥砂で下層から室町時代の遺物が出土した。A区145m地点の土層は、現路面、焼土（天明大火層）、暗灰色泥砂（路面）、灰色泥砂、灰色泥砂（鎌倉時代遺物包含層）、茶灰色泥砂（平安時代遺物包含層）、茶灰色粘土（地山）、灰褐色砂層と続く。3. 溝 A区139m～141.5mにかけて溝状遺構がある。深さは0.9m、埋土は暗灰色泥砂、底には径5～10cmの礫が多数ある。4. 堀 A区165m～174mにかけて堀状遺構を検出したが北肩は攪乱で不明。堀埋土は前記した145m地点の第IV層下面から成立している。埋土は暗灰色砂泥と暗灰色泥砂である。下層から土師器が出土した。5. 堀 A区174.1m～179mまでの約5m間に堀状遺構はないが、再び

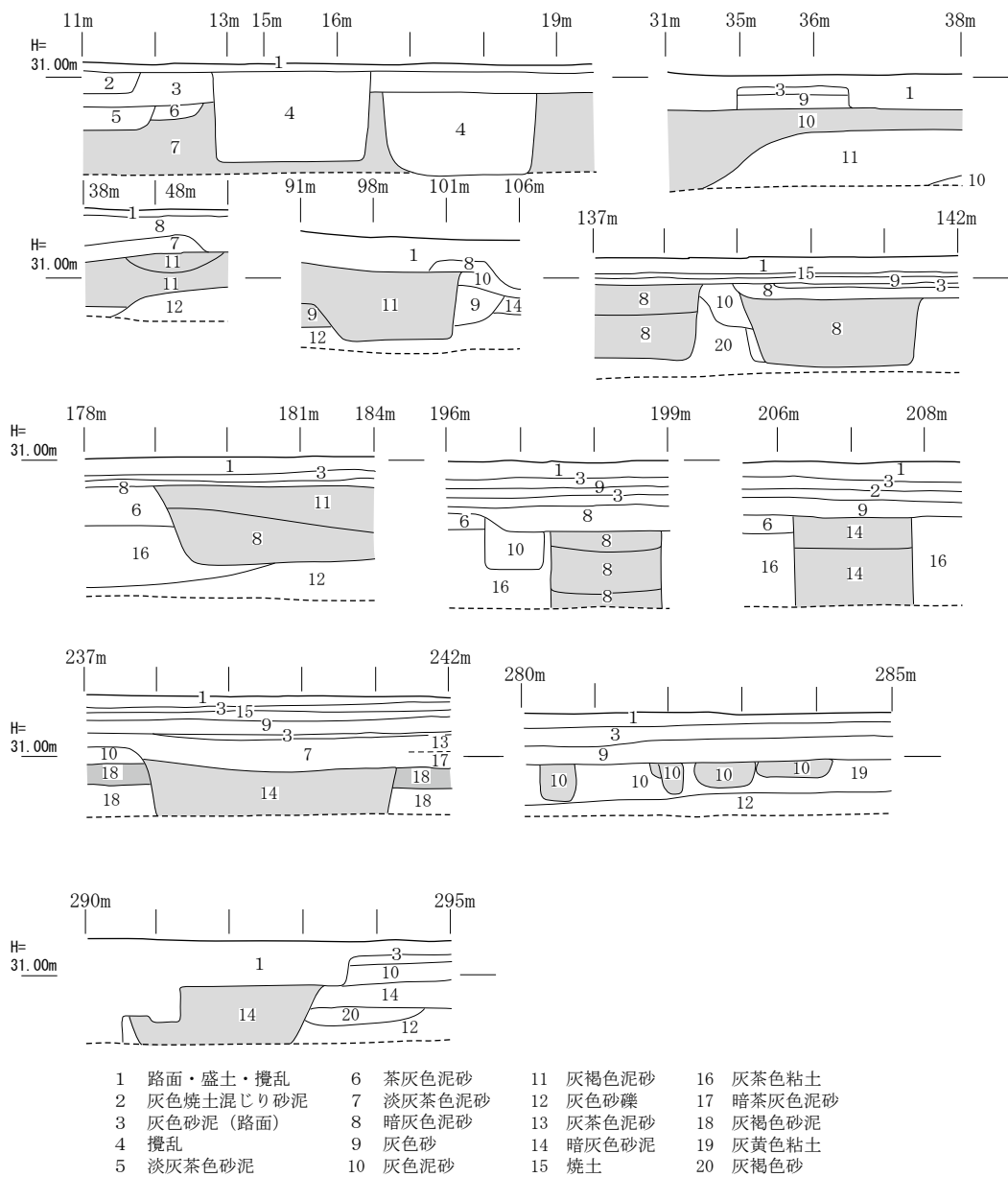
179m地点から堀状遺構が始まる。南北規模は203.5mまでの24.5m、深さは1.1m、埋土上層は灰褐色泥砂、下層は暗灰色泥砂、下層の北肩付近から多量の室町時代後期（16世紀前半）の土器が出土した。A区193m地点の土層は、現路面、暗灰色泥砂（路面）、灰色砂泥、暗灰色砂泥（路面）、暗灰色泥砂、茶灰色泥砂、茶灰色粘土（地山）と続く。6. 井戸 A区197.4m～198.9mにかけて径1.5mの井戸を検出した。形は円形、井戸枠などの構造物はなかった。埋土は礫混じり暗灰色泥砂、炭混じり暗灰色泥砂、焼土層と続く。Ⅱ、Ⅲ層から完形の遺物が多数出土した。7. 井戸 A区206.2m～207.8mにかけて径1.6mの井戸を検出した。井戸は平安前期の包含層茶灰色泥砂層を切って成立している。埋土は暗灰色砂泥である。出土遺物は室町時代後期（16世紀前半）のものである。8. 堀 A区208m～220m前後にかけて堀状遺構がある。埋土は灰茶色泥砂と暗灰茶色泥砂で室町時代後期の遺物を多くふくむ。南肩は鎌倉時代の遺物包含層を切っている。9. 堀 A区228m～232.8mにかけて堀状遺構がある。この堀は深く、地表下1.9mでも底を検出できない。埋土は灰色泥砂。方向は東西方向と推定される。10. 堀 A区237.8m～241.3mにかけて堀状遺構がある。埋土は暗灰色砂泥、径10cmの礫を含む。この堀も深く地表下1.7mでは底を検出できない。A区242m地点の土層は現路面、路面、焼土、灰色砂、路面、灰茶色泥砂、暗茶灰色泥砂、灰褐色砂泥（整地層）、灰褐色砂泥、灰褐色礫層と続く。第Ⅷ層の灰褐色砂泥層は小礫を含み、固く締まっている。猪熊小路の路面とも考えられる。11. 堀 A区290.7m～293.4mにかけて堀状遺構を検出した。埋土は暗灰色砂泥で、地表下0.6mから始まり、工事掘削深の1.4mでは底に達しない。B区で検出した土壌はいずれも小規模なもので、鎌倉時代から室町時代のものがある。この地区の地山は灰褐色砂礫層である。

**遺物** 出土遺物には平安時代から近世の各時代のものがある。中心は室町時代後期（16世紀前半）の天文法華の乱前後のものである。出土遺物は堀状遺構からで、土師器皿を中心に、陶器、青磁、白磁などが出土した。他に鎌倉時代前半の井戸出土遺物も土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器など器種・器形が豊富で注目される。

**小結** 調査地は平安京左京六条二坊、七条二坊の地で、猪熊小路、楊梅小路、六条大路などの条坊遺構が存在していた。特に調査地内の猪熊通は平安時代の猪熊小路と重なっており、条坊遺構がどのように変遷し、現在に至ったか興味のある所である。

今回のガス工事に伴う立会調査以前に五条猪熊通上ルで上水道工事に伴う立会調査を実施した。その時の調査結果では猪熊通は現路面から地表下1m前後まで連続的に路面の土層が続いていた。また路面内出土遺物から平安時代から連続して道路として機能してきたことが知られる。これに対し今回調査の五条通南部の猪熊通で確認される路面遺構は、現在使用している路面を含め2層ないし3層確認されるだけである。これらの路面は出土遺物の年代、路面の上下の包含層の関係から天文法華の乱以降で、かつ天明大火層が間にあり、近世に属するものである。ただしA区242m地点を中心に合わ

せて 10m程確認された灰褐色砂泥層は注目される。この層は小礫を含み、固く締まり、路面埋土としての性質を持つが面的な広がりがなく、しかもこの地点南部には平安時代に属する柱穴、包含層が検出され、路面埋土とはいきれない。また後の時代、鎌倉・室町時代には本圀寺関連の井戸、堀状遺構、柱穴が多数路面上の推定位置に存在する。鎌倉時代の本圀寺設定は十二町という広大な寺域で、寺域内に取り込まれた条坊が道路としての機能をもたなくなり、路面の土層を残していないとも考えられる。しかし 16世紀前半に廃棄された堀状遺構は、南北方向で、しかも現猪熊通に平行しており、条坊遺構のラインが室町時代にも残っていた様である。以上のことを体系的総合的に理解するのは困難であるが、一つの方法として次のことが考えられる。猪熊通の五条以北の調査結果、さらに近年多数検出された平安京条坊遺構の成果からこの地点（A区）に条坊遺構が存在したのは確かである。したがってA区に平安から鎌倉時代の遺構が多数存在するのは本圀寺設定以前からこの地が一町単位の町割りではなく、もっと規模の大きな宅地が存在したと推定でき、それと東市関係の宅地を核として、本圀寺が十二町という広大な土地を占地したものと考えられる。（百瀬 正恒）



A区断面模式図(1:100)



## 8 右京二条二坊 図版 48-6

**経過** 当該地は右京二条二坊二町にあたり、西大宮大路に関連する遺構の検出が予想され、試掘調査を実施したところ、平安～鎌倉時代の遺物を包含する川状遺構を検出したので昭和 57年9月 11日から 9月24日の間発掘調査を行った。

**遺構** 基本層序は上から盛土 (0.2m)、暗灰色砂泥 (0.16m)、暗茶灰色泥砂 (0.2m)、以下青灰色砂礫層となる。青灰色砂礫層は無遺物層で、その上の土層は近世以降のものである。遺構はすべて青灰色砂礫層を掘り込んで成立しており、今回検出した遺構は土壇 13基、溝 3条、柱穴 1基で、平安時代から室町時代のものである。主な遺構としては、南北に流れる川および東西溝 2条がある。川からは平安前期から鎌倉時代の遺物が出土している。東西溝 2条からはいずれも平安中期から鎌倉時代の遺物が出土している。

**遺物** 川から出土した遺物は土器類が大半で、他に瓦、木器類が出土している。土器類には土師器皿・杯・甕・盤・羽釜、須恵器杯・蓋・椀・鉢・甕・硯、黒色土器椀、緑釉陶器皿・段皿・椀・壺、瓦器



全 景 (南から)

皿・椀、白磁などがある。時期は平安前期から鎌倉時代までのものである。東西溝 2条からは土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器、白磁、瓦などが出土している。いずれも平安時代中期から鎌倉時代までのものである。

**小結** 南北に流れる川は西大宮大路に沿って水路として使用されていたものと考えられる。また東西溝 2条はいずれも川より水を取り入れて使用されていたものであろう。

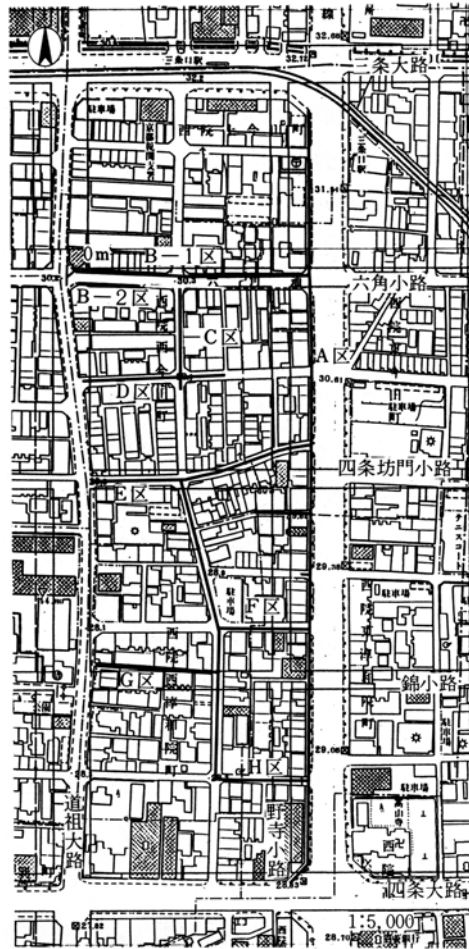
(家崎 孝治)

## 9 右京四條二坊

**経過** 調査地は西は佐井通、北は六角通、東は西大路通、南は四条通に挟まれた地域で、平安京の右京四條二坊にあたる。右京四條二坊の西南部十一、十二、十三、十四町には淳和院があり、また三条大路、六角小路、四条坊門小路、錦小路、四条大路、野寺小路、道祖大路などの条坊遺構も推定され、その検出が期待された。調査地が広いいため、道路によってA～H区の8区に分けて調査した。期間は1982年6月4日から10月15日にかけて行った。

**遺構** 顕著な遺構が出土したA区、B区を中心に報告する。A区は西大路通西歩道上（三条～四条間）の工事区で延長500mに達する。1. 平安時代遺物包含層 A区100m～180mにかけて平安時代前期の遺物包含層を検出した。110m地点の土層断面は現路面、淡茶灰色泥砂、暗茶灰色泥砂、淡茶灰色泥砂、灰黄色粘土層と続き、第3層の暗茶灰色泥砂層が遺物包含層である。層の厚さは0.2～0.3mあり、多量の平安時代前期の土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器などが出土した。遺物の年代は9世紀後半である。2. A区172.5m地点から南には流路があり、220m地点前後まで続く。流路北肩部173m地点の土層は、現路面、褐色砂礫（流路埋土）、暗茶灰色泥砂（9世紀後半の遺物包含層）、灰青色砂泥、灰色砂礫層と続く。第3層の暗茶灰色泥砂層を切って流路が成立していることから、9世紀後半以降の年代が与えられるが、流路からの出土遺物は無く不明。3. 平安時代土壙 A区378m地点で土壙を検出した。この地点の土層断面は、現路面、灰色砂礫、褐灰色泥砂、黄灰色砂泥層と続き、土壙は褐灰色砂泥層を切って成立している。規模は幅1.7m、深さ0.3m、暗灰色泥砂の埋土から軒丸瓦、丸瓦、平瓦、土師器など9世紀後半の遺物が出土した。

六角通の南北両歩道の工事区をB区とした。北歩道のB-1区では流路、道祖大路流路、南歩道B-2区では道祖大路流路を検出した。4. 流路 B-1区の道祖大路上層で検出した流路は、路面直下の



地表下 0.2m前後から始まり 1.0～1.4mまで続く。埋土は灰褐色砂礫（径 5～15cmの礫を含む）、灰色泥砂、灰色砂礫の 3層で、出土遺物はなかった。流路の規模は調査した佐井通から西大路通までの全区間に渡る。流路埋土の厚さは西大路側が 0.2mと薄いのに対し、佐井通側は 1.0～1.4mと厚い。5. 道祖大路流路 B-1区とB-2区で検出した。B-1区では 35m地点に東肩がある。埋土は褐色砂礫で、須恵器などが出土した。深さは 2.2mまで確認したがさらに深い。B-2区で検出した流路は 16.2m地点に東肩がある。肩部の土層は現路面、耕作土、灰色砂礫、黄色粘土、暗灰色粘土、灰色粘土層と続く。流路は黄色粘土層の上面から成立しており、埋土は上層が暗灰色泥砂、下層は灰色砂礫である。深さ 1.3mまで確認したがさらに続く。6. 平安時代前期井戸 G区 59m地点で平安時代前期の井戸を検出した。幅は 1.0m、深さ 1.4mまで確認。暗灰色泥砂の埋土から軒丸瓦、丸・平瓦、土師器などが出土した。井戸枠などの構造物は残っていない。井戸に関連するか不明であるが、井戸内に杭が二本打ち込まれていた。

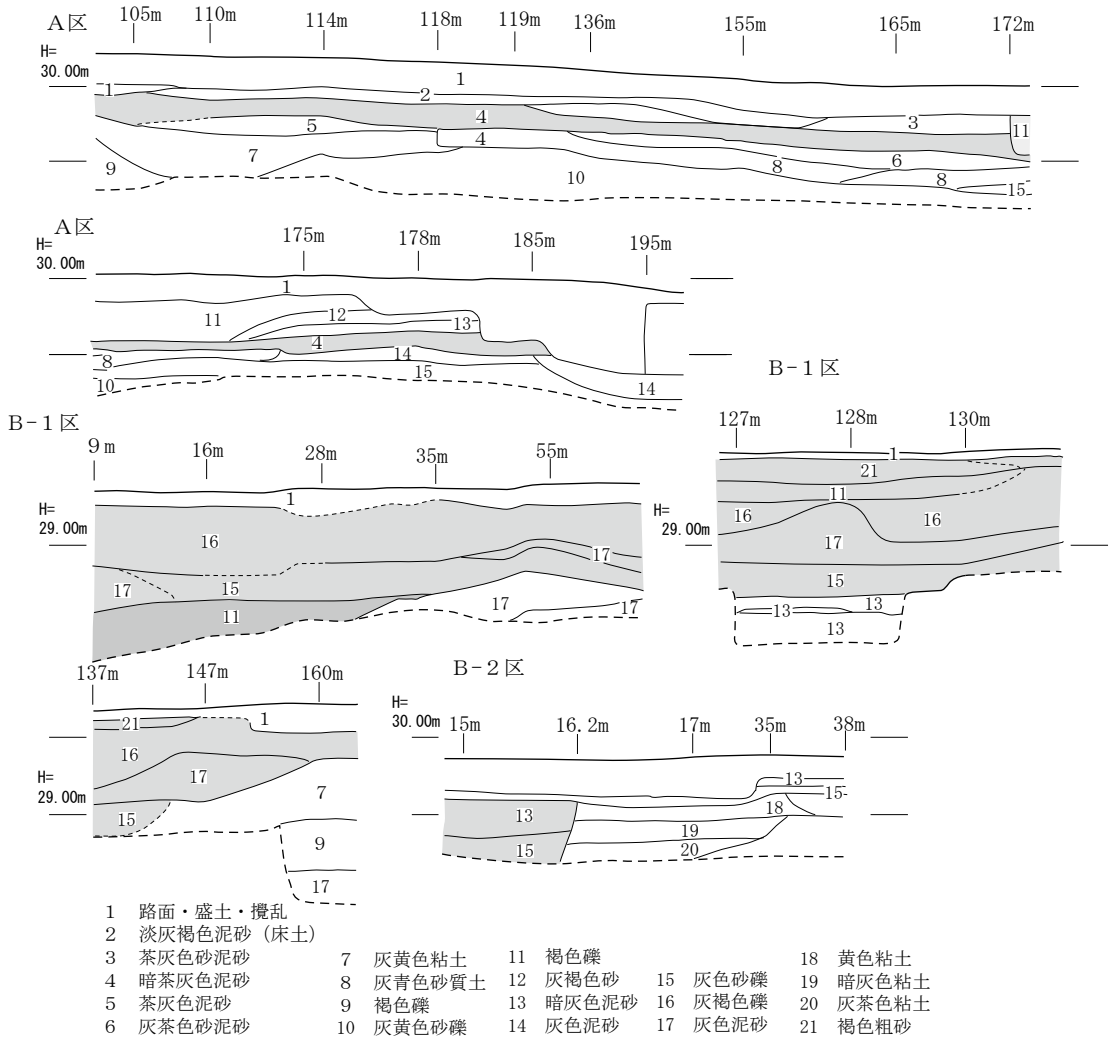
**遺物** 平安時代から近世までの遺物が出土した。平安時代の遺物はA区の包含層からのもので土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、丸瓦、平瓦などが含まれている。土師器の器形、調整方法から平安時代前期末、9世紀後半のものである。他にA区土壙、G区井戸出土の軒瓦がある。

**小結** A区、B-1区で検出した流路は、1981年の右京四条二坊のガスエ事に伴う立会調査B、D、F区検出の流路と関連を持つと考えられる<sup>註</sup>。この調査では、B区で西大宮大路の流路を検出し、D区では御土居に関連する流路を検出した。F区で検出した流路は前記2例と異なり、東西方向と推定された。今回のB-1区の西大路側で、厚さ 0.2mの流路埋土を検出したが、規模は南北幅で推定 2～3m程で、六角通の全面で検出した先のF区の状況と一致しない。従ってF区と同一規模では連続して流れないが、注目されるのは埋土が同じであり、同一流路との推定がなりたつ。つまり、六角西大路で南に屈曲し、A区流路に連なるといふ推定が成り立つ。前記の推定をする上で、六角通から西大路通につながる、北で東に振れる斜向道路の存在は注目され、斜向道路が流路の跡とも考えられる。さらにA区の土壙、G区の井戸は淳和院関連遺構と考えられる。

（百瀬 正恒）

注 百瀬正恒「右京四条二坊」『京都市埋蔵文化財調査概要、試掘・立会調査編』

昭和 56年度（財）京都市埋蔵文化財研究所



断面模式图(1:100)

## 10 右京五条二・三坊

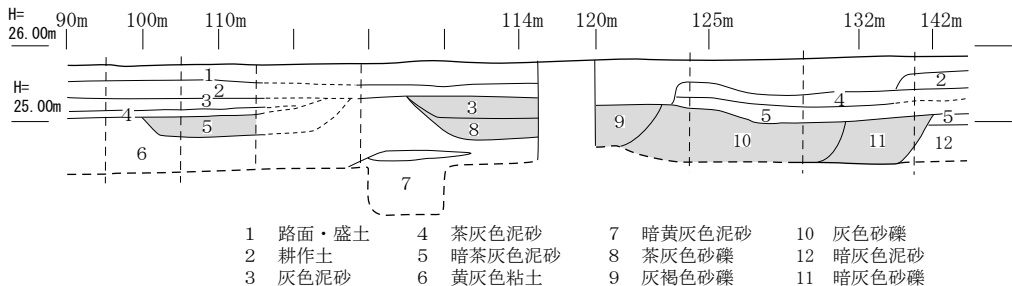
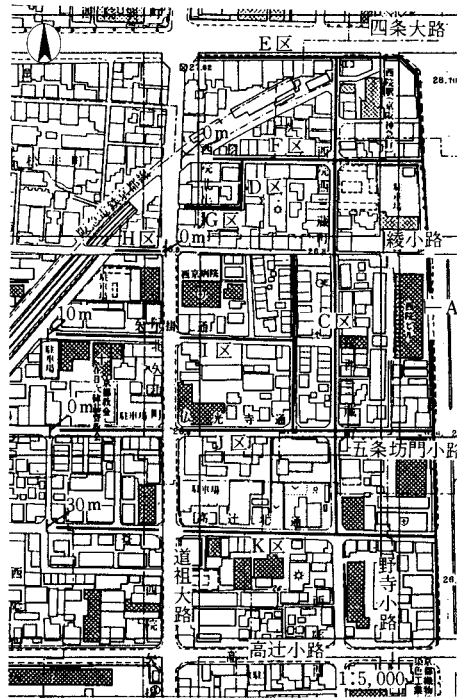
**経過** 調査地は、西は佐井西通、北は四条通、東は西大路通、南は高辻北通に挟まれる地域で平安京の右京五条二坊・三坊にあたる。四条大路、綾小路、五条坊門小路、高辻小路、野寺小路、道祖大路、宇多小路などの条坊遺構の検出が期待された。

調査は道路によってA～K区の11区に分けて行なった。A区、E区は夜間工事の為、調査から除外した。

**遺構** 報告は道祖大路流路を検出した佐井通を横断する調査区F区、I区、J区、K区を中心にする。

1. 道祖大路流路 F区で道祖大路流路の東肩を検出した。肩は8.8m地点にあるが上部を近世土壌で切れ、残りはよくない。埋土は上層が暗灰色泥砂、暗茶灰色泥砂、下層は灰褐色砂礫である。出土遺物はなかった。J区検出の流路は85～93mにかけて検出したが、東西両肩は攪乱で未検出。流路埋土は91mから西が泥砂混じりの灰褐色砂礫であるのに対し、東部は茶灰色泥砂である。西部の砂礫が茶灰色泥砂を切っている。

85～86.2m地点には道祖大路流路を切って近世の溝がある。この近世溝は位置関係から佐井通が昭和初期に設定されるまで存続した溝であろう。さらにK区112.5～142m地点で29.5mに互って道祖大路流路を検出した。流路西肩部の土層は現路面、耕作土、黄灰色粘土層と続き、流路は黄灰色粘土を切って成立している。流路埋土は2層に分かれ、上層は灰色泥砂、下層は茶灰色砂礫である。流路



断面模式図(1:100)

東肩部の土層は現路面、耕作土、茶灰色泥砂、暗茶灰色泥砂、暗茶色泥砂、暗灰色砂礫層と続く。流路は第Ⅴ層、Ⅵ層を切って成立している。埋土は暗灰色泥砂で 131.8mまで続くが、更に東は灰色砂礫の埋土になる。遺物は出土せず、流路の年代は不明。2. 平安時代土壙 K区 100～110m地点にかけて大規模な土壙を検出した。埋土は暗茶灰色泥砂で土師器、須恵器が出土した。3. 平安時代土壙 J区 13.2～18mにかけて土壙を検出した。この地点の土層は現路面、耕作土、茶灰色泥砂、黄灰色粘土層と続く。土壙埋土は上層が暗茶灰色泥砂で下層は灰青色砂泥である。埋土中から9世紀中葉から後半の土器が出土した。4. 平安時代土壙 J区 62.3～64.2m地点にかけて土壙を検出した。この地点の土層は現路面、暗茶灰色泥土、暗灰色泥土層と続き、土壙は暗灰色泥土層の下面から成立している。茶灰色泥砂と暗茶灰色泥砂の埋土から10世紀初頭の土器が出土した。

**遺物** 出土遺物は各調査区の土壙から出土したもので平安時代前期・中期のものが主体となる。土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器などがある。

**小結** 調査地の土層は全体に攪乱が少なく面的な調査を行えば、平安前期から中期にかけての良好な遺構、遺物が出土するであろう。調査で検出した遺構は、道祖大路流路、平安時代土壙などであった。中でもK区出土の道祖大路流路は、流れの全体規模がわかる良好な例である。それによると東西幅 29.5m、深さは1m前後まで確認したがさらに深い。流路東、西肩部の埋土は泥砂を主体にしているのに対し、中央部の埋土は砂礫を主体とし、川が激しく流れたことを示している。道祖大路流路に関しては平安京の二条大路から六条坊門小路までの延長約2kmにわたって、遺構として確認されている。各地点の流路埋土をみるといずれも砂礫を堆積する流れが泥砂の流れを切っており、緩やかな流れから急な流れに変化したことが知られる。これは平安時代中期以降の右京荒廃と関係する出来ごとであろう。また大正 11年測図、昭和 10年修正測図の 1:3000の地形図によると、当時この地はまだ川として機能していたことが知られ、平安時代から昭和初期まで長期にわたって川が存続したことをうかがわせる。

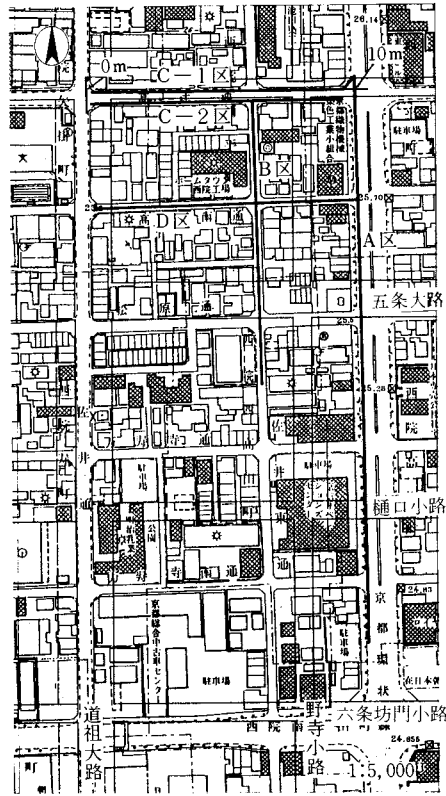
(百瀬正恒)

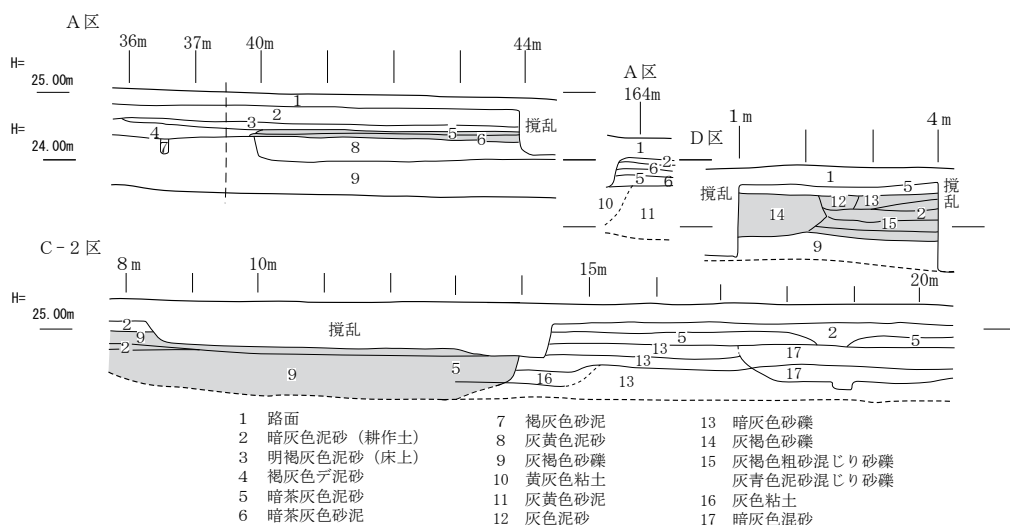
11 右京五条二坊・六条二坊 図版 44-2・47-1

**経過** 調査地は、東は西大路通、西は佐井通、北は高辻通、南は五条通に挟まれた地域で、平安京の右京五条二坊・六条二坊にあたり、野寺小路、道祖大路、高辻小路、五条大路、樋口小路などの条坊遺構の検出が期待された。

調査区をA区、B区、C-1区、C-2区、D区の5区に分けて調査した。期間は1982年4月13日から7月13日にかけて行った。A区では弥生時代中期の遺物包含層、C-1区、C-2区、D区では道祖大路の流路を検出した。

**遺構** A区は西大路通西歩道上の調査区で、南部は攪乱が多く遺構・遺物包含層を検出できなかったのに対し、北部では弥生時代の遺物包含層を検出した。1. 弥生時代遺物包含層 A区40～43.9m地点にかけて弥生時代中期の遺物包含層を検出した。42m地点の土層は、現路面、耕作土、明褐色灰色泥砂（床上）、暗茶灰色泥砂、暗茶灰色砂泥、灰黄色泥砂、灰褐色砂礫層と続き、第V層の暗茶灰色砂泥層から遺物が出土した。層の厚さは0.05～0.1mで、弥生時代中期（Ⅱ様式）の土器、サヌカイト剥片などが出土した。包含層上面の暗茶灰色泥砂層と包含層は共に固く締まっており、堆積も水平である。単に遺物包含層ではなく、竪穴住居の可能性も考えられる。2. 道祖大路流路 C-1区、C-2区、D区で道祖大路の流路を検出した。C-2区では14m地点に流路東肩部があり、流路埋土の褐色灰色砂礫、茶灰色泥砂、褐色灰色砂礫層が西部に広がっている。流路東肩部と14m地点の土層は現路面、耕作土、茶灰色泥砂、暗灰色砂礫、灰色粘土層と続き、流路は礫層の暗灰色砂礫を切って成立している。この層も流路埋土と考えることも出来、流路規模は21.3m地点前後まで広がる可能性がある。D区で検出した道祖大路流路は1～4m地点までで全体の規模を知りえないが流路の切り合いは3時期あり、新しい流路は2.2m地点に西肩があり、4m地点まで確認できる。埋土は上層が灰色砂礫、下層は暗灰色泥砂層で瓦が出土した。古い流路は新しい流路に東肩を切られ、2.2m地点から西部に広がっている。埋土は灰褐色砂礫。最古の流路は上記2つの流路に切られており、埋土は上層が灰褐色粗砂混じり砂礫、





断面模式図 (1:100)

下層は灰青色泥砂混じり砂礫である。いずれの流路からも少量の遺物しか出土せず、年代は不明。

**遺物** 弥生時代から室町時代までの各時代の遺物が出土した。弥生時代の遺物はA区の茶灰色砂泥層から出土したもので甕、壺の各器形がある。土器以外ではサヌカイト剥片が3点出土した。平安時代の遺物は道祖大路流路から出土したもので須恵器甕、土師器などがあるが数は少ない。鎌倉時代の遺物はA区から瓦器碗、土師器皿、青磁碗などが出土した。

**小結** 京都盆地の弥生時代遺跡で中期（第Ⅱ様式）の遺跡はまだ少なく注目される。検出した遺構は竪穴住居の可能性もある。周辺に展開する弥生時代遺跡としては、西ノ京春日町遺跡、山ノ内山ノ下町遺跡、西院月双町遺跡、衣田町遺跡、壬生車庫遺跡などが知られ、これに一例を加えることが出来た。道祖大路流路に関してはC-2区検出例にみられるように規模が大きく、径10cm前後の礫も流れていることから水量も多かったのであろう。

(百瀬 正恒)



## 12 右京八条二坊（1）

**経過** 当該地は通り名で言うと西土居通の内、七条通と西塩小路通で限定される地区で、西塩小路通の一部と松尾神社御旅所北側の東西通である。

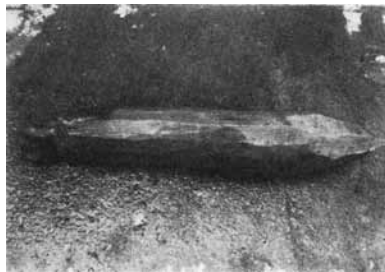
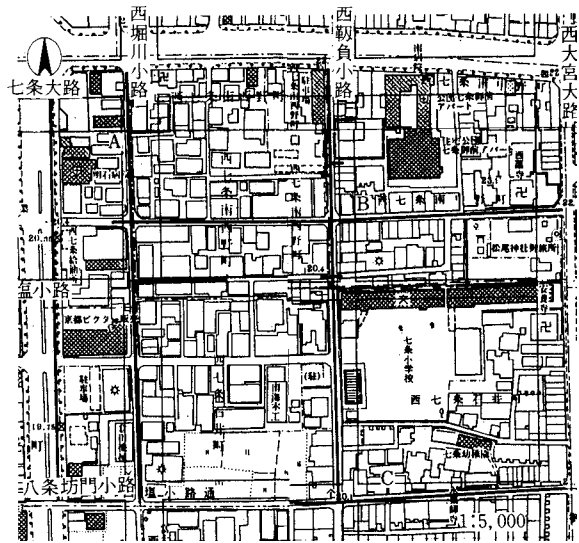
**遺構** A地点の西七条南西野町部分は、掘削方向に沿って杭列がみられたが時代を限定する遺物はなかった。B地点は、西七条南中野町で南北方向の溝が検出できた。これは平安時代の西鞠負小路東側溝に当る部分である。付近の土層は西へ向うに従って低湿地状

の泥土層が厚く堆積し植物遺体と木片が多く発見できた。C地点は、B地点と類似し全体に灰色泥土層が厚く堆積している。東に行くと褐色泥土層に変化する所で、橋脚と思われる木柱が存在していた。付近の七条小学校内では、同様の土層中より多数の木簡が発見されている。

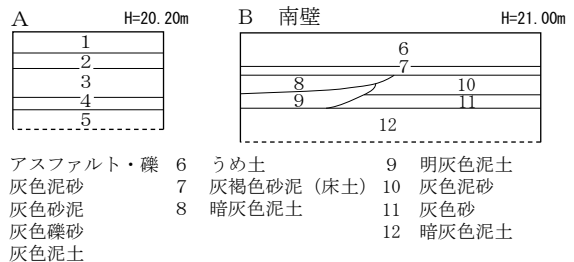
**遺物** A地点は砂礫層が南北に長く続いて径 10cm 前後の杭が列をなしていた。B地点は平安時代前期に属する黒色土器、緑釉陶器、土師器、須恵器、木片を採集した。C地点では直径 0.25m、長さ 1.2 mの丸太を削り出した橋脚が出土した。全体の削り目は明確に観察でき、先端は鋭い円錐形をしている。

**小結** 今回の工事区は平安京条坊の右京八条二坊を中心に、西市の一部も含まれている。条坊に関連した遺構としてはB地点で西鞠負小路東側溝を、またC地点においては平安時代前期のものと考えられる橋脚の一部を検出した。

(吉村 正親)



橋脚

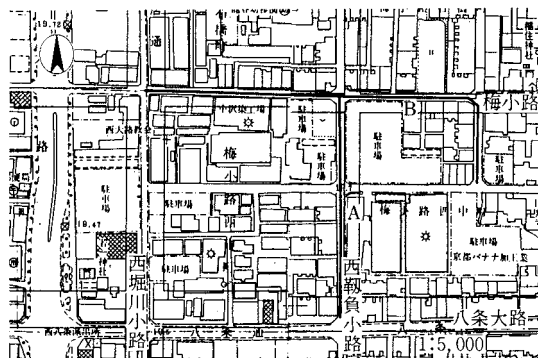


- |            |              |          |
|------------|--------------|----------|
| 1 アスファルト・礫 | 6 うめ土        | 9 明灰色泥土  |
| 2 灰色泥砂     | 7 灰褐色砂泥 (床土) | 10 灰色泥砂  |
| 3 灰色砂泥     | 8 暗灰色泥土      | 11 灰色砂   |
| 4 灰色礫砂     |              | 12 暗灰色泥土 |
| 5 灰色泥土     |              |          |

断面模式図(1:100)

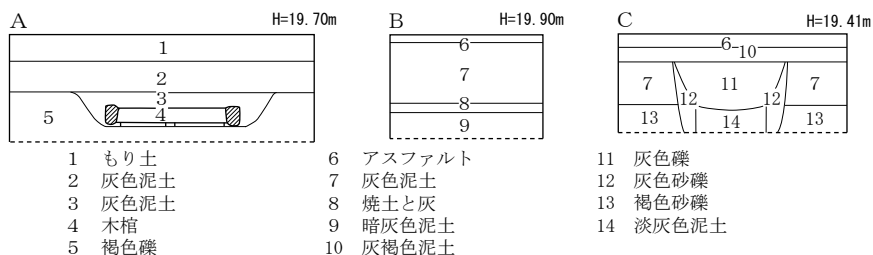
### 13 右京八条二坊（2） 図版 45

**経過** 調査は1982年10月12日より11月20日の間に実施され、配水管布設替に伴う立会調査として行なわれた。梅小路西町、中町、石橋町に含まれる所で西は西土居通で終了している。この地は平安京条坊の中で、八条坊門小路、梅小路、西鞠負小路などの道路遺構の検出が予想された。



**遺構** A地点で南北方向に据えられた木棺を発見した。掘削時半分程度しか検出できず、旧管撤去時に後半分を検出した。棺の長さは1.7m、幅は0.7m、棺の下には0.1～0.2mの板材を3本並べこの上に棺を据え付け、強固に作られていた。小口部はうすい曲げ板でおおわれていた。全体は上方の土圧によって押しつぶされて二枚の板がかさなっていた。堆積する土層は灰色泥土で、湿潤な地点であった。内部には板に付着した骨片があって他に一切の遺物は埋納されていなかった。B地点は、幅5m、深さ0.7m～0.9mの間に暗灰色泥土層が堆積し、平安時代の遺物を多く含んでいた。この中には焼け残った木片も多量に含まれて、「神功開寶」、土師器、黒色土器が出土した。C地点では、一辺1mの方形の井戸を発見した。井戸は路面下0.34mで検出され、掘形幅2m、下部は工事掘削深1.3mまで検出し、内側から須恵器小片が出土した。

**遺物** C地点の付近では流れ堆積の中から弥生土器とみられる破片を2個体発見しているが詳細な時期等は不明である。B地点の発見物は、泥土中という条件の中で、植物遺体を中心に木片、竹片、緑釉陶器椀、土師器皿・甕、須恵器杯、「神功開寶」が出土した。いずれも平安時代前期の遺物である。A地点発見の木棺には、梵字と漢字による仏名が一面に墨書されている。出土木棺の判読は木下密運氏にお願いし、ほぼ全文を解読して頂いた。葬儀の際に書きつけられた仏名で、五体の位置を示して



断面模式図(1:100)

いるものとされた。その積文は付図とした。

**小結** 平安時代の遺構及び遺物は、主にB地点で検出した。梅小路の北側溝付近が湿地帯になっていた。C地点で発見した井戸は鎌倉時代である。A地点付近は沼沢地であるにもかかわらず墓地とされていた。発見された木棺の時期は、棺材に書かれた梵字と仏名から江戸時代中期から後半のものであり、天台密教に関係したものとみられよう。

(吉村 正親)



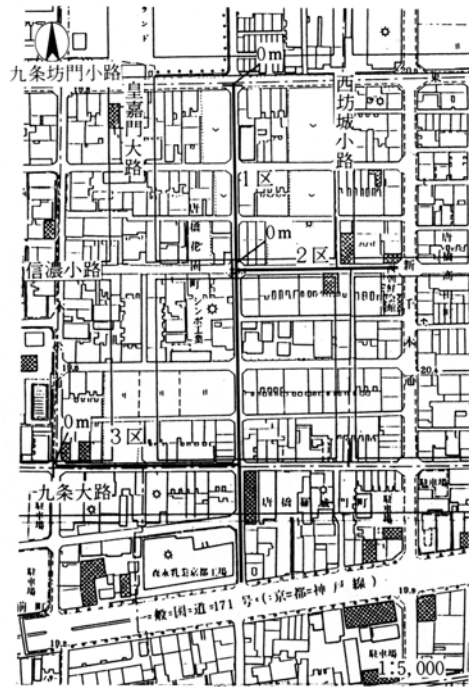
木棺出土状態（西から）



## 14 右京九条一坊（1） 図版 46

**経過** 調査地は平安京右京九条一坊に推定され西寺関連遺構、また皇嘉門大路、九条坊門小路、信濃小路、九条大路などの条坊遺構の検出が期待された。

調査地点は南北方向の道路1本と東西方向の道路2本で、南北道路を1区、東西道路北を2区、南を3区として調査を実施した。調査方法は通常の立会調査の方法によったが、史跡西寺の東限遺構の出土が推定された3区の関係部分については、工事着工前に発掘調査を道路上で実施した。発掘部分は幅0.6m、延長25mであった。尚、1区南部は夜間工事であったが、九条大路が推定された為、調査を実施した。期間は1982年7月20日から8月28日までを要した。



**遺構** 1区北部の土層は、現路面、耕作土と続き、次に砂泥・砂礫・砂層が互層をなす流路埋土になる。しかし南部には耕作土下層に固く締った灰茶色泥砂層があり、北部に比べ安定している。1. 九条大路北側溝 1区245.4～247.1m地点で検出した。溝南肩部は下水管で攪乱され全体規模は不明。溝には切り合いがあり、新しい溝は淡灰褐色粗砂が埋土で瓦を多く含む。規模は幅1.1m以上、深さ0.3m。古い溝は灰色泥砂、青灰色泥砂が埋土。出土遺物はない。規模は幅1.7m以上、深さ0.6m。構の検出位置、規模、出土遺物などから九条大路北側溝と推定される。2. 弥生時代後期流路 1区249～258mにかけて流路がある。埋土は灰青色泥砂層、弥生時代後期土器が30数点出土した。流路方向は北東から南西方向と推定される。3. 流路 1区268.8mから南部で流路を検出した。流路埋土の上面は、地表下0.6m前後で1.3mまで続く。埋土は径2～5cmの礫を含む灰色砂礫である。流路南肩部は290.7m地点にあるが、更に南にも流路埋土は続く。この遺構を九条大路南側溝と推定することも出来るが、規模が大きいこと、後で検出地点道路の東側を南北方向に掘削した時には流路が検出できなかったことなどから、方向・時期・性格ともに不明である。

2区の土層は1区北部の土層と同じ砂・砂礫・砂泥などの土層が続き、遺構遺物の出土はなかった。

3区の土層は西部と東部で異なり、西部30m地点では現路面、灰褐色泥砂、茶灰色泥砂、灰褐色砂礫層と続く。東部は路面直下から九条大路の北側溝の埋土が続く。4. 竪穴住居 3区4.1～6.3m地

点にかけて古墳時代前期の竪穴住居を検出した。住居の西壁は攪乱を受け、東壁だけを確認した。東壁には深さ 0.1m、幅 0.1mの壁溝がある。検出面は地表下 0.3m、床面は 0.7mにある。埋土は上層が茶灰色泥砂で下層（床面）は淡灰色泥砂である。上層から多量の古式土師器が出土した。住居の床面下の土層、淡褐色粗砂層からは弥生土器の小片が出土し、弥生時代の流路跡上に住居が形成されていることが分かる。5. 皇嘉門大路東側溝 3区67.5～72mにかけて溝を検出した。埋土は暗灰色泥砂で深さ 0.4m。検出面は地表から 0.7m。出土位置から皇嘉門大路北側溝と推定される。6. 九条大路北側溝 3区の 80m地点から東部にかけての土層は、現路面、淡茶灰色泥砂、淡茶灰色泥砂層（瓦を含む）と続く。淡茶灰色砂泥層以下の土層は九条大路北側溝の埋土と推定される。

**遺物** 整理箱に6箱出土した。弥生時代から平安時代のものである。弥生時代の遺物は3区竪穴住居跡下層出土のものと、1区流路出土のものがある。1区流路出土遺物は後期のもので器形は甕に限られ、出土点数も少ない。古墳時代の遺物は3区の竪穴住居に伴うもので、総数 630点の破片がある。器形は甕が多く、高杯、壺、小型丸底壺などもあるが少ない。時期は古墳時代前期（布留式）のものである。平安時代の遺物は瓦を主体とし、土器は少ない。瓦には軒丸瓦2点、軒平瓦4点が含まれ、いずれも平安時代前期のものである。

**小結** 調査の目的とした西寺東限の遺構は確認できなかったが、九条大路北側溝、皇嘉門大路東側溝などの条坊遺構を検出できたのは成果であった。なかでも九条大路の北側溝については、古く 1962年の下水管理設に伴う調査による南大門の検出、さらに、1981年度ガス工事に伴う立会調査などで検出され、位置が確定できるのに対し、南側溝については明確になっていない。今回の調査も南側溝の検出を目的に夜間調査を実施し、流路を検出した。位置関係は北側溝から 21.5m地点で南側溝の推定位置に合うが、方向が必ずしも東西溝にならないなど九条大路南側溝と推定するには無理があり、解決を今後に残した。

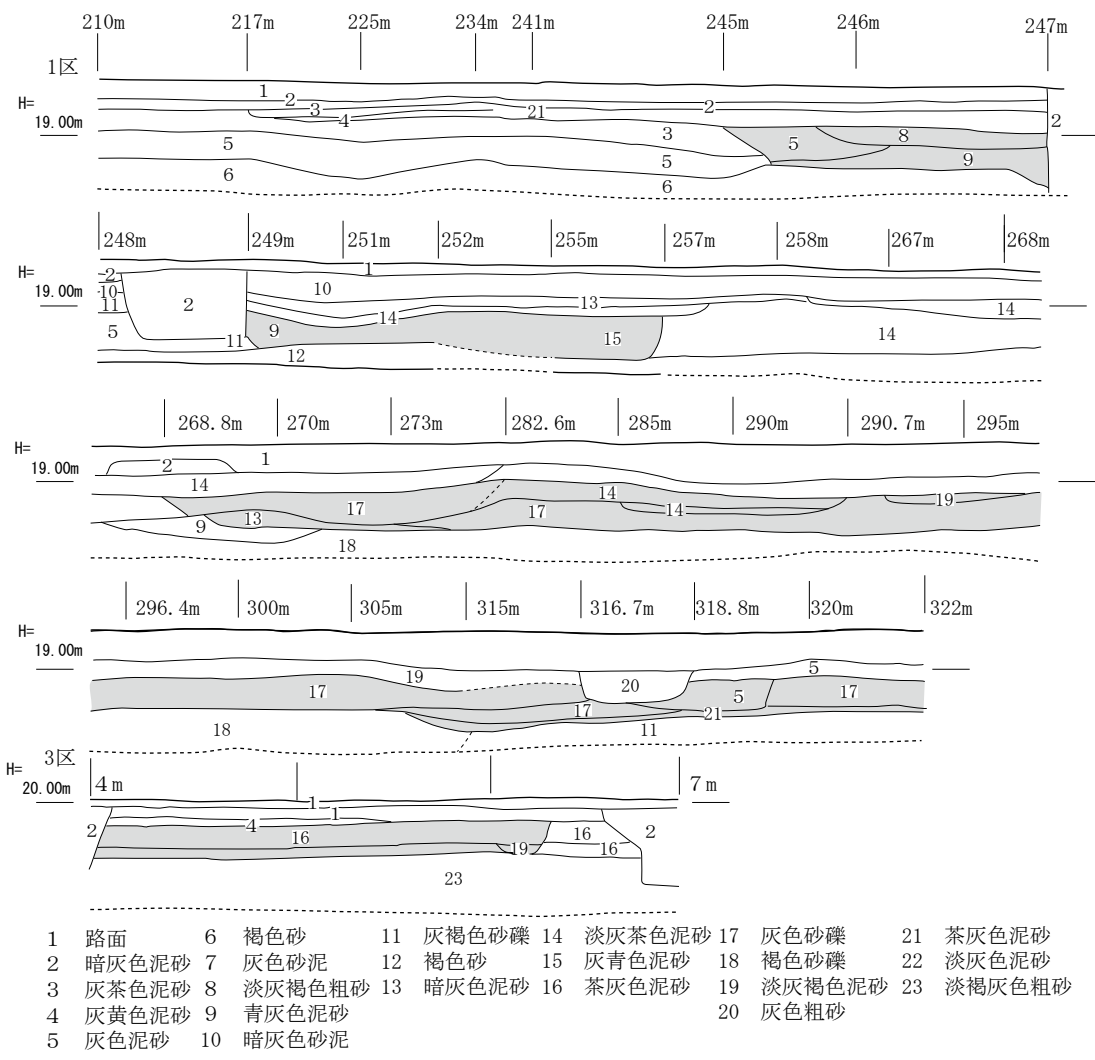
西寺が設定された右京九条一坊十一、十二、十三、十四町の立地条件については発掘調査<sup>註1</sup>や、1981年に西寺西辺部で行なわれた立会調査、そして今回の東辺部の調査でかなり分かってきた<sup>註2</sup>。それによると西寺の西北部、南東部、北東部では、泥砂・砂・砂礫の互層からなる流路埋土が堆積しているのに対し、寺の中心部は固く締った砂礫層を主体とした土層分布が見られ安定していることが知られる。特に西寺東限付近には安定した微高地状の土層分布が見られ、ここに古墳時代の竪穴住居が存在したのうなずける。西寺北東部、南東部の流路については、流路埋土を切って九条大路、弥生時代後期の流路などがあり、さらに3区の竪穴住居の下層にも流路がみられることから、弥生時代後期から古墳時代にかけて安定してきたものと考えられる。

(百瀬 正恒)

- 注1 杉山信三 「西寺跡発掘調査概要」『仏教芸術』51号 1963  
杉山信三 他 『史跡 西寺跡』 鳥羽離宮跡発掘調査研究所 1979
- 注2 百瀬正恒 「西寺」『昭和 56年度京都市埋蔵文化財調査概要, 試掘・立会  
調査編』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983



竪穴住居遺物出土状態



断面模式图(1:100)



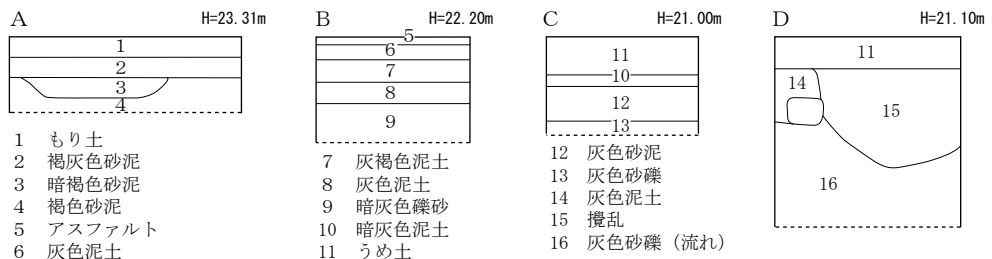
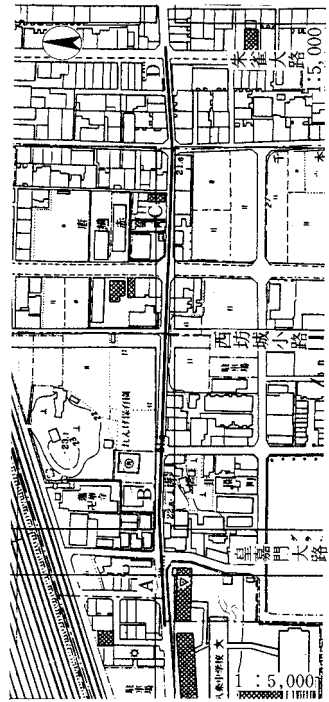
## 15 右京九条一・二坊

**経過** 調査地は、南区唐橋井園町、門脇町、赤金町であった。これは針小路通の内で八条中学校北側と鍋取川で区切られる所の360mの部分で、配水管布設替工事に伴う調査を1982年5月12日から5月29日に実施した。

**遺構** おもな遺構はA地点とD地点で検出した。他に基本的層序を示すためB地点・C地点を示した。A地点は、深さ0.53～0.8m、幅1.6mの土壇状遺構で、平安時代前期の土師器皿、緑釉陶器、瓦等が含まれていた。B地点は、0.1～0.6mに旧水田土壌が確認でき、0.6～0.87mには瓦片が含まれる灰色泥砂層があり、この下で流れ堆積状の礫砂層が広がっていた。C地点は、0.5mまで盛土があり、0.5～0.65mに旧水田層、0.65～1.1mに砂泥層、この下に流れ堆積状の砂礫層を確認している。D地点は、旧鍋取川の西岸が破壊された状況が発見された。ここで出土した花崗岩は10個あり、深さ0.8～1.15mの間に埋っていたもので、方形(0.47×0.54×0.45m)を呈したものが多く、これらの石材は近年まで流れていた旧鍋取川の護岸であろう。

**遺物** 平安時代前期の遺物がA地点の土壇から発見された。土師皿片にはC手法のケズリが認められ、緑釉陶器片は軟質で濃い緑色のもの、瓦は凸面に縄目の叩きの見られるものがある。

**小結** 調査したのは、旧唐橋村の北半を占めていた部分で、平安京の右京九条一坊、九条二坊一保、二保の地に当る。工事掘削の針小路通は条坊の針小路の内側を通るもので、朱雀大路を横切っていた。土層の状態をA、B、C、Dの順に整理すると、Aでは、平安時代前期に属した土壇状の落込を検出した。これを条坊復原図に拾うと針小路の北側溝と一致しており、土壇ではなく側溝と考えてよから



断面模式図(1:100)

う。Bは 0.4～ 0.87mの間に瓦の堆積層がある。Cは 0.5～ 0.65mの間に旧水田層がみられた。Dは、鍋取川の護岸石が出土した所である。平安時代の条坊遺構と考えられる遺構は、Aの地点のみで、C、Dにおいては泥土及び砂層になり、条坊遺構は検出されなかった。またこの付近は平安京南限で、西寺も早くに焼失して、急速に田園化したものと思われる。

(吉村正親)

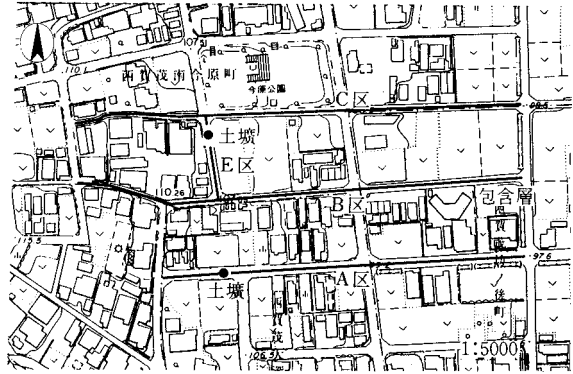


A地点遺構断面図（北から）

### Ⅲ 京域外の遺跡

#### 16 大深町古窯跡群

**経過** 調査地は北区西賀茂大深町、西賀茂今原町で、京都盆地の北端、賀茂川の右岸にあたり、標高は110m前後ある。調査は大深町須恵器窯跡が下水道工事で破壊される恐れがあり、工事に伴って立会調査を実施した。工事区を道路によってA～E区に分けて調査した。B区で平安時代の包含層、E区で室町時代の包含層、A区で土壌を検出したが、目的とした須恵器窯は検出されなかった。期間は1982年4月23日から7月27日にかけて行なった。



**遺構** 調査地は昭和40年代の区画整理によって地形が大きく改変を受けている。特に丘陵の上部の道路部が切り取られ周辺に比べ低くなっているのに対し、丘陵の下部は盛土がなされている。1. 土壌 A区西部で検出した。規模は幅4.4m、深さ1.7m。埋土は3層に分かれる。上層は灰色泥砂、中層は灰黄色泥砂、下層は暗茶灰色泥砂で木片、植物遺体を多量に含む。規模が大きく掘形も垂直であることから、井戸ないし土取り土壌と考えられるが土器などの遺物がなく詳細は不明。2. 平安時代遺物包含層 B区東部で平安時代遺物包含層を検出した。この地点の土層は、現路面、耕作土、灰茶色泥砂(床土)、茶灰色泥砂、暗茶灰色泥砂、黄褐色泥砂、黄褐色泥土混じり礫層と続く。遺物包含層は第4層の茶灰色泥砂層で、厚さ0.5mある。層からは土師器、須恵器、緑釉陶器などの土器が少量出土した。層の広がりにはB区東端から30m西地点まで検出されるが、それ以上西には広がらない。3. 室町時代遺物包含層 E区北端で検出した。この地点の土層は、現路面、褐灰色礫混じり土、褐灰色砂泥、黄灰色砂泥、灰白色粘土層と続く。室町時代の遺物包含層は第3層の褐灰色砂泥層である。層の厚さは0.2m、土師器、中世陶器などが出土した。

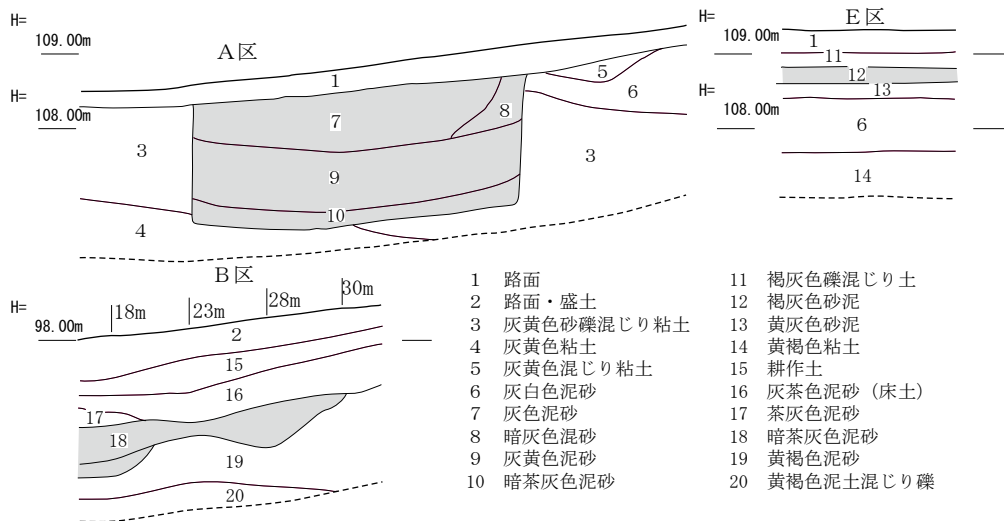
**遺物** 前記した遺物包含層から平安時代の遺物が出土した。完形になるものは無く、小破片の物が多い。攪乱層からは平安時代中期の丸・平瓦が出土した。

**小結** 調査地の地形は大きな改変を受けている。京都市が制作した昭和11年製版の1:3000の地形図で調査地周辺の地形を見れば、B区の遺物包含層は段丘の下位面で、水田耕作が行なわれていた所にあたり、須恵器窯跡は段丘斜面に相当する地形に存在する。昭和40年代の区画整理によって段丘斜面は畑地として利用され、道路部は切り下げられた。段丘下位面はかさ上げされ、水田として利用されている。従って須恵器窯跡群は現在の道路敷には存在しないが、畑地の部分には残っているであろう。B区で検出した平安時代遺物包含層は平坦地であった段丘下位面が、住居空間として利用されていた

と推測でき、周辺に展開する西賀茂角社瓦窯跡群、鎮守庵瓦窯跡群、河上瓦窯跡など平安京の官窯との関連が注目される。室町時代包含層は段丘斜面上で検出され、昭和初年の村落位置と重なっていることが分かる。

(百瀬 正恒)

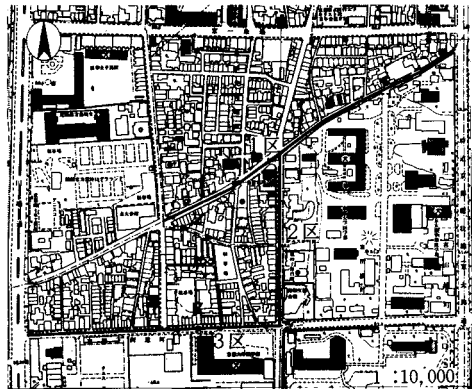
注 「京都市北区西賀茂地区遺跡分布調査報告 I」『土盛』第9号 1976 京都産業大学考古学部



断面模式図(1:100)

## 17 白河街区・京都大学構内遺跡

**経過** 調査は左京区吉田下阿達町，中阿達町，吉田牛ノ宮町，吉田橘町で京都大学医学部の東部と北部にあたる。この地域は平安時代後期から院政期にかけて平安京の東辺部に設定された白河街区にあたり，白河北殿などの遺構検出が期待された。また1区とした調査区は白河道で，道の歴史の変遷をつかむことに留意した。調査地を1区から3区に分けて調査した。期間は1982年11月9日から12月7日にかけてであった。



**遺構** 1区で白河道路路面，近世溝などを検出した。他の調査区では遺構の出土はなかった。1. 白河道路路面 1区294m～390mの約100mに亘って良好な白河道路路面を検出した。路面埋土は6層ある。295m地点では上から現路面，暗褐色灰色砂泥，暗灰色砂泥，白色砂，暗灰色砂泥層と続き各層とも固く締まっている。1区370～390m地点の土層は現路面，暗灰色砂泥，灰色砂，暗灰色砂泥，淡茶灰色砂泥，灰色砂泥層と続く。第V層の淡茶灰色砂泥層からは，国産染付磁器が出土，いずれの路面も近世以降のものである。

2区159mの土層は現路面，暗灰色泥砂（耕作土），灰褐色砂，暗茶灰色砂，白色砂層と続き，砂層が卓越していることが知られる。3区の土層も2区同様砂層の卓越した土層である。

**遺物** 白河道路路面からは小片の近世磁器，瓦，土師器などが出土，いずれも近世のものである。また近世の墓石も攪乱層から出土した。

**小結** 白河道は平安京の北東部から大津に抜ける主要な道路であった。近衛大路末から出て大路末と賀茂川の交点から北東（北で東に約60°傾く）に斜向する道路で，平安時代の文献に散見している。

白河道の遺構調査は，京都大学構内遺跡調査会によって2回行なわれている<sup>注</sup>。調査成果によると，路面敷，野壺，側溝などが検出されている。路面は5層で小礫を交えた土砂，あるいは黒褐色粘質土をたたきこんでいる。調査成果と立会調査結果は路面枚数や，路面の状況がよく似ており，路面の年代が近世に属することも同じである。

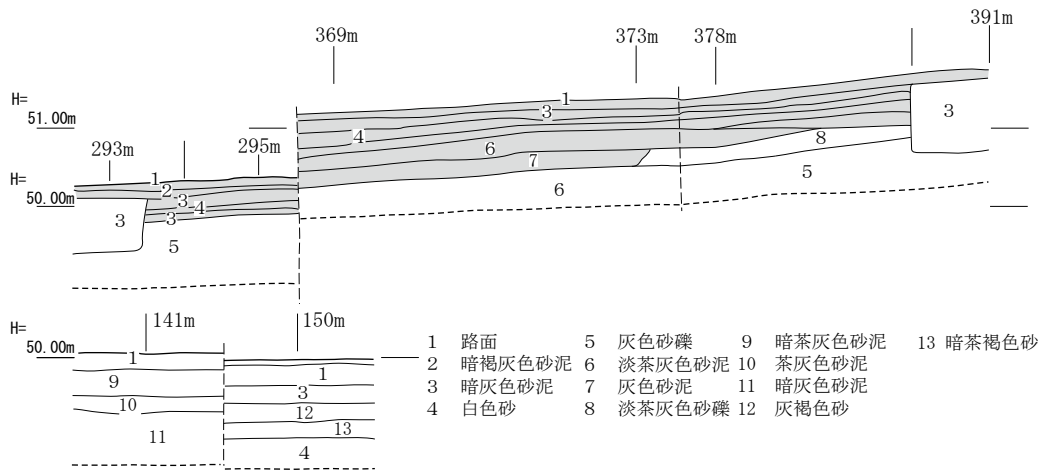
（百瀬 正恒）

注 「京都大学本部構内の遺跡-A X 28区発掘調査現地説明会資料-」

昭和55年京都大学構内遺跡調査会 京都大学埋蔵文化財研究センター

五十川伸矢「京都大学本部構内A X 28区の発掘調査」

『京都大学構内遺跡調査年報』昭和56年度 京都大学埋蔵文化財研究センター



断面模式図 (1:100)



1区295m 白河道路面 (北から)

## 18 六波羅政庁跡

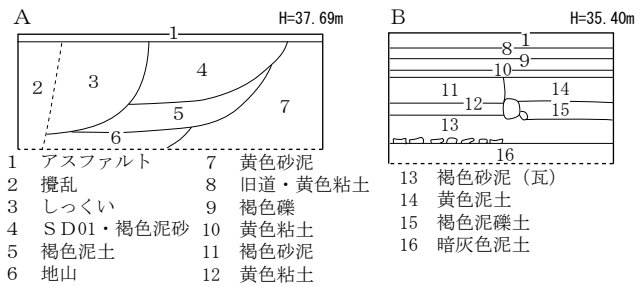
**経過** 調査地は、東山区大和大路通、五条通、七条通に囲まれた部分で北より石垣町、袋町、北棟梁町、蛭子町、上棟梁町、梅屋町、西棟梁町、塗師屋町などがある。付近は六波羅政庁関係の他、豊臣秀吉にまつわる遺跡も多く残されている。工事は、1982年11月15日より京都国立博物館西側道路で開始された。これは配水管老朽化に伴う布設替工事であって掘削深度は1.3～1.5mで進行した。1983年3月4日に工事は終了した。

**遺構** 鎌倉時代の遺跡を京都国立博物館西側、大和旅館の北側（A地点）で検出した。北半分は攪乱で確認できなかった。内部の褐色泥砂層中には少量の土師皿片が含まれていたので時代を決定することができた。この部分では幅0.4m、深さ0.8mの小穴も発見している。B地点において時期不明の石垣（花崗岩）が南北方向に東面して並んでいた。

**遺物** 手づくねで作られたもので、口縁を折り反した土師器皿が出土した。これはA地点の溝の中にあつたもので、他にも細片化した土師器片がある。

**小結** この一帯は歴史上極めて重要なところであるが、遺構は半分以上の地域で埋管により破壊されている。発見された遺構は2地点で、幅3.1m以上の溝（A地点）とB地点の石垣で、他に豊国神社の前面より耳塚の一带に広い範囲で整地層が認められた。

（吉村正親）



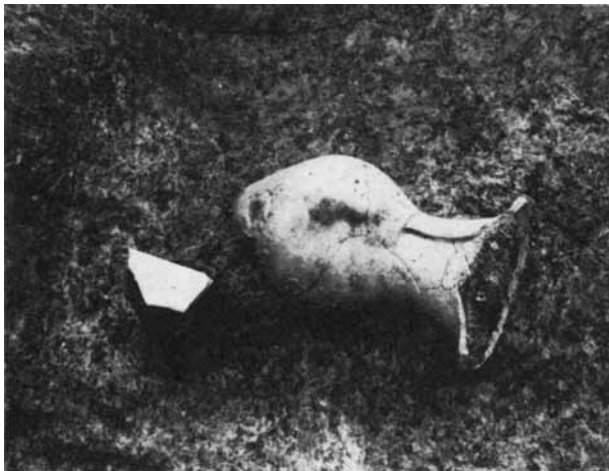
断面模式図(1:100)

## 19 中久世遺跡 図版 47 - 2

**経過** 1983年1月21日南区久世中久世町2丁目104番地で住宅新築工事に伴う立会調査を実施した。当該地は今までのこの付近における発掘、立会調査などの結果から遺構の検出が予想された。建物基礎部分の掘削工事に立会調査していたところ、GL-0.9mで弥生～古墳時代の遺構を認め、1月21日より1月27日まで発掘調査を行なった。

**遺構** 基本層序は、上から盛土(0.6m)、耕作土(0.3m)、黄褐色泥砂層である。黄褐色泥砂層以下は無遺物層である。遺構はすべて黄褐色泥砂層を切って成立している。検出した遺構は溝、土壇、小穴などである。主な遺構としては敷地東部で検出した南北溝がある。この溝は北から南西方向にゆるやかな弧を描いて流れ、幅0.9m、深さ0.5mの規模をもつU字溝である。溝内の堆積土は暗黄褐色泥砂と黄褐色泥砂の上下2層に分かれ、上層より完形の壺が出土している。他の土壇群はいずれも小さな浅い掘形をもつものが多い。

**遺物** 南北溝から出土した土器類には、上記の壺をはじめ、甕、高杯などがあり、いずれも弥生中

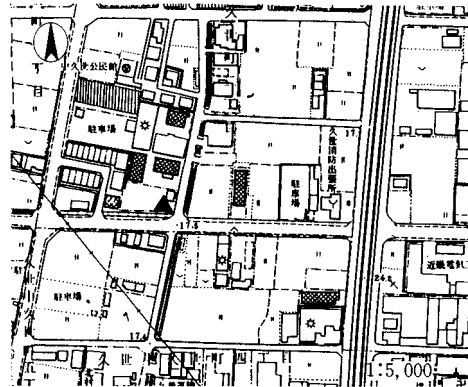


出土土器状態(北から)

期のものである。その他の遺構からは、いわゆるS字状口縁をもつ台付甕が完形に近い形で1点出土している。

**小結** 弥生中期の土器類が出土した南北溝は、形状、堆積土からみて人工的な溝と考えられる。また今回検出した他の遺構群とも考え合わせると、当地では弥生中～古墳前期にかけて比較的長期間の集落が営まれていたと判断できる。

(家崎孝治)





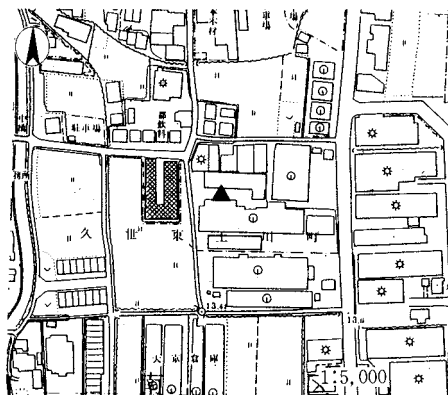
## 20 東土川遺跡 図版 47 - 3

**経過** 1982年10月5日に南区久世東土川町334番地で工場増築工事に伴う立会調査を実施した。建物基礎部分の掘削工事に立会調査したところ、多量の弥生土器を包含する遺構を検出したため、10月5日から10月7日の間発掘調査を行なった。

**遺構** 基本層序は、盛土（0.7～0.9m）、耕作土（0.3m）で、それ以下は黄褐色砂泥の無遺物層である。検出した遺構は溝2条をはじめ、大小

20基程の土壇がある。主な遺構としては、敷地東南隅で検出した溝がある。溝の掘形は屈曲しており、西側の肩部を確認するにとどまり、東側の肩は敷地外のため不明である。確認できた規模は幅1.5m、深さ0.4mである。堆積土は上から暗黄褐色砂泥（炭混じり）、茶灰色砂泥、灰色泥土の4層に分層される。第2層以下より多量の弥生土器が出土した。溝は自然流路の様相を呈する。溝の他には大部分が土壇状のもので、堅穴住居とみられるものは検出できなかったが、遺構の密度から考えて近辺に堅穴住居の存在を十分推定できる。

**遺物** 溝より出土した土器類には、壺、細類壺、甕、高杯、器台などがあり、線刻土器も1点出土している。また石庖丁、扁平片刃石斧なども共に出土している。溝から出土した土器は畿内第Ⅲ様式から第Ⅴ様式に属する。その他の遺構も大半がその時期におさまるものであるが、第Ⅱ様式の土器類が出土した土壇が1基ある。



出土土器状態（北東から）

**小結** 今まで東土川遺跡においては、数度の発掘調査においても流路のみの検出で、集落の立地する範囲を把握できなかったが、今回はじめて集落と直接関連する遺構を検出することができた。今後のこの近辺における調査研究に貴重な資料を提供することができたと考える。

（家崎孝治）

## 21 長岡京跡・東土川遺跡

**経過** 調査は南区久世東土川町の西半部一帯を対象とし、1982年8月2日から1983年3月31日まで行った。調査地は長岡京跡及び東土川遺跡にあたり、当遺跡に関連する遺構・遺物が予想された。調査の方法は工事の進行に伴い、遺構・遺物の有無を確認し、土層については、各人孔部ごとに土層断面の計測をし、断面図の作成を行った。

**遺構** 調査区東部で流路を検出した。流路の規模については、東肩が調査区外にあたることから、検出した西肩から判断し、幅は5m以上と考えられる。深さは1.5mを測る。流路の土層堆積は、大きく3層に分層し得る。上層は灰色泥土層、中層は灰色シルト層、下層は灰色粗砂層である。中、下層からは弥生時代中期の土器類を中心に縄文時代後期から弥生時代中期の遺物が出土している。上層からは古墳時代の遺物が出土している。また調査区東部で弥生時代の土壇1基、調査区西部で中世の土壇3基を検出している。

**遺物** 流路からは弥生時代中期の壺、甕、高杯、鉢、古墳時代の土師器、壺、甕、高杯、須恵器の杯身が出土した。また縄文時代後期の浅鉢が1点出土していることが注目される。さらに、弥生土器と共に石器が1点出土している。石器は縦25.7cm、幅4.8cm～7.0cm、厚さ2.8cm(中央部)の大型品で、材質は粘板岩である。形状は石戈状を呈する特殊なものである。調査区西部の茶褐色砂泥層から長岡京時代の土師器皿・椀、黒色土器椀、須恵器杯、鎌倉時代の瓦器椀、室町時代の所謂「ヘソ皿」とよばれる土師器皿、国産陶磁器椀・皿が出土した。土器類以外では銭貨が1点出土しているが、表面の剥離がひどく時期等については不明である。

**小結** 今回の調査地は弥生時代中期の東土川遺跡及び長岡京左京南一条三坊に相当する。そのため調査は土層の断面観察、各土層の遺物採集により、当遺跡にかかわる遺構の有無、遺物包含層の確認につとめた。

調査の結果、調査区北東部で北西から南東にかけて走る流路を検出した。流路からは、弥生時代中期の土器を中心として縄文後期から古墳時代の遺物が出土した。また、調査区東部では弥生時代の遺物包含層を確認した。包含層の確認により、従来の東土川遺跡の範囲が東へ広がることが判明した。調査区西部では、長岡京の条坊に関係する遺構は検出できなかったものの、長岡京時代から中世にかけての遺物包含層の広がりを確認することができた。

東土川遺跡は桂川右岸の沖積平野に立地する弥生時代の遺跡群(上久世遺跡、中久世遺跡、大藪遺跡など)の1つとして存在するが、中でも遺跡の性格、実態等に関しては、調査も少なく、不明な点が多いとされてきた。しかし近年、当研究所で2ヵ所の調査を行なった。1ヵ所は発掘調査<sup>注1</sup>で、今回の調査地から東へ0.5kmの地点で、東土川遺跡のほぼ中央部にあたる宅地内である。調査の結果、弥

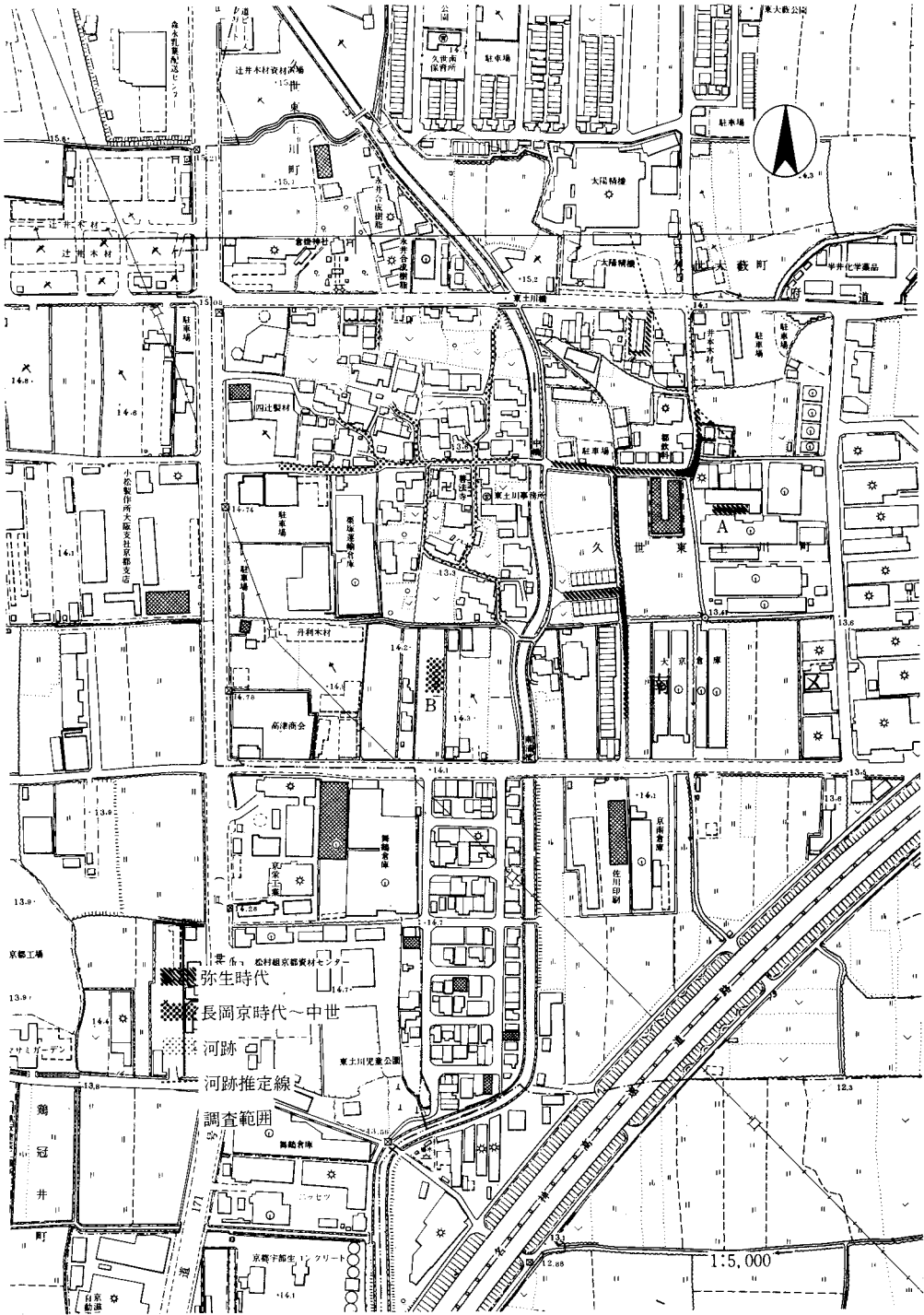
生時代中期の土壙1基、古墳時代の流路、平安後期から中世の遺物包含層を検出している。もう1カ所は試掘調査<sup>注2</sup>で、今回の調査地東南部に接する地点である(図A)。調査の結果、弥生時代中期から後期の溝、土壙群、包含層を検出し、多量の弥生土器が出土している。また、調査区西南部にあたる地点でも当研究所による発掘調査<sup>注3</sup>(図B)が実施されており、調査の結果、地表下0.4mの地点で鎌倉から室町時代にかけての遺物包含層を検出しており、今回の調査と類似した結果を得ている。

以上のことから、今回の調査の成果を付加することにより、不明な点が多いとされてきた東土川遺跡の一端を知り得る考古資料がようやく得られたと考えている。(加納敬二)

注1 当研究所が1980年に伏見区久我本町11-25で実施した発掘調査

注2 「京都市内遺跡試掘立会調査概報」昭和57年度 京都市文化観光局 京都市埋蔵文化財研究所

注3 「長岡京跡発掘調査概要」昭和55年度 京都市埋蔵文化財研究所



## 22 小塩窯跡群・南春日町遺跡 図版 49 - 1 ~ 8

**経過** 調査は分布調査の成果に基づき、試掘トレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。遺構・遺物の遺存状態の良い所、特に小塩地区では引き続き発掘調査に切り換えた。南春日地区については来年度以降の発掘調査対象地となった。小塩地区は近年の発掘・分布調査などから大原野窯跡群の中心に位置し、周辺から緑釉陶器の窯跡等が確認されている。今回の調査は窯跡及びそれに関する施設の検出を主要な目的とした。調査の方法は各水田毎に3×3mの試掘トレンチを基本とし、当地区では39カ所の試掘トレンチを設定した。南春日地区については、分布調査により、古墳時代から中世にかけての遺物散布を確認していることから、今回の調査ではそれらの時期の遺構・遺物の検出を主要な目的とした。調査の方法は小塩地区と同様である。当地区では19カ所の試掘トレンチを設定した。



**遺構** 小塩地区は中央に小塩川が流れる幅広い谷部に位置する。標高95mから83mで、小塩川に向いゆるやかな河岸段丘になっており、いずれも棚田状に水田が営まれている。調査の結果、4カ所で溝状遺構、遺物包含層を検出した。包含層の厚さは0.2m～0.5mで、地山直上に堆積している。地山は黄褐色砂礫層で、南へ緩やかに傾斜している。包含層は炭・灰・窯壁片等を含み、緑釉陶器・無釉陶器<sup>註1</sup>・窯道具等が出土した。南春日地区の調査地は北西から南西に延びる低い丘陵上に位置する。標高は100m～80mで、調査地の北東部では西から東へ傾斜し、南西部では北から南へ傾斜している。傾斜面には棚田状に水田が営まれている。調査の結果、3カ所で土壇・溝状遺構・遺物包含層を検出した。包含層の厚さは約0.1m程度であった。包含層からは須恵器・土師器が出土した。溝状遺構からは須恵器が出土した。

**遺物** 小塩地区の調査で出土した遺物には、土器類、窯道具、瓦類、金属製品類があり、土器類が大半を占める。土器類では、ほとんどが緑釉陶器・無釉陶器・須恵器である。緑釉陶器・無釉陶器には大・中・小の椀、稜椀、中・小の皿、段皿、稜皿、耳皿、三足皿、蓋A・B・C、壺、短頸壺、唾壺、手付瓶、香炉等があるが、椀、皿が大半を占める。椀は口縁部が外反し、高台は削り出しで、切り高台と蛇ノ目高台が多く、輪高台が少ない。皿の口縁部は外反するもの、内湾するもの、内湾し内面に沈線を施すものがある。高台には切り高台、蛇ノ目高台、輪高台があり、輪高台が多い。椀、皿の調整は口縁部、体部内外面にロクロナデを施し、体部外面下半のみヘラケズリを施す。器面のヘラミガキは底部、体部

口縁部のいずれも内面に施すが、体部外面にまで施すものは少なくヘラミガキは粗い。また椀、皿には陰刻文を施したものがあある。いずれも文様は簡略化され、粗雑な施文である。文様は底部内面に花文を施すものが多く、稀に雲文と蝶文がある。須恵器には、皿、杯、鉢があり、鉢が大半を占める。鉢は大きさ口縁部の形状により三種類に分かれる。胎土は緑釉陶器、無釉陶器の硬陶の胎土と同様である。窯道具にはサヤ、トチン、坩堝状土製品、焼台等がある。南春日地区の調査で出土した遺物には、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、磁器、瓦、金属製品等で、いずれも少量で小片である。

**小結** 小塩地区は調査対象地のほぼ全域で試掘調査を行なった。分布調査で確認した遺物散布の密度が高い範囲に設定した4ヵ所のトレンチでは、遺物包含層・遺構を検出した。しかし、窯跡に関連する遺構、土層は検出できず、包含層は二次的なものであることが判明した。しかしながら地形などから考え、近辺に窯跡群を推定することができる。今回出土した多量の陶器、須恵器は、おそらく付近の窯跡で生産されたものと考えられる。そのことから、従来、平安京跡から出土する小塩産と称されている陶器の器種構成、成形、調整、施釉等の特徴が今回の調査で明確になった。また、小塩窯では生産されていないと考えられていた陰刻文を施す陶器が多種にわたり出土したことも注目される。さらに数種の窯道具の出土は、平安時代の陶器生産技術の内容を知る上で、重要な資料であろう。出土した陶器の年代については、平安京右京一条三坊九・十町-S G 177 B<sup>注2</sup>で出土した緑釉陶器の椀・皿、須恵器の鉢・壺・短頸壺、平安京左京八条三坊-S G 29 A<sup>注3</sup>で出土した緑釉陶器の椀・皿・須恵器の鉢・壺・短頸壺に類例が認められる。また平城京東三坊大路東側溝 S D 650 上層<sup>注4</sup>で出土した緑釉陶器の椀・皿、須恵器の鉢に類例が認められることから、今回出土した遺物は9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

(上村和直・加納敬二)

注1 緑釉陶器の素地で、緑釉が施釉されていない陶器

注2 平良泰久、伊野近富「平安京跡 右京一条三坊九・十町 昭和55年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』1981-1 京都府教育委員会 1981年

注3 鈴木広司、吉川義彦『左京八条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第六冊京都市埋蔵文化財研究所 1982年

注4 奈良国立文化財研究所『平城宮発掘調査報告』VI 平城京左京一条三坊の調査 奈良国立文化財研究所 1974年

## 第3章 保存科学

当研究所では昭和 53年に PEG 含浸装置などの保存処理施設を導入し、以後 1 名が専従して京都市内の発掘調査で出土した木製品や金属製品の保存処理を行っている。さらに、発掘調査を行なう上で自然科学的検討を要する事項については発掘現場に参加し、分析や鑑定をできるだけ行うよう努めている。これらの作業をすべて含めて保存科学と呼称し、以下に昭和 57年度に行った保存処理及び分析結果の概要を報告する。

**出土木製品の保存処理** 出土木製品の大部分は内部に多量の水分を含み、そのまま自然乾燥すると水分の蒸発とともに収縮・変形をおこし、全く原形をとどめないものになってしまう。出土木製品の収縮・変形を防ぎ、なおかつ容易に展示や研究に供する保存処理方法として、我が国では PEG 法(ポリエチレングリコール・4000 を木材に含浸させ、水と完全に置換する方法)とアルコール・エーテル法(木材中の水分をアルコールからエーテルへと置換し、天然樹脂を含浸させる方法)の 2 種類が通常用いられており、当研究所では前者を採用している。今年度は左京区岡崎の市立動物園(法勝寺跡)から出土した臼・農具の他、西市跡から出土した漆器、物差し等約 200 点を PEG 処理している。木製品の大部分が広葉樹であることから処理期間を 1 年 6 ヶ月間と設定した為、最終処理が終了するのは昭和 58 年 10 月頃の予定である。以下にその処理工程を記す。

- (1) 木製品の洗浄を行い、微細な砂を除去する。
- (2) 不織布・保護材を用いて木製品を梱包し、PEG 含浸槽に浸漬する。
- (3) PEG の濃度管理を行う。
- (4) 水と PEG を完全に置換した後、木製品を PEG 含浸槽から取り出す。
- (5) 木製品の表面をトリクロロエチレンで洗浄し、脱色する。

**金属製品の保存処理** 京都市内から出土する金属製品は、主に中・近世の鉄釘や銭貨等である。出土した鉄釘などを長期間放置すると、内部から錆が出てバラバラに崩壊してしまうことがある。こうした崩壊を防ぐ為に出土鉄製品には脱塩処理及び樹脂含浸処理を施す。今年度は御堂ヶ池 1 号墳から出土した馬具、釘など計 68 点の保存処理を行った。処理工程は以下の通りである。

- (1) 鉄製品を恒温乾燥機で乾燥する
- (2) 鉄製品に付着する土や錆をニッパー、グラインダーなどを用いて除去する。
- (3) 水酸化リチウム法による脱塩処理を行う。
- (4) 鉄製品を恒温乾燥機で乾燥する。

(5) 非水系合成樹脂(パラロイドNAD 10)で鉄製品の減圧含浸処理(3回)を行う。

(6) 樹脂含浸の終了した鉄製品を恒温乾燥機で乾燥する。

**金箔瓦の剥落止め処理** 伏見城跡及び聚楽第跡の発掘調査では金箔瓦が出土することがある。金箔瓦を放置すると、表面の金箔が剥落してゆく例が多い。金箔の剥落防止法として、発掘直後の金箔瓦の洗浄・乾燥時に水溶性アクリル樹脂(バインダー 17を約5%に希釈したもの)を塗布し、金箔の表面を薄い樹脂膜で保護する方法をとっている。今年度は伏見城跡から出土した金箔瓦約20点の剥落止め処理を行った。

**動物骨の硬化処理** 貝塚から出土する動物骨は大変保存状態が良く、放置しても何ら問題の無いことが多いが、京都市内から出土する動物骨は例外なく保存状態が悪い。こうした動物骨を水洗し、自然乾燥するとバラバラに崩壊し、全く鑑定不可能な骨片となってしまう。骨の状態を崩さないように動物骨を水洗した直後、水溶性樹脂(バインダー 17の5%水溶液)をくり返し塗布し、硬化させる方法をとっている。今年度は平安京右京七条一坊及び鳥羽離宮跡第77次調査で出土した動物骨約200点の硬化処理を行った。

**石組井戸の取り上げ保存** 左京区岡崎の武道館建設に伴う発掘調査(尊勝寺跡)で出土した12世紀の石組井戸の断ち割った片面の石組とその掘形を全く解体せずそのまま取り上げて他の地点に移設する方法を試みた。取り上げは終了したが、移設は数年先の予定である。工法は以下の通りである。

- (1) 井戸の掘形を転写用樹脂(トマックNR-51)で剥ぎ取り転写し、転写面に再度転写用樹脂を塗布し、再度転写する。
- (2) 石組の内側にウレタン樹脂を充填し、石組を固定する。
- (3) 石組の外側を掘削し、石組を重機で取り上げる。

(4) 石組の外側の土をすべて除去し、石組を外側から鉄筋とウレタン樹脂で固定する。

(5) 石組の内側のウレタン樹脂を除去し、エポキシ樹脂で石組を固定する。

**植物種実の調査** 発掘調査で出土する井戸や溝の堆積物中には植物の種実が甚だ多く含まれる。種実の大半は栽培植物や人里植物で、遺跡周



石組の外側を鉄筋で固定する作業



辺で人間により取り扱われたり植生していた植物から供給された結果である可能性が高い。従って、堆積土中の種実を採取し、調査することで当時の植物利用の状況や遺跡周辺の植生を知ることができる。今年度は平安京内の井戸3例・溝2例・上久世遺跡井戸2例・鳥羽離宮跡井戸1例・池2例の調査を行った。種実の採取はすべて1mmメッシュの篩を用いて行った。調査結果を別表に示す。鳥羽離宮跡第77次調査の平安時代末期の井戸からは、これまでに全く例の無い多量のウリヤナスの種子をはじめ、ムベ・キイチゴ・ゴマなども出土した。さらに、種実の構成も食用植物を主体とし、他では多く出土する人里植物を殆んど含まないなど非常に特殊な廃棄のされかたを示す井戸である。上久世遺跡の井戸からはソバのそう果が多数出土した。平安京内の井戸からは従来と同様にクワ・カジノキ・センダンなどの木本やタデ・ハコベ類・カタバミ・チドメグサなどの人里植物、ウリ・ナスなどの栽培植物が出土している。平安京右京七条一坊の種実は御土居の濠の堆積物で近世のものである。アズの出土に注目したい。

**樹種の調査** 平安京右京三条三坊(島津製作所敷地内、1981年8月調査)の溝で出土した杭列の杭147本の樹種を調査した。杭はすべて針葉樹で、すべて自然乾燥したが出土材としては例外的に残りが良い。それぞれの杭から試料をとり、木口面・柃目面・板目面の薄片を作成し、検鏡した結果、実に70%近くの杭が仮道管壁にらせん肥厚を持つことが判明した。らせん肥厚を有する樹木にはイチイ・カヤ・イヌガヤ・トガサワラなどがあり、樹脂細胞の有無や放射組織の細胞高の観察結果から大部分がイヌガヤと判断した。

**動物骨の調査** 平安京右京七条一坊の平安後期の溝の調査で出土した125点の動物骨の調査をした結果、ウマの臼歯が最も多く、左上顎臼歯17本・下顎臼歯8本・右上顎臼歯30本・下顎臼歯27本を確認した。ウシの臼歯は全部で8本であった。その他にヒト1体分・頭骨2・イヌなどがあつた。平安京跡では動物の歯のみが出土する例が多く、その中でもウマが多い。鳥羽離宮跡第77次調査ではスポンの頭骨・ウマの臼歯・ヒトの下顎などが出土している。ヒトの下顎には2ヵ所の刀創がある。

(岡田文男)

昭和57年度 植物遺体調査結果 ( ) 内は出土数を示す

出土地点	木 本	草 本	出土地点	木 本	草 本	出土地点	木 本	草 本	
右京八条三坊 井戸(9世紀後半) (3ℓ中)	クワ (2)	アサ (6)	右京三条二坊 つづき		カタバミ (2)	右京七条一坊 つづき		ヒエ? (220)	
	モモ (10)	タデ属 (46)			ナス (20)			イボクサ (11)	
	ウメ (1)	ソバ (1)			ウリ (9)				
		アカザorイヌビユ (20)			ヒョウタン (1)				
		ハコベ (9)			炭化米 (1)		上久世遺跡	キイチゴ属(3)	ソバ (22)
		アブラナ科? (3)			ホタルイ属 (9)		井戸	サンショウ(1)	タデ属 (1)
		カタバミ (30)					(3ℓ中)		アカザorイヌビユ(5)
		エノキグサ (23)		左京四条三坊	シイ (4)		タデ属 (13)		ハコベ (5)
		チドメグサ (14)		井戸	クワ (2)		アカザorイヌビユ(146)		キンボウゲ科(1)
		シソ (47)			キイチゴ属(1)		スベリヒユ (22)		ヘビイチゴ? (11)
	オオバコ (6)	/11世紀末or	モモ (1)	ハコベ (53)		カタバミ (3)			
	ウリ (1)	/12世紀初頭/	カキ (1)	アブラナ科 (33)		チドメグサ (4)			
	タカサブロウ(1)	(5ℓ中)		マメ (1)		シソ (6)			
	キク科 (3)			カタバミ (44)		オオバコ (1)			
	ホタルイ属 (2)			シソ (2)		ウリ (39)			
	カヤツリグサ属(3)			エゴマ? (12)		スズメウリ (8)			
				ナス (9)		オオムギ (2)			
				ウリ (1)		コムギ (1)			
				ヒョウタン (1)		イネ (1)			
				タカサブロウ(1)		カヤツリグサ属(1)			
				イネ (2)		ホタルイ属 (11)			
				イネ科 (9)					
				カヤツリグサ属(9)	鳥羽77次調査	カヤ (1)	ソバ (2)		
左京二条二坊	オニグルミ(1)	サナエタテ (1)			ホタルイ属 (7)	井戸・12世紀	ヤマモモ(10ml)	アカザorイヌビユ(100)	
井戸(10世紀初)	カシノキ (1)	タデ属 (27)			ツユクサ (3)	(20ℓ中)	シイ (3)	ゴマ (1ml)	
(5ℓ中)	モモ (1)	ギシギシ (1)					ムクノキ (4)	ウリ (2ℓ)	
	キイチゴ (2)	アカザorイヌビユ(154)					クワ (8)	ナス (300ml)	
	センダン (1)	スベリヒユ(176)					ムベ (30ml)	イネ (15ml)	
		ザクロソウ (1)					モモ (1)	ヒエ? (1ml)	
		ハコベ (123)					ナシ (2)	ホタルイ属 (4)	
		タガラシ (43)					キイチゴ(3ml)		
		キンボウゲ科(11)					サンショウ(5)		
		カタバミ (59)	右京七条一坊	カヤ (70ml)	ギシギシ (19)		マタタビ (14)		
		シソ (14)	濠(近世)	マツ (7)	タデ属 (153)		カキ (15ml)		
		ナス (8)	(5ℓ中)	ヤマモモ (11)	アカザorイヌビユ(123)				
		オオバコ (9)		オニグルミ(9)	ハコベ (1540)				
		ウリ (1)		クリ (1)	タガラシ (2)				
		タカサブロウ(42)		ドングリ (1)	キンボウゲ科(4)				
		チドメグサ (59)		アンズ (11)	マメ科 (1)				
		ゴマ (1)		ウメ (17)	カタバミ (101)				
		イネ (7)		モモ (6)	エノキグサ(166)				
		カヤツリグサ属(39)		サンショウ(40)	ノブドウ (13)	鳥羽79次	省 略		
		イボクサ (6)		センダン (1)	チドメグサ (3)	池			
				アカメガンシ(37)	シソ (16)	鳥羽81次	省 略		
右京三条二坊	クワ (2)	タデ属 (16)		ナツメ (6)	ナス (376)	池			
溝(10世紀中葉)	カシノキ (1)	アカザorイヌビユ(2)		ブドウ (12)	ウリ科 (32)				
(2ℓ中)	モモ (1)	スベリヒユ (1)		ツツラフジ科(4)	ウリ (1532)				
		ハコベ (5)			キク科 (1)				
		タガラシ (105)			タカサブロウ(356)				
		キンボウゲ科(10)			ムギ (54)				

## 第4章 事務報告

### 1 普及啓発及び技術者養成事業概要

普及啓発事業の柱である「埋蔵文化財講演会」は、11月27日、京都会館会議場に約200名におよぶ参加者を得て開催した。当研究所調査部長田辺昭三による「82年埋蔵文化財発掘調査の成果」説明と京都大学教授岸俊男氏の「洛陽・長安と平安京」と題する、古代宮都の成立、条坊制等について両者の比較をもとにした講演があった。また、11月20日(土)～28日(日)まで京都市埋蔵文化財調査センターにおいて写真展「発掘調査成果集」を開催し、広く調査活動の成果を紹介した。

現地説明会、展示会については「鳥羽離宮跡第75次調査」ほか4件を開催したが、「鳥羽離宮跡発掘調査成果展示会」では、以前からの出土遺物、写真パネル等を総合的に展示し、広く地域住民に普及啓発を行なうことができた。

なお、当研究所における発掘調査成果を『京都市埋蔵文化財調査概要』として当年度(昭和56年度分)から発行することとした。

次に、技術者養成事業として、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター、埋蔵文化財発掘技術者専門研修へ7件、その他埋蔵文化財研究会、講演会、シンポジウム等へ14件派遣したが、特に当年度から長岡京跡発掘調査関係機関の情報交換及び資料の統一化を図るため設けられた「長岡京連絡協議会」へは毎月参加し、交流を深めている。

昭和57年度文化庁遺跡保存方法調査研究として、「火山灰地における遺跡調査研究」が群馬県教育委員会において実施されたので調査員を派遣した。また、滋賀県教育委員会が行なっている埋蔵文化財水中調査へも調査員を派遣した。

当研究所が京都市から委託を受け管理運営している京都市考古資料館は、昭和54年11月の開館以来3周年を迎えたが、当年度の入館者数は、20,000人を越え、前年度との比較で約30%の増加を示した。また、小中学生を対象として実施している「京都市考古資料館小中学生夏期教室」も3回目を迎え、107名の参加者をもって開催した。特に今回は、「土器づくり」の実習を加え内容の充実を図った。展示内容では、「新発見コーナー」、「やきものの変遷コーナー」等、各コーナーの新設、展示替えを行ない、行政関係コーナーには、ビデオ装置を導入し、「大技山古墳群」、「京の遺跡をさぐる」を随時上映し、埋蔵文化財をわかりやすく説明するように努めている。

(村木節也)

## 2 普及啓発及び技術者養成事業報告

### (1) 埋蔵文化財講演会並びに写真展

ア 昭和 57 年 11 月 27 日(土)－埋蔵文化財講演会－ 於：京都会館会議場

「82埋蔵文化財発掘調査の成果」 調査部長 田辺昭三

「洛陽・長安と平安京」 京都大学教授 岸 俊男

イ 昭和 57 年 11 月 20 日(土)～ 11 月 28 日(日)於：京都市埋蔵文化財調査センター 3階

写真展「発掘調査成果集」

### (2) 現地説明会, 展示会の開催

ア 昭和 57 年 6 月 5 日(土)

「鳥羽離宮跡第 75 次調査」担当 調査部 研究職員 鈴木久男・上村和直

イ 昭和 57 年 9 月 4 日(土)

「白河街区調査」 担当 調査部 研究職員 辻 裕司・丸川義広

ウ 昭和 57 年 11 月 20 日(土)

「鳥羽離宮跡第 79 次調査」担当 調査部 研究職員 木下保明・鈴木久男

エ 昭和 57 年 11 月 21 日(日)

「鳥羽離宮跡発掘調査成果展示会」於：西部真幡寸会館

担当 調査部 研究職員 木下保明・鈴木久男

オ 昭和 57 年 12 月 18 日(土)

「伏見城跡調査」 担当 調査部 研究職員 堀内明博・梅川光隆

### (3) 埋蔵文化財発掘技術者専門研修への派遣

於：奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

ア 昭和 57 年 5 月 10 日(月)～5 月 22 日(土)12 日間

「集落遺跡調査課程」 調査部 研究職員 木下保明

イ 昭和 57 年 6 月 21 日(月)～7 月 3 日(土)12 日間

「土器調査課程」 調査部 研究職員 梅川光隆

ウ 昭和 57 年 9 月 6 日(月)～9 月 10 日(金)5 日間

「埋蔵文化財基礎課程」 総務部 事務職員 上村京子

エ 昭和 57 年 9 月 20 日(月)～ 10 月 9 日(土)17 日間

「遺跡測量課程」 調査部 研究職員 百瀬正恒

オ 昭和 57 年 10 月 20 日(水)～ 11 月 5 日(金)14 日間

「環境考古課程」 調査部 研究職員 菅田 薫

カ 昭和 58年1月 21日(金)～2月1日(火)10日間

「墳墓調査課程」 調査部 研究職員 丸川義広

キ 昭和 58年2月 21日(月)～3月5日(土)12日間

「遺跡保存整備課程」 調査部 研究職員 前田義明

(4) 研究発表会等への派遣

ア 昭和 57年5月2日(日)～5月3日(月) 於：早稲田大学

「日本考古学協会昭和 57年度総会」 調査部 研究職員 久世康博・家崎孝治

イ 昭和 57年5月8日(日) 於：出光美術館他

「近年発見の窯址出土中国陶磁展並びに講演会」

調査部 主任 永田信一 研究職員 堀内明博

ウ 昭和 57年5月 29日(土)～5月 30日(日) 於：東京国立博物館

「第4回古文化財講演会(古文化科学研究会)」

調査部 研究職員 岡田文男

エ 昭和 57年5月～昭 58年3月(毎月開催)

於：京都府埋蔵文化財調査研究センター長岡京整理事務所

「長岡京跡連絡協議会」 調査部 主任 永田信一

調査部 研究職員 長宗繁一・鈴木久男

オ 昭和 57年7月 15日(木)～7月 17日(土) 於：群馬県前橋市

「昭和 57年度文化庁遺跡調査法の研究に係る調査」

調査部長 田辺昭三

カ 昭和 57年8月7日(土)～8月9日(月) 於：熊本県三角町

「三角町古墳発掘調査に伴う空中撮影法の研究」

調査部長 田辺昭三 研究職員 牛嶋 茂

キ 昭和 57年9月3日(金)～9月5日(日) 於：青山学院大学

「日本貿易陶磁第3回研究会」 調査部長 田辺昭三

調査部 主任 永田信一

調査部 研究職員 吉村正親・堀内明博・百瀬正恒

ク 昭和 57年9月 15日(水) 於：長岡京市立中央公民館

「第6回調査成果交流会」

参加団体 京都府教育庁指導部文化財保護課・長岡京市教育委員会・向日市教育委員会・  
大山崎町教育委員会・同志社大学校地学術調査委員会・平安博物館・  
京都大学埋蔵文化財研究センター・(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター・  
(財)長岡京市埋蔵文化財センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所・  
京都市埋蔵文化財調査センター

ケ 昭和 57 年 9 月 25 日(土)～9 月 26 日(日) 於：埼玉県浦和市  
「辛亥銘鉄剣と金石文シンポジウム」

調査部 研究職員 平田 泰・久世康博・加納敬二

コ 昭和 57 年 9 月 28 日(火)～9 月 29 日(水) 於：岩手県盛岡市  
「全国埋蔵文化財法人連絡協議会昭和 57 年度研究会」

管理運営部会 総務部 主事 福西 喬 事務職員 村木節也

調査研究部会 調査部 研究職員 鈴木久男・家崎孝治

京都市埋蔵文化財調査センター

技術吏員・業務委嘱職員 北田栄造

サ 昭和 57 年 11 月 28 日(日) 於：向日市中央公民館  
「スライドで見る乙訓の発掘」 調査部 研究職員 鈴木久男

シ 昭和 58 年 1 月 9 日(日) 於：京都府立勤労会館  
「第 13 回埋蔵文化財研究会」

一平安京内の古代～中世墳墓一 調査部 研究職員 前田義明

ス 昭和 58 年 1 月 25 日(火)～1 月 26 日(水) 於：奈良国立文化財研究所  
「第 2 回条里制研究会」 調査部 研究職員 久世康博

セ 昭和 58 年 3 月 22 日(火)～3 月 24 日(木) 於：国立教育会館  
「特定研究古文化研究会」 調査部 研究職員 岡田文男

(5) 昭和 57 年度文化庁遺跡保存方法検討調査研究への派遣

ア 昭和 57 年 9 月 24 日(金)～10 月 2 日(土)

群馬県教育委員会・火山灰地における遺跡調査研究会

「火山灰地における遺跡調査研究」 調査部長 田辺昭三

調査部 研究職員 牛嶋 茂・菅田 薫

(6) 滋賀県教育委員会水中調査への派遣

ア 昭和 57 年 8 月 22 日(日)～8 月 31 日(火)

「瀬田川水中調査(粟津地先～南郷)」

イ 昭和 58 年 1 月 5 日 (水)～3 月 31 日 (木)

「大江・粟津水中調査(大津市大江～粟津地先)」調査部長 田辺昭三

調査部 主任 吉川義彦・本 弥八郎 研究職員 加納敬二・吉崎 伸

### 3 京都市考古資料館運営概要

(1) 展示並びに特別展等の開催

ア 「緑釉瓦」, 「緑釉コーナー」, 「平安時代の土器変遷コーナー」の各コーナー新設及び展示替え

イ 「行政関係コーナー」に映像情報装置導入 (「大技山古墳群」, 「京の遺跡をさぐる」ビデオ上映)

(2) 文化財教室, 文化財講座の開催

ア 第 3 回京都市考古資料館小・中学生夏期教室

昭和 57 年 8 月 19 日 (木)・21 日 (土)・24 日 (火) 3 日間

第 1 日 資料館見学, 学習と映画「大技山古墳群」の鑑賞

第 2 日 武道センター (仮称) 建設地で, 発掘調査及び遺物水洗の実習

第 3 日 京都市社会教育総合センターで土器づくりの体験学習

イ 京都市考古資料館夏期教室土器づくり作品展

昭和 57 年 10 月 30 日 (土)～11 月 7 日 (日) 於: 京都市考古資料館

ウ 昭和 57 年度月別観覧者数一覧表

月	開館 日数	一般		団体		合計	一日平均
		12才以上	12才未満	12才以上	12才未満		
4	26	897	415	85	170	1,567 <sup>人</sup>	60.3 <sup>人</sup>
5	26	1,042	511	124	1,154	2,831	108.9
6	26	990	330	290	0	1,610	61.9
7	27	1,030	456	129	45	1,660	61.5
8	26	1,290	601	159	99	2,149	82.7
9	26	1,114	396	57	0	1,567	60.3
10	27	1,240	533	55	0	1,828	67.7
11	25	1,246	367	166	0	1,779	71.2
12	23	776	365	0	0	1,141	49.6
S58.1	24	893	387	83	26	1,389	57.9
2	24	1,194	328	21	0	1,543	64.3
3	27	1,708	446	107	337	2,598	96.2
合計	307	13,420	5,135	1,276	1,831	21,662	70.6

## 4 人事異動

### (1) 理事の委嘱

理 事 榊本 治 (昭和 57 年 4 月 12 日の理事会により就任)

理 事 盛田宗次郎 (昭和 58 年 3 月 29 日辞任)

理 事 伊藤寛一 (昭和 58 年 3 月 29 日の理事会により就任)

### (2) 役員の変更

専務理事 榊本 治 (昭和 57 年 4 月 12 日の理事会により就任)

理 事 盛田宗次郎 (昭和 57 年 4 月 12 日の理事会により専務理事を解任)

### (3) 監事の変更

監 事 藤林金三郎 (昭和 57 年 4 月 12 日の理事会により就任)

監 事 井上嘉久 (昭和 57 年 4 月 12 日辞任)

### (5) 事務局職員の異動

転出 総務部長 小林 博 (市文化財保護課主幹, 昭和 57 年 4 月 12 日付  
住宅局建築環境課へ)

採用 総務部 常勤嘱託員 夏原美智代 (昭和 57 年 4 月 1 日付)

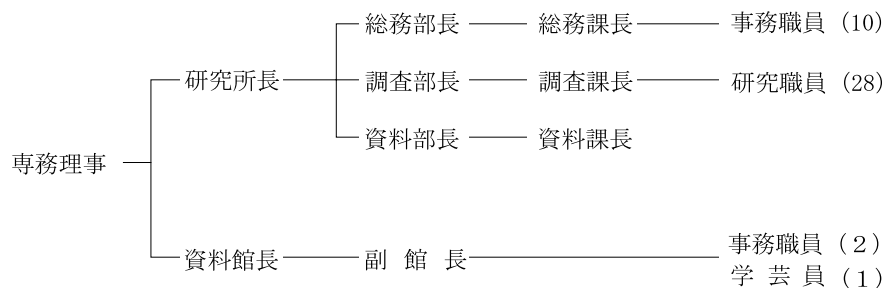
総務部 常勤嘱託員 河本 昭 (昭和 57 年 5 月 1 日付)

退職 調査部 主 任 大矢義明 (昭和 57 年 9 月 1 日付)

昇任 総務部長 勝西温二 (市文化財保護課主幹, 昭和 58 年 3 月 26 日付)

## 5 組織及び役職員 (昭和 58 年 3 月 31 日現在)

### (1) 事務局





# 役職員名簿

## 1. 役員

役員名	職名	氏名
理事長	京都大学名誉教授	村田 治郎
副理事長	京都市文化観光局長	仲田 直
専務理事	京都市文化観光局主幹	榊本 治
理事	京都市文化観光局次長	伊藤 寛一
〃	財団法人京都市埋蔵文化財研究所資料部長	木村捷三郎
〃	京都市文化観光局文化財保護課長	島田 崇志
〃	財団法人京都市埋蔵文化財研究所所長	杉山 信三
〃	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長	田中 琢
〃	財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査部長	田辺 昭三
〃	平安博物館館長	角田 文衛
〃	京都大学教授	西川 幸治
〃	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター理事長	福山 敏男
監事	京都市会計室長	藤林金三郎
〃	財団法人京都市文化観光資源保護財団専務理事	竹村 實

## 2. 事務職員

所属	氏名	職名	担当
	榊本 治	専務理事(京都市より出向)	
	杉山 信三	研究所所長(理事)	
総務部・総務課	勝西 温二	総務部長(京都市より出向)	
	福西 喬	主事	
	菅田 悦子	事務職員	
	上村 京子	〃	業務
	村木 節也	〃	〃
	鎌田 雅啓	〃	庶務
	本田 憲三	〃	〃
	金島 恵一	〃	業務
	小松 佳子	〃	〃
	夏原美智代	〃	庶務
河本 昭	〃	業務	
調査部・調査課	田辺 昭三	調査部長(理事)	
	永田 信一	主任	
	吉川 義彦	〃	

所属	氏名	職名	担当
調査部・調査課	本 弥八郎	主任	
	吉村 正親	研究職員	調査
	長宗 繁一	〃	〃
	平田 泰	〃	〃
	牛嶋 茂	〃	写真
	木下 保明	〃	調査
	鈴木 廣司	〃	〃
	菅田 薫	〃	〃
	堀内 明博	〃	〃
	鈴木 久男	〃	〃
	百瀬 正恒	〃	〃
	加納 敬二	〃	〃
	平尾 政幸	〃	〃
	磯部 勝	〃	〃
	梅川 光隆	〃	〃
	家崎 孝治	〃	〃
	辻 裕司	〃	〃
	前田 義明	〃	〃
	中村 敦	〃	〃
	久世 康博	〃	〃
平方 幸雄	〃	〃	
上村 和直	〃	〃	
丸川 義広	〃	〃	
辻 純一	〃	〃	
岡田 文男	〃	保処	
吉崎 伸	〃	調査	
資料部・資料課	木村捷三郎	資料部長(理事)	
	江谷 寛	資料課長	
京都市考古資料館	黒川 武男	館長	
	牧 康司	主事	
	峰 巍	学芸員	学芸
	垣野 恵子	事務職員	庶務